

# ALSETAC 35GR

---

## 広帯域受信機 説明書

ApexRadio, Inc.

株式会社 アペックスラジオ

はじめに .....	6
付属品.....	6
安全上のご注意 .....	7
警告.....	7
注意.....	8
電波法上のご注意.....	8
1. この文書内での語句と概説.....	9
2. 各部の名称と機能.....	10
2-1. 前面パネル .....	10
2-2. LCD表示部.....	11
2-4. 背面パネル.....	14
3. キー操作について .....	16
3-1. [FUNC]キー について .....	16
3-2. [FUNC]キーを併用する2重割当機能 .....	17
3-3. [FUNC]キー長押しを併用する3重割当機能 .....	18
3-4. キーによる動作モードの切替操作 .....	19
3-5. [UP], [DOWN]キーの使用 .....	19
4. リング状 の表記.....	19
5. 待機と起動の操作.....	20
5-1. 本機の初期設定表.....	20
5-2. 起動と待機へ移行(電源断)、ならびにリセット操作.....	20
5-3. 待機状態.....	21
5-4. コマンド制御時の起動と待機.....	21
6. メニューへの移行及びメニュー内 操作 (1/4).....	22
7. ダイヤルモードでの操作と動作仕様.....	26
7-1. 受信周波数の変更 .....	26
7-2. ステップ周波数選択設定メニュー .....	32
7-3. ステップアジャスト.....	36
7-4. 復調モード選択設定メニュー .....	37
7-5. IFBW選択設定メニュー (IFフィルタ幅選択).....	38
7-6. ATT選択設定メニュー (アッテネータとRFアンプ) .....	39
7-7. AGC選択設定メニュー .....	41

7-8. AF環境選択設定メニュー（オーディオフィルタ関連）.....	42
7-9. シフト操作と選択設定メニュー（SHIFT）.....	46
7-10. デイレイ動作と設定メニュー（DELAY）.....	48
7-11. プライオリティ動作とプライオリティチャンネル内容変更メニュー（PRIORITY）.....	49
7-12. オプション動作と選択設定メニュー（OPTION）.....	52
7-13. クロック(時計)設定メニュー（CLOCK）.....	61
7-14. レベルスケルチ設定メニュー（LSQ）.....	70
7-15. デリートメニュー（DEL）.....	72
7-16. メモリー書込み（MW）.....	75
7-17. システム環境設定（CONFIG）.....	77
7-18. キーロック の オンとオフ.....	83
<b>8. メモリーリードでの操作.....</b>	<b>84</b>
8-1. メモリーリードでの操作.....	84
8-2. メモリーリード.....	85
8-3. 読み出しメモリーチャンネルの内容消去(デリート).....	88
8-4. 消去メニュー.....	89
<b>9. メモリースキャンモードでのメモリーチャンネルに関する操作.....</b>	<b>95</b>
9-1. 操作.....	95
9-2. メモリースキャン.....	96
9-3. メモリースキャンからメモリーチャンネルの消去.....	98
9-4. メモリースキャンから消去メニュー.....	99
<b>10. セレクトスキャンでのメモリーチャンネルに関する操作と動作.....</b>	<b>105</b>
<b>11. メモリースキャンの環境設定.....</b>	<b>108</b>
11-1. 操作（メモリースキャンの環境設定）.....	108
11-2. ポーズ(PAUSE)時間の設定.....	110
11-3. メモリーバンクリンク 対象・対象外 設定.....	111
11-4. メモリーバンクリンク オン・オフの設定.....	112
<b>12. ダイアルサーチでの操作.....</b>	<b>113</b>
12-1. 操作.....	113
12-2. ダイアルサーチモード.....	114
12-3. ダイアルサーチでの消去メニュー.....	116
<b>13. ダイアルサーチの環境設定.....</b>	<b>119</b>
13-1. 操作.....	119

13-2. ポーズ(PAUSE)時間設定 (ダイヤルサーチ) .....	119
<b>14. プログラムサーチでの操作と動作 .....</b>	<b>121</b>
14-1. 操作.....	121
14-2. プログラムサーチ .....	122
14-3. 消去メニュー (プログラムサーチ) .....	125
<b>15. プログラムサーチの環境設定 .....</b>	<b>131</b>
15-1. 操作.....	131
15-2. ポーズ時間設定 (プログラムサーチ) .....	133
15-3. サーチバンクリンク 対象 / 対象外の設定 .....	134
15-4. サーチバンクリンク オン・オフの設定 .....	135
<b>16. プログラムサーチのデータ設定 .....</b>	<b>136</b>
16-1. 操作.....	136
16-2. サーチバンク番号の選択.....	138
16-3. 下限周波数の設定 .....	139
16-4. 上限周波数の設定 .....	139
16-5. ステップ周波数の設定 .....	139
16-6. 復調モードの設定 .....	140
16-7. IFBWの設定 .....	140
16-8. AGCの設定 .....	140
<b>17. テキストの設定 .....</b>	<b>141</b>
<b>18. リセットとソフトリセット .....</b>	<b>143</b>
35GR の初期値設定.....	144
<b>35GR の外部制御について .....</b>	<b>145</b>
シリアル通信について .....	145
制御コマンドの概要 .....	146
複数の制御コマンドの一括送付 .....	147
<b>35GRシリーズ 制御コマンド一覧.....</b>	<b>149</b>
<b>コマンド説明.....</b>	<b>150</b>
<b>環境設定に関わる項目の初期値一覧.....</b>	<b>176</b>
<b>入出力に関する仕様一覧 .....</b>	<b>176</b>
35GRシリーズ IF出力レベル (参考値) .....	177
35GR 信号強度測定値とSメーター表示、レベルスケルチのしきい値 (参考値) .....	178

35GRシリーズ ACC端子 .....	179
35GR シリーズのシリアル制御端子2 について.....	180
35GR シリーズのRTCのバックアップについて .....	180
<b>35GRシリーズ仕様.....</b>	<b>181</b>

## はじめに

このたびは、35GR をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、10kHz ~ 3600MHz をカバーする業務用の広帯域受信機です。本機は、コンパクトで低コストながら測定用テストレシーバーに匹敵する高性能を発揮するシンプルな受信機です。受信機として基本性能を最重要視して開発しており、様々な受信システムなどのコアユニットとして活用していただけます。

ご使用の際は、この説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分に発揮していただくとともに末永くご愛用いただけますようお願い申し上げます。

## 付属品

本機の個装には次の内容品が含まれます。

名 称	数 量
35GR 受信機	1
電源コード(片側プラグ)	1
CD-ROM (本書含む)	1

## 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

下記の事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

### 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取扱いをすると「使用者及び周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ・ 電子機器の近く(特に医療機器のある医療機関内)では使用しないでください。  
電波障害により電子機器が誤動作、故障の原因になります。
- ・ 湿気やほこりの多い場所、風通しの悪い場所に設置しないでください。
- ・ 指定以外の電源電圧では使用しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。

- ・ 電源コードや接続ケーブルの上に重いものを載せたり挟んだりしないでください。

傷ついて破損、火災、感電、故障の原因になります。

- ・ 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

- ・ 電源コードや接続ケーブルを抜き差しするときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。

火災、感電、故障の原因になることがありますので、プラグまたはコネクターを持って抜いてください。

- ・ 電源プラグのピンにホコリが付着したまま使用しないでください。

- ・ ガス管や配電管、水道管に絶対アースを取らないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

- ・ 製品の中に線材のような金属物や水などの液体を入れないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

- ・ 水などでぬれやすい場所、非常に湿度の高い場所(風呂場や加湿器のそばなど)では使用しないでください。

また、水にぬれたときは、使用しないでください。  
火災、感電、やけど、故障の原因になります。

- ・ 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなど使用しないでください。

大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

- ・ この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。

- ・ 長期間使用しない時は、電源プラグを抜いてください。  
火災、発熱の原因になります。

- ・ 雷鳴が聞こえたときは使用しないでください。

安全のために、電源プラグを抜いてください。また、アンテナには絶対触らないでください。雷によっては、火災、感電、故障の原因になります。

- ・ 万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

- ・ 電源コードや接続ケーブルが傷ついたときは、使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

## 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物理的損害の発生が想定される内容」を示しています。

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぐらついた台の上に置いたり、傾いたり、振動の多い場所に設置しないでください。</li> </ul> <p>落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品のケースを開けないでください。</li> </ul> <p>感電、故障、やけどの原因になることがあります。</p>                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直射日光のあたる場所に設置しないでください。</li> </ul> <p>火災、故障、変形、変色の原因になることがあります。</p>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。</li> </ul> <p>落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。</p>     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テレビやラジオの近くに設置しないでください。</li> </ul> <p>電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。</p>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。</li> </ul> <p>けが、故障の原因になることがあります。</p>                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぬれた手で電源プラグや機器に触れないでください。</li> </ul> <p>感電の原因になることがあります。</p>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。</li> </ul> <p>ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。</p> |

## 電波法上のご注意

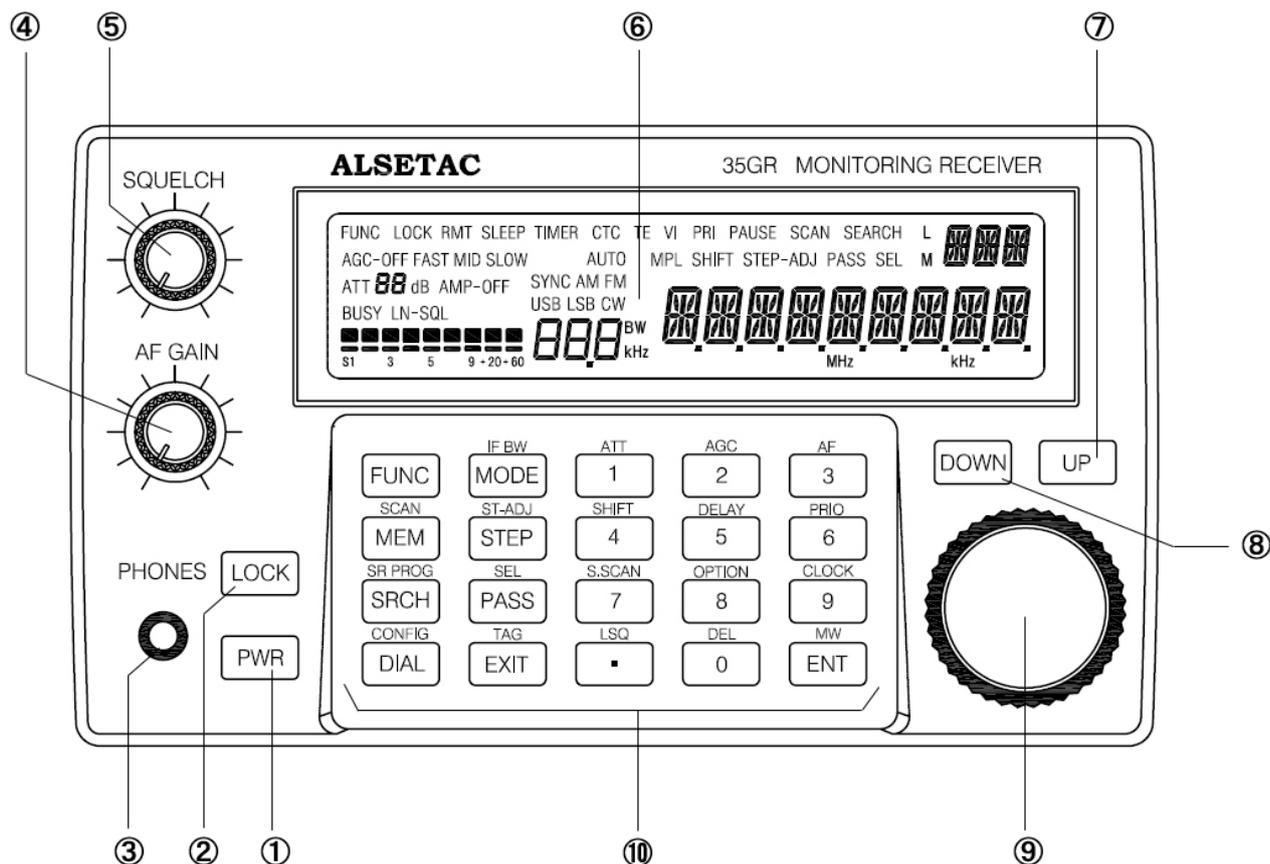
電波法第五十九条には「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし又はこれを窃用してはならない。」と通信の秘密に関して定められています。

## 1. この文書内での語句と概説

動作モード	ダイヤル、メモリーリード、メモリースキャン、セレクトスキャン、ダイヤルサーチ、プログラムサーチの各動作モードのこと。
復調モード	FM, AM, USB, LSB, CW, AUTO のこと <b>AUTO モード:</b> 復調モード AUTO 選択時は、設定された受信周波数によってあらかじめ記憶しているデータテーブルから復調モード、IFBWと周波数ステップその他を自動設定します。
IFBW	IF フィルタの通過帯域幅のこと。AUTO モードでは復調モード、周波数ステップと共に自動設定されます。AUTO 以外では手動設定です。2ndIF (10.7MHz), 3rdIF (455kHz) が対象です。
AGC	AGC の動作と時定数設定を指します。FAST、MID、SLOW、または OFF を設定可能。
ATT RF AMP	RF アンプとアッテネータ(減衰器)のこと。RF アンプはオン・オフ、ATT は、0dB、10dB、20dB 30dB の挿入を手動設定できます。AUTO は電界強度に応じて自動で設定します。ATT: 1100MHz 未満で有効。AMP: 30MHz 未満で有効。
メモリライト	受信中の設定内容をメモリーチャンネルに記憶させること。この時、受信周波数、復調モード、IFBW、AGC、RF AMP、ATT、メモリーチャンネルテキスト を記憶格納します。
メモリーリード	あらかじめ記憶させておいたバンクとチャンネルを選択して受信すること。この時、バンク切替は数値キー(0~9)で行えます。チャンネル切替は(ダイヤル)で行えます。メモリーリードでは、PASS 設定、セレクト設定が行えます。
メモリースキャン	あらかじめ記憶させておいたメモリーバンクのチャンネルをスキャンすること。スキャンはスケルチ開で停止、閉でディレイ時間経過後再開。この時、[UP]、[DOWN]キー又はダイヤルでスキャン強制再開とスキャン方向(昇降順)の変更ができます。バンク切替は数値キー(0~9)で行う。スキャン停止中に[PASS]キーで PASS 設定が可能。なお、PASS 設定されているメモリーチャンネルはスキャン対象から除外されます。
セレクトスキャン	メモリーリード、メモリースキャン停止中にてセレクト設定されたメモリーチャンネルのみをスキャンします。セレクト設定は最大 100 で超えた場合には古いものから順に消去されます。
プログラムサーチ	各サーチバンクに設定された、上限下限周波数とステップ周波数、復調モードに基づいて順次サーチ受信します。サーチはスケルチ開で停止、閉でディレイ時間経過後再開。この時、[UP]、[DOWN]キー又はダイヤルでスキャン強制再開とスキャン方向(昇降順)の変更ができる。バンク切替は数値キー(00~19)で行える。サーチ停止中に [PASS]キーで、その周波数をパス周波数へ登録可能。パス周波数は最大 500 で越えた場合には古いものから順に消去されます。サーチ中、パス周波数になった場合には受信動作せずに通過します。
バンクリンク	スキャン時のメモリーバンク、サーチ時のサーチバンクを複数連ねてスキャン、またはサーチする機能のこと。
スケルチ	受信周波数に電波がない場合に復調出力をミュートする機能。この機能を活用して、メモリースキャン、サーチ等の停止と再開を行う。ノイズスケルチとレベルスケルチの2種類のスケルチがあります。 ノイズスケルチ: SQ ツマミによって設定する。 レベルスケルチ: ダイヤルによって設定する。
プライオリティ受信	プライオリティ専用メモリーチャンネルをインターバル時間毎に優先受信する機能。この機能は動作と停止を切替えられます。いずれかの受信モードにあるときに有効で、各メニュー設定中はプライオリティ動作を強制的に中断します。
システム環境設定	動作の基本設定をまとめた複数の設定の事。
AF	オーディオ段のフィルタ設定のこと
タイマー機能	内蔵時計を使ったオン、オフ、スリープタイマー。時計表示と時刻合わせ機能を持ちます。

## 2. 各部の名称と機能

### 2-1. 前面パネル



#### ① PWR(電源)キー

本機の電源をオン/オフするキーです。キーを押すと電源オン、もう一度長く(約 1 秒)押すと電源オフになります。

#### ② LOCK キー

本機のダイヤル、UP キー、DOWN キー、キーパッドの各キーの操作をロック(無効)するキーです。キーを押すと、LCD に **LOCK** が表示されて操作がロックされます。再度押すとロックが解除されます。

#### ③ PHONES 端子

3.5Φのヘッドホン端子です。ステレオヘッドホンを接続してもモノラル出力となります。プラグが挿入されると内蔵スピーカーと外部スピーカー端子の出力は停止します。

#### ④ AF GAIN ツマミ

受信音量を調整するつまみです。つまみを右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

## ⑤ SQUELCH ツマミ

スケルチを調整するつまみです。

## ⑥ LCD 表示部

受信周波数をはじめ、さまざまな受信機の情報を表示する液晶表示部です。必要に応じて、バックライトを消灯することができます。

## ⑦ UP キー

## ⑧ DOWN キー

受信周波数やメモリーチャンネルを変更する際やパラメーター設定に使用するキーです。

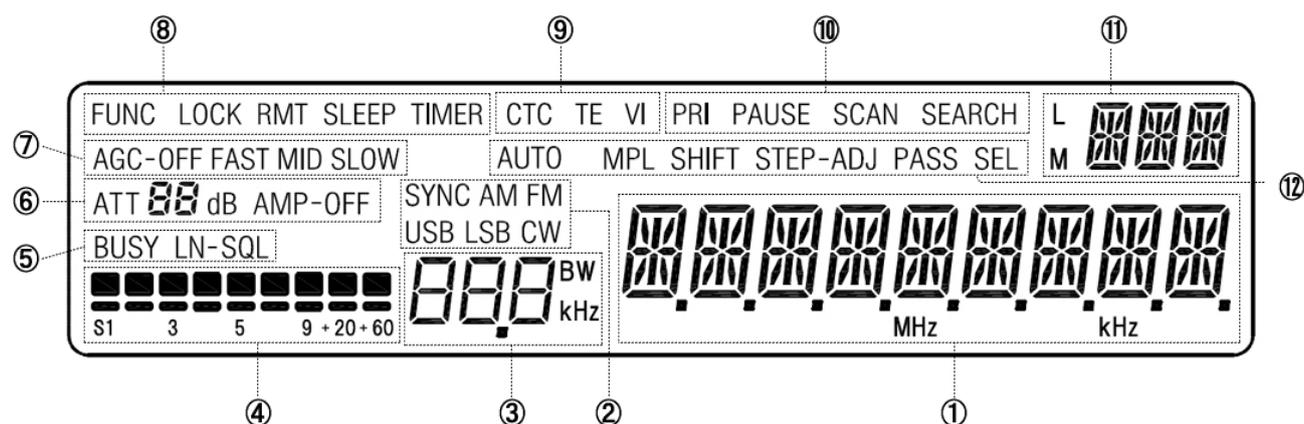
## ⑨ ダイヤル

受信周波数やさまざまなパラメーターの内容を設定するときに使うダイヤルです。右に回すと周波数や項目が上昇し、左に回すと下降します。

## ⑩ キーパッド

本機を操作するための各種キーを配置したキーパッドです。

## 2-2. LCD表示部



## ① 周波数表示

本機の受信周波数を表示します。パラメーター設定時には項目表示や TAG(タグ)表示にも使われます。

## ② 復調モード表示

本機の復調モードの表示を行います。

## ③ IF バンド幅表示

選択されている第3IF のフィルタ幅を表示します。

## ④ Sメーター(信号強度)表示

Sメーターの測定値を表示します。表示はAGC動作と連動するかしないかを選択できます。下段はレベルスケルチ (LSQ) の設定目安を表示します。

## ⑤ BUSY LN-SQL 表示

BUSY は、スケルチが開いて受信音が出力しているときに点灯します。LN-SQL の L は、レベルスケルチ、N はノイズスケルチが動作していることを表示します。

## ⑥ ATT AMP 表示

ATT は、挿入されているアッテネータ(減衰器)の減衰量を表示します。AMP は、RF フロントエンドのプリアンプの動作状態を表示します。AMP は、30MHz 未満でオフすることができます。

## ⑦ AGC(自動利得調整)表示

AGC 機能の設定を表示します。AGC 時定数によって FAST (ファースト)、MID (ミッド)、SLOW (スロー)、さらに AGC-OFF を表します。

## ⑧ FUNC LOCK RMT SLEEP TIMER 表示

**FUNC**: FUNC キーを併用する2重割当機を使うときに点灯、3重割当機能を使うときに点滅します。

**LOCK**: ダイアルとキーロックが掛かっているときに点灯します。

**RMT**: 本機がリモートモードで動作しているときに点灯します。

**SLEEP**: スリープタイマーが動作しているときに点灯します。

**TIMER**: オンタイマー、オフタイマーが動作しているときに点灯します。

## ⑨ CTC, TE, VI 表示

**CTC**: CTCSS 機能(オプション)の動作中に点灯します。

**TE**: トーンエリミネーター機能(オプション)が動作中に点灯します。

**VI**: オーディオ反転機能が動作中に点灯します。

## ⑩ PRI PAUSE SCAN SEARCH 表示

**PRI**: プライオリティ受信の動作、設定時に点灯します。

**PAUSE**: ポーズスキャン、ポーズサーチの動作時に点灯します。

**SCAN**: メモリースキャンの動作、設定時に点灯します。関連メニュー設定時には点滅します。

**SEARCH**: プログラムサーチの動作、設定時とダイヤルサーチの動作時に点灯します。関連メニュー設定時には点滅します。

## ⑪ ダイアル・メモリー・サーチ、状態表示

**3 桁表示**: ダイアル、メモリーチャンネル、サーチバンクの表示をします。

**L**: メモリースキャン、サーチにてバンクリンクが動作しているときに点灯します。

**M**: メモリーリード、メモリースキャン、セレクトスキャンのときに点灯します。関連メニュー設定時には点滅します。

## ⑫ AUTO MPL SHIFT STEP -ADJ

## PASS SEL

**AUTO**: 復調モードを、AUTO に設定した時に点灯します。

**MPL**: ステレオ放送受信時に点灯します。

**SHIFT**: 受信周波数シフト動作時に点灯します。関連メニュー設定中には点滅します。

**STEP-ADJ**: ステップアジャスト動作時に点灯します。

**PASS**: メモリーリードでパス設定されているメモリーチャンネルを読み出している時に点灯します。関連メニュー設定中に点滅します。

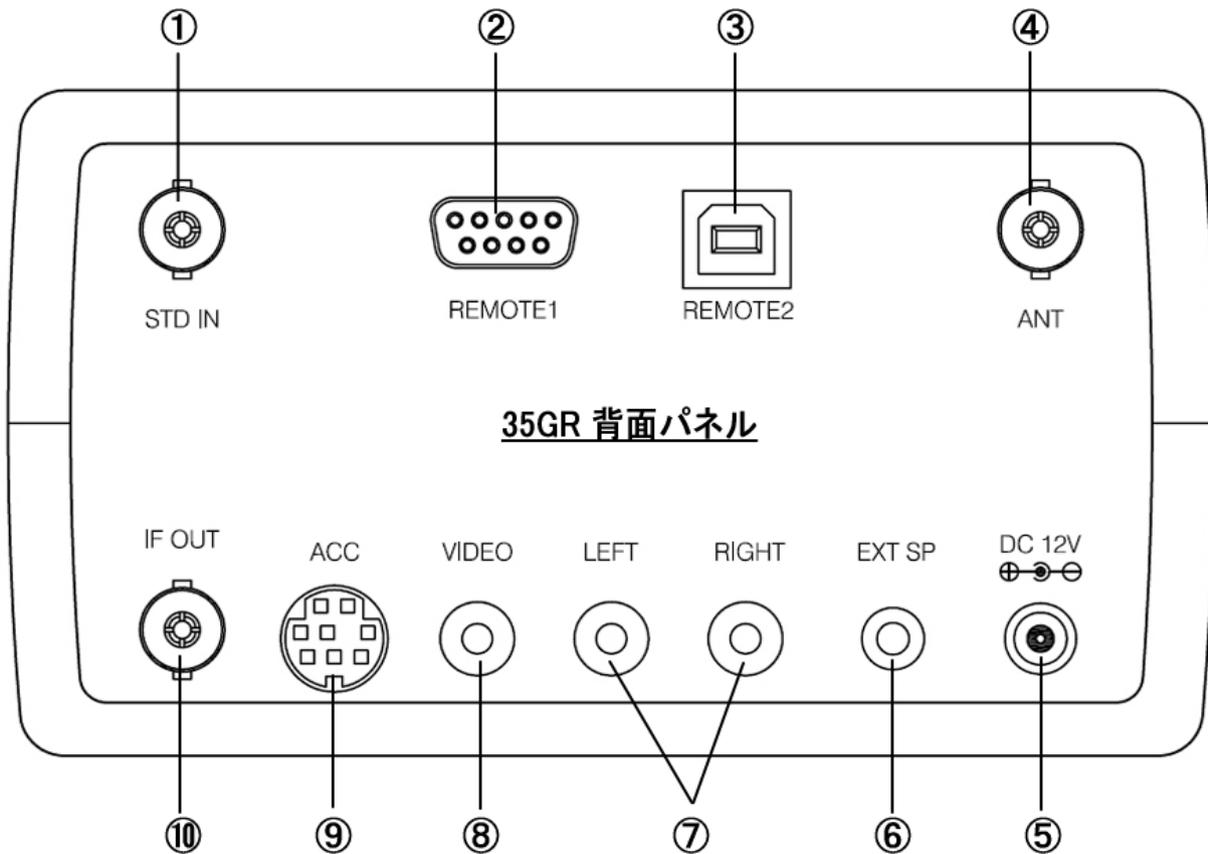
**SEL**: メモリーリード、またはセレクトスキャンでセレクト設定されているメモリーチャンネルを読み出している時に点灯します。

## 2-3. LCD 上の短縮表示

本項では、35GR の LCD に表示される内容 について示しています。

MODE	復調モード
BW, IFBW	2ndIF(10.7MHz), 3rdIF(455kHz)のフィルタ帯域幅
ST	ステップ周波数
ATT	高周波部の減衰器
AMP	高周波部の増幅器 (受信周波数が 30MHz 以上では常に ON)
AGC	2ndIF(10.7MHz), 3rdIF(455kHz)の自動利得調整
HPF	オーディオ段のハイパスフィルタ
LPF	オーディオ段のローパスフィルタ
DEMP	オーディオ段のディエンファシス
CW-P	CW 検波のビート周波数
LSQ	レベルスケルチ
LAMP	LCD バックライト
BEEP	操作音
EXT-IF	2ndIF(10.7MHz), 3rdIF(455kHz)の外部出力
BPS	シリアル通信速度
STD	PLL 回路の基準信号
S-M	S メーター
RSSI	ゲインコントロールされていない電界強度
AGC	AGC によってゲインコントロールされた後の電界強度
VI	音声反転器
TE	トーンエリミネーター (空線信号キャンセラー)
DSR	ダイヤルサーチ
PSR	プログラムサーチ
MEM	メモリー
DEL	デリート
DBK	デリートバンク
BKL	バンクリンク
DIS	バンクリンク対象外に設定
ENA	バンクリンク対象に設定
No*/No- CH*/CH- DATA*/DATA-	No: バンク番号, CH: 登録メモリーチャンネル, DATA: プログラムサーチデータ *: 選択したバンクに登録メモリーチャンネル, プログラムサーチデータ有り -: 選択したバンクに登録メモリーチャンネル, プログラムサーチデータ無し
PASS*/PASS-	メモリーチャンネルパス設定, 周波数パス設定 *: 選択したバンクにメモリーチャンネル パス設定, 周波数パス設定有り -: 選択したバンクにメモリーチャンネルパス設定, 周波数パス設定無し
SEL*/SEL-	メモリーチャンネルセレクト設定 *: 選択したバンクにメモリーチャンネルセレクト設定有り -: 選択したバンクにメモリーチャンネルセレクト設定無し

## 2-4. 背面パネル



## ① STD IN

基準信号入力端子 (BNC ジャック 50Ω)  
外部からの基準信号を使う時の入力端子です。

## ② REMOTE1

シリアル制御端子 1 (RS-232C DB9)  
本機を制御するために外部機器などを接続するための RS-232C 用端子です。

## ③ REMOTE2

シリアル制御端子 2 (USB TYPE B)  
本機を制御するために外部機器などを接続するための USB 用端子です。

## ④ ANT (BNC ジャック 50Ω)

アンテナ入力端子  
同軸ケーブルによってアンテナから導かれた信号を接続するための入力端子です。

## ⑤ DC12V (EIAJ-4)

電源入力端子  
電源(DC12V)を接続するための端子です。

## ⑥ EXT SP (3.5Φ モノラルジャック 8Ω)

外部スピーカー端子

⑦ LEFT / RIGHT

AFライン出力端子 (ピンジャック)

⑨ ACC

アクセサリ端子 (ミニ DIN 8 ピン)

⑧ VIDEO

映像出力端子 (ピンジャック)

(該当オプションが未装着では未接続)

⑩ IF OUT

IF 出力端子 (BNC ジャック 50Ω)

### 3. キー操作について

[MODE] のように、カギ括弧で囲まれた表記は「キー操作」を表しています。

[MODE] は、「MODE キーを押下、すぐにはなす」操作を表現します。「押下して、すぐにはなす」操作を「キー操作」と表現します。

「長押し操作」は、「キーを押下し続けて長押し判定になってから、はなす」操作を表現しています。長押し判定は、約 0.6 秒間、押し続けることで、長押しを検出します。

[MODE]	MODE キーをキー操作
[FUNC]+[MODE]	[FUNC]キー操作後に、[MODE]キーを操作
[FUNCL]	[FUNC]キーの長押し操作
[UPL]	[UP]キーの長押し操作
[DOWNL]	[DOWN]キーの長押し操作

#### 3-1. [FUNC] キー について

[FUNC]キーは、35GR のさまざまな機能を操作するために多用するキーのひとつです。

下表内の「捺印」とは、各キーに割り当てられた機能の名称がキートップやパネルに印刷してあることを指しています。

[FUNC]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 他のキーに2重割当てしている機能を使う場合に操作するキー。</li> <li>• 2重割当て機能は、該当キー上段の捺印(受信機パネルのキー表記)です。</li> <li>• 2重割当て機能が有効なときは、LCD 上の FUNC が点灯します。</li> </ul>
[FUNCL]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [FUNC]の長押し。(約 0.6 秒)</li> <li>• 他のキーに3重割当てしている機能を使う場合に操作するキー。</li> <li>• 3重割当て機能は、捺印がありません。</li> <li>• 3重割当て機能が有効なときは、LCD 上の FUNC が点滅します。</li> </ul>

### 3-2. [FUNC]キーを併用する2重割当機能

この項では、[FUNC] キーを併用する 2重割当機能 を列挙しています。

[FUNCL]+[MODE]	復調モード AUTO ON/OFF 切替え
[FUNC]+[STEP]	ステップアジャスト (ST-ADJ) ON/OFF 切替え
[FUNC]+[4]	シフト (SHIFT) ON/OFF 切替え
[FUNC]+[6]	プライオリティ (PRIORITY) ON/OFF 切替え
[FUNC]+[9]	受信周波数, 時計表示 切替え
[FUNC]+[.]	レベルスケルチ (LSQ) ON/OFF 切替え
[FUNC]+[EXIT]	受信周波数, テキスト表示 切替え

※ 機能切替えについては、「1. メニューへの移行とメニュー内の操作」を参照してください

## 3-3. [FUNC]キー長押しを併用する3重割当機能

この項では、[FUNC] キー長押し([FUNCL]+)を併用する 3重割当機能 を列挙しています。

[FUNCL]+[MODE]	復調モード AUTO の ON/OFF 切替え
[FUNCL]+[4]	SHIFT 設定メニューへ移行
[FUNCL]+[6]	PRIORITY 設定メニューへ移行
[FUNCL]+[9]	CLOCK 設定メニューへ移行
[FUNCL]+[.]	LSQ (レベルスケルチ) 設定メニュー移行
[FUNCL]+[MEM]	メモリスキャン環境設定メニューへ移行
[FUNCL]+[SRCH]	プログラムサーチ環境設定メニューへ移行
[FUNCL]+[MEM]	ダイヤルサーチ環境設定メニューへ移行
[FUNCL]+[0]	<p>デリートメニューへ移行。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 動作モード : ダイヤル, ダイヤルイサーチの場合 VFO-A, B, C, D, E, F 共用の、周波数パス設定解除。</li> <li>● 動作モード : プログラムサーチの場合 プログラムサーチバンク単位の、データ設定消去, 周波数パス設定解除。</li> <li>● 動作モード : メモリーリード, メモリスキャン, セレクトスキャンの場合 メモリーバンク単位の、登録チャンネル, パス設定解除, セレクト設定解除。</li> </ul>
[FUNCL]+[EXIT]	<p>テキスト設定メニューへ移行。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 動作モード : ダイヤル, ダイヤルサーチの場合 読み出されている、DIAL-#のテキスト設定。</li> <li>● 動作モード : プログラムサーチの場合 読み出されている、プログラムサーチバンク#のテキスト設定。</li> <li>● 動作モード : メモリーリード, メモリスキャン, セレクトスキャンの場合 読み出されている、メモリーチャンネルのテキスト設定。</li> </ul>

### 3-4. キーによる動作モードの切替操作

この本項では、動作モードの切替操作を列挙しています。

[DIAL]	動作モード:ダイヤルモードのとき、ダイヤル#切替え ⇔DIAL-A⇔DIAL-B⇔DIAL-C⇔DIAL-D⇔DIAL-E⇔DIAL-F⇔
	動作モード:ダイヤルモード以外るとき、ダイヤルモードへ移行
[MEM]	動作モード:メモリーリードのとき、メモリースキャンへ移行
	動作モード:メモリーリードモード以外るとき、メモリーリードモードへ移行
[FUNC]+[MEM]	メモリースキャンへ移行
[FUNC]+[7]	セレクトスキャンへ移行
[SRCH]	プログラムサーチへ移行
[UPL], [DOWNL]	動作モード:ダイヤルモードのとき、ダイヤルサーチへ移行
	動作モード:メモリーリードのとき、メモリースキャンへ移行

### 3-5. [UP], [DOWN] キーの使用

このでは、[UP], [DOWN] に割当たられた特別な使用方法を示しています。

- サブメニュー選択

操作しているメニューの中に、サブメニューがある場合には、その選択に[UP], [DOWN]キーを使います。

- メモリー書込 CH 番号増減

メモリー書込みメニューでチャンネル(CH)番号の選択中、[UP] で CH 番号10増、[DOWN]で CH 番号10減ができます。

## 4. リング状 の表記

「⇔FM⇔AM⇔USB⇔LSB⇔CW⇔」 との表記は、選択パラメーターをリング状に選択できることを意味しています。すなわち、上記例の場合は、

FM → AM → USB → LSB → CW → FM → AM

のように選択できるうえ、逆方向にも選択できることを意味します。

## 5. 待機と起動の操作

### 5-1. 本機の初期設定表

No	項目		設定内容
1	受信周波数		80.000MHz
2	復調モード		FM
3	IFBW		220kHz
4	HPF	オーディオ関連	0.05kHz
5	LPF		20.0kHz
6	DE-EMP		75uS
7	AGC		MID
8	RFAMP		ON
9	ATT		OFF
10	LSQ		OFF
11	LCD ランプ	CONFIG メニュー	ON
12	BEEP		ON
13	EXT-IF		1
14	通信速度		115.2kbps
15	STD		INT
16	TE	OPTION メニュー	OFF
17	CTCSS		OFF
18	VI		OFF
19	AFC		OFF
20	NB		OFF
21	SYNC AM		OFF
22	SYNC USB		OFF
23	SYNC LSB		OFF
24	動作モード		ダイヤルモード DIAL : A

### 5-2. 起動と待機へ移行（電源断）、ならびにリセット操作

正常な電源電圧 (DC11~15V、以下 DC12V) が印加されている状態 (待機状態) から [PWR] で起動し動作状態になります。起動する際の動作モードは以前に正常に電源断した時の動作モードで起動します。(ラストメモリー機能)。初回起動時とソフトリセット直後の起動時は初期設定となります。電源断は、いずれの状態からも [PWR] 長押し (約 1 秒) で電源断して待機状態に移行します。ソフトリセットは、[EXIT] + [PWR] で行うことができます。

No	操作	設定内容	説明
1	[PWR]	待機→動作	初期設定、またはラストメモリーの状態で起動して動作状態に移行する。
2	[PWR]	動作→待機	ラストメモリーに動作モードを記憶して、待機状態に移行する。
3	[EXIT]+[PWR]	ソフトリセット	初期設定で起動する。

### 5-3. 待機状態

本機は電源入力端子に DC12V が印加された場合に「待機状態」となります。待機状態では、時計表示を行い、リアルタイムクロック(以下 RTC)と液晶表示器とシリアル通信用のドライバー、起動を待機するマイコンのみが動作します。電源断時は動作状態から、[PWR]長押し(約 1 秒)で待機状態に移行します。その時に設定状態をラストメモリーに記憶します。

### 5-4. コマンド制御時の起動と待機

本機は待機状態のときにシリアル(RS-232C または USB) 通信を介して起動コマンドを受付けると、起動します。また、シリアル通信を介してコマンド制御されていた状態から、PW0 コマンドで待機状態に移行します。その時に設定状態をラストメモリーに記憶します。

## 6. メニューへの移行及びメニュー内 操作 (1/4)

No	設定項目	メニュー移行	サブメニュー選択	メニュー内操作		
			[UP][DOWN]	[ダイヤル]	[PASS]	[0~9][.]
1	復調モード (MODE)	[MODE]	MODE	⇔FM⇔AM⇔USB⇔LSB⇔CW⇔		
2	IF フィルタ幅 (IFBW)	[FUNC]+ [MODE]	BW	⇔2.4⇔5.5⇔7.0⇔15.0⇔30.0⇔ ⇔110.0⇔220.0⇔		
3	ステップ周波数 (STEP)	[STEP]	ST	⇔0.001⇔0.010⇔0.050⇔0.100⇔ ⇔0.500⇔1.000⇔5.000⇔6.250⇔ ⇔8.300⇔9.000⇔10.000⇔ ⇔12.500⇔20.000⇔25.000⇔ ⇔30.000⇔50.000⇔100.000⇔ ⇔500.000⇔		周波数直接設定
4	減衰器 (ATT)	[FUNC]+ [1]	ATT	⇔ AUTO⇔0dB⇔10dB⇔20dB⇔ ⇔30dB⇔		
			AMP		ON/OFF	
5	自動利得制御 (AGC)	[FUNC]+ [2]	AGC	⇔OFF⇔ FAST⇔MID⇔SLOW⇔		
6	オーディオ フィルタ (AF)	[FUNC]+ [3]	HPF	⇔0.05⇔0.2⇔0.3⇔0.4⇔		
			LPF	⇔3.0⇔4.0⇔6.0⇔15.0⇔		
			DEMP	⇔THRU⇔25⇔50⇔75⇔750⇔		
			CW-P	⇔0.4⇔0.5⇔0.6⇔0.7⇔0.8⇔ ⇔0.9⇔1.0⇔12.0⇔		
7	シフト (SHIFT)	[FUNCL] + [4]	SHIFT	⇔+⇔-⇔		周波数直接設定
8	ディレイ時間 (DELAY)	[FUNC]+ [5]	DELAY	⇔OFF⇔0.1⇔0.2⇔0.3⇔0.4⇔... ...⇔9.5⇔9.6⇔9.7⇔9.8⇔9.9⇔ ステップ:0.1秒 範囲:0.1~9.9秒		
9	プライオリティ 設定 (PRIORITY)	[FUNCL] + [6]	内容設定	受信周波数、復調モード等、必要項目を動作モードダイヤルと同じように設定します。		
			INTERVAL	⇔1⇔2⇔3⇔...⇔58⇔59⇔60⇔ ステップ:1秒 範囲:1~60秒		
10	オプション設定 (OPTION)	[FUNC]+ [8]	AFC		ON/OFF	
			NB		ON/OFF	
			DTMF		ON/OFF	
			VI	⇔0⇔1⇔2⇔...⇔254⇔255⇔ ステップ:1 範囲:0~255	ON/OFF	
			CTCSS ON	⇔67.0⇔69.4⇔71.9⇔74.4⇔... ...⇔241.8⇔250.3⇔254.1⇔	ON/SRCH/OFF	
			CTCSS SRCH			
			CTCSS OFF			
TE	⇔0⇔1⇔2⇔...⇔254⇔255⇔ ステップ:1 範囲:0~255	ON/OFF				

[EXIT] :メニュー内での操作を取消し、直前の動作モードに戻ります。

[ENT] :メニュー内での操作を確定し、直前の動作モードに戻ります。

[UP][DOWN] :複数サブメニューがある場合、サブメニューを選択します。

※ No.4 減衰器(ATT) 項に記述されている AMP は、受信周波数が30MHz 以下でのみ現れます。

## メニューへの移行及びメニュー内 操作 (2/4)

No	設定項目	メニュー 移行	サブメニュー選択	メニュー内操作		
			[UP][DOWN]	[ダイヤル]	[PASS]	[0~9][.]
11	CLOCK (時計関連)	[FUNCL] + [9]	時計時刻	時分秒合せ		[4][6] 時分秒選択
			ON TIMER 時刻	時分秒合せ	ON/OFF	[4][6] 時分秒選択
			ALM	⇐RADIO⇐BEEP⇐		
			VOLUME	⇐0⇐1⇐2⇐...⇐254⇐255⇐ ステップ:1 範囲:0~255		
			OFF TIMER 時刻	時分秒合せ	ON/OFF	[4][6] 時分秒選択
			SLEEP	⇐0⇐1⇐2⇐...⇐119⇐120⇐ ステップ:1分 範囲:1~120分	ON/OFF	
12	レベルスケルチ (LSQ)	[FUNCL] + [.]	LSQ	⇐-120.0⇐-119.5⇐...⇐-0.5⇐0.0 ⇐ ステップ:0.5 範囲:0~-120.0		
13	メモリー書込み (MW)	[FUNC]+ [ENT]		全チャンネル(000~999)を順次選択 ・特殊操作 [UP]:チャンネルを10増やす [DOWN]:チャンネルを10減らす		バンク選択
14	メモリースキャン 環境設定	[FUNCL] + [MEM]	PAUSE	⇐1⇐2⇐...⇐59⇐60⇐ ステップ:1秒 範囲:1~60秒	ON/OFF	
			BKL	⇐0⇐1⇐2⇐...⇐8⇐9⇐ ステップ:1 範囲:0~9	DIS/ENA	
			BKL		ON/OFF	
15	プログラムサー チ 環境設定	[FUNCL] + [SRCH]	PAUSE	⇐1⇐2⇐...⇐59⇐60⇐ ステップ:1秒 範囲:1~60秒	ON/OFF	
			BKL	⇐00⇐01⇐02⇐...⇐18⇐19⇐ ステップ:1 範囲:00~19	DIS/ENA	
			BKL		ON/OFF	
16	ダイヤルサーチ 環境設定	[FUNCL] + [DIAL]	PAUSE	⇐1⇐2⇐...⇐59⇐60⇐ ステップ:1秒 範囲:1~60秒	ON/OFF	
17	システム 環境設定 (CONFIG)	[FUNC]+ [DIAL]	LAMP		ON/OFF	
			BEEP	⇐0⇐1⇐2⇐...⇐254⇐255⇐ ステップ:1 範囲:0~255	ON/OFF	
			EXT-IF	⇐OFF⇐1⇐2⇐3⇐		
			BPS	⇐9.6k⇐19.2k⇐38.4k⇐57.6k⇐ ⇐115.2k⇐		
			STD	⇐20MHz(INT)⇐10MHz(EXT)⇐		
			S-M	⇐RSSI⇐AGC⇐		
			DISP	⇐NORM⇐AGC⇐		

[EXIT] :メニュー内での操作を取消し、直前の動作モードに戻ります。

[ENT] :メニュー内での操作を確定し、直前の動作モードに戻ります。

[UP][DOWN] :複数サブメニューがある場合、サブメニューを選択します。

## メニューへの移行及びメニュー内 操作 (3/4)

No	設定項目	メニュー 移行	サブメニュー選択	メニュー内操作		
			[UP][DOWN]	[ダイヤル]	[PASS]	[0~9][.]
18	プログラムサーチ データ設定 (SR PROG)	[FUNC]+ [SRCH]	バンク#選択 bA	⇔00⇔01⇔2⇔...⇔18⇔19⇔ ステップ:1 範囲:00~19		
			下限周波数 LO			周波数直接設定
			上限周波数 HI			周波数直接設定
			ST	⇔0.001⇔0.010⇔0.050⇔0.100⇔ ⇔0.500⇔1.000⇔5.000⇔6.250⇔ ⇔8.300⇔9.000⇔10.000⇔ ⇔12.500⇔20.000⇔25.000⇔ ⇔30.000⇔50.000⇔100.000⇔ ⇔500.000⇔		周波数直接設定
			MODE	⇔FM⇔AM⇔USB⇔LSB⇔CW⇔		
			IFBW	⇔2.4⇔4.0⇔6.0⇔15.0⇔30.0⇔ ⇔110.0⇔220.0⇔		
19	TEXT 編集 (TAG)	[FUNCL] + [EXIT]		⇔0⇔1⇔2⇔...⇔7⇔8⇔9⇔ ⇔A⇔B⇔C⇔...⇔X⇔Y⇔Z⇔ ⇔`⇔*⇔+⇔-⇔,⇔⇔/⇔ ⇔ ⇔⇔⇔=⇔⇔_⇔⇔		[4][6] 入力桁選択

- [EXIT] :メニュー内での操作を取消し、直前の動作モードに戻ります。  
 [ENT] :メニュー内での操作を確定し、直前の動作モードに戻ります。  
 [UP][DOWN] :複数サブメニューがある場合、サブメニューを選択します。

## メニューへの移行及びメニュー内 操作 (4/4)

No	設定項目	メニュー 移行	サブメニュー選択	メニュー内操作		
			[UP][DOWN]	[ダイヤル]	[PASS]	[ENT]
20	指定チャンネル 消去 (DEL) メモリーリード メモリースキャン 停止中 セレクトスキャン 停止中	[FUNC]+ [0]	指定チャンネル 消去 DEL		消去仮確定	消去確定
21	デリート メモリード メモリースキャン セレクトスキャン	[FUNCL] + [0]	バンク#選択 DBK	⇔0⇔1⇔2⇔...⇔8⇔9⇔ ステップ:1 範囲:0~9		
			登録チャンネル バンクー括消去 DBK		消去仮確定	消去確定
			パス設定 バンクー括解除 DBK		解除仮確定	解除確定
			セレクト設定 バンクー括解除 DBK		解除仮確定	解除確定
22	デリート プログラムサーチ	[FUNCL] + [0]	バンク#選択 DBK	⇔00⇔01⇔2⇔...⇔18⇔19⇔ ステップ:1 範囲:00~19		
			設定データ バンクー括消去 DBK		消去仮確定	消去確定
			パス設定 バンクー括解除 DBK		解除仮確定	解除確定
			パス設定 個別解除		解除仮確定	解除確定
23	デリート ダイヤル ダイヤルサーチ	[FUNCL] + [0]	パス設定 バンクー括解除 DBK		解除仮確定	解除確定
			パス設定 個別解除		解除仮確定	解除確定

## 7. ダイヤルモードでの操作と動作仕様

ダイヤル(DIAL)モードは、手動で受信周波数などの基本操作を行える動作モードです。DIAL は DIAL-A～DIAL-F の6つあります。ダイヤルモードで設定した受信状態はメモリーチャンネルに格納させることができます。

### 7-1. 受信周波数の変更

#### 7-1-1. 受信周波数の入力に関する概要

- ・ 入力単位は、MHz です。
- ・ 表示は、1000MHz 桁から 10Hz 桁までの 9 桁表示です。
- ・ 最小STEP周波数は、約 1Hz です。
- ・ 最小入力桁。
  - [ダイヤル] : 1Hz 桁
  - PC コントロール : 1Hz 桁
  - [0]～[9]/[.]キー : 10Hz 桁
- ・ [0]～[9]キー入力は 10Hz 桁まで有効です、以降の入力は無効でエラートーンを返します。
- ・ [0]～[9]キー入力は 9 桁です、10 桁以上の入力は無効でエラートーンを返します。
- ・ 1000MHz 桁から 10Hz 桁方向に入力されます。
- ・ 入力中に、[UP]キーで入力桁を 1000MHz 桁方向へ 1 桁ずつ戻せます。
- ・ 1000MHz 桁入力状態で[UP]キーを押すと入力はキャンセルされます。
- ・ [ENT]キーは、いつでも入力できます。
- ・ [.]キーは、MHz の入力になります。
- ・ [.]キーの入力は 1 回です、2 回目以降は無効でエラートーンを返します。
- ・ [.]キーを最初に入力した場合は、1000MHz 桁に「0」、9 桁目「.»を点灯し入力待ちを続けます。
- ・ [.]キーの入力無しで[ENT]を入力した場合、[1][2][ENT]→12.000000MHz となります。

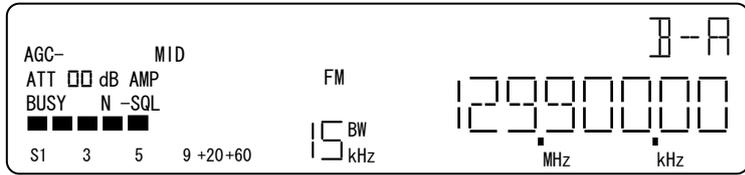
## 7-1-2. 受信周波数変更の操作

No	操作		説明
1	[0]~[9] [.]		直接変更します。 0.010kHz~3600.000000MHz が有効範囲です。
2	[UP] [DOWN]		[ダイヤル右回り]1クリック, [UP]入力毎に、ステップ周波数だけ受信周波数を上側に変化します。 [ダイヤル左回り]1クリック, [DOWN]入力毎に、ステップ周波数だけ受信周波数を下側に変化します。
3	[ダイヤル]		[ダイヤル][UP][DOWN]で変更する場合には、ステップアジャストのON/OFFによって動作が違います。  ステップアジャストがOFFの場合: ステップ周波数の整数倍に調整してステップ周波数間隔で変わります。 ONの場合: ステップ周波数の整数倍に関係なく入力されている受信周波数を基準に、ステップ周波数間隔で変わります。
4	無効操作	[0]~[9] [.]	受信周波数範囲外の入力は無効です。エラートーンを返して直前のDIAL#に戻ります。受信周波数範囲内外の判定は、[ENT]入力時に行われます。1Hz桁の入力は無効で、エラートーンを返して入力待ちを維持します。10桁の入力は無効で、エラートーンを返して入力待ちを維持します。
		[UP] [DOWN]	受信周波数範囲外に向かう操作は無効です。エラートーンを返します。
		[ダイヤル]	受信周波数範囲外に向かう操作は無効、エラートーンを返します。
5	[DIAL]		[DIAL]入力毎に、DIAL# DIAL-A→DIAL-B→DIAL-C→DIAL-D→DIAL-E→DIAL-F→DIAL-A をリング状に順次切り替えます。
6	[EXIT]		[0~9][.]の操作をクリアし、直前のDIAL#に戻る。
7	[ENT]		[0~9][.]の操作を確定します。

7-1-3. 操作例

◆ [0]～[9][.]の直接変更

直前の受信機設定内容(例)

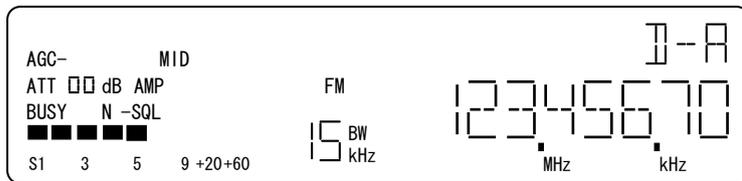
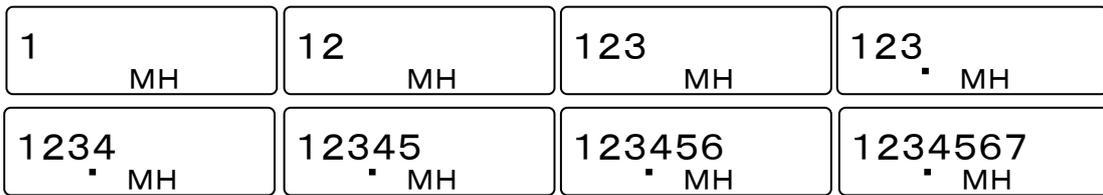


操作仕様 [0]～[9][.]入力過程の表示画面

- ・周波数表示部, 6桁目「.」, 3桁目「.」, 「kHz」を消灯。
- ・「MHz」を点灯。
- 「.」入力時、その時点で入力されている桁の「.」を点灯する。
- それ以外は、直前の状態を表示します。
- 「ENT」入力時、有効な周波数範囲内ならば
- 6桁目「.」, 3桁目「.」, 「kHz」を点灯。
- 6桁目「.」, 「MHz」, 3桁目「.」, 「kHz」に合せて、入力周波数を表示する。
- 有効な受信周波数の範囲外ならばエラートーンを返して、直前の状態に戻る。
- 「ENT」で確定するまで、受信機の設定内容に変更は行わない。

例

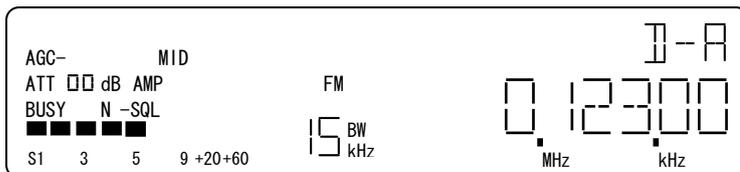
[1][2][3][.][4][5][6][7][ENT]入力の場合。



「ENT」で確定し、6桁目「.」, 「MHz」, 3桁目「.」, 「kHz」に合せて入力周波数を表示します。

[.][1][2][3][ENT]入力の場合 (最初に[.]の入力)。

[.]入力時点で、9桁に「0」, 9桁目「.」を点灯する。



「ENT」で確定し、6桁目「.」, 「MHz」, 3桁目「.」, 「kHz」に合せて入力周波数を表示します。

[1][2][.] [3][4][5][6][7][8]入力の場合（10Hz 桁より小さい桁の入力）。

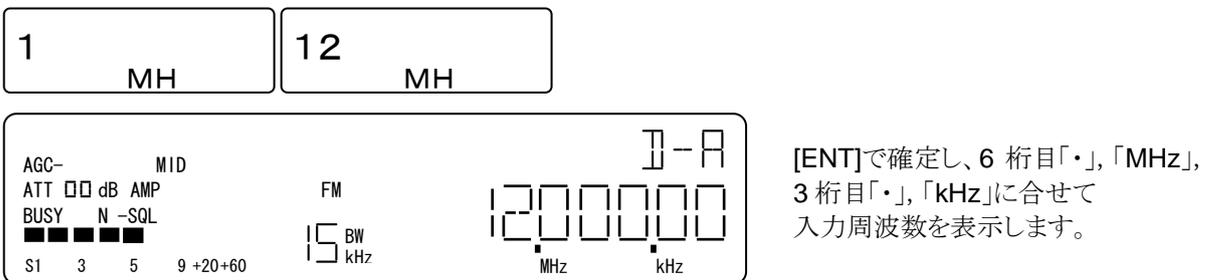


[1][2][3][4][5][6][7][.] [8][9][7]入力の場合（10 桁入力）。

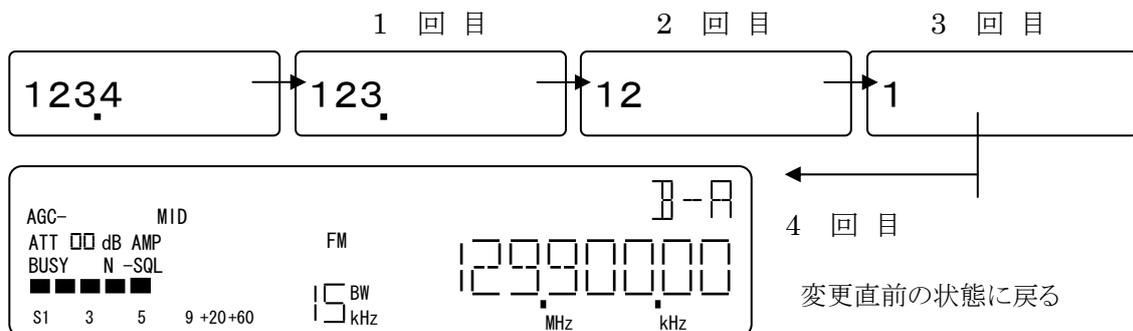


上記の 2 回目の [7]入力は 10 桁なので無効です、エラートーンで警告し入力待ちを続けます。

[1][2][ENT]入力の場合（[.]キーの入力が無い場合）。



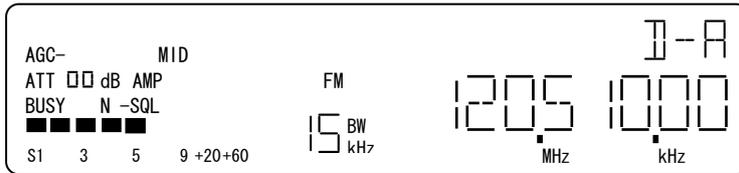
◆ [UP]は、入力中の桁をクリアして 1000MHz 桁方向へ 1 桁ずつ戻り入力待ちの状態になります。1000MHz 桁入力時は、入力をキャンセルして直前の状態に戻ります。 [1][2][3][.] [4]が入力されている場合。



## 7-1-4. 受信周波数, ステップ周波数, ステップアジャストの関係

## ◆ [0]~[9][.]

受信周波数範囲ならば、ステップ周波数の整数倍に関係なく入力を全て受け付けます。  
 ステップ周波数 100kHz の場合に、100kHz の整数倍でない「120.510000MHz」を入力が可能で受信動作します。  
 [0]~[9][.]直接入力の場合には、ステップアジャスト ON/OFF は入力操作に影響をしません。



[0]~[9][.]で直接入力  
 ステップ周波数 100kHz  
 ステップアジャスト ON / OFF に  
 関わらず設定できる

## ◆ [UP][DOWN][ダイヤル] ステップアジャスト OFF の場合

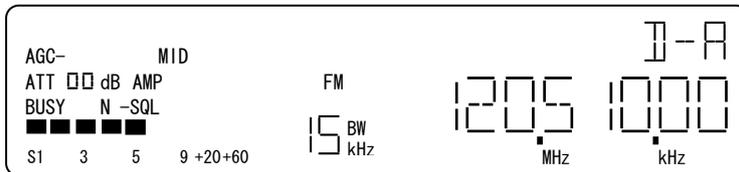
ステップ周波数の整数倍に自動調整して、ステップ周波数間隔で変更します。

操作前の受信周波数が整数倍でない場合、

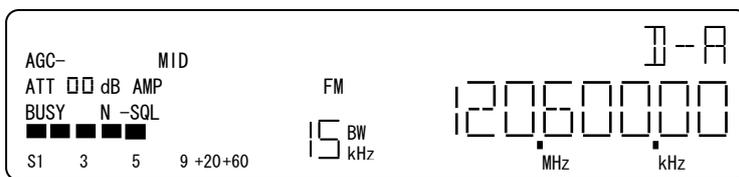
[UP][ダイヤル右回り]1 クリック → 現整数倍に 1 加えた整数倍にする。

[DOWN][ダイヤル左回り]1 クリック → 現在整数倍に丸める。

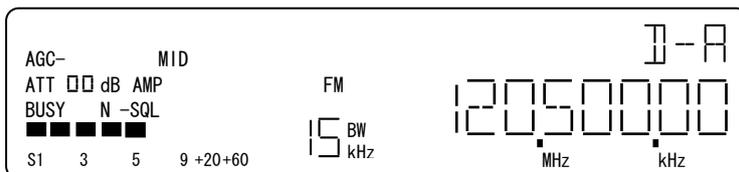
ステップ周波数 100kHz, 受信周波数 120.510000MHz の例



[0]~[9][.]で直接入力  
 ステップ周波数 100kHz



[ダイヤル右回り]1 クリック  
 [UP]入力  
 ステップ周波数の整数倍  
 120.60000MHz に変更する

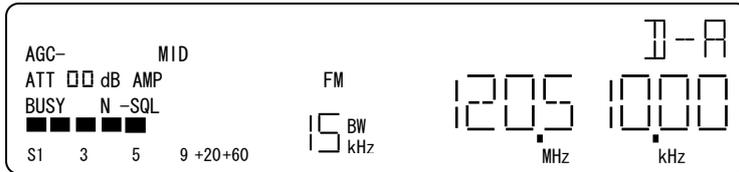


[ダイヤル左回り]1 クリック  
 [DOWN]入力  
 ステップ周波数の整数倍  
 120.50000MHz に変更する

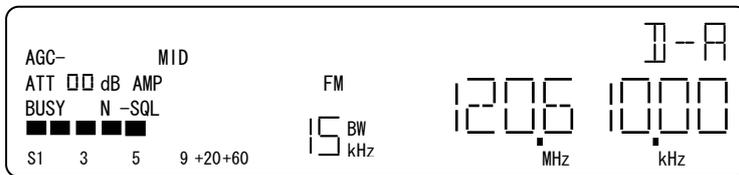
◆ [UP][DOWN][ダイヤル] ステップアジャスト ON の場合

ステップ周波数の整数倍に関係なく入力されている受信周波数を基準に、ステップ周波数間隔で変更します。

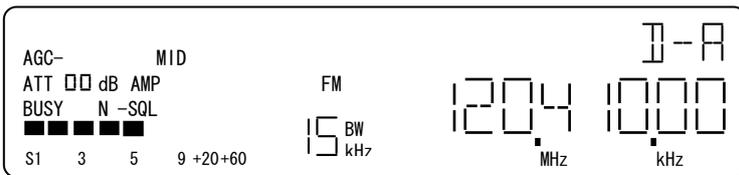
ステップ周波数 100kHz, 受信周波数 120.510000MHz の場合の例。



[0]~[9][.]で直接入力  
ステップ周波数 100kHz



[ダイヤル右回り]1 クリック、  
[UP]入力  
受信周波数を基準に  
ステップ周波数間隔で上側に変更する



[ダイヤル左回り]1 クリック  
[DOWN]入力  
受信周波数を基準に  
ステップ周波数間隔で下側に変更する

## 7-2. ステップ周波数選択設定メニュー

復調モードで、AUTO を設定した場合、その時点でステップ周波数も自動設定されます。

AUTO の状態から、手動でステップ周波数を設定すると、AUTO が解除されます。この時、ステップ周波数以外は AUTO が解除される直前の設定が維持します。

### 7-2-1. ステップ周波数選択設定の概要

- ・ 入力単位は、kHz です。
- ・ 表示は、100kHz 桁から 1Hz 桁までの 6 桁表示です。
- ・ 最小 STEP 周波数は、約 1Hz です。
- ・ [0～9]キー入力は 1Hz 桁まで有効です、以降の入力は無効でエラートーンを返します。
- ・ [0～9]キー入力は 6 桁が有効です、7 桁以上の入力は無効でエラートーンを返します。
- ・ 1MHz 桁から 10Hz 桁方向に入力されます。
- ・ 入力中に、[UP]キーで入力桁を 1MHz 桁方向へ 1 桁ずつ戻すことができます。
- ・ 1MHz 桁入力状態で[UP]キーを押すと入力がキャンセルされます。
- ・ [ENT]キーで入力途中のどこでも確定ができます。
- ・ [.]キーは、kHz の入力になります。
- ・ [.]キーの入力は 1 回です、2 回目以降は無効でエラートーンを返します。
- ・ [.]キーを最初に入力した場合： 1MHz 桁に「0」、6 桁目「.」を点灯し入力待ちを続けます。
- ・ [.]キーの入力無しで[ENT]を入力した場合： [2][5][ENT]→25.000kHz となります。
- ・ 1kHz 以上の STEP 周波数から、1kHz 未満の STEP 周波数に変更する場合：

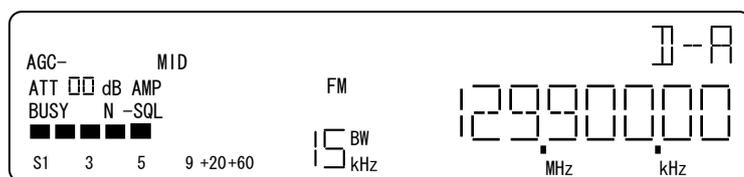
例： 25.000kHz から 500Hz への変更は次のようにキー操作をします。

[0][.][5][0][0][ENT]	→ 500Hz
[0][.][5][0][ENT]	→ 500Hz
[0][.][5][ENT]	→ 500Hz
[.][5][0][0][ENT]	→ 500kHz
[.][5][0][ENT]	→ 500kHz
[.][5][ENT]	→ 500kHz

## 7-2-2. 操作

No	操作	説明	
1	[STEP]	ステップ周波数選択設定メニューへ移行します。	
2	[0]~[9] [.]	直接設定します。 0.001kHz~999.999kHz が有効範囲です。	
3	[ダイヤル]	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、プリセットされたステップ周波数 0.001kHz → 0.010kHz → 0.050kHz → 0.100kHz → 0.500kHz → 1.000kHz → 5.000kHz → 6.250kHz → 8.3kHz → 9.000kHz → 10.000kHz → 12.500kHz → 20.000kHz → 25.000kHz → 30.000kHz → 50.000kHz → 100.000kHz → 500.000kHz →0.001kHz をリング状に順次選択する。[ダイヤル左回り]は反対方向に順次選 択。	
4	無効操作	[0]~[9] [.]	有効ステップ周波数範囲外の入力は無効で、エラートーンを返し、 直前のステップ周波数選択設定メニューに戻る。設定可能な範囲の 判定は、[ENT]入力時に行います。
5	[EXIT]	[0~9][.]の操作をクリアして、直前の動作状態に戻ります。	
6	[ENT]	[0~9][.]の操作を確定して、直前の動作状態に戻ります。	

## 7-2-3. 操作例

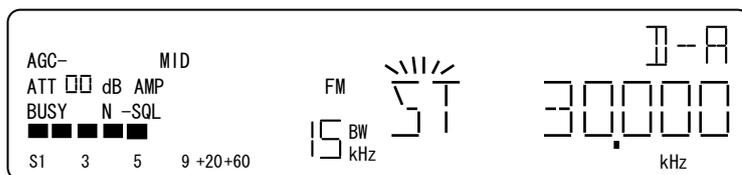


上のような受信状態から、[STEP] によって、ステップ周波数選択設定メニューになってから、ダイヤル、[0]~[9][.] での操作例を示します。

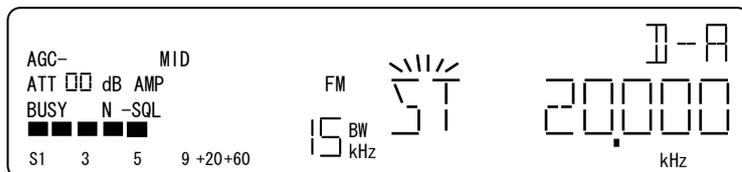
## ◆ [ダイヤル]

[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、プリセットされたステップ周波数を昇順にリング状に順次選択する。

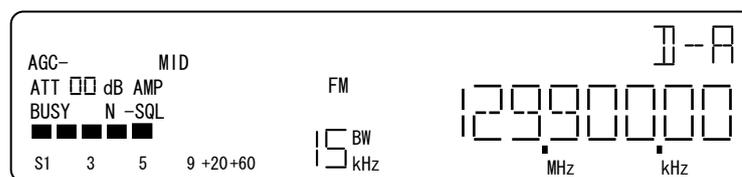
[ダイヤル左回り]1 クリック毎に、プリセットされたステップ周波数を降順にリング状に順次選択する



「25.000kHz」表示の時、  
[ダイヤル右回り]1クリック入力  
「30.000kHz」表示になる



「25.000kHz」表示の時、  
[ダイヤル左回り]1クリック入力  
「20.000kHz」表示になる

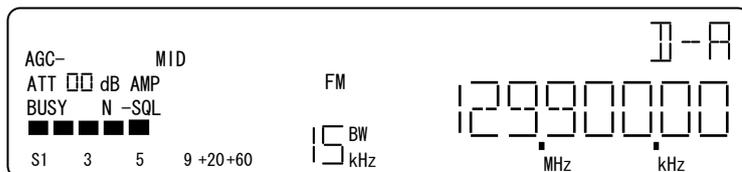


[ENT]で確定

◆ [0]～[9][.]での入力

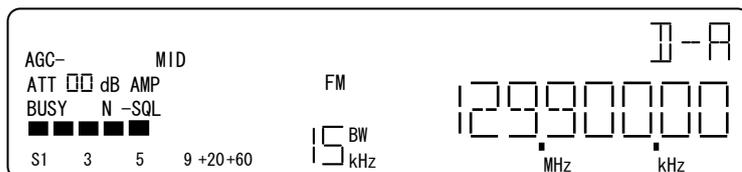
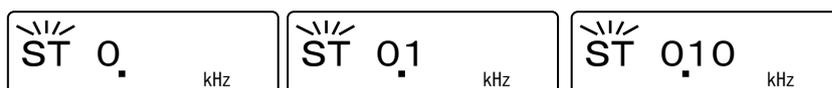
[0]～[9][.]での入力途中から、[ダイヤル]によるプリセット選択へは戻れません。

[1][2][.][5][ENT]入力の場合。



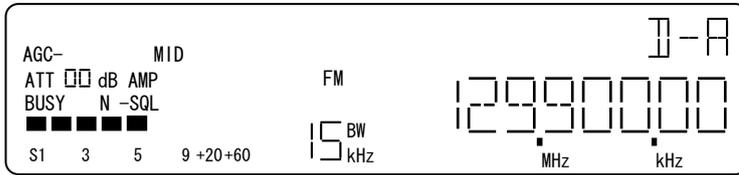
[ENT]で確定し、  
直前の状態に戻る。

[.][1][0][ENT]入力の場合（最初に[.]を入力）。



[ENT]で確定し、  
直前の状態に戻る。

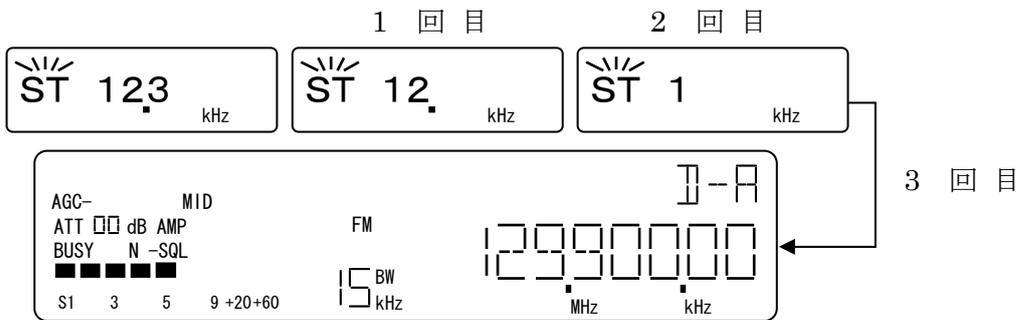
[2][5][ENT]入力の場合（[.]キーの入力が無い場合）。



[ENT] 時点で、STEP 周波数を 25kHz に確定、直前状態に戻る。

- ◆ [UP]は、入力中の桁をクリアして1MHz 桁方向へ1 桁ずつ戻り、入力待機の状態になります。1MHz 桁入力時に[UP] のときは、入力をキャンセルして直前の状態に戻ります。

[1][2][.][3]が入力されている場合。



### 7-3. ステップアジャスト

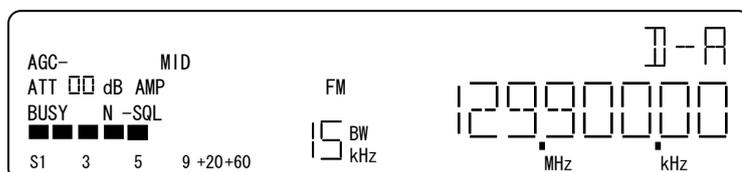
[UP][DOWN][ダイヤル]で受信周波数を変更するときは、ステップ周波数間隔で変更されます。このときに、ステップアジャストの設定とは、ステップ周波数の整数倍に調整するか、またはステップ周波数に関わらずに、入力されている受信周波数を基準にして変更するかを選択することを指しています。

#### 7-3-1. 操作

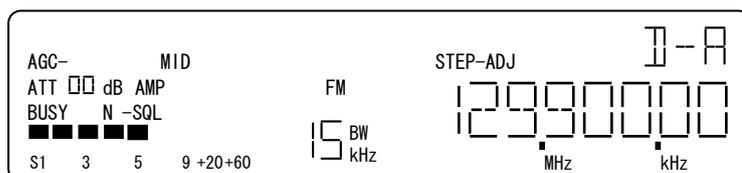
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+ [STEP]	ステップアジャスト ON/OFF 設定	[FUNC]+[STEP]入力毎に、 ステップアジャスト OFF→ON→OFF を繰り返す。
2	受信周波数 変更	OFF	ステップ周波数の整数倍に調整して、ステップ周波数間隔で 変更する。
		ON	ステップ周波数の整数倍に関係なく、入力されている受信周 波数を基準にして、ステップ周波数間隔で変更する。

#### 7-3-2. ステップアジャストの ON/OFF

- ・ [FUNC]+[STEP]入力毎に、ステップアジャストの ON/OFF を繰り返します。
- ・ ステップアジャスト ON の時は、「STEP-ADJ」が点灯します。



ステップアジャスト OFF の表示画面  
「STEP-ADJ」消灯



ステップアジャスト ON の表示画面  
「STEP-ADJ」点灯

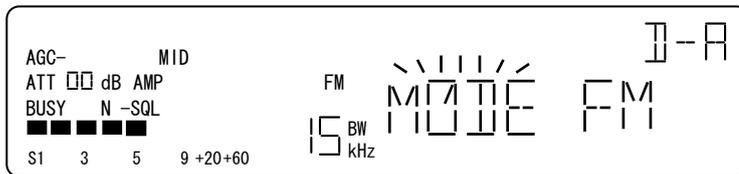
## 7-4. 復調モード選択設定メニュー

復調モードは原則としてダイヤルモードで設定を行います。例外的にメモリーリード、メモリースキャンの停止中、ダイヤルサーチの停止中、プログラムサーチの停止中には、一時的に復調モードの設定が可能ですが、例外時の設定は記憶領域には格納されません。

### 7-4-1. 操作

No	操作	説明
1	[MODE]	復調モード選択設定メニューへ移行。
2	[FUNCL]+[MODE]	AUTO の、ON/OFF を交互に繰り返す。
3	[ダイヤル]	[ダイヤル右回り]1 クリック, [UP] 毎に、復調モード FM→AM→USB→LSB→CW→FM をリング状に順次選択する。[ダイヤル左回り]1 クリック, [DOWN] は、反対方向に順次選択。選択した時点で仮確定になる。
4	[EXIT]	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻る。
5	[ENT]	確定して、直前の動作モードに戻る。

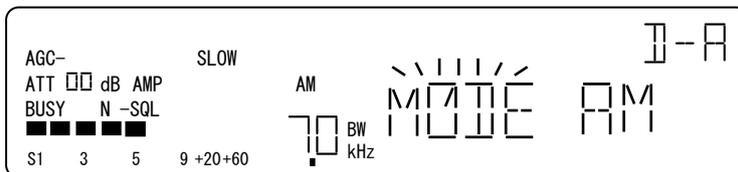
### 7-4-2. 復調モード選択設定メニュー



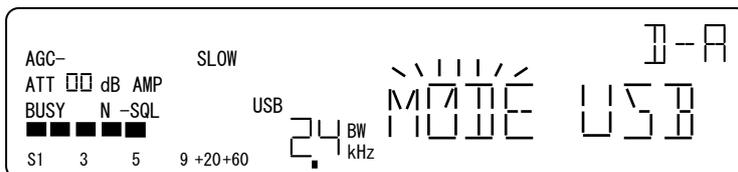
[MODE] で復調モード選択設定メニューになります。

### 7-4-3. 操作例

- [ダイヤル右回り]1 クリック毎に、復調モードを昇順に順次選択します。
- [ダイヤル左回り]1 クリック毎に、復調モードを降順に順次選択します。
- 選択した時点で仮確定となり、AGC, IFBW, 復調モード表示は選択された復調モードに合わせて切替わります。



「FM」表示の時、[ダイヤル右回り]1 クリック、「AM」仮確定、AGC, IFBW, 復調表示部も切替わります。



「AM」表示の時、[ダイヤル右回り]1 クリック、「USB」仮確定、AGC, IFBW, 復調表示部も切替わります。  
[ENT] で確定して直前の動作モードへ戻ります。

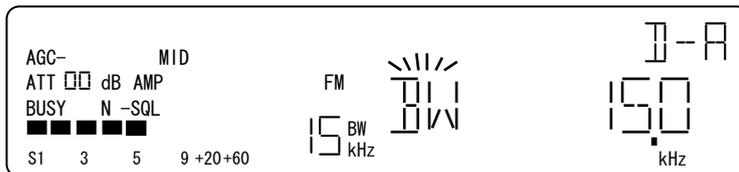
## 7-5. IFBW選択設定メニュー (IFフィルタ幅選択)

IFBW の設定は原則としてダイヤルモードで設定を行います。例外的にメモリーリード、メモリースキャンの停止中、ダイヤルサーチの停止中、プログラムサーチの停止中には、一時的に IFBW の設定が可能ですが、例外時の設定は記憶領域には格納されません。

### 7-5-1. 操作

No	操作	説明
1	[FUNC]+[MODE]	IFBW 選択設定メニューへ移行。
2	[ダイヤル]	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、IFBW 2.4kHz → 5.5kHz → 7.0kHz → 15.0kHz → 30.0kHz → 110kHz → 220kHz → (0.5kHz) → 2.4kHz をリング状に順次選択します。 [ダイヤル左回り]1 クリックは、反対方向に順次選択。選択した時点で 仮選択になります。(0.5kHz は CMF05 装着時に現れます)
3	[EXIT]	操作及び仮選択をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
4	[ENT]	選択を確定して、直前の動作モードに戻ります。

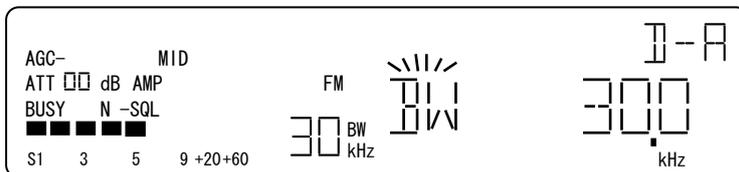
### 7-5-2. IFBW 選択設定メニュー



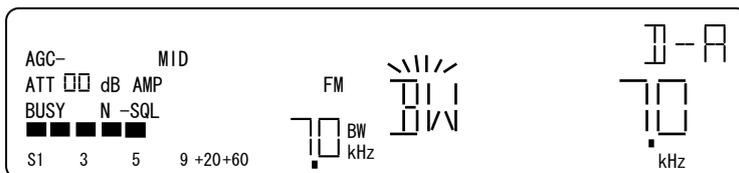
[FUNC]+[MODE] で  
IFBW 選択設定メニューになります

### 7-5-3. 操作例

- ・[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、IFBW を昇順に仮選択します。
- ・[ダイヤル左回り]1 クリック毎に、IFBW を降順に仮選択します。
- ・IFBW 表示部は、仮選択された IFBW に合わせて表示が切替わります。



「15.0kHz」表示から、  
[ダイヤル右回り]1 クリック、「30.0kHz」  
仮選択。  
IFBW 表示部も切替わります。



「15.0kHz」表示から、  
[ダイヤル左回り]1 クリック、「7.0kHz」  
仮選択。  
IFBW 表示部も切替わります。

[ENT] で確定して直前の動作モードへ戻ります。

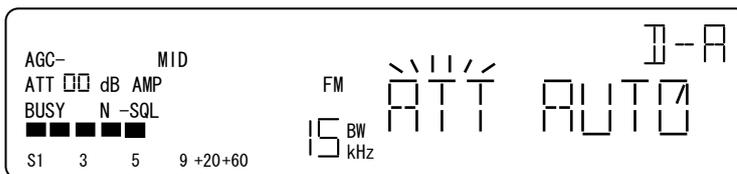
## 7-6. ATT選択設定メニュー（アッテネータとRFアンプ）

ATT(アッテネータ)と RF アンプの設定は原則としてダイヤルモードで設定を行います。例外的にメモリーリード、メモリースキャンの停止中、ダイヤルサーチの停止中、プログラムサーチの停止中には、一時的に ATT(アッテネータ)と RF アンプの設定が可能ですが、例外時の設定は記憶領域には格納されません。RFアンプの設定は、受信周波数が 29.999999MHz 以下のときにのみ可能です。受信周波数が 30MHz 以上のときは、[UP][DOWN]でサブメニュー選択はできません。

### 7-6-1. 操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[1]		ATT 選択設定メニューへ移行。 移行直後は、ATT 選択設定メニューになります。
2	[UP] [DOWN]	サブメニュー 選択	[UP][DOWN]毎に、サブメニュー ATT 選択設定→RFAMP 選択設定 を交互に選択します。 ただし受信周波数が 30MHz 以上のときは無効です。
3	[ダイヤル]	ATT 設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、ATT AUTO→0dB→10dB→20dB→30dB→AUTO をリング状に順次選択します。[ダイヤル左回り]は、反対方向 に順次選択。選択した時点で仮確定となります。
4	[PASS]	RFAMP ON/OFF 設定	[PASS]毎に、RFAMP ON/OFF を交互に繰り返します。選択した時点で仮確定となります。
5	[EXIT]		操作と仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
6	[ENT]		設定確定して、直前の動作モードに戻ります。

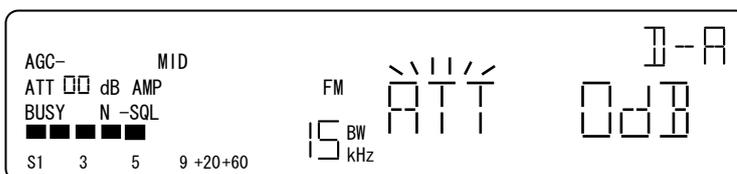
### 7-6-2. ATT 選択設定メニュー



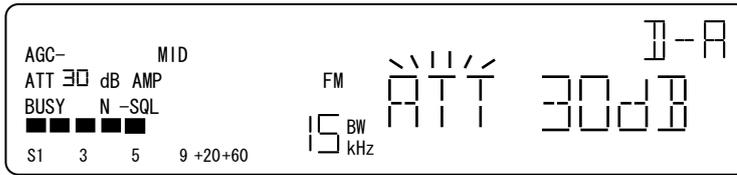
[FUNC]+[1] で  
ATT 選択設定メニュー

#### 操作例

- [ダイヤル右回り]1 クリック毎に、ATT を昇順に順次選択します。
- [ダイヤル左回り]1 クリック毎に、ATT を降順に順次選択します。
- 選択した時点で仮確定になります。
- ATT 表示部は、選択された ATT に合わせて表示が切替わります。



「AUTO」表示の時、[ダイヤル右  
回り]1 クリック、「0dB」仮確定、  
ATT 表示部も切替わります。

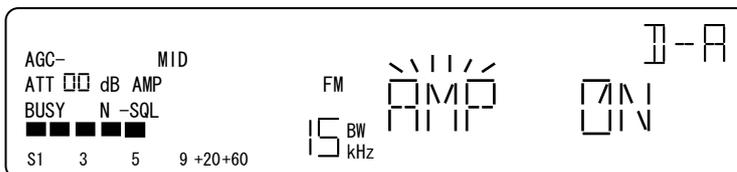


「AUTO」表示の時、[ダイヤル左回り]1クリック、「30dB」仮確定  
ATT 表示部も切替わる。

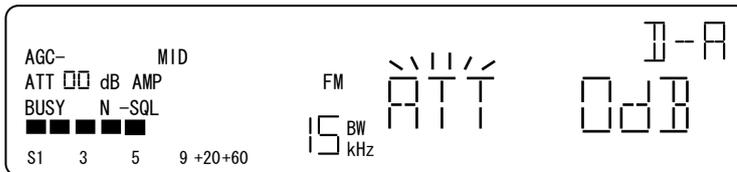
[ENT] で確定して直前の動作モードへ戻ります。

### 7-6-3. サブメニュー選択（受信周波数が 30MHz では AMP 選択設定は現れません）

- [UP]入力毎に、サブメニューを昇順に順次選択する
- [DOWN]入力毎に、サブメニューを降順に順次選択する。

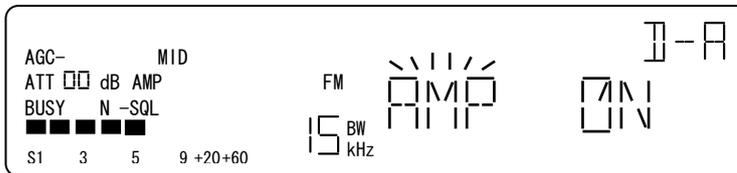


ATT 選択設定の時  
[UP]で、AMP 選択設定へ移行



AMP 選択設定の時  
[UP]で、ATT 選択設定へ移行

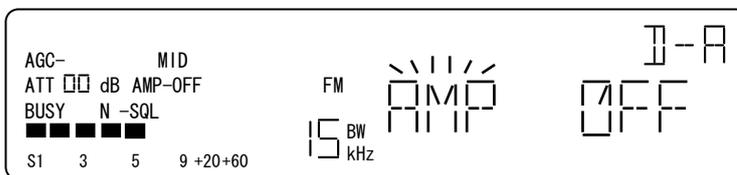
### 7-6-4. AMP 選択設定メニュー



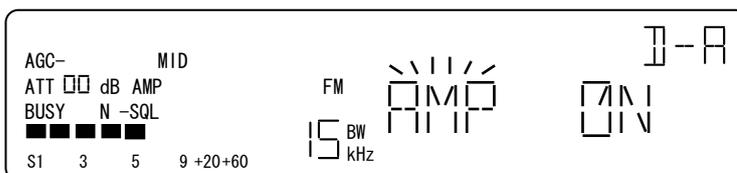
ATT 選択設定メニューから、  
[UP][DOWN] キーで  
AMP 設定メニューへ

#### 操作例

- [PASS]毎に、RFAMP ON/OFF を交互に繰り返し、選択した時点で仮確定になります。
- AMP 表示部は、選択状態に合わせて表示が切替わる。



「ON」表示の時、[PASS]操作で  
「OFF」仮確定になり、  
AMP 表示部が切替わります。



「OFF」表示の時、[PASS]操作  
「ON」が仮確定になり、  
AMP 表示部が切替わります。

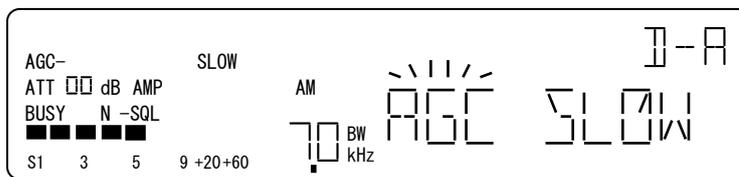
[ENT] で確定して直前の動作モードへ戻ります。

## 7-7. AGC選択設定メニュー

AGC の設定は原則としてダイヤルモードで設定を行います。例外的にメモリーリード、メモリースキャンの停止中、ダイヤルサーチの停止中、プログラムサーチの停止中には、一時的に AGC の設定が可能です。例外時の設定は記憶領域には格納されません。また、復調モードが FM のときは、MID と OFF のみが選択可能です。

## 操作

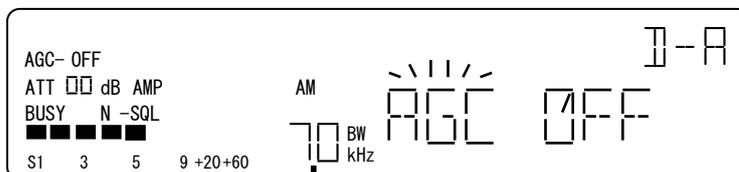
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[2]		AGC 選択設定メニューへ移行。
2	[ダイヤル]	AGC 設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、AGC OFF→FAST→MID→SLOW→OFF をリング状に順次選択する。 [ダイヤル左回り]は、反対方向に順次選択。 選択した時点で仮確定となる。
3	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻る。
4	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻る。



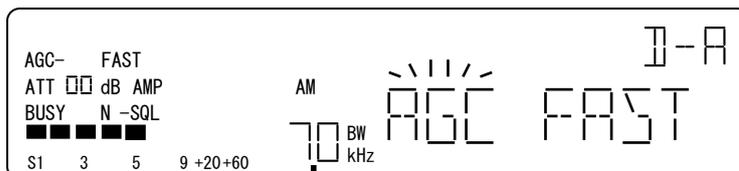
[FUNC]+[2] で  
AGC 選択設定メニューへ

## 操作例

- ・ [ダイヤル右回り]1 クリック毎に、AGC を昇順に順次選択します。
- ・ [ダイヤル左回り]1 クリック毎に、AGC を降順に順次選択します。
- ・ 選択した時点で仮確定になり、AGC 表示部は選択状態に合わせて表示が切替わる。



「SLOW」表示の時、  
[ダイヤル右回り]1 クリック  
「OFF」仮確定します。  
AGC 表示部も切替ります。



「OFF」表示の時、  
[ダイヤル右回り]1 クリック  
「FAST」仮確定します。  
AGC 表示部も切替ります。

[ENT] で確定して直前の動作モードへ戻ります。

## 7-8. AF環境選択設定メニュー（オーディオフィルタ関連）

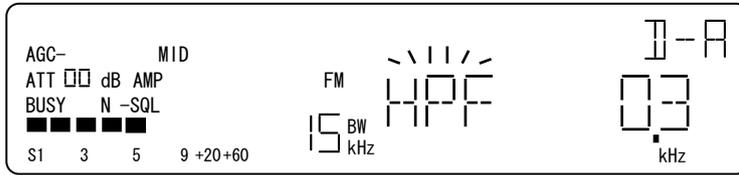
AF 環境設定は原則としてダイヤルモードで設定を行います。例外的にメモリーリード、メモリースキャンの停止中、ダイヤルサーチの停止中、プログラムサーチの停止中には、一時的に AF 環境設定が可能です。例外時の設定は記憶領域には格納されません。

## 7-8-1. 操作

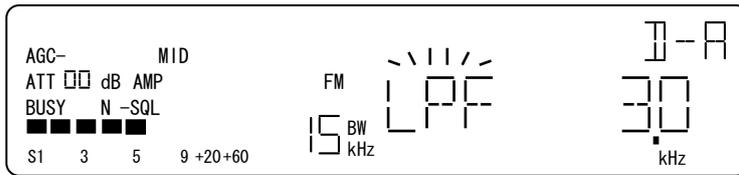
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+ [3]		AF 環境選択設定メニューへ移行。移行直後は、HPF 選択設定メニューになります。
2	[UP] [DOWN]	サブメニュー 選択	[UP]入力毎に、サブメニュー HPF 選択設定 → LPF 選択設定 → DE-EMP 選択設定 → CWPITCH 選択設定 → HPF 選択設定 をリング状に順次選択します。 [DOWN]は反対方向に順次選択します。
3	[ダイヤル]	HPF 設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、HPF 0.05kHz → 0.2kHz → 0.3kHz → 0.4kHz → 0.05kHz をリング状に順次選択します。 [ダイヤル左回り]は、反対方向に順次選択します。 選択した時点で仮確定となります。
		LPF 設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、LPF 3.0kHz → 4.0kHz → 6.0kHz → 20.0kHz → 3.0kHz をリング状に順次選択します。 [ダイヤル左回り]は、反対方向に順次選択します。 選択した時点で仮確定となります。
		DE-EMP 設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、DE-EMP THRU → 25 → 50 → 75 → 750 → THRU をリング状に順次選択します。 [ダイヤル左回り]は、反対方向に順次選択し、選択した時点で仮 確定となる。DE-EMP (ディエンファシス)の単位は、uS です。
		CWPITCH 設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、CWPITCH 0.400kHz → 0.500kHz → 0.600kHz → 0.700kHz → 0.800kHz → 0.900kHz → 1.000kHz → 12.000kHz → 0.400kHz をリング状に順次選択します。 [ダイヤル左回り]は、反対方向に順次選択します。選択した時点 で仮確定となります。設定範囲は、100Hz ステップで 0.400kHz ~ 1.000kHz, さらに、12.000kHz です。
4	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
5	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

## 7-8-2. サブメニュー選択

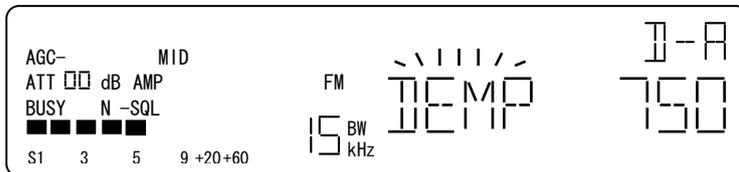
- [UP]入力毎に、サブメニューをリング状(昇順)に順次選択します。
- [DOWN]入力毎に、サブメニューをリング状(降順)に順次選択します。



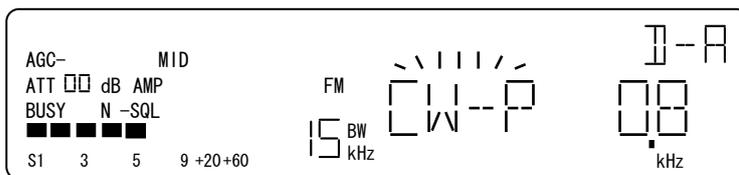
[FUNC]+[3] で AF 環境設定メニューの HPF 選択設定になります。



HPF 選択設定の時に、[UP]入力で、LPF 選択設定へ移行します。

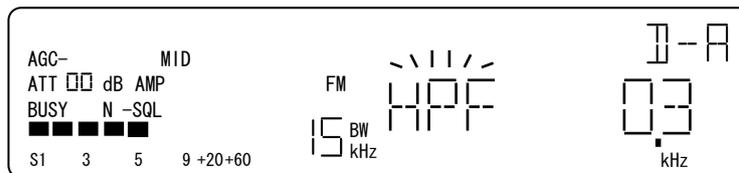


LPF 選択設定の時に、[UP]入力で、DE-EMP 選択設定へ移行します。



DE-EMP 選択設定の時に、[UP]入力で、CWPITCH 選択設定へ移行します。

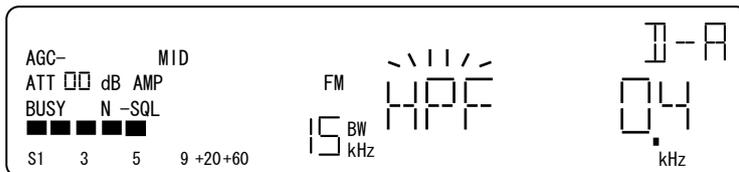
## 7-8-3. HPF 選択設定メニュー (ハイパスフィルタ)



HPF 選択設定メニューに移行したときの画面表示例

## 操作例

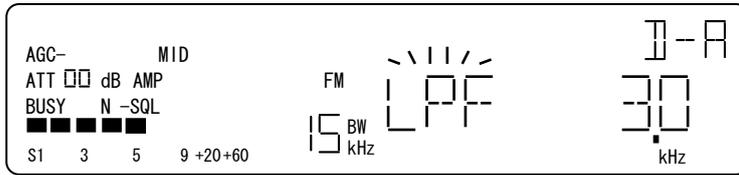
- [ダイヤル右回り]1クリック毎に、HPF を昇順に順次選択します。
- [ダイヤル左回り]1クリック毎に、HPF を降順に順次選択します。
- 選択した時点で仮確定になります。



「0.3kHz」表示の時に、[ダイヤル右回り]1クリックで、「0.4kHz」に仮確定します。

[ENT] で選択値を確定して直前の動作モードへ戻ります。

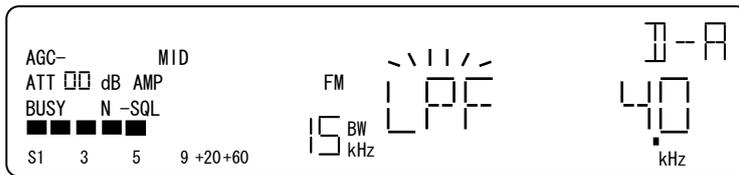
## 7-8-4. LPF 選択設定メニュー（ローパスフィルタ）



LPF 選択設定メニューに移行したときの画面表示例

## 操作例

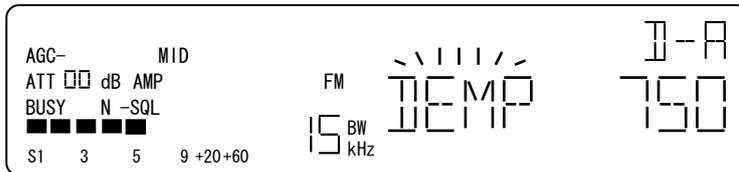
- ・ [ダイヤル右回り]1クリック毎に、LPF を昇順に順次選択します。
- ・ [ダイヤル左回り]1クリック毎に、LPF を降順に順次選択します。
- ・ 選択した時点で仮確定になります。



「3.0kHz」表示の時、  
[ダイヤル右回り]1クリック  
「4.0kHz」仮確定

[ENT] で選択値を確定して直前の動作モードへ戻ります。

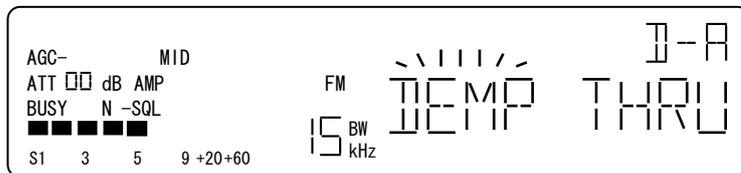
## 7-8-5. DE-EMP 選択設定メニュー（ディエンファシス）



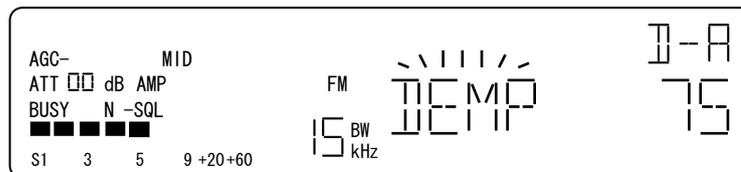
DE-EMP 選択設定メニューに移行したときの画面表示例

## 操作例

- ・ [ダイヤル右回り]1クリック毎に、DE-EMP を昇順に選択します。
- ・ [ダイヤル左回り]1クリック毎に、DE-EMP を降順に選択します。
- ・ 選択した時点で仮確定になります。



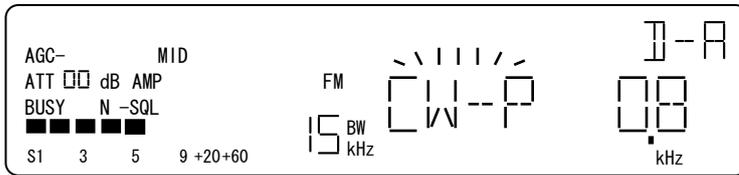
「750」表示の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
「THRU」が仮確定します。



「750」表示の時、  
[ダイヤル左回り]1クリック  
「75」が仮確定します。

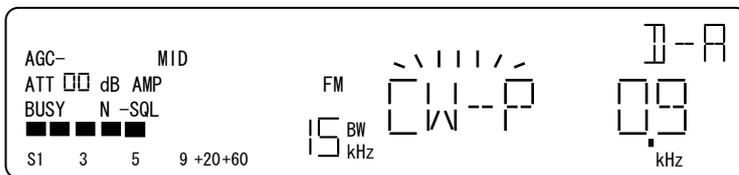
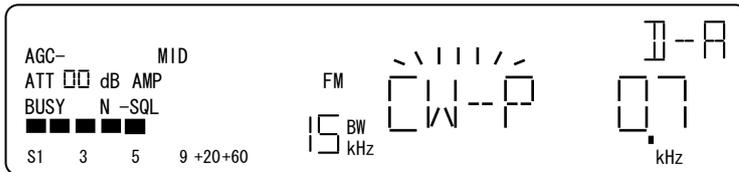
[ENT] で選択値を確定して直前の動作モードへ戻ります。

## 7-8-6. CW PITCH 選択設定メニュー (CW ピッチ)

CW PITCH 選択設定メニュー  
移行したときの画面表示例

## 操作例

- [ダイヤル右回り]1 クリック毎に、CW PITCH を昇順に順次選択します。
- [ダイヤル左回り]1 クリック毎に、CW PITCH を降順に順次選択します。
- 選択した時点で仮確定になります。

「0.8kHz」表示の時、  
[ダイヤル右回り]1 クリックで、  
「0.9kHz」が仮確定します。「0.8kHz」表示の時、  
[ダイヤル左回り]1 クリック  
「0.7kHz」が仮確定します。

[ENT] で選択値を確定して直前の動作モードへ戻ります。

CW ピッチの設定範囲は、100Hz ステップで 0.4kHz～1.000kHz, さらに、12.0kHz です。

サウンドカードを使って PC 上で復調をされるソフトウェア受信機 (SDR) 用に 12kHz オフセットをしたアナログ出力を渡すときに使います。

この機能で、PC 上での DRM 放送 (Digital Radio Mondiale) の復調などにも活用できます。

## 7-9. シフト操作と選択設定メニュー (SHIFT)

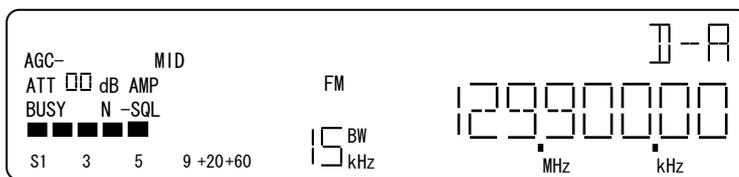
シフト動作は、シフト機能によって受信周波数を設定値分シフトするための操作です。

シフト オンの状態で、受信周波数、またはステップ周波数を変更した場合は、シフトはオフに切り替わります。本機が待機状態から動作状態に移行したときは、シフトはオフになります。

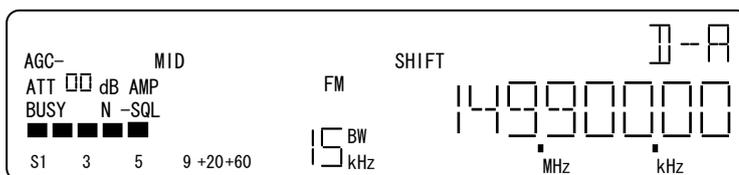
### 7-9-1. 操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[4]		[FUNC]+[4]操作毎に、SHIFT ON/OFF を交互に繰り返します。 復調モード「AUTO」が選択されている場合は、AUTO データ内の設定値通りに受信周波数をシフトします。 OFF の場合、入力されている受信周波数で受信します。 ON の場合、入力されている受信周波数に設定したシフト周波数を加算した周波数を受信します。
2	[FUNCL]+[4]		シフト選択設定メニューへ移行します。
3	[0~9] [.]	シフト周波数 設定	ダイヤルモードの受信周波数変更と同じ方法で、シフト周波数は 0~999.9999MHz の範囲を設定できます。範囲を超えた入力はエラートーンを返し、シフト周波数設定を維持します。
4	[ダイヤル]	シフト周波数 符号設定	[ダイヤル左右回り]1クリック毎に、符号「+」→「-」を交互に選択します。初期値は「+」です。 シフト周波数設定中でも選択可能です。
6	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
7	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

### 7-9-2. シフトの ON/OFF と 表示画面

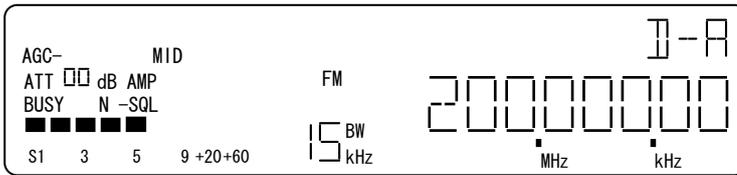


シフト OFF の表示画面例  
「SHIFT」点灯していません。



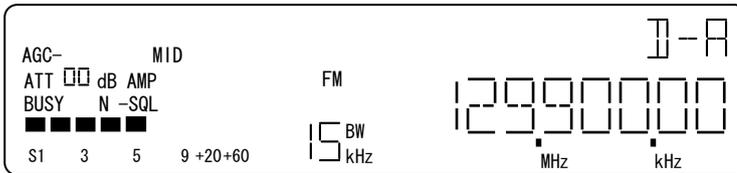
シフト ON にした表示画面例  
「SHIFT」点灯します。  
シフト周波数が  
+20.00000MHz の場合

シフト周波数に設定されている周波数が 0MHz の場合には、シフトを ON にするとエラートーンを返します。



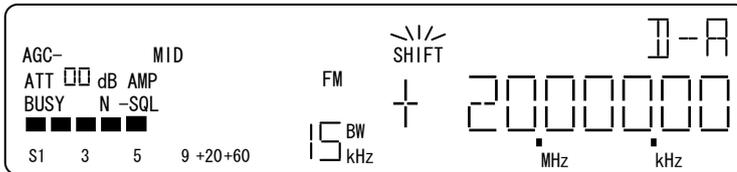
シフト ON の状態から、受信周波数を変更すると、シフト OFF になります。変更した受信周波数を表示

受信周波数を 200.00000MHz に変更した場合の例

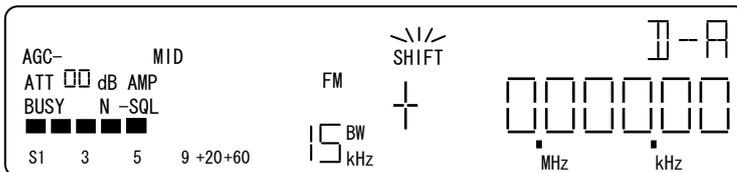


シフト オンの状態からステップ波数を変更すると、シフトオフになります。

### 7-9-3. シフト選択設定メニュー



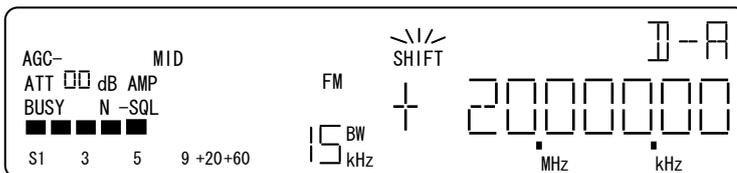
[FUNCL]+[4]でシフト選択設定メニューへ移行します。



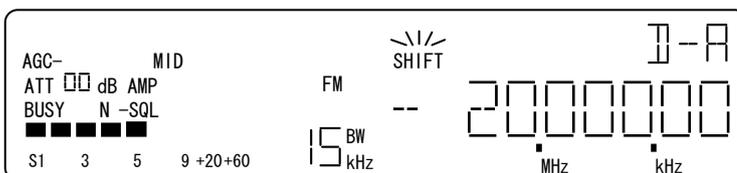
シフト周波数が未設定の場合は 0.00000MHz を表示します。

#### 操作例

[ダイヤル左右回り]1 クリック毎に、符号「+」「-」を交互に選択する。



「-」表示の時に、[ダイヤル左右回り]1 クリックで「+」表示になります。



「+」表示の時に、[ダイヤル左右回り]1 クリックで「-」表示になります。

[0~9][.]で、シフト周波数を設定します。

[ENT] で選択値を確定して直前の動作モードへ戻ります。

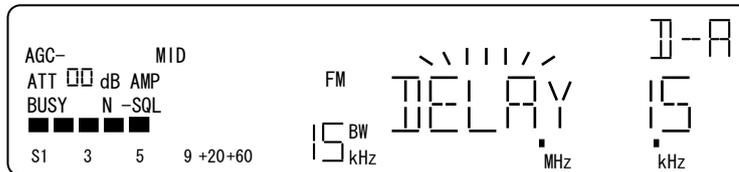
## 7-10. デイレイ動作と設定メニュー (DELAY)

デイレイ時間とは、メモリスキャンの停止中やサーチの停止中、プライオリティ受信中に受信していた電波が途切れるなどして、スケルチが閉じてからスキャンやサーチを再開するまでの時間を指します。このデイレイ時間は動作モードで設定ができます。設定範囲は、0.1 秒ステップで 0 ~ 9.9 秒です。

### 7-10-1. 操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[5]		デイレイ時間設定メニューへ移行。
2	[ダイヤル]	デイレイ時間設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎にデイレイ時間が、OFF(0.0)→0.1→0.2→...→9.8→9.9→OFF(0.0)をリング状に選択できます。[ダイヤル左回り]は、反対方向に順次選択できます。選択した時点で仮確定となる。設定範囲は、0.1 秒ステップで OFF (0.0)～9.9 秒です。
3	[PASS]	OFF と設定時間の切替え	[PASS]操作毎に、デイレイ OFF/設定時間 OFF(0.0)/設定時間が交互に切替わります。
4	[EXIT]	操作取消し	操作、仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
5	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

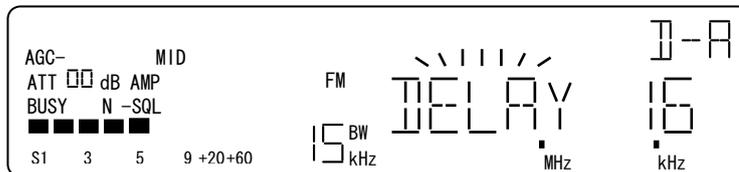
### 7-10-2. デイレイ時間設定メニュー



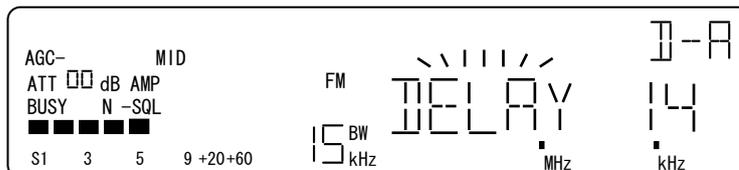
[FUNC]+[5] でデイレイ時間設定メニューに移行します。

#### 操作例

- ・ [ダイヤル右回り]1 クリック毎に、デイレイ時間を昇順に選択できます。
- ・ [ダイヤル左回り]1 クリック毎に、デイレイ時間を降順に選択できます。



「1.5」表示の時、  
[ダイヤル左回り]1 クリック  
「1.6」表示になる



「1.5」表示の時、  
[ダイヤル左回り]1 クリック  
「1.4」表示になる

[ENT] で設定値を確定して直前の動作モードへ戻ります。

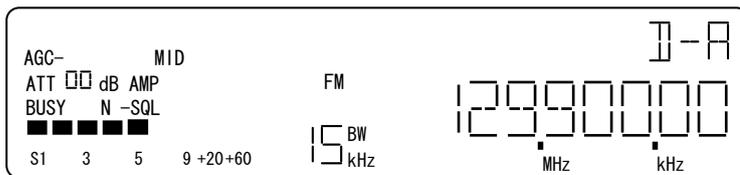
## 7-11. プライオリティ動作とプライオリティチャンネル内容変更メニュー (PRIORITY)

本機は、プライオリティチャンネルとして、プライオリティ受信専用を使用するメモリーチャンネルを1チャンネル持っています。この操作では、プライオリティ受信の起動と停止、プライオリティチャンネルの内容変更を行えます。

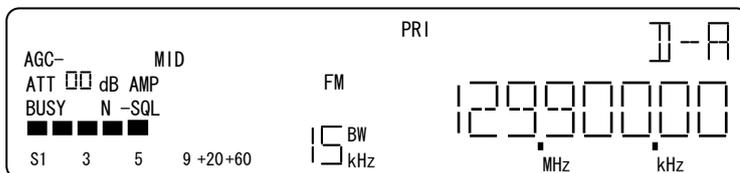
## 7-11-1. 操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[6]	オン/オフ設定	プライオリティ受信のオン/オフを交互に切替えます。
2	[FUNCL]+[6]		プライオリティチャンネル内容変更メニューへ移行します。
3	[UP] [DOWN]	サブメニュー 選択	プライオリティチャンネル内容変更メニューで[UP][DOWN]入力毎に、サブメニュー プライオリティチャンネル内容変更とインターバル選択設定を交互に選択します。
4		インターバル 設定	[ダイヤル右回り]1クリック毎に、インターバル時間 1→2→3→{ →58→59→60→1 を1秒単位で昇順に選択できます。[ダイヤル左回り]1クリックは、降順に選択できます。 設定範囲は、1秒ステップで1~60秒です。
5	[EXIT]	操作取消し	操作、仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
6	[ENT]	確定	設定を確定して、直前の動作モードに戻ります。

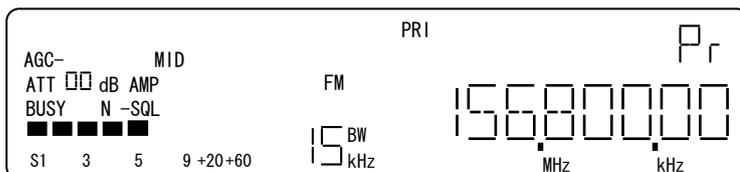
## 7-11-2. プライオリティの ON/OFF ([FUNC] + [6])



プライオリティオフの表示画面例

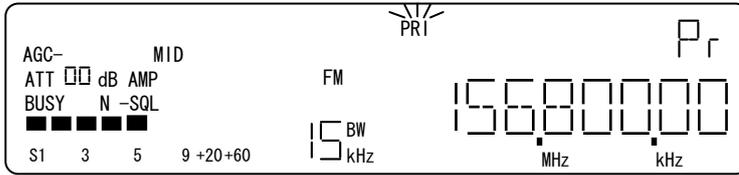


プライオリティオンの表示画面例  
PRI が表示されます。  
(プライオリティチャンネルを受信していないとき)



プライオリティオンの表示画面例  
(プライオリティチャンネルを受信しているとき) LCD の左上には「Pr」を表示します。

## 7-11-3. プライオリティチャンネル内容設定メニュー（[FUNCL] + [6]）



プライオリティチャンネル内容設定メニューの表示例  
「PRI」が点滅します。

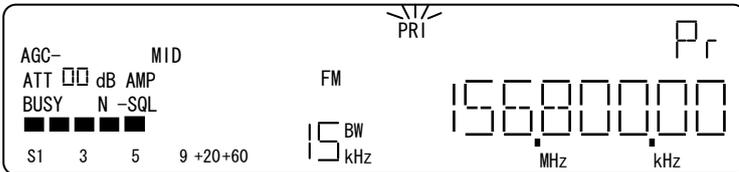
次の項目を必要に応じて設定します。設定方法は各項目の設定方法と同じです。

- ①受信周波数設定
- ②ステップ周波数設定
- ③復調モード設定
- ④IFBW 設定
- ⑤ATT/AMP 設定
- ⑥AGC 設定
- ⑦AF 設定
- ⑧オプション設定

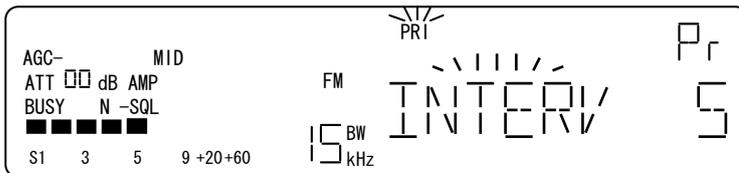
[ENT] で確定して直前の動作モードに戻ります。

## 7-11-4. サブメニュー選択

プライオリティチャンネル内容設定メニューのとき、[UP][DOWN] 入力毎に、サブメニューの「プライオリティチャンネル内容変更」と「インターバル選択設定」を交互に切り替えます。

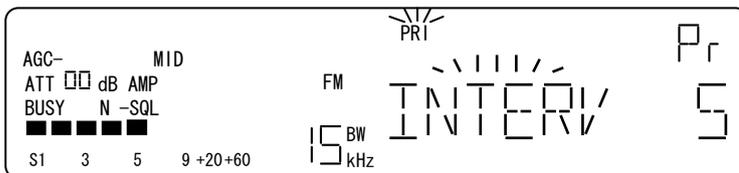


インターバル設定時に[UP]で  
プライオリティチャンネル内容変更  
へ移行します。



プライオリティチャンネル内容変更  
時に[UP]で、インターバル設定  
へ移行します。

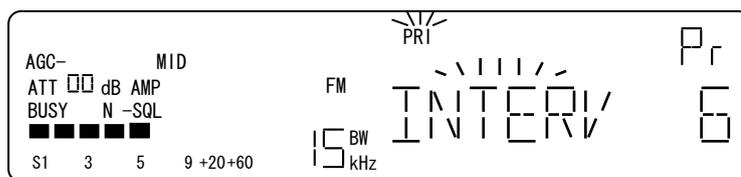
## 7-11-5. インターバル選択設定メニュー



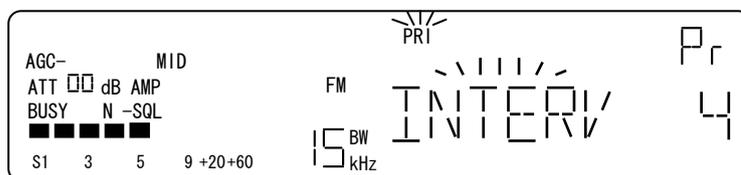
インターバル選択設定メニューの  
表示例

操作例

- ・ [ダイヤル右回り]1 クリック毎に、インターバル時間を1秒単位で昇順に設定できます。
- ・ [ダイヤル左回り]1 クリック毎に、インターバル時間を1秒単位で降順に設定できます。
- ・ 設定した時点で仮確定となる。



「5」表示の時  
 [ダイヤル右回り]1 クリックで  
 「6」表示になります。



「5」表示の時  
 [ダイヤル左回り]1 クリック  
 「4」表示になります。

[ENT] で確定して直前の動作モードに戻ります。

## 7-12. オプション動作と選択設定メニュー (OPTION)

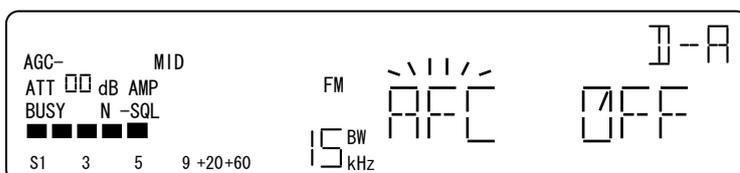
オプション(OPTION)機能の動作は、当該のハードウェアが搭載されているかいないかを本機の電源がオンになったときに自動認識しています。標準仕様では、VI (オーディオ反転)機能と TE(トーンエリミネータ)の2種類は予め搭載され有効になっています。オプション機能が認識されて有効になると利用可能な機能がサブメニューに現れてオプション選択設定メニューでオン/オフ、データ設定ができるようになります。

## 7-12-1. 操作

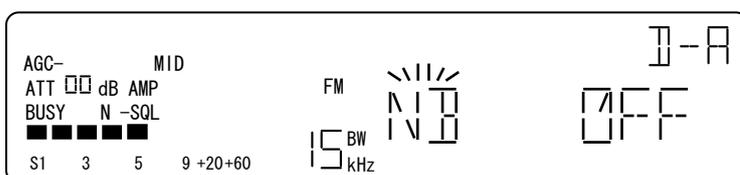
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[8]		OPTION 選択設定メニューへ移行。 移行直後は、次段の有効 OPTION を昇順に表示する。
2	[UP] [DOWN]	サブメニュー 選択	[UP]入力毎に、サブメニュー AFC 選択設定→NB 選択設定→DTMF 選択設定 →VI(データ, OFF/設定値)選択設定 →CTCSS(周波数, OFF/設定周波数, SRCH)選択設定 →TE(データ, OFF/設定値)選択設定→AFC 選択設定 を順次選択します。[DOWN]は、反対方向に順次選択し ます。
		VI データ設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、VI データ 0→1→2→3→ $\curvearrowright$ →253→254→255→0 を順次設定します。[ダイヤル左回り]は反対方向に順次設定 します。設定範囲は、1 ステップで 0~255 です。 設定した時点で仮確定になります。
		CTCSS 周波数設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、CTCSS 周波数 94.8→100.0→103.5→ $\curvearrowright$ →206.5→229.1→254.1→94.8 をリング状に順次選択します。[ダイヤル左回り]は、反対方向 に順次選択します。選択した時点で仮確定になります。
		TE データ設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、TE データ 0→1→2→ $\curvearrowright$ →253→254→255→0 を順次選択します。[ダイヤル左回り]は反対方向になります。 設定範囲は、1 ステップで 0~255 です。選択した時点で仮確 定になります。
4	[PASS]	AFC, NB, DTMF オン/オフ設定	[PASS]入力毎に、AFC, NB, DTMF の オン/オフ を交 互に切替えます。切替えた時点で仮確定となります。
		VI, TE	[PASS]入力毎に、VI, TE オン/設定データ を交互に切 替えます。切替えた時点で仮確定になります。
		CTCSS	[PASS]入力毎に、 オフ→設定周波数→SRCH→オフ を順次選択します。選択した時点で仮確定になります。
5	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻る。
6	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻る。

## 7-12-2. サブメニュー選択

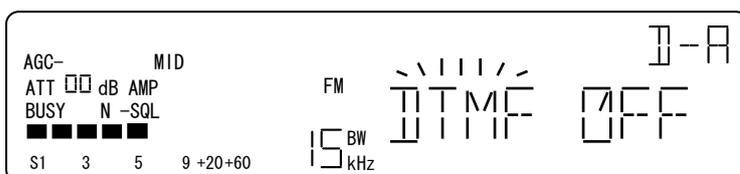
- ・ [UP]入力毎に、有効なオプション機能を昇順に順次選択します。
  - ・ [DOWN]入力毎に、有効なオプション機能を降順に順次選択します。
- 次の例は全てのオプション機能が有効な場合の場合を示しています。  
オプションユニットを追加していない標準状態では、TE と VI のみが有効になります。



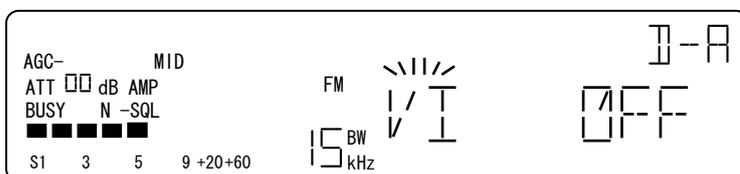
TE データ設定の時、[UP]入力  
AFC 選択設定へ移行



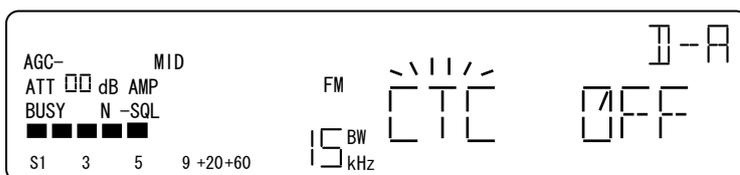
AFC 選択設定の時、[UP]入力  
NB 選択設定へ移行



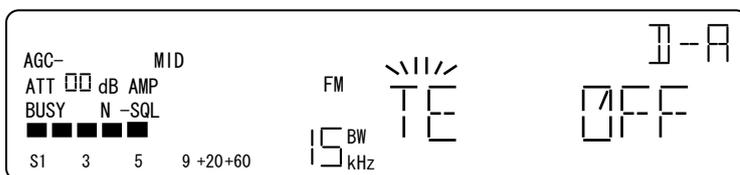
NB 選択設定の時、[UP]入力  
DTMF 選択設定へ移行



DTMF 選択設定の時、  
[UP]入力  
VI 選択設定へ移行



VI 選択設定の時、[UP]入力  
CTCSS 設定へ移行

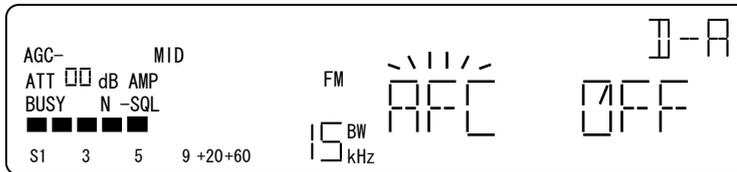


CTCSS 選択設定の時  
[UP]入力  
TE 選択設定へ移行

[ENT] で確定して直前の動作モードに戻ります。

## 7-12-3. AFC(自動周波数制御)選択設定メニュー (この機能はオプションユニットが必要です)

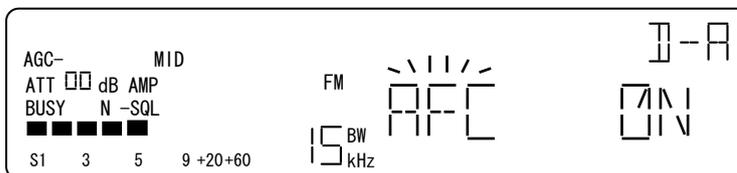
AFCは受信している目的信号の周波数と受信周波数の間にズレがある場合に、受信機の局部発振器周波数を目的電波の周波数に自動的に合わせて、最良の状態を受信するための機能です。



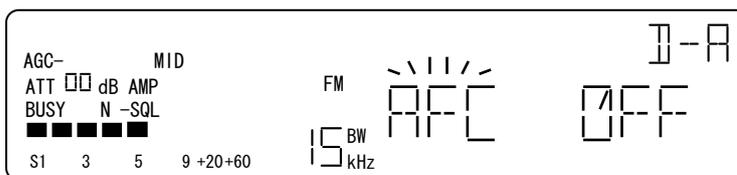
AFC 選択設定メニューの表示例

## 操作例

- ・ [PASS]入力毎に、ON/OFF を交互に切替える。
- ・ 切替えた時点で仮確定になる。

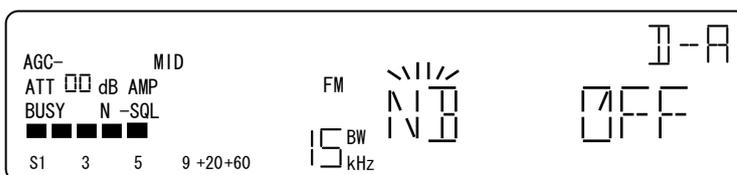


「OFF」表示の時、[PASS]で「ON」表示になります。



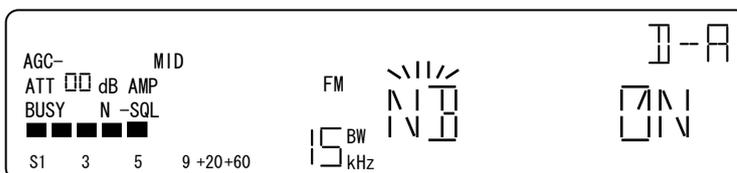
「ON」表示の時、[PASS]で、「OFF」表示になります。

## 7-12-4. NB(ノイズブランカー)選択設定メニュー (この機能はオプションユニットが必要です)

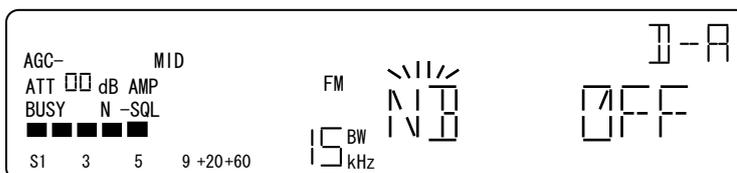


NB 選択設定メニューの表示例

- ・ [PASS]入力毎に、ON/OFF が交互に切替わります。
- ・ 切替えた時点で仮確定になります。



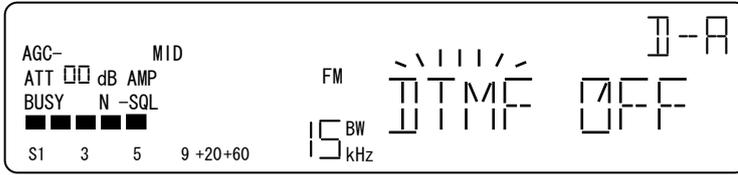
「OFF」表示の時、[PASS]で、「ON」表示になります。



「ON」表示の時、[PASS]で、「OFF」表示になります。

7-12-5. DTMF 選択設定メニュー (この機能はオプションユニットが必要です)

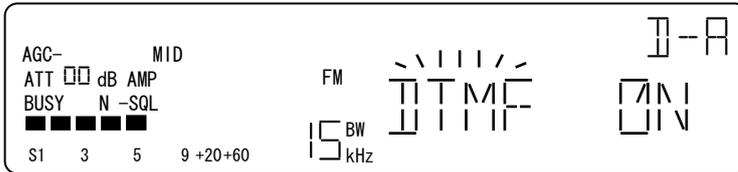
受信信号に DTMF 信号を検出すると、周波数表示部に検出した DTMF キャラクターを表示する機能です。



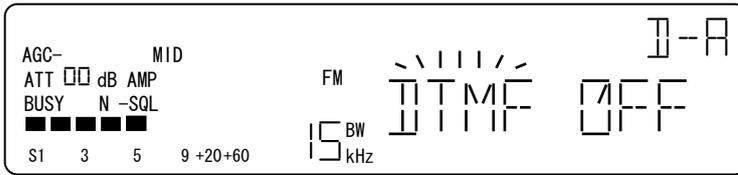
DTMF 選択設定メニューの表示例

操作例

- ・[PASS]入力毎に、ON/OFF を交互に切替える。
- 切替えた時点で仮確定になる。

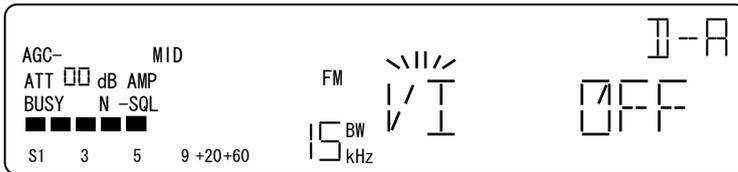


「OFF」表示の時、[PASS]で、「ON」表示になります。

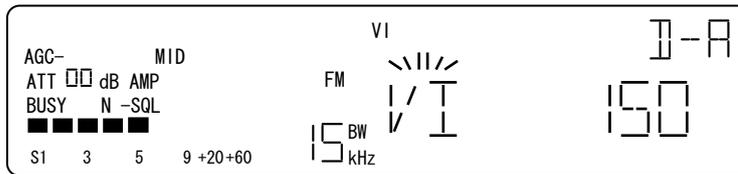


「ON」表示の時、[PASS]で、「OFF」表示になります。

7-12-6. VI(オーディオ反転)選択設定メニュー (この機能は標準搭載されています)



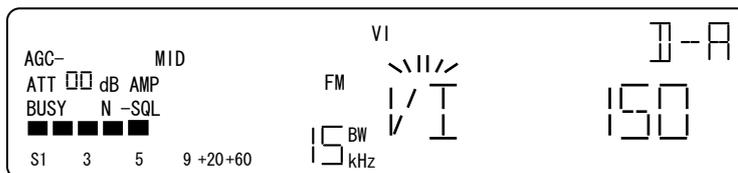
VI 選択設定メニュー  
「OFF」の時の表示例



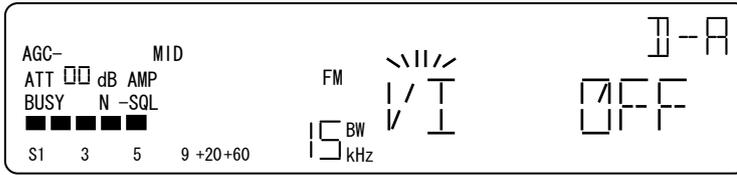
VI 選択設定メニュー  
「設定データ」表示の例

操作例

- ① オフ / 設定データ
  - ・ [PASS]入力毎に、オフ / 設定データが交互に切替わります。
  - ・ 切替えた時点で仮確定になります。



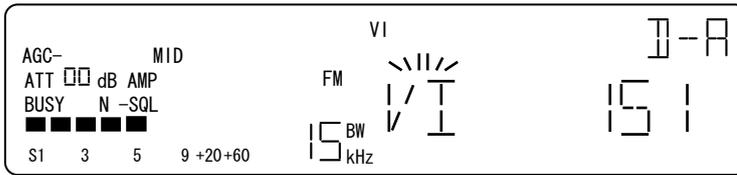
「OFF」表示の時、「PASS」  
「設定データ」表示になります。



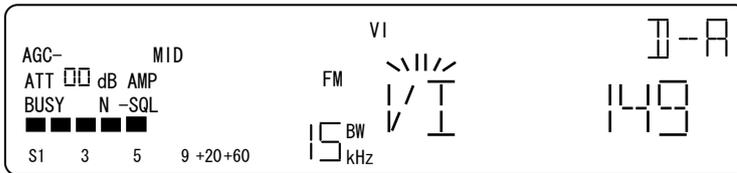
「設定データ」表示の時、「PASS」で「OFF」表示になります。

## ② データ設定

- [ダイヤル右回り]1クリック毎に、データを昇順に設定します。
- [ダイヤル左回り]1クリック毎に、データを降順に設定します。
- 設定した時に仮確定になる。

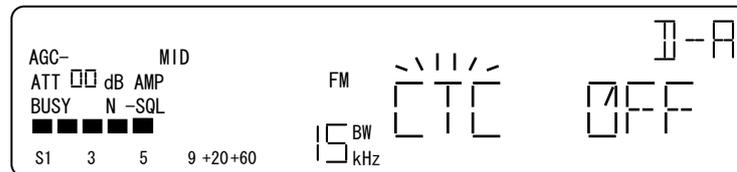


「150」表示の時に  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
「151」表示になります。



「150」表示の時に  
[ダイヤル左回り]1クリックで  
「149」表示になります。

## 7-12-7. CTCSS (トーンスケルチ) 選択設定メニュー (この機能はオプションユニットが必要です)

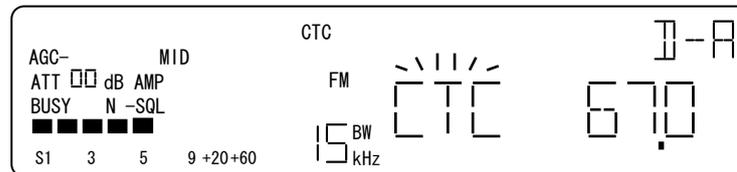


CTCSS (オフ/オン/SRCH)  
選択設定メニューの表示例

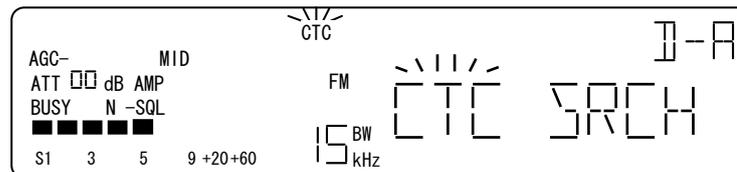
### 操作例

#### ① オフ/周波数設定/SRCH 選択

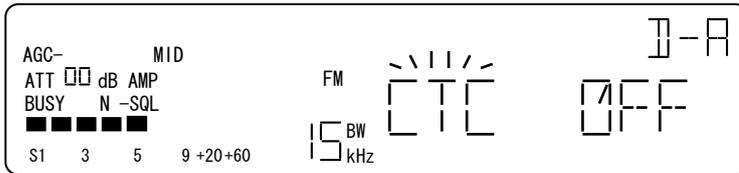
- [PASS]入力毎に、オフ→周波数設定→SRCHを順次選択できます。
- 選択した時点で仮確定になります。



「OFF」表示の時、[PASS]で  
「周波数設定」表示になります。  
(LCD セグメント「CTC」点灯)



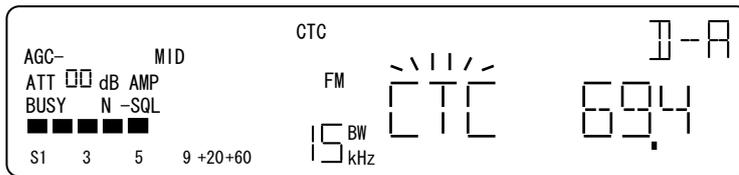
「周波数設定」表示の時、[PASS]  
で「SRCH」表示になります。  
(LCD セグメント「CTC」点滅)



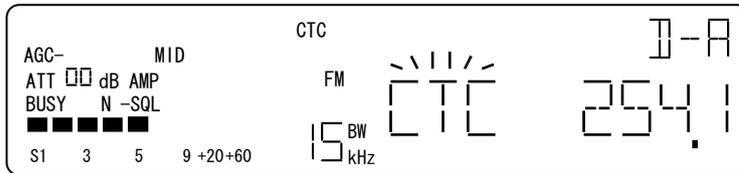
「SRCH」表示の時、[PASS]で、「OFF」表示になります。  
(LCD セグメント「CTC」消灯)

## ② 周波数設定

- ・[ダイヤル右回り]1クリック毎に、CTCSS 周波数を昇順に順次選択します。
- ・[ダイヤル左回り]1クリック毎に、CTCSS 周波数を降順に順次選択します。
- ・選択した時点で仮確定になります。

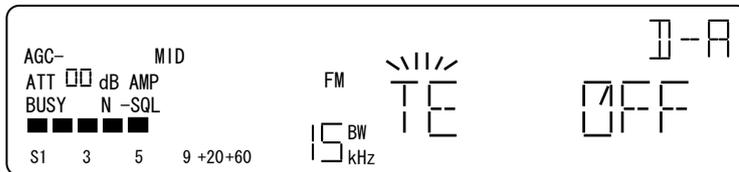


「67.0」表示の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
[69.4]表示になります。



「67.0」表示の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
[254.1]表示になります。

## 7-12-8. TE(トーンエリミネーター)設定メニュー (この機能は標準搭載されています)

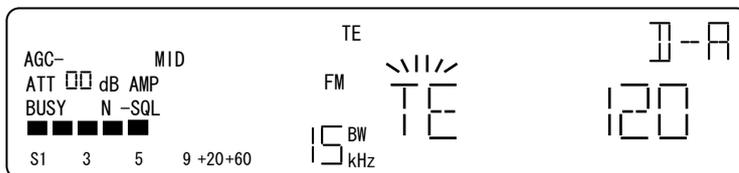


TE 選択設定メニュー表示例

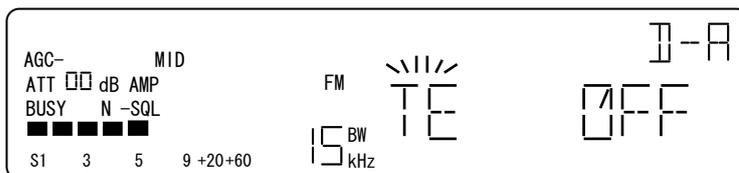
### 操作例

#### ① オフ / データ設定 切替え

- ・ [PASS]入力毎に、オフ/ データ設定 が交互に切り替わります。
- ・ 切替えた時点で仮確定になります。



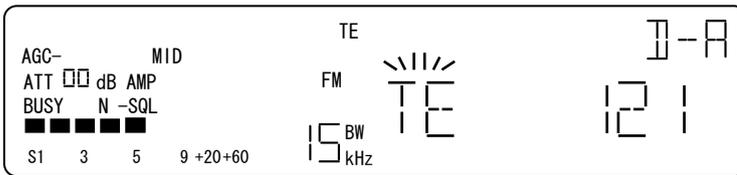
「OFF」表示の時、[PASS]で  
「データ設定」表示になります。  
トーン周波数を検出していない時  
は、「TE」セグメントが点灯します。



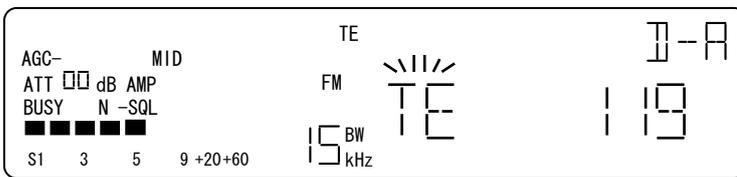
「データ設定」表示の時、[PASS]  
で、「OFF」表示になります。

データ設定

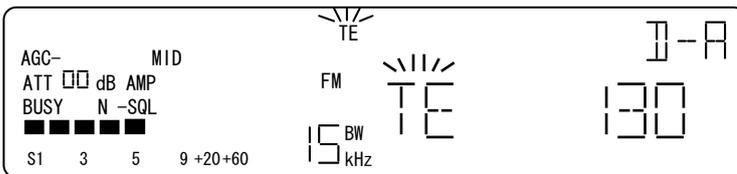
- ・[ダイヤル右回り]1クリック毎に、データを昇順に順次選択します。
- ・[ダイヤル左回り]1クリック毎に、データを降順に順次選択します。
- ・選択した時点で仮確定になる。
- ・トーン周波数を検出した時 LCD セグメント「TE」が点滅します。
- ・トーン周波数を検出していない時は LCD セグメント「TE」が点灯します。



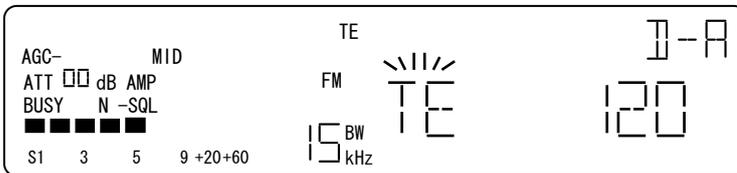
「120」表示の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
「121」表示になります。



「120」表示の時、  
[ダイヤル左回り]1クリック  
「119」表示になります。

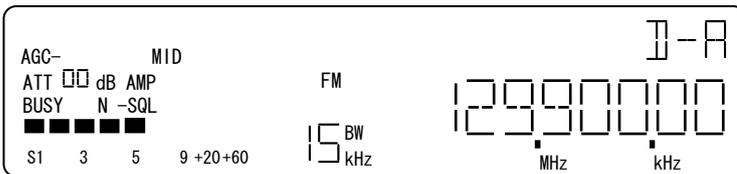


トーン周波数を検出した時は、  
LCD セグメント「TE」が点滅しま  
す。



トーン周波数を検出していない時  
は、LCD セグメント「TE」が点灯  
します。

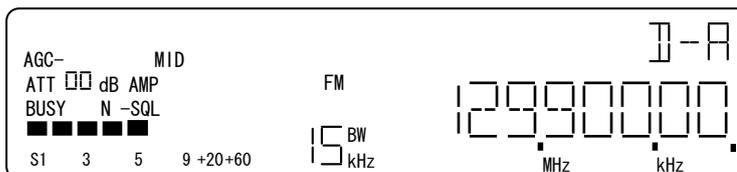
7-12-9. オプション(OPTION)動作時の表示例



オプション機能がすべてオフの  
通常状態

① AFC

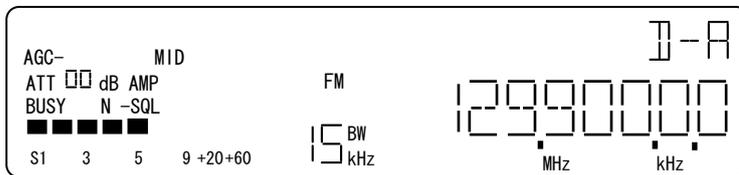
- ・ AFC が オン のときは、周波数表示部 1 桁目「・」(デシマルポイント)が点灯します。



AFC が オン のときの表示

② NB (ノイズブランカー)

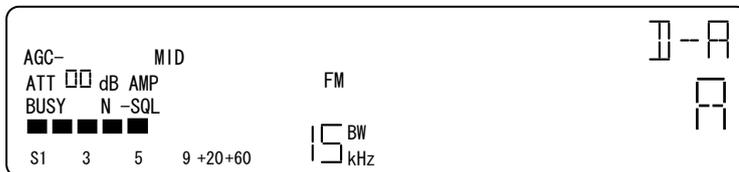
- ・NB が オン のときは、周波数表示部 2 桁目「・」(デシマルポイント)が点灯します。



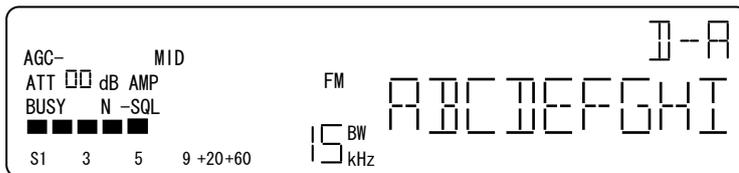
NB が オン のときの表示例

③ DTMF

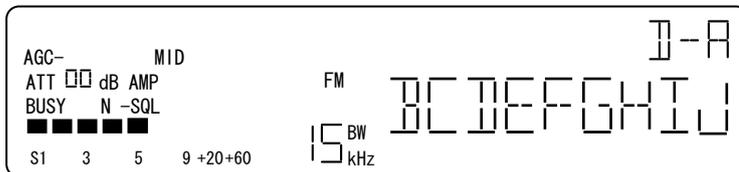
- ・受信、デコードした DTMF 信号のキャラクターを周波数表示部 1 桁から 9 桁方向に順次表示します。
- ・10 桁以上になると、9 桁方向にシフトして表示します。



1 番目受信したら、周波数表示部「1」桁に表示をします。(例は、A)



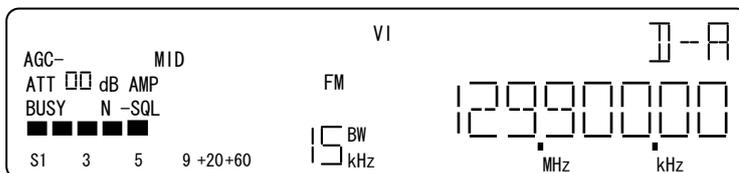
9 番目 (I)を受信したところの例。周波数表示部「1~9」桁にデコードしたキャラクターを表示します。



10 番目 (J)を受信したところの例。「各」桁が「9」桁方向(左)にシフトし「1」桁に、10 番目の信号を表示します。

④ VI (オーディオ反転)

- ・LCD セグメント「VI」が点灯します。



VI が オンの時の表示例

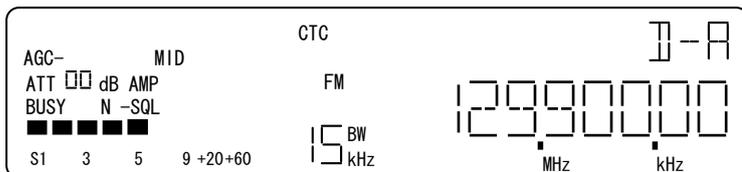
⑤ CTCSS (トーンスケルチ)

オンのときは、MUTE (オーディオミュート) 条件の対象になります。

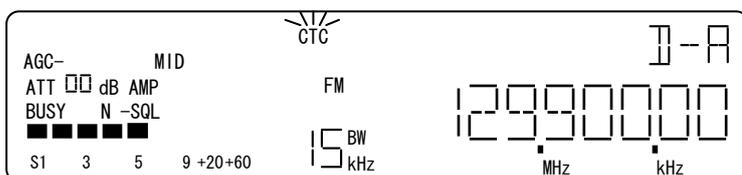
SRCH のときは、MUTE 条件の対象にはなりません。受信した CTCSS 周波数を表示します。

オンのときは、LCD セグメント「CTC」を点灯します。

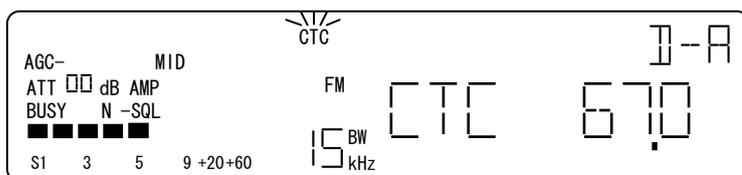
SRCH のときは、LCD セグメント「CTC」を点滅します。CTCSS 周波数を検出したときには、周波数表示部「CTC」と表示し、受信した CTCSS 周波数を表示します。



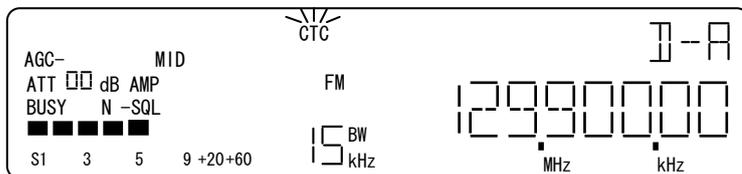
CTCSS がオンの表示例



CTCSS が SRCH の表示例  
CTCSS 周波数の検出受信なしの  
ときの表示例



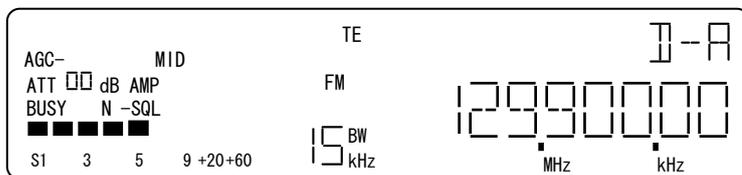
CTCSS が SRCH の表示例  
CTCSS 周波数を検出したときの  
表示例



CTCSS が SRCH で CTCSS 周  
波数を検出、いずれかの[キー]操  
作で、受信周波数表示に戻りま  
す。

⑥ TE (トーンエリミネーター) 機能

TE が動作しているときは、LCD セグメント「TE」を点灯します。



TE が動作しているときの表示例

## 7-13. クロック（時計）設定メニュー（CLOCK）

時計、タイマー(TIMER)、スリープ(SLEEP)の各設定を行えます。35GR シリーズにはリアルタイムクロック(RTC)が搭載されており、この RTC によって時刻管理を行っています。

## 7-13-1. 操作（1/2）

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[9]		[FUNC]+[9]入力毎に、周波数表示→時計表示→周波数表示 と交互に選択します。
2	[FUNCL]+[9]		クロック設定メニューへ移行します。
3	[UP] [DOWN]	サブメニュー選択	[UP]入力毎に、 時計時刻設定 → オンタイマー起動時刻設定 → オンタイマー出力音設定 → オンタイマーボリューム設定 → オンタイマースケルチ値設定 → オフタイマー時刻設定 → スリープ時間設定→時計時刻設定 と順次選択します。[DOWN]で反対方向に選択できます。
4	[ダイヤル]	時計時刻設定	[ダイヤル右回り]1クリック毎に選択されている「時-分-秒」 時 0→1→2→3 →21→22→23→0 分 00→01→02→3 →57→58→59→00 秒 00→01→02→3 →57→58→59→00 を順次選択します。[ダイヤル左回り]は、反対方向に順次選択となります。
		オンタイマー 起動時刻設定	時計時刻設定と同じ方法です。
		オンタイマー 出力音設定	[ダイヤル右回り]1クリック毎に、RADIO→BEEP を交互に順次選択します。[ダイヤル左回り]も同様です。選択した時点で仮確定になります。
		オンタイマー ボリューム設定	[ダイヤル右回り]1クリック毎に、 0→1→2→3 →253→254→255→0 を順次設定します。[ダイヤル左回り]は、反対方向に順次設定となり、選択した時点で仮確定になります。設定範囲は、1ステップで 0～255 です。
		オンタイマー スケルチ設定	[ダイヤル右回り]1クリック毎に、 0→1→2→3 →253→254→255→0 を順次設定します。[ダイヤル左回り]は、降順に設定できます。設定した時点で仮確定になります。設定範囲は、1ステップで 0～255 です。
		オフタイマー 時刻設定	時計時刻設定と同じ方法です。
		スリープ時間設定	[ダイヤル右回り]1クリック毎に、 1→2→3→3 →118→119→120→1 を順次設定します。[ダイヤル左回り]は降順に設定ができます。設定範囲は、1分単位で 1～120 分です。

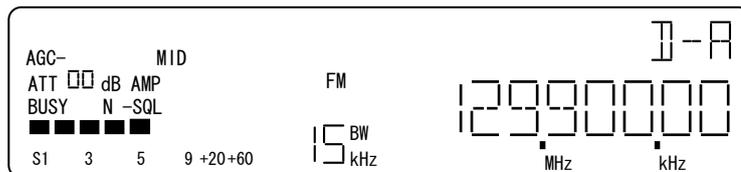
## 操作 (続き 2/2)

No	操作	選択設定内容	説明
5	[PASS]	オンタイマー オン/オフ切替え	[PASS]入力毎に、オンタイマー オフ / 起動時刻を交互に切替えます。オンの時は、起動時刻を表示します。
		オフタイマー オン/オフ切替え	[PASS]入力毎に、オフタイマー オフ / オフにする時刻を交互に切替えます。オンの時は、オフにする時刻を表示します。
		スリープタイマー オン/オフ切替え	[PASS]入力毎に、スリープタイマーの オフ/スリープ設定時間を交互に切替えます。オンの時は、スリープ設定時間を表示します。
6	[6] [4]	時刻設定対象 選択	[6]入力毎に、時刻設定対象を 時→分→秒→時を順次選択します。 [4]は反対方向に順次選択できます。
7	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
8	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

## 7-13-2. 「周波数表示」と「時計表示」の切替え

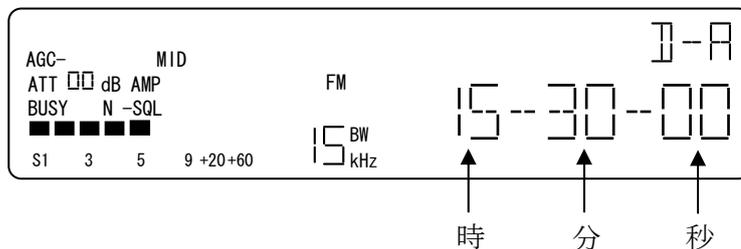
時計表示に切り替えると周波数表示部(8~1桁)に、「現在の時刻」を表示します。

[FUNC]+[9]入力毎に、「周波数表示」と「時計表示」が交互に切替わります。周波数表示と時計表示以外は、受信状況の表示を継続します。



周波数表示の例

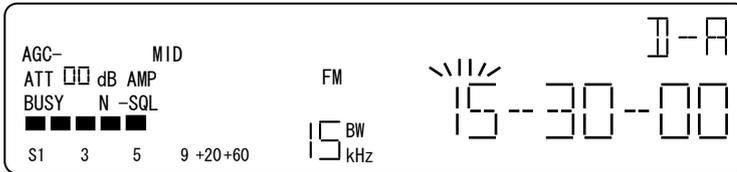
[FUNC]+[9] で交互切替え



時計表示の例

## 7-13-3. 時計時刻設定メニュー

[FUNCL]+[9] でクロック設定になります。  
 時計時刻設定メニューはクロック設定のサブメニューにあります。



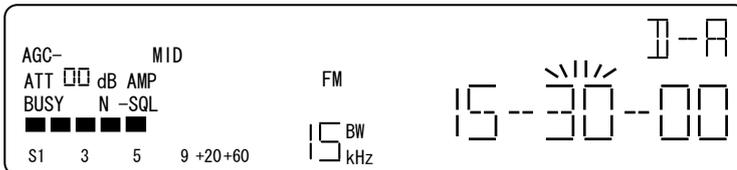
時計時刻設定メニューの例  
 設定対象部分が点滅します。

## ① 設定対象(時一分一秒)選択

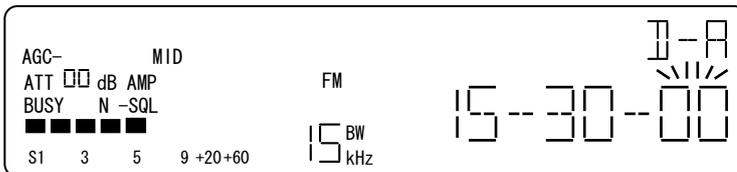
設定対象は点滅します。

[6]入力毎に、設定対象を「時」から「秒」方向に順次選択できます。

[4]入力毎に、設定対象を「秒」から「時」方向に順次選択できます。



「時」点滅の時に、[6]で  
 「分」点滅になります。



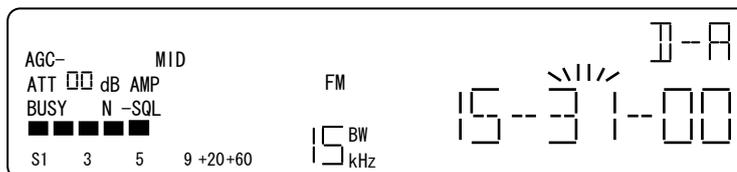
「時」点滅の時に、[4]入力  
 「秒」点滅になります。

## ② 時刻設定

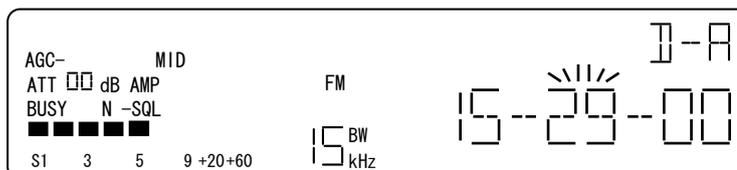
[ダイヤル右回り]1クリック毎に、選択されている設定対象を昇順に設定します。

[ダイヤル左回り]1クリック毎に、選択されている設定対象を降順に設定します。

選択した時点で仮確定となります。



分「30」点滅の時に  
 [ダイヤル右回り]1クリックで  
 分「31」点滅になります。

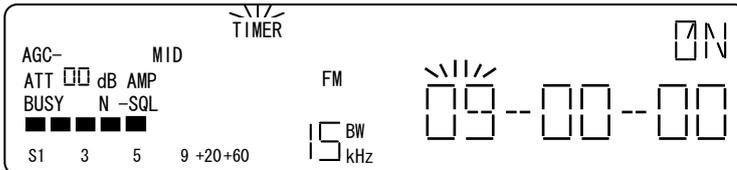


分「30」点滅の時に  
 [ダイヤル左回り]1クリックで  
 分「29」点滅になります。

## 7-13-4. オンタイマー 起動時刻設定メニュー (オンタイマー起動時刻)

オンタイマーは、設定した起動時刻に 35GR シリーズを待機状態から起動するタイマー機能です。

[FUNCL]+[9] でクロック設定になり、[UP][DOWN]で、オンタイマー起動時刻メニューにします。  
LCD セグメント「TIMER」が点滅し、状態表示部に「ON」が点灯します。



オンタイマー起動時刻設定の表示例

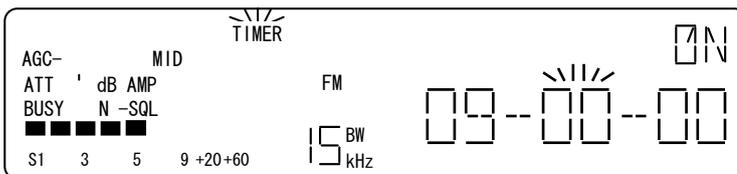
## 操作例

## ① 設定対象選択

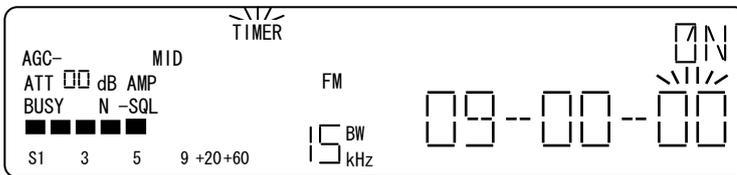
設定対象は点滅します。

[6]入力毎に、設定対象を「時」から「秒」方向に順次選択できます。

[4]入力毎に、設定対象を「秒」から「時」方向に順次選択できます。



「時」点滅の時に、[6]で「分」点滅になります。



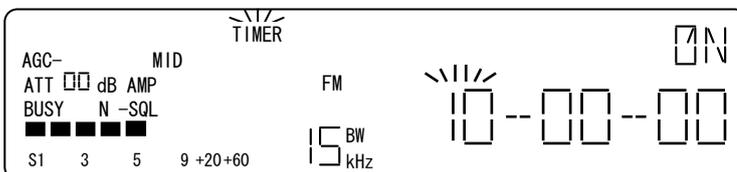
「時」点滅の時に、[4]入力「秒」点滅になります。

## ② オンタイマー起動時刻設定

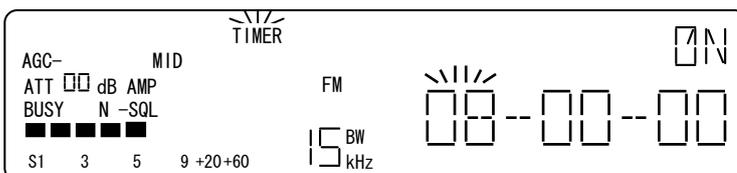
[ダイヤル右回り]1クリック毎に、選択されている設定対象を昇順に設定します。

[ダイヤル左回り]1クリック毎に、選択されている設定対象を降順に設定します。

選択した時点で仮確定となります。



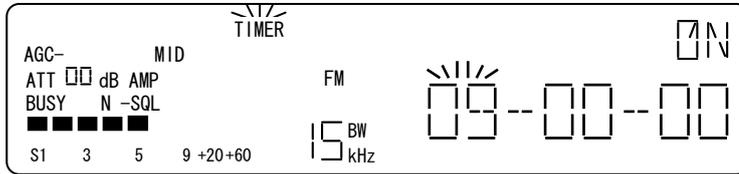
時「09」点滅の時に、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
時「10」点滅になります。



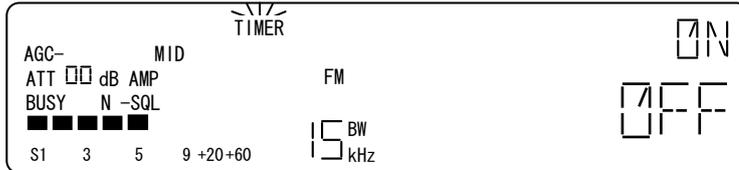
時「09」点滅の時に、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
時「08」点滅になります。

オンタイマーのオン(有効)/オフ(停止)の切替え

[PASS]入力毎に、オンタイマーのオン/オフが交互に切替わります。  
オンの時は、オンタイマー起動時刻が表示されます。



「OFF」表示の時に、[PASS]で、オンタイマー起動時刻を表示します。

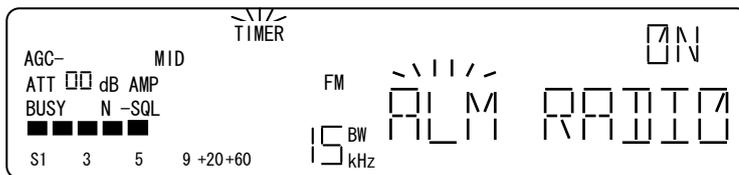


オンタイマー起動時刻表示の時に、[PASS]で、オフ になります。

### 7-13-5. オンタイマー 出力音設定

この項目では、本機がオンタイマーで起動したときに出力する音を受信機の出力にするかアラーム音にするかの設定を行います。

[FUNCL]+[9] でクロック設定になり、[UP][DOWN]で、オンタイマー出力音声設定にします。LCD セグメント「TIMER」が点滅し、状態表示部に「ON」が点灯します。周波数表示部に、「ALM」が点滅、その右に設定されている出力音(RADIO または BEEP)が表示されます。



オンタイマー出力音設定の表示例 (RADIO)

このとき、[ダイヤル右回り] または、[ダイヤル左回り]で RADIO - BEEP を交互に切り替えることができます。

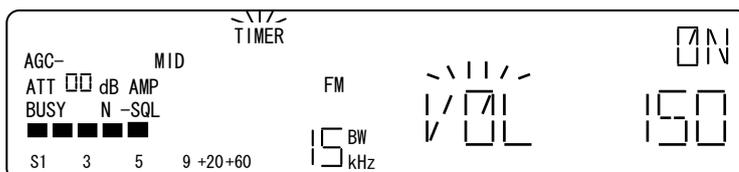
### 7-13-6. オンタイマーボリューム設定

この項目では、本機がオンタイマーで起動したときに出力する音の大きさを設定します。

[FUNCL]+[9] でクロック設定になり、[UP][DOWN]で、オンタイマー出力音声設定にします。

LCD セグメント「TIMER」が点滅し、状態表示部に「ON」が点灯します。

周波数表示部に、「VOL」が表示されます。

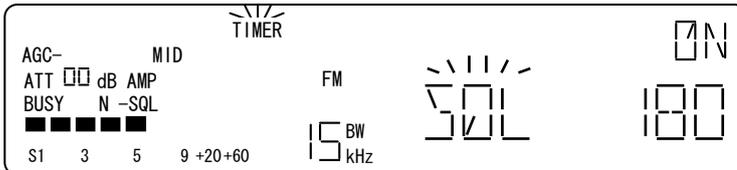


オンタイマーボリューム設定メニューの表示例

[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、ボリューム数値が大きくなり、[ダイヤル左回り]1 クリック毎に小さくなります。選択した時点で仮確定になります。

## 7-13-7. オンタイマースケルチ設定

この項目では、本機がオンタイマーで起動したとき有効となるノイズスケルチ値を設定します。  
 [FUNCL]+[9] でクロック設定になり、[UP][DOWN]で、オンタイマースケルチ設定にします。  
 LCD セグメント「TIMER」が点滅し、状態表示部に「ON」が点灯します。  
 周波数表示部に、「SQL」が点滅します。



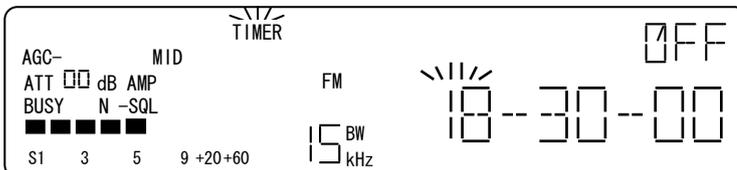
オンタイマースケルチ値  
設定メニューの表示例

## 操作

[ダイヤル右回り]1 クリック毎にスケルチ値が1ずつ大きくなり、[ダイヤル左回り]1 クリック毎にスケルチ値が1ずつ小さくなります。(スレッシュホールドは、180前後)

## 7-13-8. オフタイマー 時刻設定

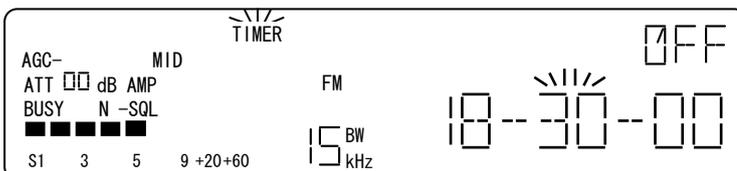
この項目では、本機をオフタイマーで待機状態する時刻、ならびにオフタイマーの有効(オン)、無効(オフ)を設定します。 [FUNCL]+[9] でクロック設定になり、[UP][DOWN]で、オフタイマー時刻設定にします。 LCD セグメント「TIMER」が点滅し、状態表示部に「OFF」が点灯します。  
 周波数表示部に、時刻が表示されます。



## 操作

設定対象(時一分一秒) 選択

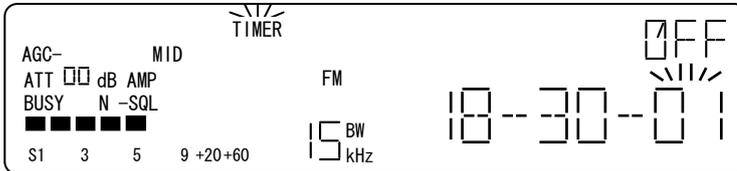
[6]入力毎に設定対象を「時」→「秒」方向に順次選択し、[4]入力毎に「秒」→「時」方向に順次選択します。このとき、選択されている項目は点滅します。



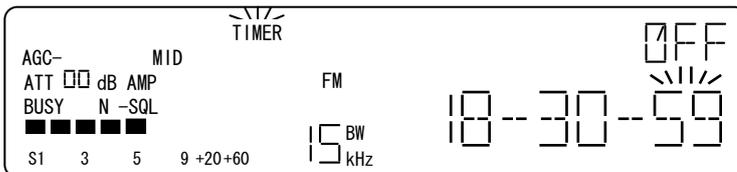
「時」点滅の時  
[6]入力  
「分」点滅になる

オフタイマー時刻設定

[ダイヤル右回り]1クリック毎に選択されている設定対象(時、分、秒)を大きく、[ダイヤル左回り]1クリック毎で小さく変化させます。設定した時点で仮確定になります。



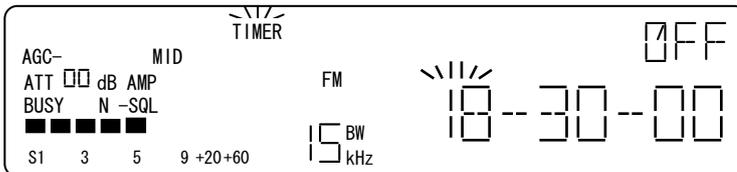
秒「00」点滅の時  
[ダイヤル右回り]1クリックで、  
秒「01」点滅になる



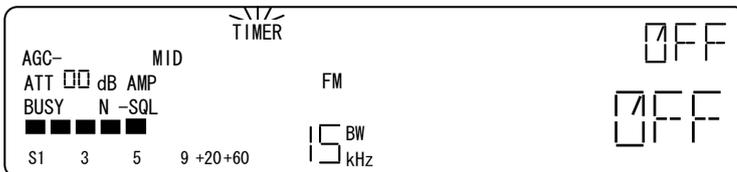
秒「00」点滅の時  
[ダイヤル左回り]1クリックで  
秒「59」点滅になる

オフタイマー 有効・無効の切替え

[PASS]入力毎に、オフタイマーの有効(ON)と無効(OFF)が交互に切り替わります。有効の時は、オフタイマーの時刻を表示します。



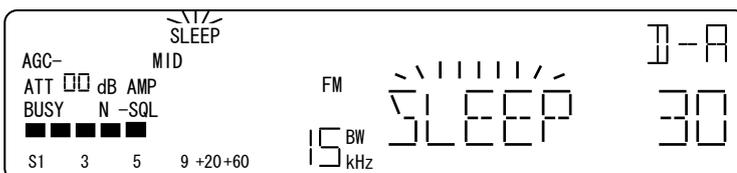
「OFF」表示の時、[PASS]で  
「オフタイマー時刻」表示になります。



「オフタイマー時刻」表示の時、  
[PASS]で、「OFF」を表示になります。

7-13-9. スリープ時間の設定

この項目では、スリープタイマーによって本機を待機状態するまでの時間を設定します。[FUNCL]+[9]でクロック設定になり、[UP][DOWN]で、スリープ時間設定にします。LCD セグメント「SLEEP」が点滅し、周波数表示部に、「SLEEP」が表示されます。

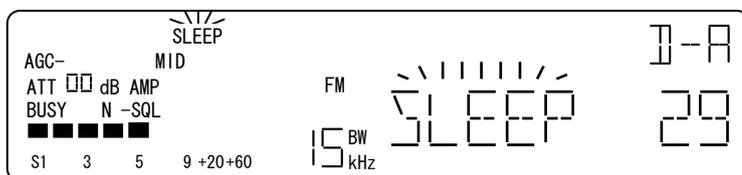


スリープ時間の設定  
表示例

## 操作

## スリープ時間の設定

[ダイヤル右回り]1クリック毎に、スリープ時間を1ずつ大きくし、[ダイヤル左回り]1クリック毎に小さくします。スリープ時間の設定単位は「分」で、1～120の間を設定できます。

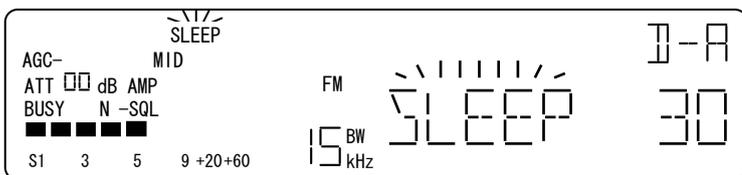


「30」表示の時、[ダイヤル左回り]1クリックで、「29」表示になります。

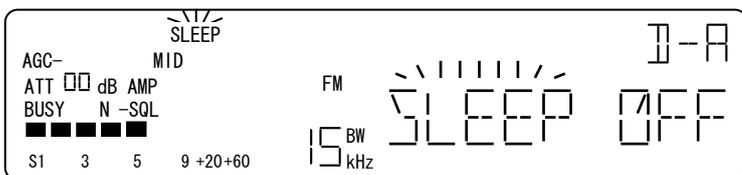
## 操作

## スリープタイマーの有効(ON)・無効(OFF)設定

[PASS]入力毎に、スリープタイマーの有効・無効(OFF)を切替えます。有効の時は、スリープ時間を表示する。



「OFF」表示の時、[PASS]で、「スリープ時間」を表示します。



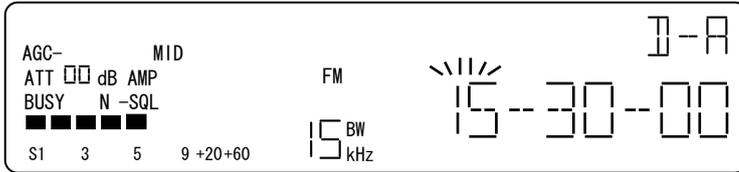
「スリープ時間」表示の時に、[PASS]で、「OFF」になります。

スリープタイマーは、有効にして[ENT]で確定して直前の動作モードに戻った時点でカウントを開始します。スリープ時間を経過すると、本機は待機状態になります。

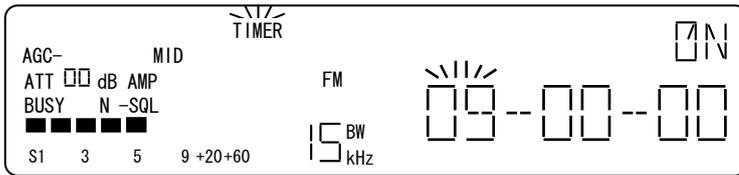
なお、スリープタイマーに自動繰り返し機能はありません。

## 7-13-10. クロック設定のサブメニュー選択

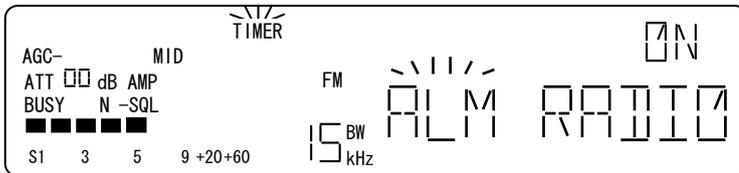
[FUNCL]+[9] でクロック設定になり、[UP][DOWN]でサブメニューを切り替えます。[UP]入力毎に、サブメニューを昇順に、[DOWN]入力毎で降順に選択します。



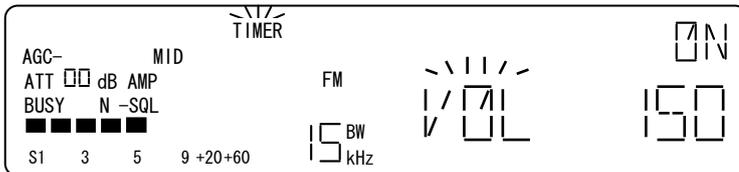
スリープ時間設定の時、[UP]で、時計時刻設定へ移行します。



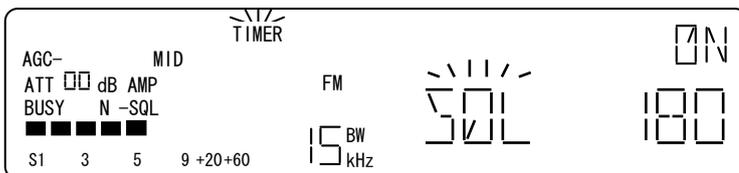
時計時刻設定の時、[UP]で、オンタイマー起動時刻設定へ移行します。



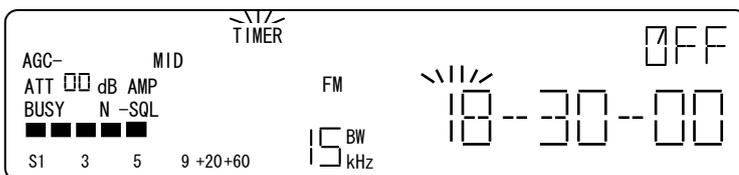
オンタイマー起動時刻設定の時、[UP]で、オンタイマー出力音設定へ移行します。



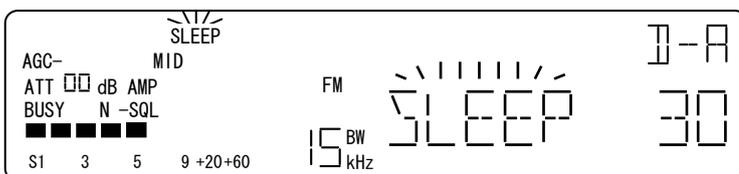
オンタイマー出力音設定の時、[UP]で、オンタイマーボリューム設定へ移行します。



オンタイマーボリューム設定の時、[UP]で、オンタイマースケルチ値設定へ移行します。



オンタイマー設定の時、[UP]で、オフタイマー時刻設定へ移行します。



オフタイマー時刻設定の時、[UP]で、スリープ時間設定へ移行します。

[ENT] で確定して直前の動作モードに戻ります。

## 7-14. レベルスケルチ設定メニュー (LSQ)

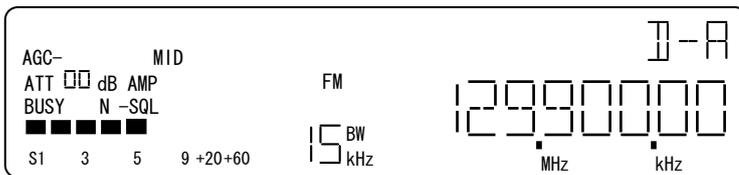
レベルスケルチは、スケルチつまみで設定するノイズスケルチ(NSQ)と併用される信号強度によるスケルチ機能です。レベルスケルチをオンにすると、レベルスケルチのしきい値以上になったときに音声出力をします。ただし、レベルスケルチはノイズスケルチと アンド(AND:論理積)として扱われますので、両方のスケルチが出力にならないと本機の音声出力は行われません。

### 7-14-1. 操作

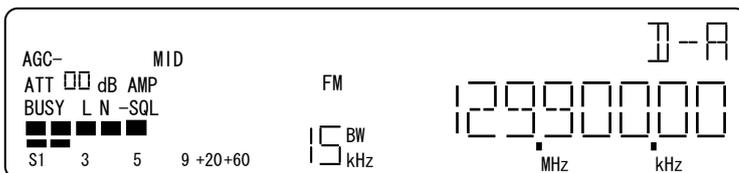
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[.]		[FUNC]+[.]入力毎に、レベルスケルチ オフ/オン を交互に切替えます。
2	[FUNCL]+[.]		レベルスケルチ設定メニューへ移行します。
3	[ダイヤル]	レベルスケルチしきい値設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、レベルスケルチしきい値 $-120.0 \rightarrow -119.5 \rightarrow -119.0 \rightarrow \dots \rightarrow -0.5 \rightarrow +0.0$ を順次設定します。[ダイヤル左回り]は反対方向に順次設定です。設定した時点で仮確定になります。レベルスケルチの設定範囲は、0.5 ステップで $-120.0 \sim 0.0$ です。
5	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
6	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

### 7-14-2. LSQ の ON/OFF

[FUNC]+[.]入力毎に、レベルスケルチのオフ/オンを交互に切替わります。レベルスケルチ オンのときは、「レベルスケルチしきい値メーター(Sメーターの直下)」と「L」(N-SQLの左隣)を点灯します。



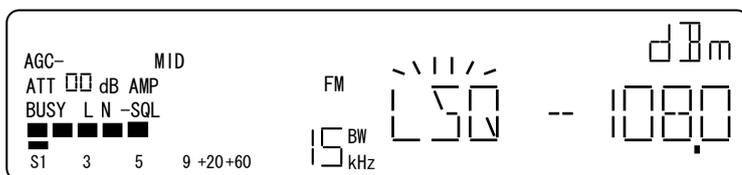
レベルスケルチ オフの表示例



レベルスケルチ オンの表示例  
「レベルスケルチしきい値メーター」と「L」が点灯します。

## 7-14-3. レベルスケルチ しきい値設定

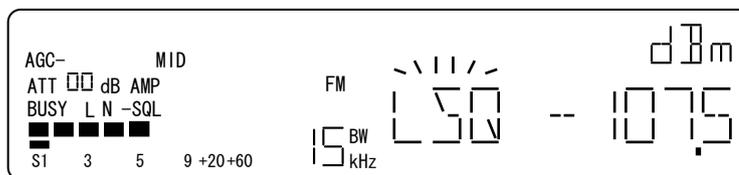
[FUNCL]+[・]で、レベルスケルチのしきい値になります。周波数表示部に **LSQ** が点滅します。  
dBm 表示の設定値に連動して、**S** メーター直下にある、しきい値メーターが点灯します。レベルスケルチ  
のしきい値の設定範囲は、-120.0 dBm～0.0 dBm です。



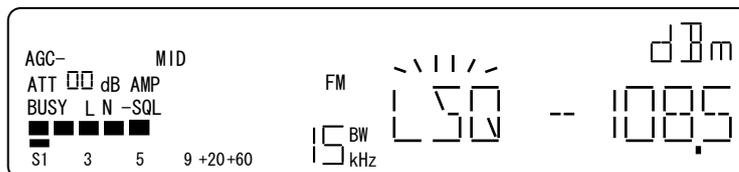
レベルスケルチ  
しきい値設定の表示例

## 操作例

[ダイヤル右回り]1クリック毎に、**0.5dB** ずつ大きく、[ダイヤル左回り]1クリック毎に **0.5dB** ずつ小さくなります。そのとき、しきい値メーターが設定に合わせて点灯します。



しきい値が「-108.0 dBm」の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
「-107.5 dBm」になります。



しきい値が「-108.0 dBm」の時、  
[ダイヤル左回り]1クリックで、  
「-108.5 dBm」になります。

## 7-15. デリートメニュー (DEL)

このデリートメニューでは、使っているダイヤル (A-F 共通) に設定されている「周波数パス設定」を解除できます。解除は1周波数ずつ個別に解除、あるいは使っているダイヤルの周波数パスを一括で解除する方法があります。なお、周波数パス設定は、一旦解除したら復活することはできません。再度周波数パスに設定するには、再設定が必要です。

## 7-15-1. 操作

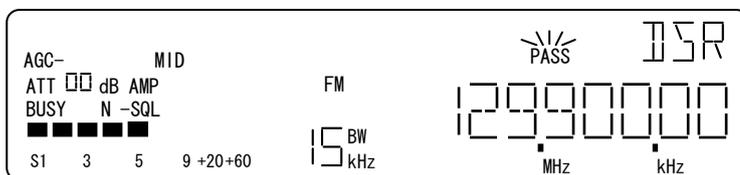
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNCL]+[0]		デリートメニューになります。
2	[UP] [DOWN]	サブメニュー 選択	[UP][DOWN] 毎に、個別解除→一括解除→個別解除を交互に選択します。
3	[ダイヤル]	パス設定の 個別表示	個別解除のとき、[ダイヤル]1 クリック毎に、パス設定されている、受信周波数を順次表示します。
4	[PASS]	個別解除	表示されているパス周波数のパス設定を解除して、メニューを継続します。この時のパス設定解除は仮確定です。
		一括解除	ダイヤルのパス設定を全て解除します。この時のパス設定解除は仮確定です。
5	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前のダイヤル# に戻る。
6	[ENT]	確定	解除を確定して、直前のダイヤル# に戻ります。このデリートメニューにいるときに、[PASS]より先に[ENT]を入力した場合パス設定は解除されないまま確定します。

デリートメニューになると、セグメント「PASS」が点滅します。

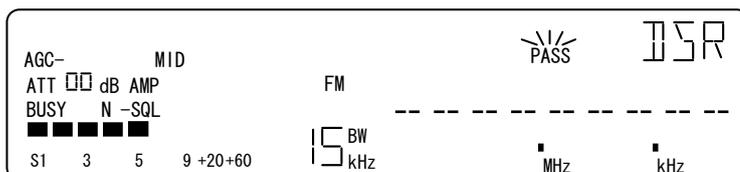
個別解除のとき、パス設定があれば、「パス設定された周波数」が表示されます。

パス設定がなければ「-----」を表示します。

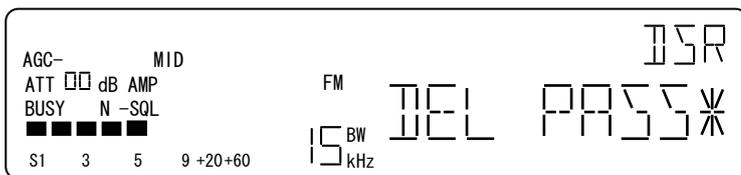
一括解除のときは、周波数表示部に「DEL」が点滅表示、「PASS」が表示されます。パス設定があれば、「PASS」表示の右に「※」(アスタリスク)が、パス設定がなければ、「--」が表示されます。



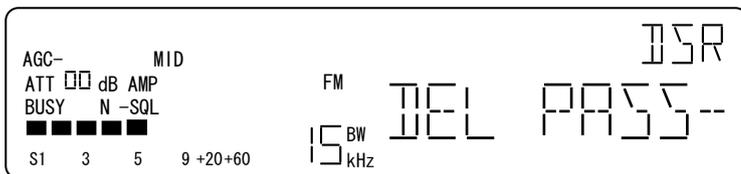
個別解除で、パス設定があるときの表示例



個別解除で、パス設定がないときの表示例



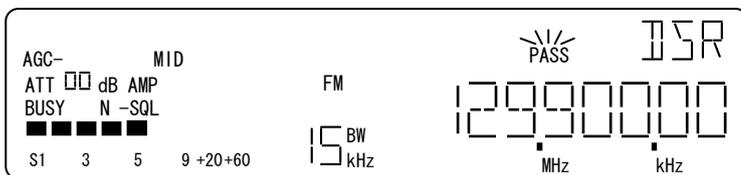
一括解除で、パス設定があるときの表示例



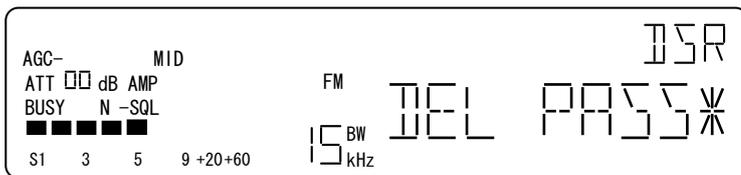
一括解除で、パス設定がないときの表示例

操作例

デリートメニューで、[UP][DOWN]で、個別解除、一括解除を交互に切り替えます。



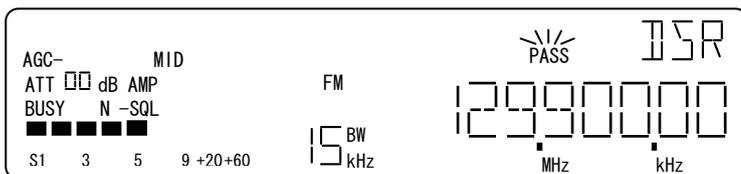
一括解除の時、[UP]で、個別解除になります。



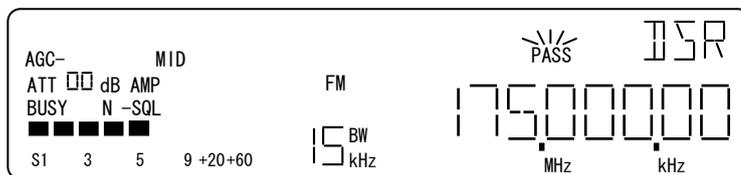
個別解除の時、[UP]で、一括解除になります

[ダイヤル]（個別解除のみで有効）

[ダイヤル]1 クリック毎に、パス設定された受信周波数をリング状に順次表示します。

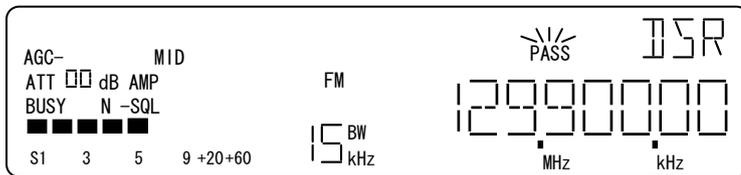


[ダイヤル左右回り]1 クリック毎に順次パス設定された受信周波数を表示します。

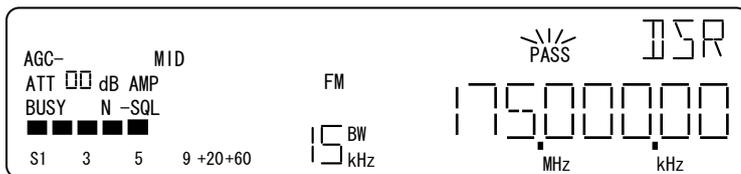


・ [PASS]

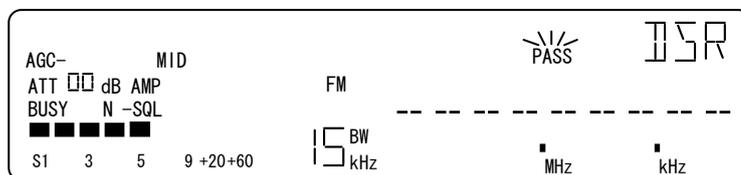
[PASS]入力すると、パス設定解除を仮確定し、次のパス設定された受信周波数を表示する。  
パス設定がなければ、エラートーンで警告する、画面の変化はなし。



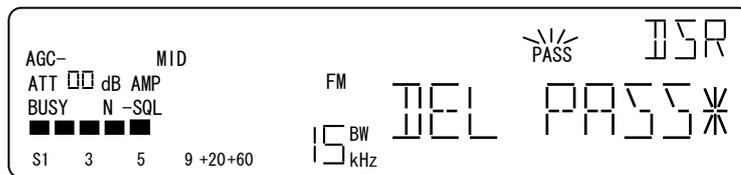
個別解除で、パス設定あるときの表示例



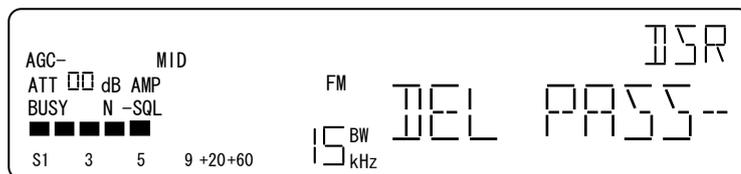
[PASS]入力毎にパス設定解除を仮確定して、次のパス設定された受信周波数を表示します。



[PASS]入力時に次にパス設定された受信周波数が無い場合には、周波数表示部に「-----」を表示します。



一括解除で、パス設定があるときの表示例。



[PASS]で、パス設定一括解除を仮確定して、周波数表示部の右端に「-」が表示されます。

・ [ENT]

個別解除、一括解除ともに、仮確定の後に[ENT]で、パス設定解除が確定します。

## 7-16. メモリー書込み (MW)

メモリー書込み では、ダイヤルモードでの受信周波数や復調モードなどの設定をメモリーチャンネルに記憶格納します。

### 7-16-1. 操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[ENT]		メモリー書込み に移行します。 移行直後に表示するメモリーチャンネルは、登録されていないメモリーチャンネルで最も番号の小さいものが表示されます。全てに登録されている場合には、000 が表示されます。
2	[0~9]	バンク切替	入力した数字キーと同じバンク番号の 00 チャンネルに切替わります。
3	[ダイヤル]	チャンネル設定	[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、登録, 未登録に関係なく全てのメモリーチャンネルを昇順に順次選択します。[ダイヤル左回り]では降順になります。
4	[UP] [DOWN]		[UP]で、表示されているメモリーチャンネル番号を 10 ずつ増やします。[DOWN]で、表示されているメモリーチャンネルを 10 ずつ減らします。
5	[EXIT]	操作取消し	操作を取消して、直前の動作モードに戻ります。
6	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

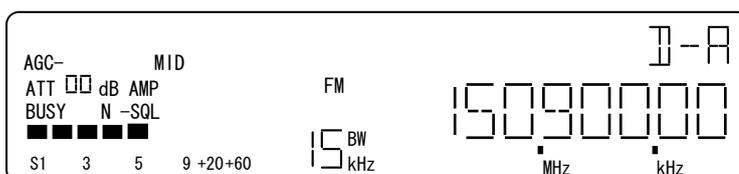
### 7-16-2. メモリーチャンネル選択

[FUNC]+[ENT] で メモリー書込み に移行すると、LCD セグメント「M」が点滅します。状態表示部に 3 桁で、「バンク番号(1桁)、チャンネル番号(2桁)」を表示します。たとえば、表示が “ 214 ” であれば、「バンク番号 2 の 14 チャンネル」を意味します。

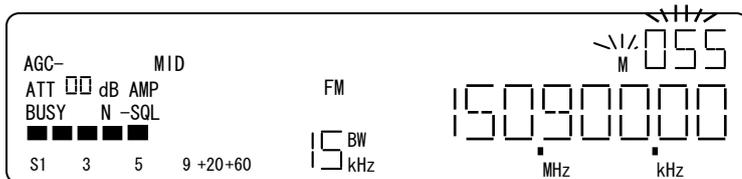
バンク番号は 0~9、(10 バンク)、それぞれのバンクに 00~99 (100 チャンネル)があり、合計で 1000 のメモリーチャンネルを構成しています。

「メモリーチャンネル」番号の表示は、そのメモリーチャンネルに登録されている場合は点灯、そのメモリーチャンネルが登録されていない空きチャンネルのときは、点滅します。

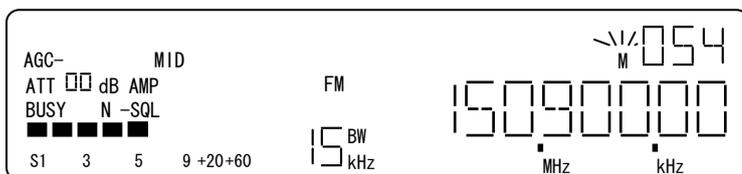
メモリー書込み に移行した直後に表示されるメモリーチャンネルは、空きチャンネルで最も番号の若いメモリーチャンネルとなります。000~999 まで、全てに登録されている場合には、000 を表示します。



メモリー書込みに移行する直前の表示例



メモリー書込みに移行直後の表示例。この例では「055」が最も若い空きチャンネルです。空きチャンネルなのでメモリーチャンネル番号は点滅します。

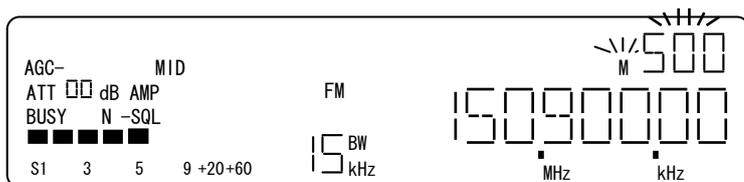


[ダイヤル]で、登録されているメモリーチャンネル(ここでは054)へ切り替えるとメモリーチャンネル番号は点灯になります。

### 操作例

・数値キー [0] ~ [9]

[FUNC]+[ENT] でメモリー書込みに移行したあと、[5]で、メモリーチャンネル「500」を表示します。(例では、500 は空きチャンネル) [5] によってバンク切替でバンク番号が 5 になり、当該バンクの 00 チャンネルを表示することとなります。

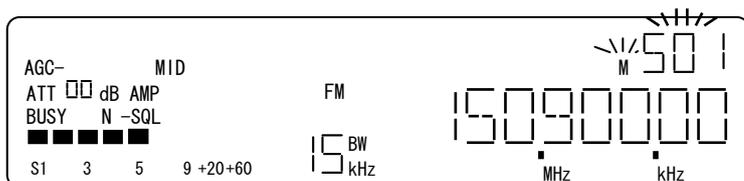


[5]で、メモリーチャンネルの「500」を表示します。

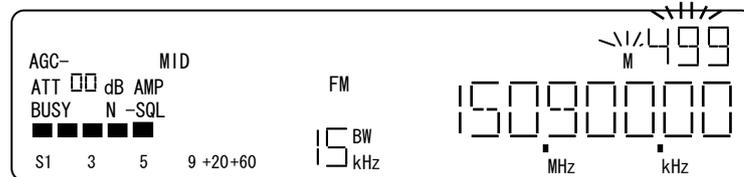
・[ダイヤル]

[ダイヤル右回り]1クリックで、1 チャンネルずつ、[UP]で 10 チャンネルずつ、登録済か空きチャンネルに関わらず、書込み先となるメモリーチャンネルを昇順に切り替えます。

[ダイヤル左回り]1クリックで 1 チャンネルずつ、[DOWN]で 10 チャンネルずつ、登録済か空きチャンネルに関わらず、書込み先となるメモリーチャンネルを降順に切り替えます。



「500」表示の時、[ダイヤル右回り]1クリックで、メモリーチャンネル「501」の表示に切り替わります。



「500」表示の時、[ダイヤル左回り]1クリックで、メモリーチャンネル「499」の表示に切り替わります。

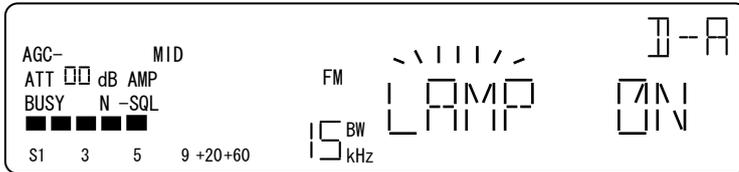
## 7-17. システム環境設定 (CONFIG)

システム環境設定では、本機の各動作モードで共通する項目を設定します。

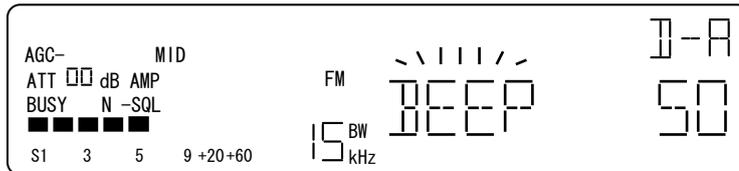
## 7-17-1. 操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[DIAL]		システム環境設定(CONFIG)へ移行します。はじめは、LCDバックライト設定になります。
2	[UP] [DOWN]	サブメニュー選択	[UP]毎に、バックライト設定(LAMP) → ビープ音量設定 (BEEP) → IF 出力設定 (EXT IF) → シリアル通信速度設定 (BPS) → 基準発振器設定 (STD) → Sメーター設定 (S-M) を順次選択します。[DOWN]は逆順に選択します。
3	[ダイヤル]	ビープ音量設定 (BEEP)	[ダイヤル右回り]1クリック毎に、ビープ音量を 0→1→2→3 →254→255→0 のように昇順に設定できます。[ダイヤル左回り]は降順に設定となります。設定した時点で仮確定になります。
		IF 出力設定 (IF OUT)	[ダイヤル右回り]1クリック毎に、IF 出力設定を OFF→1→2→3→OFF のように昇順に選択します。[ダイヤル左回り]は降順に選択となります。選択した時点で仮確定になる。
		シリアル通信速度設定 (BPS)	[ダイヤル]で、シリアル通信速度を 9.6kbps→19.2kbps→38.4kbps→57.6kbps→115.2kbps→9.6kbps のように昇順に選択します。[ダイヤル左回り]は降順に選択となります。選択した時点で仮確定になります。
		基準発振器設定 (STD)	[ダイヤル左右]1クリック毎に、基準発振器を INT→EXT 交互に切り替えます。選択した時点で仮確定になる。
		S-メーター設定 (S-M)	[ダイヤル左右]1クリック毎に、S-メーターのソース RSSI→AGC を交互に選択します。選択した時点で仮確定になります。
		信号強度表示の設定(DISP)	[ダイヤル左右]1クリック毎に、信号強度表示の設定 NORM→RSSI を交互に選択します。選択した時点で仮確定になります。
4	[PASS]	バックライトオン/オフ切替え	バックライト設定のとき、[PASS]毎に、バックライトの点灯、消灯を交互に切替えます。切替えた時点で仮確定となります。
		ビープ音オフ・設定値切替え	ビープ音量設定のとき、[PASS]毎に、ビープ音量を OFF→設定値 を交互に切替えます。切替えた時点で仮確定となります。
5	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
6	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

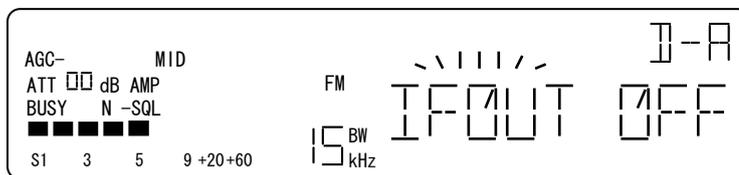
システム環境設定は、[UP][DOWN]で以下のように設定項目を選択します。



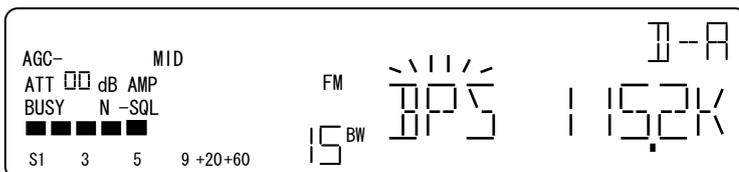
Sメーター設定の時、  
[UP]で、  
バックライト設定になります。



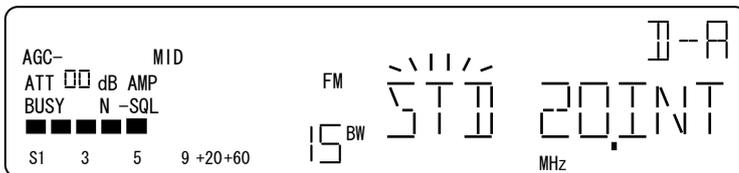
バックライト設定の時、  
[UP]で、  
ビープ音量設定になります。



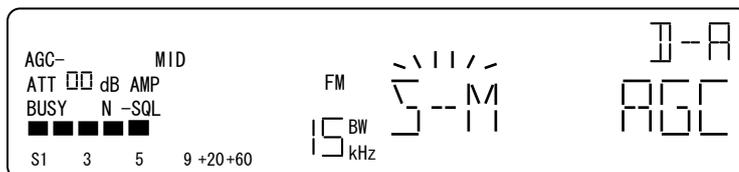
ビープ音量設定の時、  
[UP]で、  
IF出力設定になります。



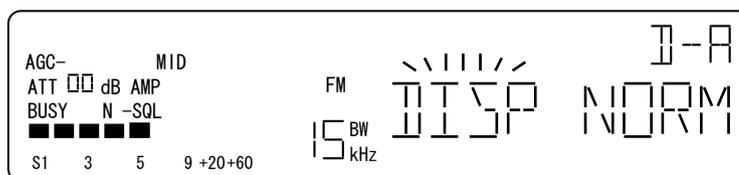
IF-OUT 設定の時、  
[UP]で、  
通信速度設定になります。



通信速度設定の時  
[UP]で、  
基準発振器設定になります。



基準発振器設定の時、  
[UP]で、  
Sメーター設定になります。

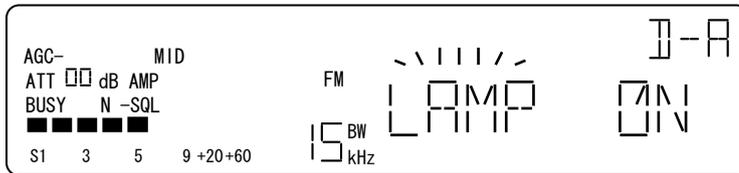


Sメーター設定の時、  
[UP]で、  
信号強度表示の設定になります。

上記は、[UP]での表示例です。[DOWN]では設定を逆方向に選択することができます。

## 7-17-2. バックライト設定 (LAMP)

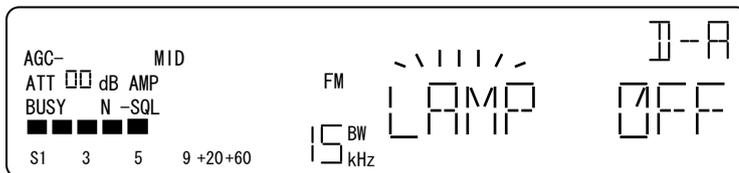
ここでは、本機の液晶 (LCD) 表示器のバックライトの点灯、消灯を設定します。[FUNC] + [DIAL] でシステム環境設定に入ると、バックライト設定になります。バックライトの初期設定は、ON (オン) です。



バックライト設定の  
表示例

操作

・[PASS]毎に、オン/オフ (点灯/消灯)を交互に切替えます、切り替えた時点で仮確定になるので、バックライトも切替えに連動して点灯、消灯します。



「ON」表示の時  
[ダイヤル]1クリックで、  
「OFF」表示になった例

[ENT] で確定し、直前の動作モードへ戻ります。

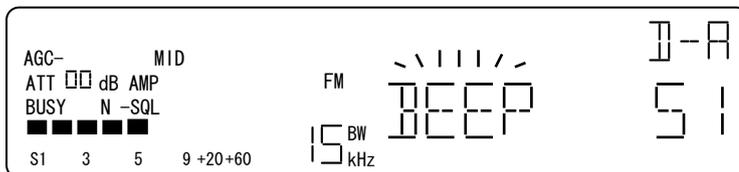
## 7-17-3. ビープ音量設定 (BEEP)

ここでは、キー操作やエラー音などに使用するビープ音量の設定を行います。

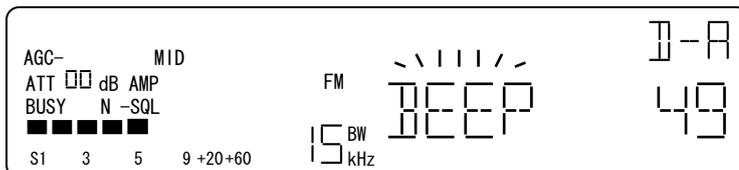
[FUNC] + [DIAL] でシステム環境設定に入った後、[UP] [DOWN] でビープ音量設定(BEEP) にします。

・ビープ音量調節

[ダイヤル右回り]1クリック毎に1ずつ、音量設定が大きくなります。[ダイヤル左回り]1クリックでは、1ずつ小さくなります。調節操作に基づいて、ビープ音が出力されます。設定範囲は、0 ~ 255 です。(設定によっては大きな音が出力されます。特にヘッドホンやイヤホンのご使用のときご注意ください)



「50」の時  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
「51」になります。

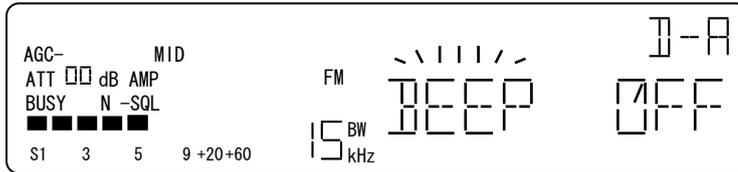


「50」の時  
[ダイヤル左回り]1クリックで  
「49」になります。

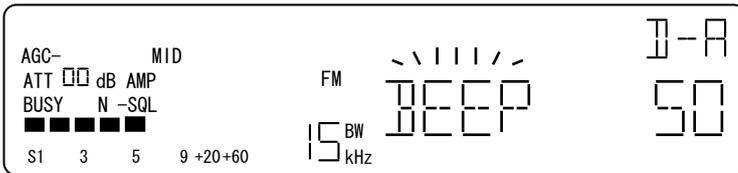
[ENT] で確定し、直前の動作モードへ戻ります。

・ビープ音 オン・オフ設定

[PASS]毎に、オン・オフ（出力する／出力しない）を交互に切替えます。  
 オンのとき設定されている音量を表示します。



「 50 」の時、[PASS]で  
 「 OFF 」表示になります。



「 OFF 」の時、[PASS]で  
 「 50 」になります。

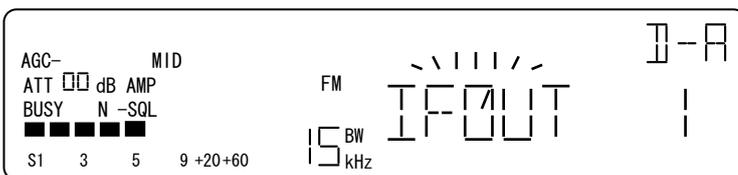
[ENT]で確定し、直前の動作モードへ戻ります。

7-17-4. IF (中間周波) 出力設定 (IF OUT)

ここでは、本機の IF 出力の設定をします。IF 信号を使って動作する外部機器 (D/A コンバータやスペクトラムディスプレイなど) に合わせて選択することができます。設定値は、0~3 で、初期値は、1 です。それぞれの内容は次表の通りです。

IF 出力設定 0	IF 出力 オフ (出力しない)
IF 出力設定 1	10.7MHz / 帯域幅 10MHz (第 2IF フィルタ前)
IF 出力設定 2	10.7MHz / 第 2 IF フィルタ通過後
IF 出力設定 3	455kHz / 第 3 IF フィルタ前

[FUNC] + [DIAL] でシステム環境設定に入った後、[UP] [DOWN] で、IF 出力設定 (IFOUT) にします。



IF OUT 設定の表示例

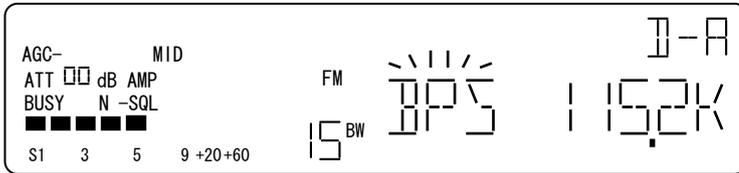
[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、IF OUT を 0~3 を順次選択します。

[ダイヤル左回り]では逆方向に選択します。選択した時点で仮確定になります。

[ENT]で確定して、直前の動作モードへ戻ります。

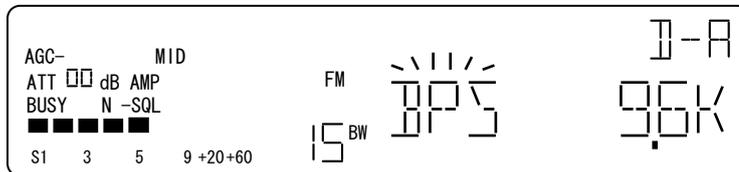
## 7-17-5. 通信速度設定 (BPS)

ここでは、本機のシリアル通信ポートの速度を設定します。この設定は、REMOTE1, REMOTE2 とも共通で、初期値は、115.2k です。

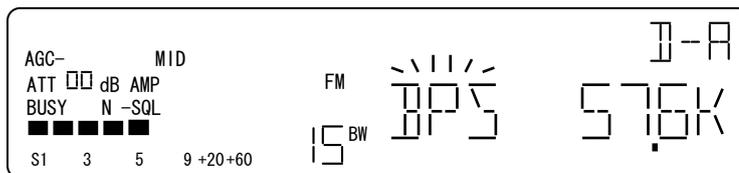


通信速度設定の表示例

[ダイヤル右回り]1クリック毎に、BPS を昇順に順次選択します。[ダイヤル左回り]1クリック毎では逆方向に選択できます。選択した時点で仮確定になります。



「115.2K」の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで、  
「9.6k」表示になります。

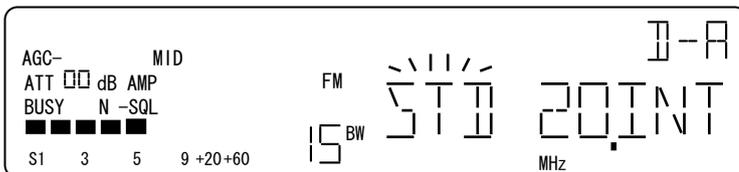


「115.2K」表示の時、  
[ダイヤル左回り]1クリックで  
「57.6k」表示になります。

[ENT]入力時点で確定し、直前の動作モードへ戻る。

## 7-17-6. 基準発振器設定 (STD)

ここでは、本機の基準発振器の選択を行います。初期値は INT (内部発振器) で、通常は初期値のまま使います。外部発振器は、システムに組込んでつかう場合など外部から極めて高精度な基準周波数 (10MHz) を入力して使うことができます。なお、EXT (外部発振器) を選択した場合、正常な基準周波数信号を入力していないと本機は受信動作しません。(PLL エラー (PLL ERR) となります)

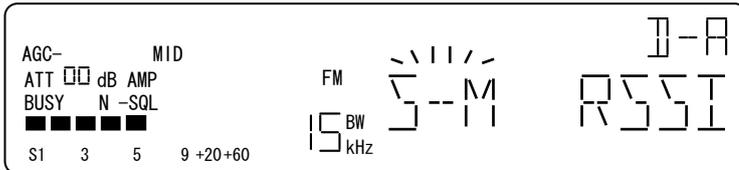


基準発振器設定の表示例

[ダイヤル]1クリック毎に、INT, EXT を交互に選択します。選択した時点で仮確定になります。  
[ENT]で確定し、直前の動作モードへ戻ります。

## 7-17-7. Sメーター設定 (S-M)

ここでは、本機のSメーター表示に設定を行います。本機のSメーターは実際のアンテナ入力端の強度を直接表示 (RSSI) する方法と、従前の一般的な受信機のように AGC (自動利得調整) 回路の動作に連動した表示 (AGC) を選択できます。初期値は、RSSI です。AGC に設定しているときは、AGC 回路の速度設定に影響された表示となります。このとき、AGC を OFF にすると、Sメーター表示はされなくなります。

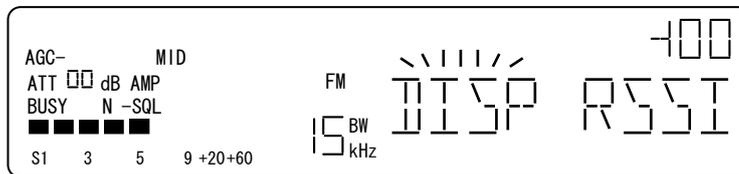


Sメーター設定の表示例

[ダイヤル]1 クリック毎に、RSSI, AGC を交互に選択します。選択した時点で仮確定となります。[ENT]で確定して、直前の動作モードへ戻ります。

## 7-17-8. 信号強度表示の設定 (DISP)

ここでは、本機の信号強度表示の設定を行います。この設定をすると、本機はアンテナ入力の信号強度を dBm 単位で表示することができます。

「NORM」表示の時、  
[ダイヤル左回り]1 クリックで  
「RSSI」表示になります。

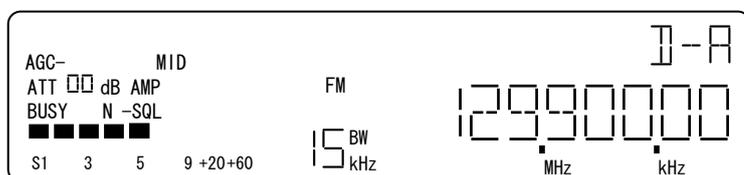
[ダイヤル]1 クリック毎に、NORM, RSSI を交互に選択します。選択した時点で仮確定となります。[ENT]で確定して、直前の動作モードへ戻ります。

dBm 表示での信号強度表示は、メモリーチャンネル表示部にあらわれます。表示範囲は、およそ、-120 ~ +20 dBm です。単位「dBm」は表示されません。

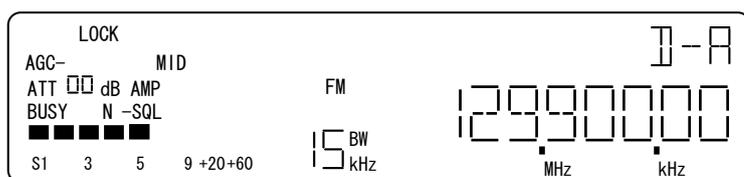
## 7-18. キーロック の オンとオフ

本機は、[LOCK] を使って、キー入力やダイヤル入力を行えないようにする機能を持っています。この機能が有効な状態を「キーロック オン」、有効ではない状態を「キーロック オフ」としています。

操作	選択設定内容	説明
[LOCK]	キーロックの オン/オフ設定	[LOCK]入力毎に、キーロック オン/オフ を交互に切替えます。
動作	オフ	キー操作をすることができます。
	オン	[LOCK], [PWR]のみが有効です。 [LOCK], [PWR]以外のキー操作をした場合には、エラートーンを返します。



キーロック オフの表示例  
「LOCK」セグメントは消灯



キーロック オンの表示例  
「LOCK」セグメントが点灯します。

## 8. メモリーリードでの操作

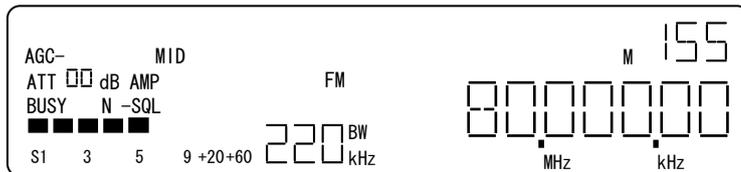
「メモリーリード」とは本機のメモリーチャンネルに登録されている内容を手動で読み出して受信する動作モードのことを指しています。メモリーチャンネルの表記は、数字 3 桁で「バンク(1桁)」と「チャンネル(2桁)」で構成されています。本機のメモリーチャンネルは、バンクが「0～9」でチャンネルが「00～99」、合計で 1000 チャンネルあります。メモリーチャンネル「246」の場合は、「バンク 2 の 46 チャンネル」を指します。メモリーリードには、ダイヤル、サーチから[MEM]で移行します。

### 8-1. メモリーリードでの操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[0] ~ [9]	メモリーバンク選択	メモリーバンクは 1 桁表示です。入力した数字のバンクに切り替わり、そのバンクの最も若い登録チャンネルが読み出されます。未登録のバンクを入力した場合は、エラー音を返します。数値キーは、バンクの切り替えのみで、メモリーチャンネルの選択はできません。
2	[UP] [DOWN]	メモリーチャンネル 選択	[ダイヤル右回り]、[UP]毎に、登録されている全てのメモリーチャンネルを昇順に順次選択できます。[ダイヤル左回り]、[DOWN]では降順に選択できます。
3	[ダイヤル]		
4	[PASS]	パス設定	読み出しているメモリーチャンネルのパス設定を切り替えます。パス設定されたメモリーチャンネルは、メモリスキャンの対象から除外されるようになります。
5	[FUNC]+[PASS]	セレクト設定	読み出しているメモリーチャンネルのセレクト設定を切り替えます。セレクト設定されたメモリーチャンネルだけがセレクトスキャンの対象になります。
6	[FUNC]+[0]	読み出しチャンネル の消去	読み出しているメモリーチャンネルの消去へ移行します。読み出しているメモリーチャンネルのみが消去の対象となります。
7	[FUNCL]+[0]	デリートメニュー	デリートへ移行します。バンク単位での操作になります。
8	[ENT]	ダイヤルモード へ移行	最後に使用していた DIAL#へ移行します。この時 DIAL は、読み出されているメモリーチャンネルの設定条件を上書きされます。

## 8-2. メモリーリード

ダイヤル、サーチから[MEM]でメモリーリードに移行すると、LCD 上の状態表示の「M」セグメントが点灯し、メモリーチャンネルを3桁で表示します。下の例では、バンク 1 の 55 チャンネルを表示しています。

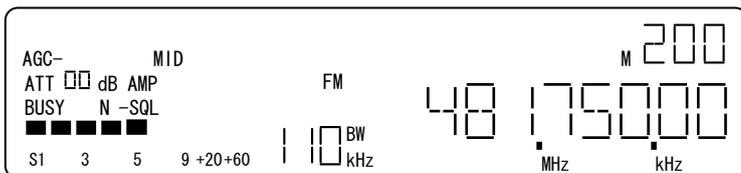


メモリーリードの表示例

### 操作例

・[0] ~ [9] 入力過程の画面表示の例を示します。

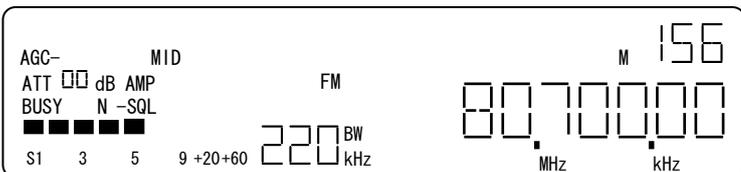
[2] の場合、入力した時点でバンク 2 を確定し、バンク 2 の中に登録されている最も若い番号のチャンネルを読み出します。数値キーはバンクの切替えのみで、メモリーチャンネルの選択は行えません。



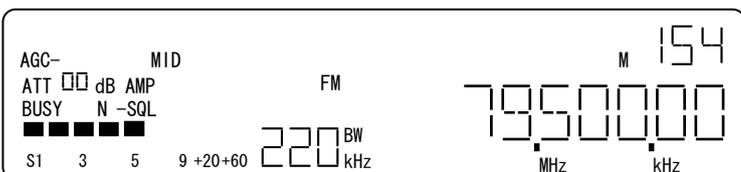
[2]の時点でバンク2を確定します。メモリーチャンネル 00 を読み出しています。この例ではバンク 2 は、00 が最も若い番号の登録チャンネルです。

・[ダイヤル][UP][DOWN]

[ダイヤル右回り]1 クリック, [UP]毎に、登録されている全てのメモリーチャンネルを昇順に順次選択できます。[ダイヤル左回り]1 クリック, [DOWN]毎では降順となります。



155 表示の時、  
[ダイヤル右回り]1 クリック  
または[UP]で  
156 に切り替わります。

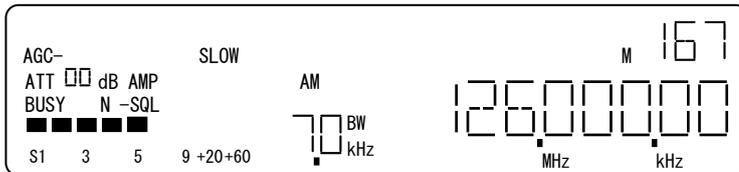


155 表示の時、  
[ダイヤル左回り]1 クリック  
または[DOWN]で、  
154 に切り替わります。

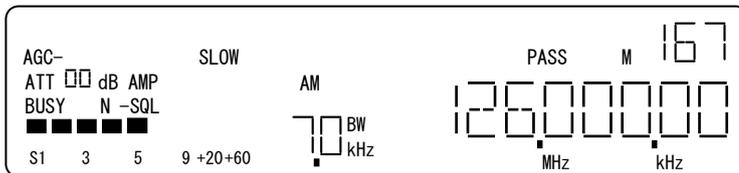
・[PASS], [FUNC]+[PASS] (SEL)

[PASS]は、読み出しているメモリーチャンネルのパス設定とパス解除を交互に切り替えます。パスは、メモリーチャンネル毎にパスフラグを立てることで、そのメモリーチャンネルがパス設定となります。

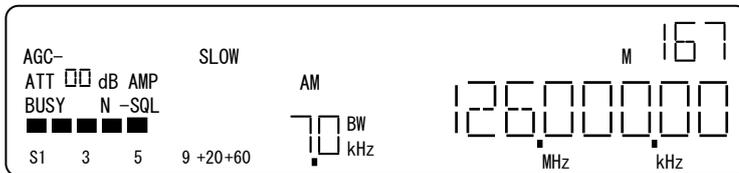
[FUNC]+[PASS] (SEL) は、読み出しているメモリーチャンネルのセレクト設定と解除を交互に切り替えます。セレクトは、メモリーチャンネル毎にセレクトプラグを立てることで、そのメモリーチャンネルがセレクト設定になります。



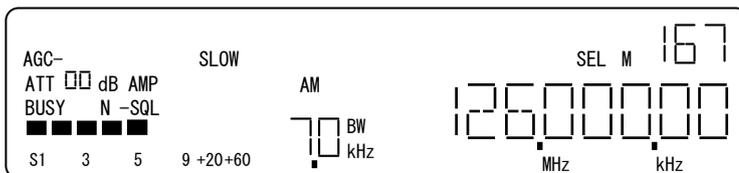
パス、セレクトともに設定されていない(解除)状態



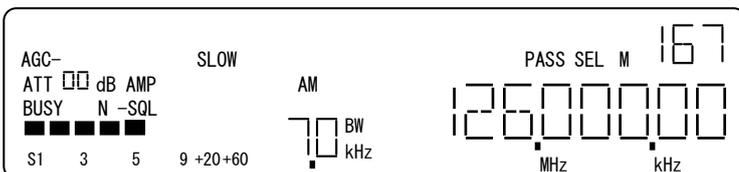
パス、セレクト共に解除されていた状態で、[PASS]、パスが設定されて、PASS セグメントが点灯します。



パス設定されている状態で [PASS] によって、パスが解除されて、PASS セグメントが消灯します。



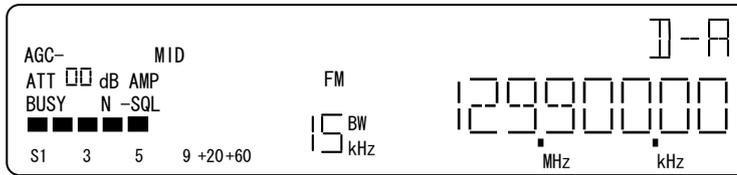
パス、セレクトともに設定されていない(解除)状態で、[FUNC]+[PASS]、セレクトが設定されて SEL セグメントが点灯します。



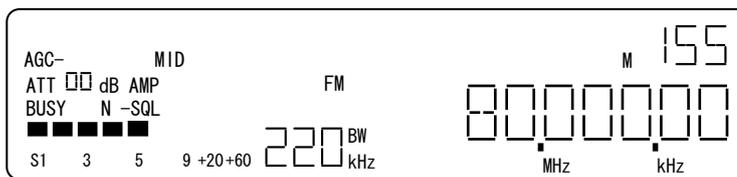
セレクトが設定されている状態で [PASS]で、パスが設定されます。この場合は、PASS セグメント、SEL ともに点灯します。

・[ENT]

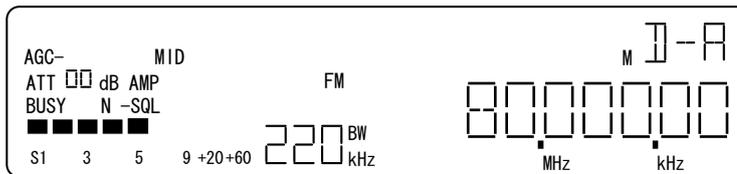
[ENT]は、読み出しているメモリーチャンネルの内容を最後に使っていた DIAL# へ移行します。この時、移行先の DIAL はメモリーリードで読み出していたメモリーチャンネルの設定条件を上書きします。



最後に使っていた DIAL の例  
(左図では、DIAL-A)



メモリーリードで読み出した  
メモリーチャンネルの例  
(バンク 1 の 55 チャンネル)



[ENT]で、最後に使っていた  
DIAL (例では DIAL-A)へ  
メモリーチャンネルの内容を移  
行します。このとき、DIAL の内容  
は上書きされます。

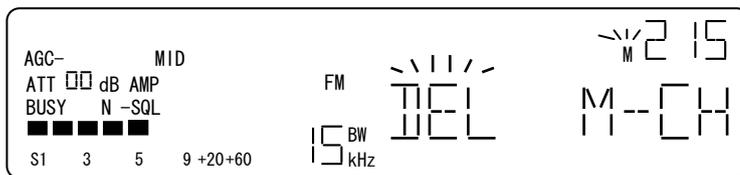
### 8-3. 読み出しメモリーチャンネルの内容消去（デリート）

読み出されているメモリーチャンネルの内容を消去することができます。

消去した内容は復活させることはできません。メモリーリードから、[FUNC]+[0] (DEL) で、読み出しているメモリーチャンネル消去のメニューへ移行します。

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[0]	メモリーチャンネル消去へ移行	メモリーチャンネル消去のメニューへ移行します。
2	[PASS]	メモリーチャンネル消去の仮確定	メモリーチャンネルの内容を消去します。この時点では、消去することは仮確定となります。
3	[EXIT]	操作取消し	操作と仮確定をクリアして、直前のメモリーチャンネルに戻ります。
4	[ENT]	確定	仮確定だった消去を確定します。確定した後は、消去したメモリーチャンネルの次の登録されているメモリーチャンネルに移ります。全てのメモリーバンクが消去されている場合は、最後に使っていた DIAL#へ移行します。

メモリーリードから、[FUNC]+[0] で、読み出しメモリーチャンネルの消去に移行します。



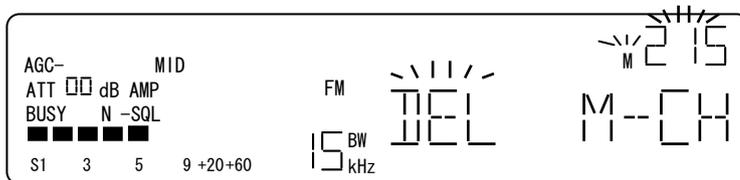
読み出しメモリーチャンネルの消去の表示例  
(バンク2の15チャンネル)

- ・ [PASS]

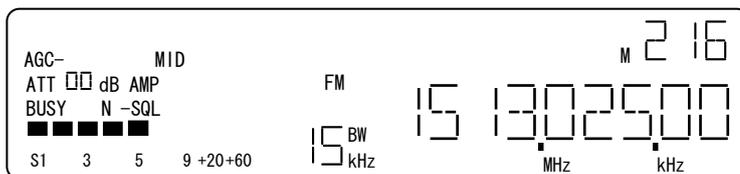
[PASS]で、読み出していたメモリーチャンネルの消去を仮確定し、メモリーチャンネル表示部が点滅表示になります。

- ・ [ENT]

仮確定の後、[ENT]で、消去を確定します。メモリーリードに戻る先は、次の登録されているメモリーチャンネルです。全てのメモリーチャンネルが登録されていない場合は、最後に使っていた DIAL#へ移行します。



215 表示の時、[PASS]で、消去を仮確定して、215 が点滅表示になります。



215 点滅表示の時、[ENT]で、消去を確定します。例では次の 216 チャンネルに戻ります。

## 8-4. 消去メニュー

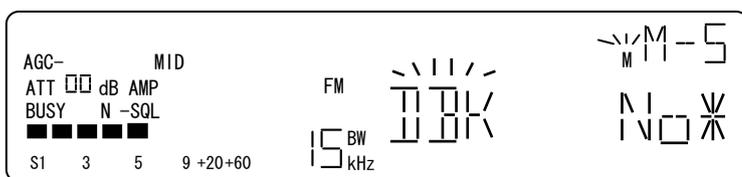
メモリーリードから、[FUNCL] + [0] で移行する消去メニューでメモリーバンク内のメモリーチャンネル、パス設定、セレクト設定を一括して消去や解除をすることができます。

## 8-4-1. 操作

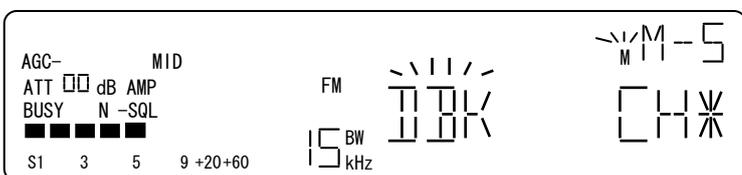
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNCL]+[0]	消去メニューへ移行	
2	[ダイヤル]	メモリーバンク# 選択	[ダイヤル右回り]1クリック毎に、メモリーバンク# 0→1→2→3→4→5→6→7→8→9→0 をリング状に順次選択します。[ダイヤル左回り]は反対方向に順次選択となります。なお、他のサブメニューへ移行した後は、バンク# 選択へ戻れません。
3	[UP] [DOWN]	サブメニュー選択	[UP]毎に、サブメニュー チャンネル一括消去→パス設定一括解除→セレクト設定一括解除→チャンネル一括消去 を順次選択します。[DOWN]は反対方向に順次選択します。
4	[PASS]	チャンネル一括消去	バンク内の、登録チャンネルを全て消去の仮確定をします。
		パス設定一括解除	バンク内のパス設定を全て解除します。この時点で、パス設定解除は仮確定です。
		セレクト設定一括解除	バンク内のセレクト設定を全て解除します。この時点で、セレクト設定解除は仮確定です。
5	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前に読み出していたメモリーチャンネルに戻ります。
6	[ENT]	確定	仮確定を確定にして、直前のメモリーチャンネルに戻ります。全チャンネルを消去した場合は、次メモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルを読み出します。全てのメモリーチャンネルが消去されている場合は、最後に使っていた DIAL# へ移行します。

## サブメニューの選択

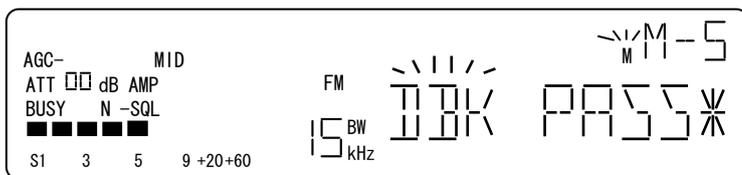
[FUNCL]+[0] で消去メニューに移行した後、消去メニューを適用するメモリーバンク番号をダイヤルで選択した後は、[UP][DOWN]で以下のサブメニューを選択します。サブメニューに移行するとメモリーバンク番号の選択には戻ることができません。



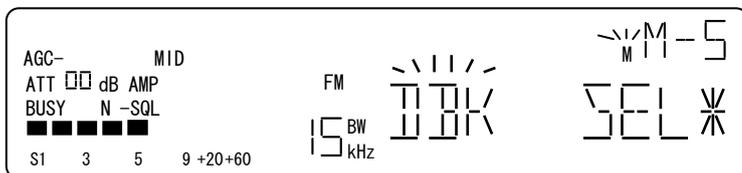
メモリーバンク番号の選択から、サブメニューに移行した場合はメモリーバンク番号へ戻れません。



セレクト設定一括解除の時、[UP]で、チャンネル一括消去になります。



チャンネル一括消去の時、[UP]で、パス設定一括解除になります。

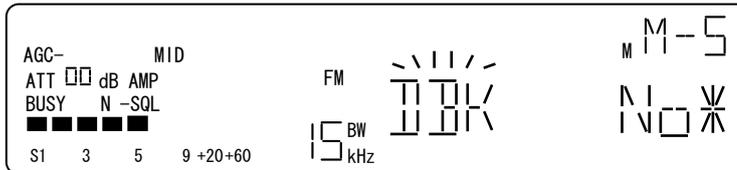


パス設定一括解除の時、[UP]で、セレクト設定一括解除になります。

## 8-4-2. メモリーバンク番号 の選択

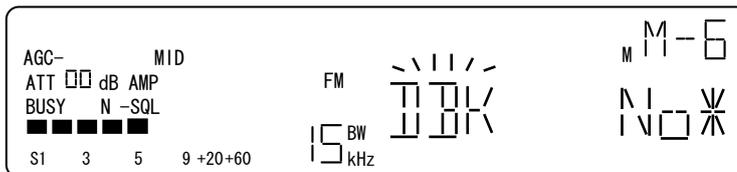
ここでは、消去メニューを適用するメモリーバンク番号を選択します。

メモリーリードから [FUNCL]+[0]で消去メニューに移行すると、[ダイヤル] で消去作業をするメモリーバンク番号を選択します。なお、[UP][DOWN]でサブメニューに移行した後は、メモリーバンク番号の選択には戻れません。

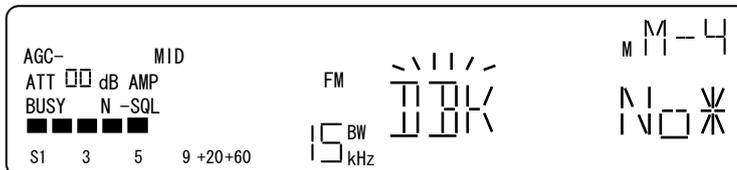


消去メニューに移行した直後の表示例。バンク番号選択になります。

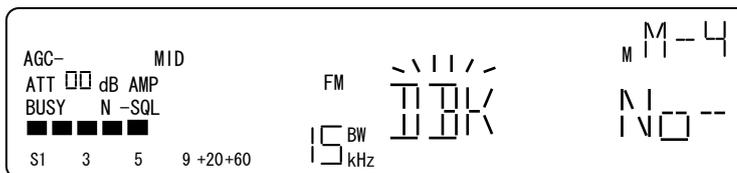
LCD の右上の状態表示部には、「M-#」(上の例では 5) が点灯されます。この番号が消去するメモリーバンク番号です。周波数表示部には、「DBK」が点滅表示され、「No」を点灯表示します。このとき、[ダイヤル右回り]1 クリック毎に、メモリーバンク # を昇順に順次選択でき、[ダイヤル左回り]1 クリック毎で降順に順次選択できます。



M-5 表示の時、  
[ダイヤル右回り]1 クリックで、  
M-6 になります。



M-5 表示の時、  
[ダイヤル左回り]1 クリックで、  
M-4 表示になります。

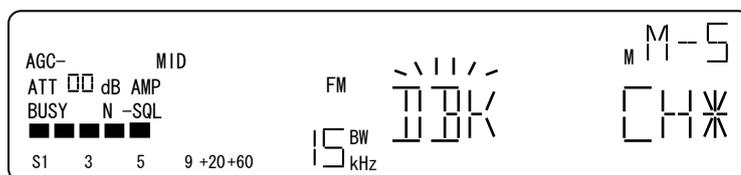


メモリーチャンネルが登録されていないメモリーバンク選択した時は、周波数表示部の右端の桁が、「-」表示となります。

## 8-4-3. チャンネル一括消去

ここでは、8-4-2. で選択した消去メニューを適用するメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルの一括消去を行います。

メモリーバンク番号を選択したのち、[UP] または[DOWN]で下例のようなチャンネル一括消去にします。



チャンネル一括消去の表示例

LCDの右上の状態表示部には、選択した「M-#」(上の例では5)が表示されていて、周波数表示部には、「DBK」が点滅表示、「CH」を点灯表示します。選択したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルがない場合には、周波数表示部の最右桁は、「-」になります。

上の例は、メモリーバンク5に登録されているメモリーチャンネルが存在していることを表しています。

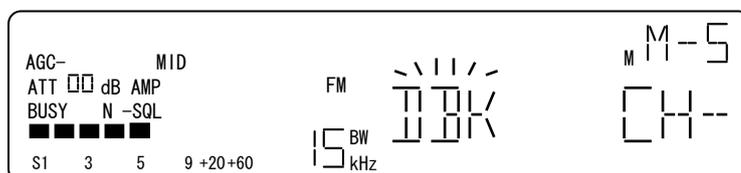
## 操作

- ・ [PASS]で、メモリーバンク内の登録チャンネルの一括消去を仮確定し、周波数表示部の最右桁が「-」表示になります。登録されているチャンネルがないときは、エラートーンを返します。

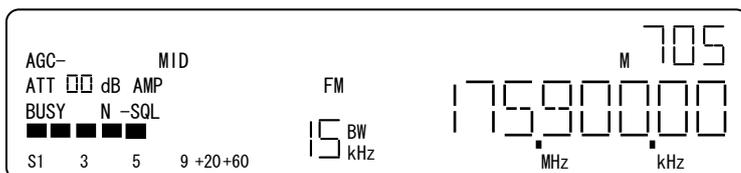
- ・ [ENT]で、仮確定した消去を確定します。

消去を確定後は、次のメモリーバンクの登録されているメモリーチャンネルを読み出します。

登録されているメモリーチャンネルがない場合には、最後に使っていた DIAL#へ移行します。



[PASS]で、チャンネル一括消去を仮確定し、周波数表示部最右1桁が「-」表示になります。

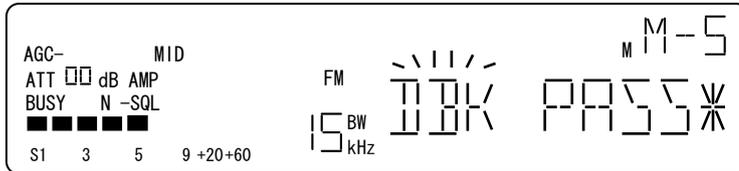


仮確定したあと、[ENT]で消去が確定します。次のメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルを読み出します。

なお、チャンネル一括消去内で、[PASS]より先に[ENT]をした場合には、メモリーチャンネルは消去されないまま戻ります。

## 8-4-4. パス設定一括解除

ここでは、8-4-2. で選択した消去メニューを適用するメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルのパス設定を一括解除できます。メモリーバンク番号を選択したのち、[UP] または[DOWN]で下例のようなパス設定一括解除にします。



パス設定一括解除の表示例

LCDの右上の状態表示部には、選択した「M-#」(上の例では5)が表示されていて、周波数表示部には、「DBK」が点滅表示、「PASS」を点灯表示します。選択したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルにパス設定がされていない場合には、周波数表示部の最右桁は、「-」になります。

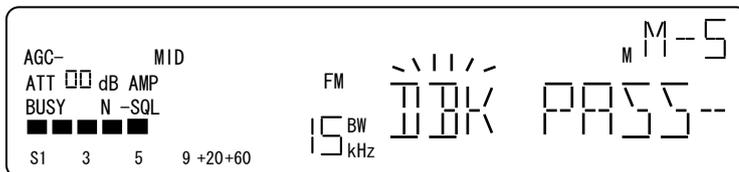
上の例は、メモリーバンク5に登録されているメモリーチャンネルにパス設定がされていることを表しています。

## 操作例

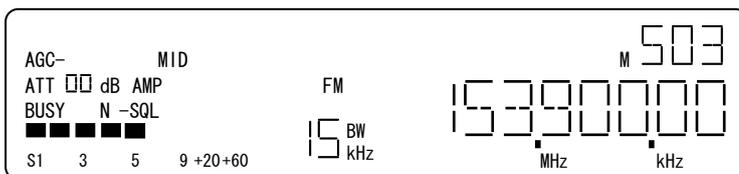
・[PASS]で、パス設定一括解除を仮確定し、周波数表示部の最右桁が「-」表示になります。バンク内のメモリーチャンネルにパス設定がされていないときは、エラートーンを返します。

・[ENT]で、仮確定していた解除を確定します。

パス設定の一括解除後は、直前に読み出していたメモリーチャンネルに戻ります。



[PASS]で、パス設定一括解除を仮確定します。周波数表示部1桁が「-」表示になります。



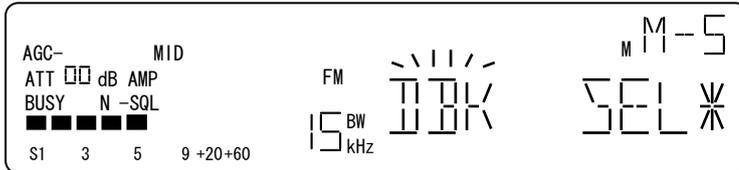
仮確定したパス設定一括解除を[ENT]で確定します。確定後は、直前のメモリーチャンネル読み出しに戻ります。

(例ではバンク5の03チャンネル)

[PASS]より前に、[ENT]を入力した場合、パス設定は解除されないでメモリーリードに戻ります。

## 8-4-5. セレクト設定一括解除

ここでは、8-4-2. で選択した消去メニューを適用するメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルのセレクト設定を一括解除できます。メモリーバンク番号を選択したのち、[UP] または[DOWN]で下例のようなセレクト設定一括解除にします。



セレクト設定一括解除の表示例

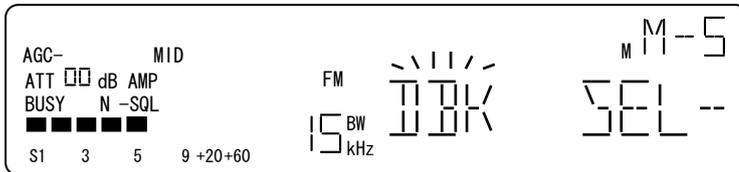
LCDの右上の状態表示部には、選択した「M-#」(上の例では5)が表示されていて、周波数表示部には、「DBK」が点滅表示、「SEL」を点灯表示します。選択したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルにセレクト設定がされていない場合には、周波数表示部の最右桁は、「-」になります。

上の例は、メモリーバンク5に登録されているメモリーチャンネルにセレクト設定がされていることを表しています。

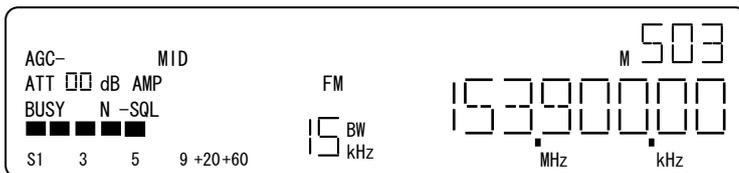
## 操作例

・[PASS]で、セレクト設定一括解除を仮確定します、周波数表示部の最右桁が「-」表示になります。バンク内のメモリーチャンネルにセレクト設定がされていないときは、エラートーンを返します。

・[ENT]で、仮確定していたセレクト解除を確定します。  
セレクト設定の一括解除後は、直前に読み出していたメモリーチャンネルに戻ります。



[PASS]で、セレクト設定一括解除を仮確定します。このとき、周波数表示部最右桁が「-」になります。



仮確定中に[ENT]で、セレクト設定一括解除が確定し、直前に読み出していたメモリーチャンネルに戻ります。

[PASS]より前に、[ENT]を入力した場合、セレクト設定は解除されずにメモリーリードに戻ります。

## 9. メモリースキャンモードでのメモリーチャンネルに関する操作

メモリースキャンとは、登録されているメモリーチャンネルを次々に読み出(スキャン)して受信する機能です。[FUNC]+[MEM]で移行します。メモリースキャンは主にスケルチと連動してスキャンします。

パス設定がされているメモリーチャンネルはスキャンの対象からは除外されます。次々とメモリーチャンネルを切り替えている状態を「スキャン継続中(または走行中)」、スケルチ回路が開いてスキャンを停止して受信している状態を「スキャン停止中」と表現します。

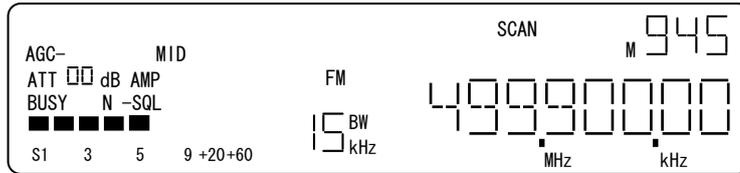
### 9-1. 操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[0~9]	メモリーバンクの切替え	【スキャン継続中】【スキャン停止中】 入力した数字のバンク番号に切替えてバンク内の最も若い番号の登録メモリーチャンネルに移行します。未登録のバンク番号を入力したときは、エラートーンを返します。
2	[UP] [DOWN]	メモリーチャンネルの切替え	【スキャン継続中】 [ダイヤル右回り]1 クリック、[UP]で、スキャンを昇方向に行います。[ダイヤル左回り]1 クリック、[DOWN]では降方向にスキャンをします。 【スキャン停止中】 [ダイヤル右回り]1 クリック、[UP]毎に、スキャンを順方向に強制再開します。[ダイヤル左回り]1 クリック、[DOWN]のとき、降順にスキャンを強制再開します。
3	[ダイヤル]		
4	[PASS]	パス設定	【スキャン継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【スキャン停止中】 読み出されているメモリーチャンネルのパス設定、解除を交互に切り替えます。
5	[FUNC]+ [PASS]	セレクト設定	【スキャン継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【スキャン停止中】 読み出されているメモリーチャンネルのセレクト設定、解除を交互に切り替えます。
6	[FUNC]+[0]	指定チャンネルの消去	【スキャン継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【スキャン停止中】 指定チャンネルの消去へ移行します。読み出されているメモリーチャンネルのみが消去の対象です。
7	[FUNCL]+[0]	消去メニュー	【スキャン継続中】、【スキャン停止中】 消去メニューへ移行。
8	[ENT]	ダイヤルモードへ移行	【スキャン継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【スキャン停止中】 最後に使っていた DIAL#へ移行します。この時、移行先の DIAL に読み出されていたメモリーチャンネルの設定を上書きします。

## 9-2. メモリースキャン

メモリースキャンには、ダイヤル、メモリーリード、サーチから、[FUNC] + [MEM] で移行します。

メモリースキャンに移行すると、LCD の **SCAN** セグメントが点灯して、過去最後に読み出していたメモリーチャンネルからスキャンを開始します。

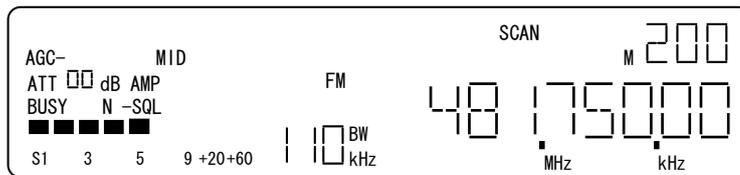


メモリースキャンの表示例

### 操作例

#### ・数値キー [0]～[9]

[2]の場合、入力した時点でバンク 2 を確定します。バンク 2 の最も若い番号のメモリーチャンネルからスキャンを開始します。数値キーは、バンクの切替えだけでメモリーチャンネルの切替えはできません。



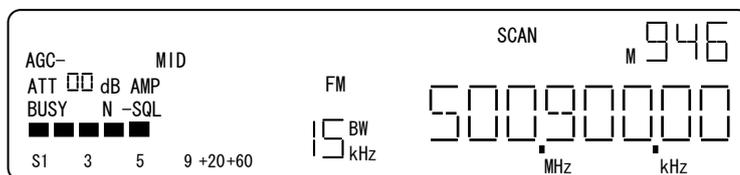
[2]で、メモリーバンク 2 に切り替わり、スキャンを開始します。左の例では、200 がバンク 2 の最も若い番号の登録されているメモリーチャンネルです。

#### ・[ダイヤル][UP][DOWN]

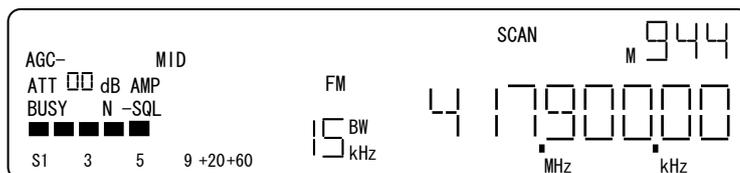
スキャン継続中は、[ダイヤル右回り]、[UP]で、スキャンを昇順方向に、[ダイヤル左回り]、[DOWN]でスキャンを降順方向に切り替えます。

スキャン停止中に、[ダイヤル右回り]1 クリック、[UP]で、昇順方向にスキャンを再開します。[ダイヤル左回り]、[DOWN]で降順方向にスキャンを再開します。

バンクリンクが ON の場合には、リンク設定されているバンク全てのメモリーチャンネルを選択する。



945 の時、[ダイヤル右回り][UP]で 946 を読み出してスキャンを再開します。



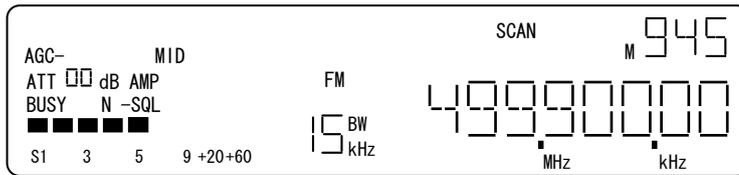
945 の時、[ダイヤル左回り]、[DOWN]で、944 を読み出してスキャンを再開します。

- ・ [PASS], [FUNC]+[PASS] (パス設定とセレクト設定)、[ENT]

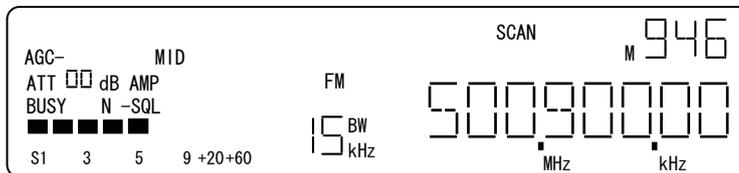
これらの操作は、スキャン継続中は無効で、エラートーンが返されます。

スキャン停止中に、[PASS]は、読み出されているメモリーチャンネルにパス設定がされて、スキャンが再開されます。このとき、パス設定されたメモリーチャンネルはメモリースキャンの対象から外れます。

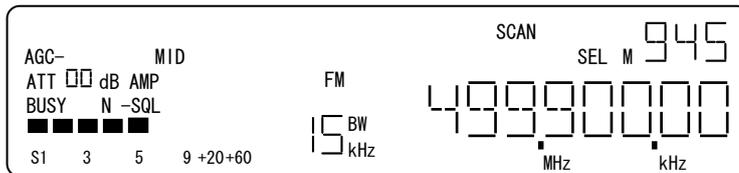
スキャン停止中に、[FUNC]+[PASS]は、読み出されているメモリーチャンネルのセレクト設定、解除を交互に繰り返します。



メモリースキャン停止中の表示例

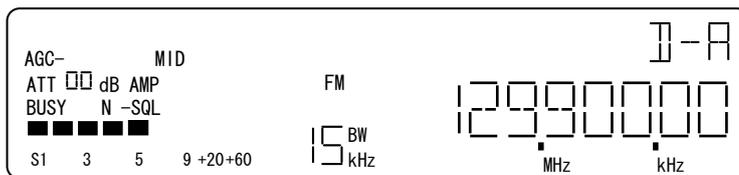


945 チャンネルで停止中に [PASS]で、945 にパスが設定、スキャンが昇方向の場合には 946 に移行してスキャンを再開します。

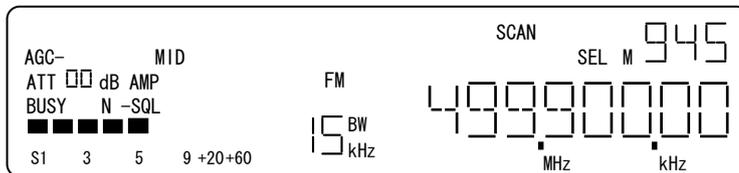


945 チャンネルで停止中に、[FUNC]+[PASS]で、セレクトが設定されて SEL が点灯します。

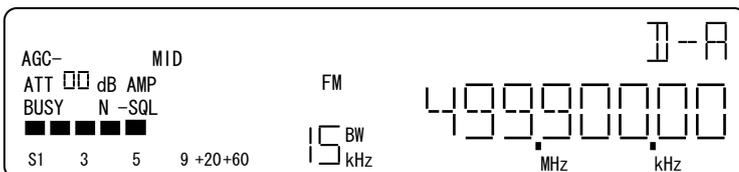
スキャン停止中に、[ENT]、最後に読み出していた DIAL# へ移行します。この時、移行先の DIAL には読み出されているメモリーチャンネルの設定条件が上書きされます。



最後に読み出していた DIAL の表示例 (DIAL-A)



メモリースキャンが停止している表示例 (バンク 9 の 45 チャンネル)



[ENT]で、最後読み出していた DIAL-A に移行します。このとき、DIAL-A には、バンク 9 の 45 チャンネルの内容が上書きされます。

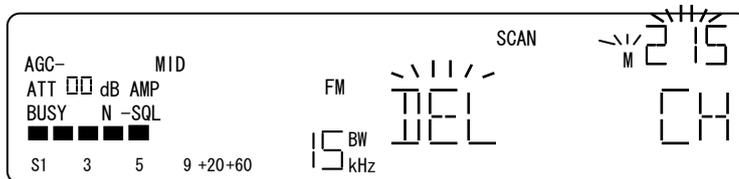
### 9-3. メモリスキャンからメモリーチャンネルの消去

メモリスキャン([FUNC] + [MEM]) で、スキャンが停止して受信しているとき、[FUNC]+[0] で、そのときのメモリーチャンネルの消去を行うことができます。なお、スキャン継続中(スキャン走行中)では、この操作([FUNC]+[0])は無効でエラー音が返されます。

1	[FUNC]+[0]		メモリスキャン(停止中)から、メモリーチャンネル消去に移行します。このときの消去対象はスキャンが停止していたメモリーチャンネルです。
2	[PASS]	メモリーチャンネル消去	このとき受信していたメモリーチャンネルの消去を仮確定します。
3	[EXIT]	操作取消し	操作、仮確定をクリアして、直前のメモリーチャンネルに戻ります。
4	[ENT]	確定	仮確定を確定として消去したメモリーチャンネルの次のメモリーチャンネルに戻ります。バンク内に登録されたメモリーチャンネルがない場合は、次のメモリーバンクの登録されているチャンネルを読み出します。全てのメモリーバンクが消去されている場合は、最後に使っていた DIAL#へ移行します。

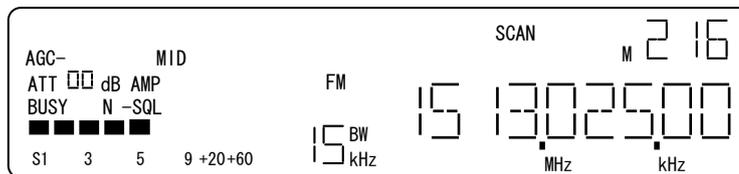
#### 操作例

・[PASS]で、読み出されているメモリーチャンネルの消去を仮確定して、メモリーチャンネル表示部が、点滅表示になります。



215 の時、[PASS]で消去を仮確定して、215 が点滅になります。

・[ENT] で、仮確定していた消去を確定します。続いて次の登録されているメモリーチャンネルに移行します。全てのメモリーバンクが消去されている場合は、最後に使っていた DIAL#に移行します。上記の[PASS]による消去仮確定より前に、[ENT]をしたときは、メモリーチャンネルは消去されません。



215 点滅表示の時、[ENT]で、消去を確定します。次のメモリーチャンネル 216 に移行します。

## 9-4. メモリスキャンから消去メニュー

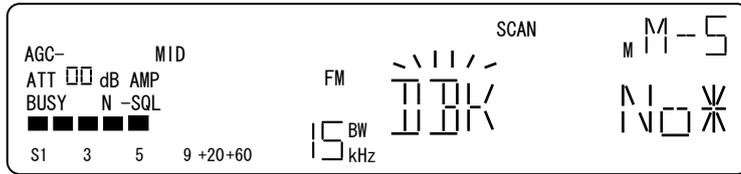
メモリスキャン([FUNC] + [MEM]) では、[FUNCL]+[0] で、消去メニューに移行できます。消去メニューでは、メモリスキャンで使っているメモリーバンク内のメモリーチャンネルを一括消去、パス設定、セレクト設定、一括解除することができます。このときの [FUNCL]+[0] は、スキャン継続中、スキャン停止中ともに有効です。

## 9-4-1. 操作

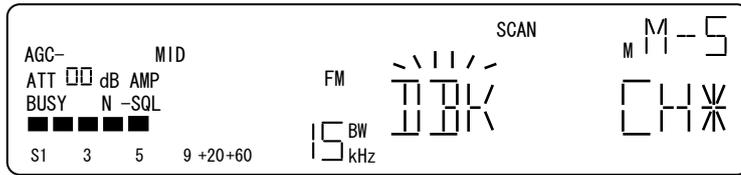
No	操作	選択設定内容	説明
	[FUNCL]+[0]	消去メニューへ移行	
1	[ダイヤル]	バンク#選択	[ダイヤル]で、メモリーバンク番号を0→1→2→3→4→5→6→7→8→9→0のように順次選択します。ただし、他のサブメニューへ移行した後は、バンク番号の選択へは戻れません。
2	[UP] [DOWN]	サブメニュー 選択	[UP]毎に、サブメニューチャンネル一括消去→パス設定一括解除→セレクト設定一括解除→チャンネル一括消去のように順次選択します。[DOWN]では反対方向に順次選択します。
3	[PASS]	チャンネル一括消去	選択したメモリーバンク内の登録されたメモリーチャンネルの消去を仮確定します。
		パス設定一括解除	選択したメモリーバンク内のパス設定の全て解除を仮確定します。
		セレクト設定一括解除	選択したメモリーバンク内のセレクト設定の全て解除を仮確定します。
4	[EXIT]	操作取消し	操作、仮確定をクリアして、直前のメモリーチャンネルに戻ります。
5	[ENT]	確定	仮確定を確認にして、メモリーチャンネルに戻ります。メモリーバンク内のメモリーチャンネルを消去したときは、次メモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルに移行します。全てのメモリーバンクが消去した場合は、最後に読み出していた DIAL#へ移行します。

サブメニューの選択

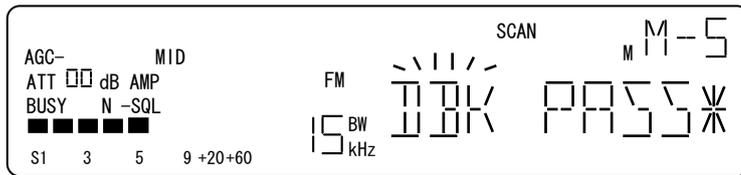
メモリスキャンから、[FUNCL]+[0] で消去メニューに移行した後、消去メニューを適用するメモリーバンク番号をダイヤルで選択します。その後は、[UP][DOWN]で以下のサブメニューを選択します。サブメニューに移行するとメモリーバンク番号の選択には戻ることができません。



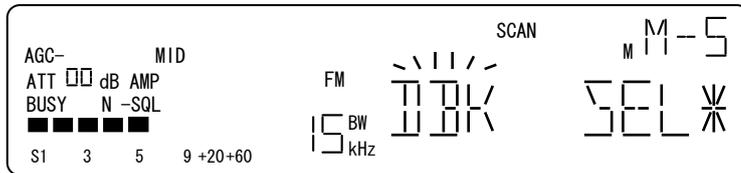
消去メニューに移行した直後は、メモリーバンク番号の選択になります。



セレクト設定一括解除の時、[UP]で、バンク内の登録チャンネル一括消去になります。



登録チャンネル一括消去の時、[UP]で、バンク内のパス設定一括解除になります。

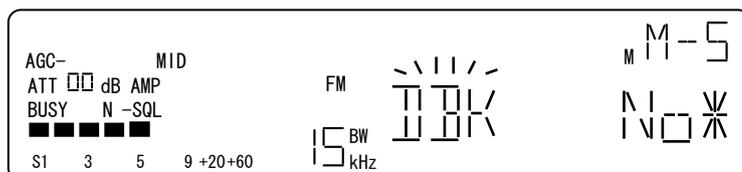


バンク内のパス設定一括解除の時、[UP]で、セレクト設定一括解除になります。

## 9-4-2. メモリーバンク番号の選択

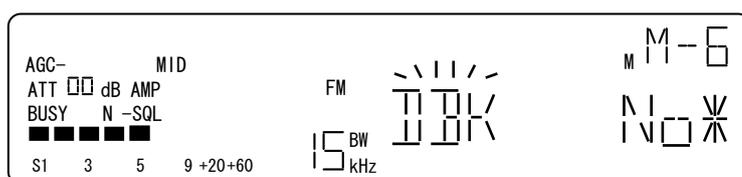
ここでは、消去メニューを適用するメモリーバンク番号を選択します。

メモリスキャンから[FUNCL]+[0]で消去メニューに移行すると、[ダイヤル]で消去作業をするメモリーバンク番号を選択します。なお、[UP][DOWN]でサブメニューに移行した後は、メモリーバンク番号の選択には戻れません。

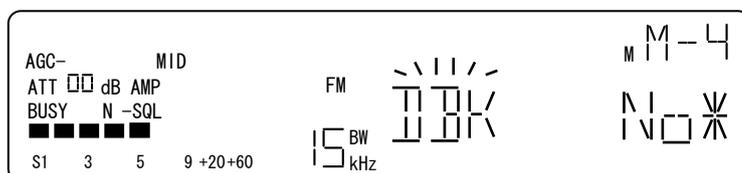


消去メニューに移行した直後の表示例。バンク番号選択になります。

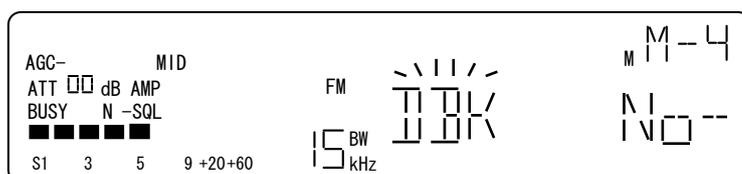
LCDの右上の状態表示部には、「M-#」(上の例では5)が点灯されます。この番号が消去するメモリーバンク番号です。周波数表示部には、「DBK」が点滅表示され、「No」を点灯表示します。このとき、[ダイヤル右回り]1クリック毎に、メモリーバンク#を昇順に順次選択でき、[ダイヤル左回り]1クリック毎で降順に順次選択できます。



M-5 表示の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで、  
M-6 になります。



M-5 表示の時、  
[ダイヤル左回り]1クリックで、  
M-4 表示になります。

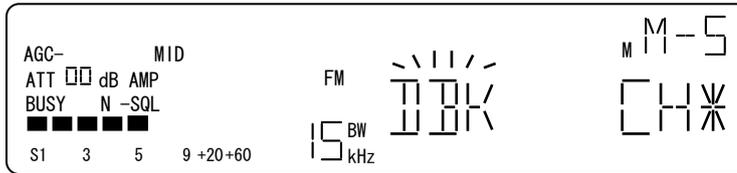


メモリーチャンネルが登録されていないメモリーバンク選択した時は、周波数表示部の右端の桁が、「-」表示となります。

## 9-4-3. チャンネル一括消去

ここでは、9-4-2. で選択した消去メニューを適用するメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルの一括消去を行います。

メモリーバンク番号を選択したのち、[UP] または[DOWN]で下例のようなチャンネル一括消去にします。



チャンネル一括消去の表示例

LCDの右上の状態表示部には、選択した「M-#」(上の例では5)が表示されていて、周波数表示部には、「DBK」が点滅表示、「CH」を点灯表示します。選択したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルがない場合には、周波数表示部の最右桁は、「-」になります。

上の例は、メモリーバンク5に登録されているメモリーチャンネルが存在していることを表しています。

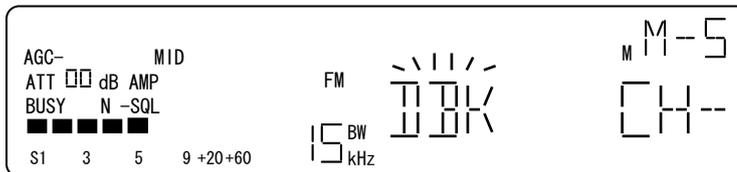
## 操作

- ・ [PASS]で、メモリーバンク内の登録チャンネルの一括消去を仮確定し、周波数表示部の最右桁が「-」表示になります。登録されているチャンネルがないときは、エラートーンを返します。

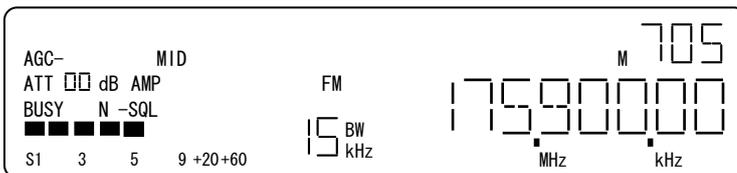
- ・ [ENT]で、仮確定した消去を確定します。

消去を確定後は、次のメモリーバンクの登録されているメモリーチャンネルを読み出します。

登録されているメモリーチャンネルがない場合には、最後に使っていた DIAL#へ移行します。



[PASS]で、チャンネル一括消去を仮確定し、周波数表示部最右1桁が「-」表示になります。

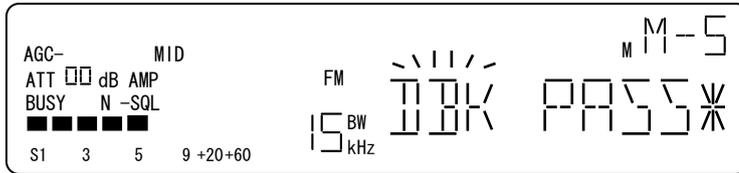


仮確定したあと、[ENT]で消去が確定します。次のメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルを読み出します。

なお、チャンネル一括消去内で、[PASS]より先に[ENT]をした場合には、メモリーチャンネルは消去されないまま戻ります。

## 9-4-4. パス設定一括解除

ここでは、9-4-2. で選択した消去メニューを適用するメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルのパス設定を一括解除できます。メモリーバンク番号を選択したのち、[UP] または[DOWN]で下例のようなパス設定一括解除にします。



パス設定一括解除の表示例

LCDの右上の状態表示部には、選択した「M-#」(上の例では5)が表示されていて、周波数表示部には、「DBK」が点滅表示、「PASS」を点灯表示します。選択したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルにパス設定がされていない場合には、周波数表示部の最右桁は、「-」になります。

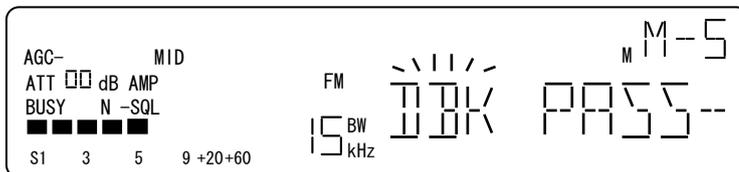
上の例は、メモリーバンク5に登録されているメモリーチャンネルにパス設定がされていることを表しています。

## 操作例

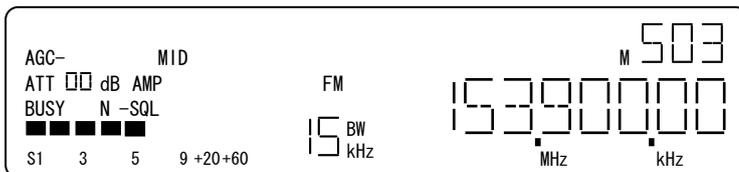
・[PASS]で、パス設定一括解除を仮確定し、周波数表示部の最右桁が「-」表示になります。バンク内のメモリーチャンネルにパス設定がされていないときは、エラートーンを返します。

・[ENT]で、仮確定していた解除を確定します。

パス設定の一括解除後は、直前に読み出していたメモリーチャンネルに戻ります。



[PASS]で、パス設定一括解除を仮確定します。周波数表示部1桁が「-」表示になります。



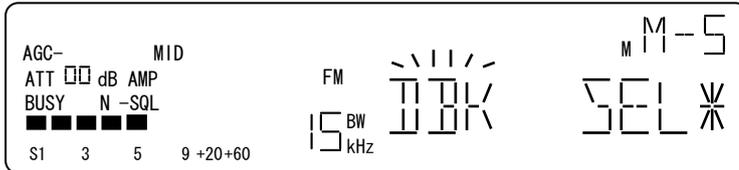
仮確定したパス設定一括解除を[ENT]で確定します。確定後は、直前のメモリーチャンネル読み出しに戻ります。

(例ではバンク5の03チャンネル)

[PASS]より前に、[ENT]を入力した場合、パス設定は解除されないでメモリーリードに戻ります。

## 9-4-5. セレクト設定一括解除

ここでは、9-4-2. で選択した消去メニューを適用するメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルのセレクト設定を一括解除できます。メモリーバンク番号を選択したのち、[UP] または[DOWN]で下例のようなセレクト設定一括解除にします。

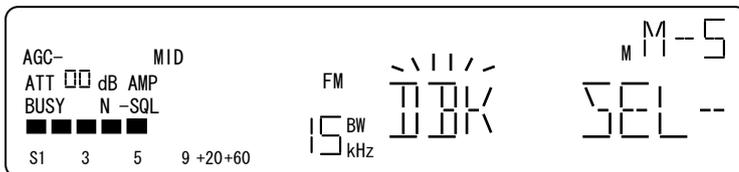


セレクト設定一括解除の表示例

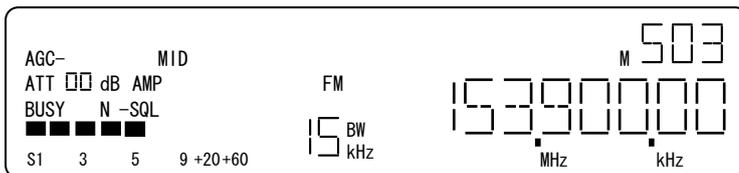
LCDの右上の状態表示部には、選択した「M-#」（上の例では5）が表示されていて、周波数表示部には、「DBK」が点滅表示、「SEL」を点灯表示します。選択したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルにセレクト設定がされていない場合には、周波数表示部の最右桁は、「-」になります。上の例は、メモリーバンク5に登録されているメモリーチャンネルにセレクト設定がされていることを表しています。

## 操作例

- ・ [PASS]で、セレクト設定一括解除を仮確定します、周波数表示部の最右桁が「-」表示になります。バンク内のメモリーチャンネルにセレクト設定がされていないときは、エラートーンを返します。
- ・ [ENT]で、仮確定していたセレクト解除を確定します。セレクト設定の一括解除後は、直前に読み出していたメモリーチャンネルに戻ります。



[PASS]で、セレクト設定一括解除を仮確定します。このとき、周波数表示部最右桁が「-」になります。



仮確定中に[ENT]で、セレクト設定一括解除が確定し、直前に読み出していたメモリーチャンネルに戻ります。

[PASS]より前に、[ENT]を入力した場合、セレクト設定は解除されずにメモリーリードに戻ります。

## 10. セレクトスキャンでのメモリーチャンネルに関する操作と動作

セレクトスキャンとは、登録されているメモリーチャンネルのうち、セレクト設定がされているメモリーチャンネルのみを対象にしたメモリースキャンの動作です。セレクトスキャンでは、メモリーバンクに関わらず、セレクト設定されているメモリーチャンネルのみをスキヤニングの対象とします。

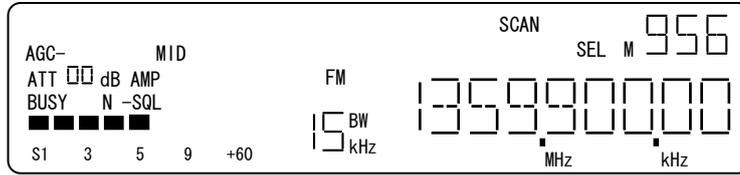
セレクトスキャンには、ダイヤル、メモリーリード、メモリースキャン、サーチのとき、[FUNC]+[7] (S.SCAN) で移行します。

ただし、セレクト設定されているメモリーチャンネルがない場合には、エラートーンを返します。

### セレクトスキャンでの操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC]+[7]	セレクトスキャン移行	セレクト設定されているメモリーチャンネルがあれば、セレクトスキャンに移行します。
1	[UP] [DOWN]	メモリーチャンネル 設定	【スキャン継続中】 [ダイヤル右回り]1 クリック、[UP]で、セレクトスキャンを昇方向に行います。 [ダイヤル左回り]1 クリック、[DOWN]では降方向にスキャンをします。
2	[ダイヤル]		【スキャン停止中】 [ダイヤル右回り]1 クリック、[UP]毎に、セレクトスキャンを順方向に強制再開します。 [ダイヤル左回り]1 クリック、[DOWN]のとき、降順にセレクトスキャンを強制再開します。
3	[PASS]	パス設定	【スキャン継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【スキャン停止中】 読み出されているメモリーチャンネルのパス設定、解除を交互に切り替えます。パス設定はセレクトスキャンの対象には影響しません。
4	[FUNC]+ [PASS]	セレクト解除	【スキャン継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【スキャン停止中】 読み出されているメモリーチャンネルのセレクトを解除します。解除されたメモリーチャンネルは、セレクトスキャン対象から除外され、次のメモリーチャンネルに移行します。
5	[ENT]	ダイヤルモード へ移行	【スキャン継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【スキャン停止中】 最後に使っていた DIAL#へ移行します。この時、移行先のDIALに読み出されていたメモリーチャンネルの設定を上書きします。

[FUNC]+[7]で、セレクトスキャンに移行するセレクトスキャンの動作が始まります。



セレクトスキャンの表示例

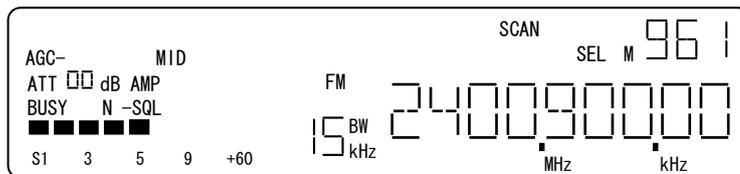
#### 操作例

- [ダイヤル][UP][DOWN]

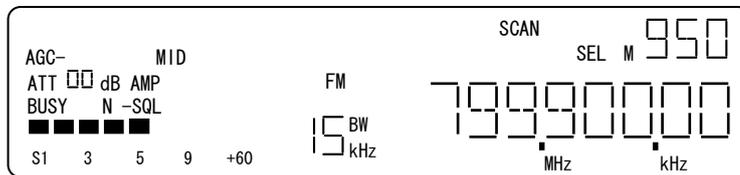
セレクトスキャン継続中に操作すると、[ダイヤル右回り]、[UP] ではスキャン方向を順方向に、[ダイヤル左回り][DOWN]では、スキャン方向を降方向に切り替えます。

セレクトスキャンが停止中に操作すると[ダイヤル右回り]、[UP]では、セレクト設定されたメモリーチャンネルを昇順に順次選択します。[ダイヤル左回り]、[DOWN]では降順に順次選択します。

次図は 950、956、961 セレクト設定されているときの例を示しています。



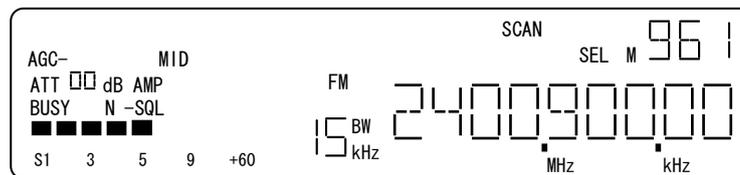
956 の時、  
[ダイヤル右回り]1 クリック  
または、[UP]で  
961 に移行します。



956 の時、  
[ダイヤル左回り]1 クリック  
または、[DOWN]で  
950 に移行します。

- [FUNC]+[PASS] スキャン停止中

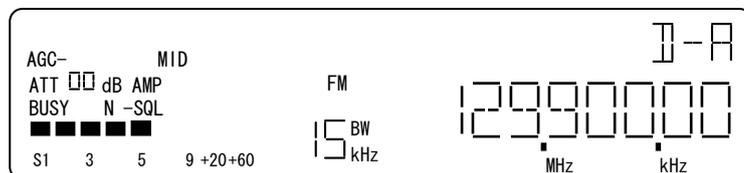
この操作はセレクトスキャンが停止しているときに有効です。[FUNC]+[PASS]で、読み出されていたメモリーチャンネルのセレクト設定が解除されてセレクトスキャンの対象ではなくなり、次のセレクト設定されているメモリーチャンネルに移行します。



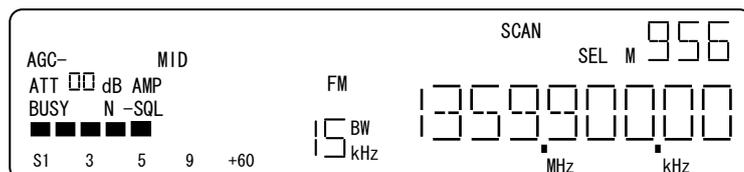
956 でセレクトスキャン停止中に、[FUNC]+[PASS]で  
956 のセレクト設定が解除されま  
す。次のセレクト設定されてい  
る 961 に移行します。

・[ENT] スキャン停止中

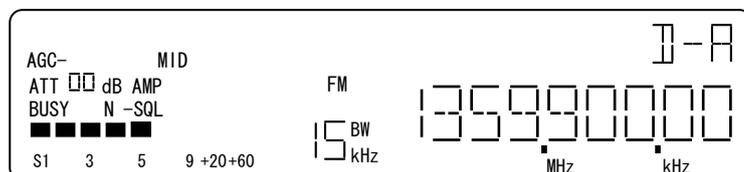
この操作はセレクトスキャンが停止しているときに有効です。[ENT]で、最後に使っていた DIAL#へ移行します。このとき、DIAL#は読み出していたセレクト設定されているメモリーチャンネルの設定を上書きします。



最後に使っていた DIAL (左図では DIAL-A)



セレクトスキャン停止中



[ENT]で、最後に読み出されていた DIAL-A に移行します。このとき、DIAL-A は上書きされます。

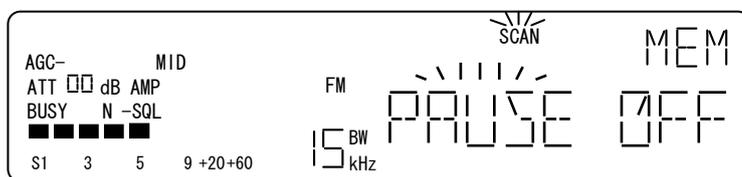
## 11. メモリスキャンの環境設定

[FUNCL]+[MEM] で移行するメモリスキャンの環境設定を示します。ここではメモリスキャンに共通する設定項目について、それぞれ設定ができます。

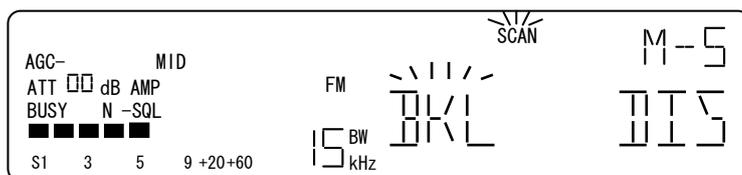
### 11-1. 操作 (メモリスキャンの環境設定)

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNCL]+[MEM]		メモリスキャンの環境設定へ移行します 移行直後は、ポーズ(PAUSE)時間設定になります。
2	[UP] [DOWN]	サブメニュー 選択	[UP][DOWN] で、サブメニュー  PAUSE 時間設定→リンク対象/対象外設定→ リンク ON/OFF 設定  を順次選択できます。
3	[ダイヤル]	PAUSE 時間設定	[ダイヤル]で、ポーズ時間を 1→2→3→4→5→6→7→8→9→0 のように順次選択できます。設定範囲は、1 秒単位で 1 ～60 秒です
		リンク対象 バンク# 選択	[ダイヤル]で、メモリーバンク番号 0→1→2→3→4→5→6→7→8→9→0 を順次呼出します。
4	[PASS]	ポーズ時間・OFF 設定値選択	[PASS]で、  オフ と 設定値(オン) を交互に切替えます。  オフ は、ポーズ機能を無効にして、メモリスキャンの 停止条件が保たれている間その周波数で停止します。 設定値(オン)は、-ポーズ機能が有効で、メモリスキャン の停止条件が保たれていても、ポーズ時間が経過後 にメモリスキャンを再開します。
		リンク対象 設定/解除	[PASS]で、選択されているメモリーバンク番号をバンク リンクの対象にするかしないか設定をします。 ENA:対象 または DIS:対象でない を交互に切替えます。
		リンク オン/オフ設定	[PASS]入力毎に、リンクの オン/オフを交互に切替 えます。
5	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻り ます。
6	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻る。

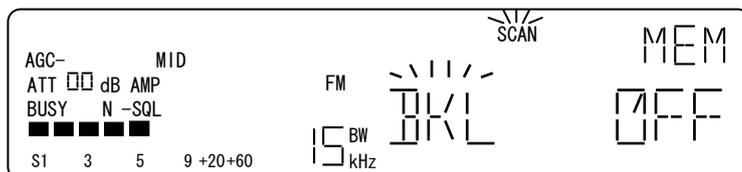
[FUNCL] + [MEM] でメモリスキャンの環境設定に移行したあと、[UP]、[DOWN] サブメニューを順次選択できます。



メモリーバンクリンク オン・オフ設定の時に、[UP]で、ポーズ時間設定に切り替わります。



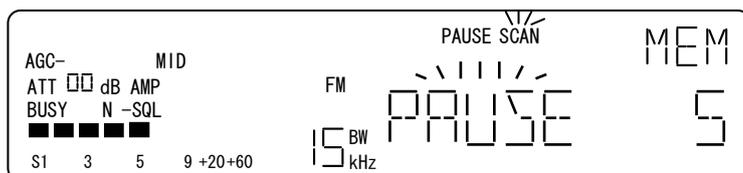
ポーズ時間設定の時、[UP]で、メモリーバンク番号の選択、バンクリンク 対象・対象外設定になります。



バンクリンク 対象・対象外設定の時、[UP]で、メモリーバンクリンク オン・オフ設定になります。

## 11-2. ポーズ（PAUSE）時間の設定

本機のメモリスキャンでのポーズ時間とは、メモリスキャンで受信信号によってメモリスキャンが停止してから、受信信号の継続性に関わらず、メモリスキャンを再開するまでの時間を指しています。ここでは、メモリスキャンが停止してから、強制的にメモリスキャンを再開するまでのポーズ時間を設定します。**[FUNCL]+[MEM]** でメモリスキャンの環境設定に移行すると、はじめはポーズ時間の設定になります。



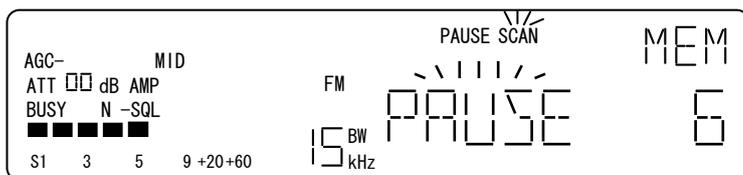
ポーズ時間設定の表示例  
(ポーズ時間が5秒)

### 操作

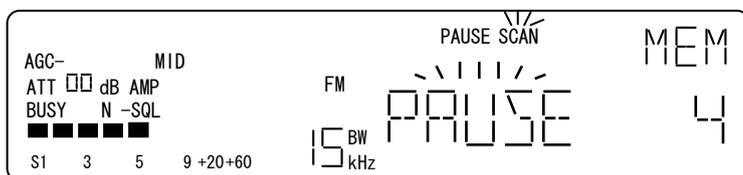
#### ・ポーズ時間の設定

[ダイヤル]で、ポーズ時間を設定します。1秒単位で、1～60秒の範囲で設定できます。

ただし、「PAUSE OFF」のときは、[ダイヤル]は無効になります。



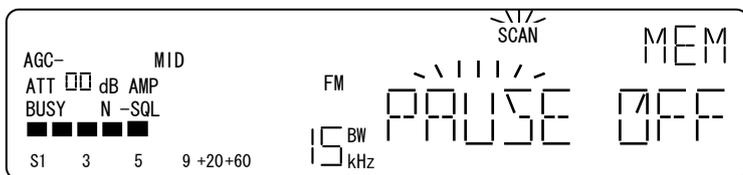
「5」の時、  
[ダイヤル右回り]1クリック  
「6」になります。



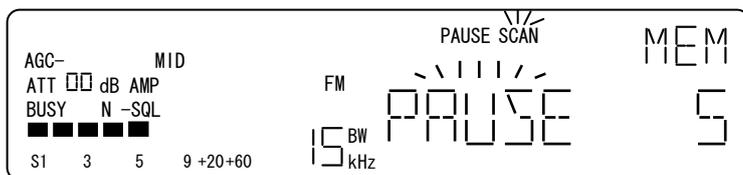
「5」の時、  
[ダイヤル左回り]1クリック  
「4」になります。

#### ・ポーズの オン・オフ 設定

[PASS]で、ポーズのオン/オフを交互に切替えます。オン(ON)は、ポーズ機能有りで、ポーズ時間が表示されます。メモリスキャンの停止条件が保たれていても、設定したポーズ時間が経過すると、メモリスキャンを再開します。オフ(OFF)ではポーズ機能は動作しません。



「5」の時、[PASS]で、  
「OFF」になります。



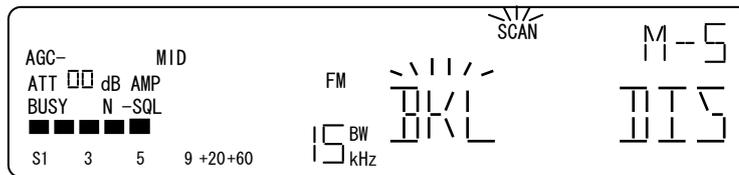
「OFF」の時、[PASS]で  
過去に設定していたポーズ時間  
になります。(左の例では5秒)

### 11-3. メモリーバンクリンク 対象・対象外 設定

本機のメモリーバンクリンクとは、複数の選択したメモリーバンクを連ねてメモリスキャンする機能を指しています。また、複数の選択したサーチバンクを連ねてサーチバンクリンクと呼んでいます。

[FUNCL]+[MEM] で、メモリスキャンの環境設定に移行したあと、[UP]または[DOWN]でメモリーバンクリンク 対象・対象外設定に移行すると、LCD の状態表示部には、「M - #」のように設定するメモリーバンク番号を表示し、周波数表示部には、「BKL」が点滅します。

その時、例のように 設定するメモリーバンクが、バンクリンクの対象なら「ENA」が、対象外なら、「DIS」が表示されます。

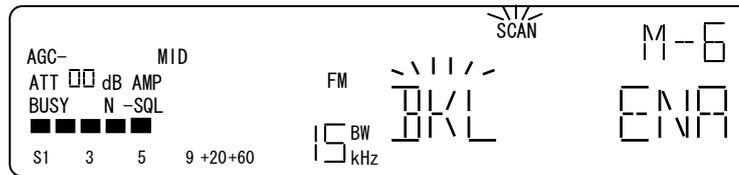


メモリーバンクリンク  
対象・対象外設定の表示例  
(メモリーバンク5が対象外の例)

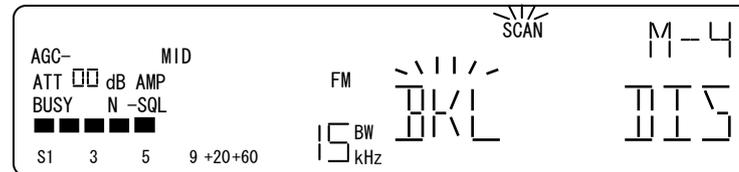
#### 操作

##### ・バンク番号の選択

[ダイヤル]で、メモリーバンク番号を#選択します。



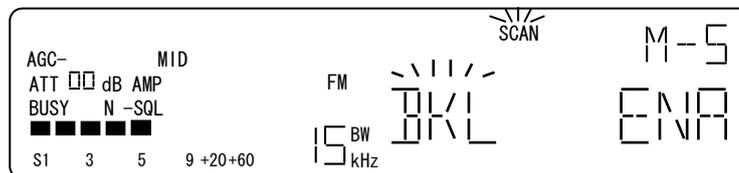
「M-5」の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
「M-6」になった例。  
バンク6は、バンクリンクの対象  
に設定されていた例です。



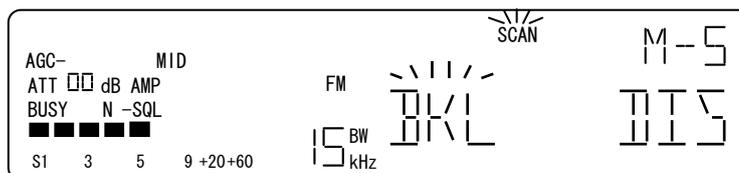
「M-5」の時、  
[ダイヤル左回り]1クリックで、  
「M-4」になった例。  
バンク4は、バンクリンクの対象  
外に設定されていた例です。

##### ・バンクリンク、対象・対象外の設定

[PASS]入力毎に、リンク対象/対象外を交互に切替え、仮確定されます。



「DIS」(対象外)の時、  
[PASS]で、「ENA」になり、  
バンクリンクの対象に仮確定しま  
す。

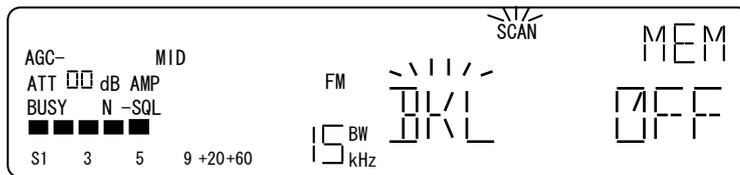


「ENA」(対象)の時、  
[PASS]で、「DIS」になり、  
バンクリンクの対象外に仮確定さ  
れます。

## 11-4. メモリーバンクリンク オン・オフの設定

ここでは、11-3 項で設定した各メモリーバンクのバンクリンク設定に基づいて、メモリーバンクリンク機能自体を有効(オン)にするかしないかの設定を行います。

[FUNCL]+[MEM] で、メモリスキャンの環境設定に移行したあと、[UP]または[DOWN]でメモリーバンクリンク オン・オフ設定に移行すると、LCD の状態表示部には、「MEM」と表示され、周波数表示部には、「BKL」が点滅します。その時、例のようにメモリーバンクリンク機能の状態を表示します。メモリーバンクリンクがオン(有効)なら「ON」が、オフ(無効)なら「OFF」が点灯表示されます。

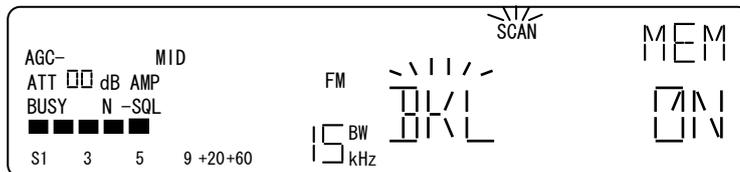


メモリーバンクリンク オン・オフ  
の設定 表示例  
(左の例は、オフです)

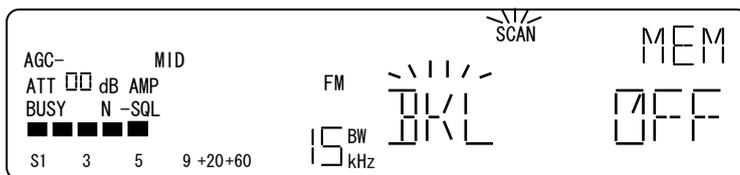
### 操作

・バンクリンクのオン・オフ設定。

[PASS]入力毎に、メモリーバンクリンクのオン・オフを交互に切替え、仮確定します。



「OFF」の時、  
[PASS]で、「ON」に切り替わり  
ます。



「ON」の時、  
[PASS]で、「OFF」に切り替わり  
ます。

## 12. ダイヤルサーチでの操作

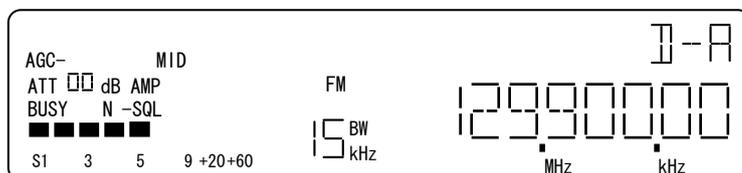
ダイヤルサーチは、使っているダイヤル# で設定しているステップ周波数の間隔で次々と受信周波数を変化させて信号を探す機能です。メモリスキャンやプログラムサーチと同様に、主にスケルチ回路の動作と連動します。スケルチが閉じていて受信周波数が次々と変化しているときを「サーチ継続中」、スケルチ回路が開いて受信しているときを「サーチ停止中」と呼びます。ダイヤルサーチには、ダイヤルモードで、[UPL]、または[DOWNL] で移行します。

### 12-1. 操作

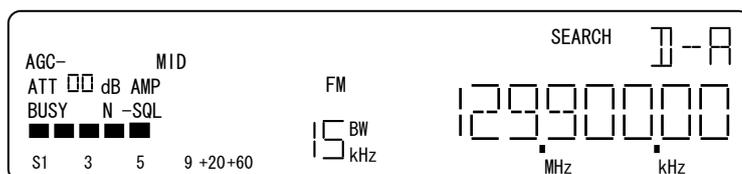
No	操作	選択設定内容	説明
1	[UPL] [DOWNL]	ダイヤルサーチへ移行	
2	[0~9] [.]	受信周波数変更	【サーチ継続中】【サーチ停止中】 ダイヤルモードと同様に受信周波数を変更できます。受信周波数を変更するとダイヤルサーチからダイヤルモードに移行します。
3	[UP] [DOWN]	受信周波数変更 サーチ方向変更 サーチ強制再開	【サーチ継続中】 [ダイヤル右回り]1クリック、[UP]で、受信周波数をステップ周波数だけ上側に変更し、サーチを昇方向にします。 [ダイヤル左回り]1クリック、[DOWN]で、受信周波数をステップ周波数だけ下側に変更し、サーチを降方向にします。 【サーチ停止中】 [ダイヤル右回り]、[UP]で、サーチを昇順方向に強制再開します。 [ダイヤル左回り]、[DOWN]で、サーチを降順方向に強制再開します。
4	[ダイヤル]		
5	[PASS]	パス設定	【サーチ継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【サーチ停止中】 受信周波数にパス設定をし、次の周波数に移行します。パス設定された受信周波数は、ダイヤルサーチの対象から除外されます。
6	[FUNCL]+[0]	消去メニュー	消去メニューへ移行します。
7	[ENT]	ダイヤルモードへ移行	【スキャン継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【スキャン停止中】 停止していた周波数のまま DIAL#へ移行します。

## 12-2. ダイヤルサーチモード

[UPL]、[DOWNL]で、ダイヤルサーチに移行すると、LCDの「SEARCH」セグメントが点灯して、サーチ動作が始まります。



移行前のダイヤルモードの表示例



ダイヤルサーチに移行したときの表示例

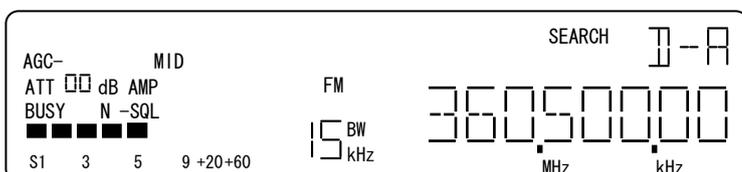
## 操作例

- [0~9][.]

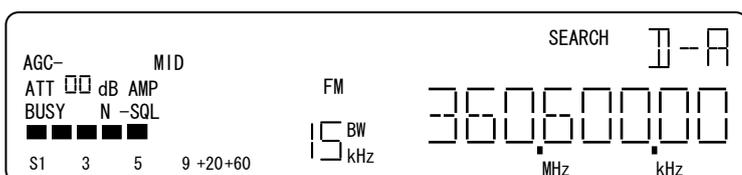
受信周波数を変更できます。[0~9][.]入力で、信周波数を変更するとダイヤルサーチからダイヤルモードに移行します。

- [ダイヤル][UP][DOWN]

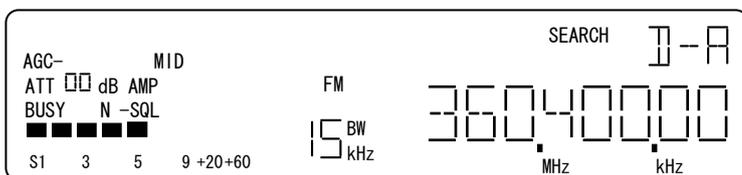
サーチ継続中のときは、サーチ方向を変更します。サーチ停止中のときは、サーチを強制再開する。



ダイヤルサーチ 停止中の例  
(ステップ 100kHz)



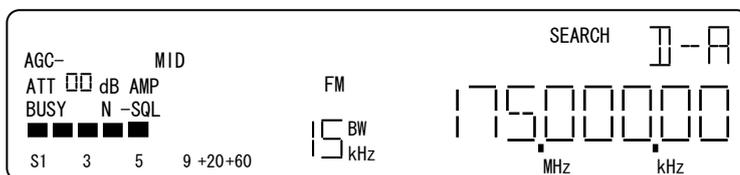
[ダイヤル右回り]、[UP]で、昇方向にサーチを強制再開します。



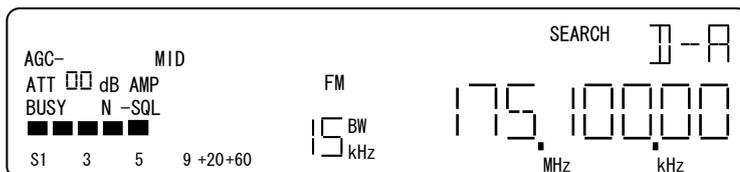
[ダイヤル左回り]、[DOWN]で降方向にサーチを強制再開します。

・[PASS] (サーチ停止中に有効)

停止している受信周波数にパス設定をして、次のサーチ周波数に移行します。このときパス設定された受信周波数は、ダイヤルサーチの対象から除外されます。



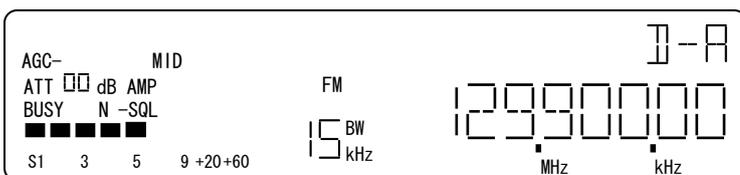
ダイヤルサーチ停止中の表示例  
(ステップ周波数 100kHz)



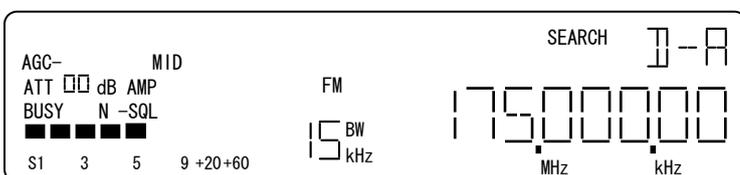
[PASS]で、  
175.000000 にパス設定をして、  
次のサーチ周波数に変更、サーチ  
を継続します。

・[ENT] (サーチ停止中に有効)

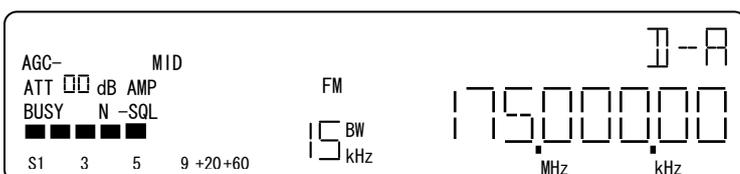
停止中の受信周波数のまま、ダイヤルモードへ移行します。



ダイヤルサーチに移行する前の  
ダイヤルモードの表示例



ダイヤルサーチが停止したとき  
の表示例



[ENT]で、停止した受信周波数  
のまま、ダイヤルモードに移行し  
ます。

### 12-3. ダイヤルサーチでの消去メニュー

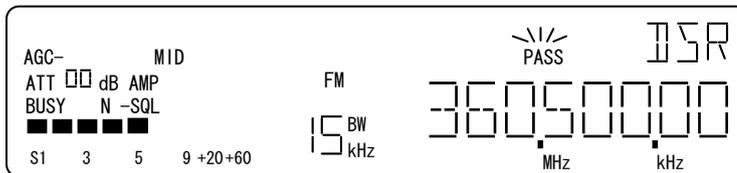
ダイヤルサーチでは、[FUNCL]+[0] で消去メニューに移行できます。消去メニューでは、使っている DIAL#の周波数パス設定の個別解除、一括解除ができます。[FUNCL]+[0] は、サーチ継続中、サーチ停止中ともに有効です。

#### 12-3-1. 操作

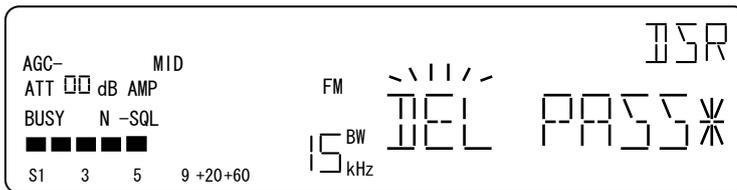
No	操作	選択設定内容	説明
1	[UP] [DOWN]	サブメニュー選択	[UP] [DOWN] で、サブメニュー 個別解除 → 一括解除 を交互に選択します。
2	[ダイヤル]	パス設定解除対象の 受信周波数選択 (個別解除のみ)	[ダイヤル]で、パス設定されている受信周波数を順次 選択します。
3	[PASS]	個別解除	選択されている受信周波数のパス設定の解除を仮確定 します。
		一括解除	DIAL(A-F)共通の全パス設定の解除を仮確定します。
4	[EXIT]	操作取消し	操作、仮確定をクリアして、直前の DIAL#に戻ります。
5	[ENT]	確定	仮確定を確定して、直前の DIAL#に戻ります。

サブメニュー選択

[UP]、[DOWN]で、個別解除 と 一括解除 を交互に選択できます。



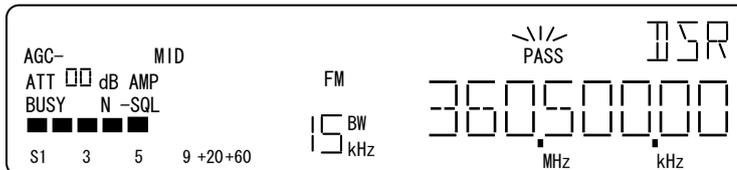
一括解除の時、[UP]、または  
[DOWN]で、個別解除になります。



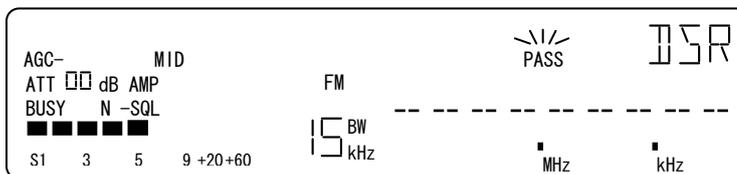
個別解除の時、[UP]、または  
[DOWN]で、一括解除になります。

## 12-3-2. パス設定の個別解除 (ダイヤルサーチ)

ダイヤルサーチから [FUNCL]+[0] で消去メニューに移行すると、[UP][DOWN]で、個別解除と一括解除の選択ができます。ここでは、個別解除の操作を示します。パス設定の個別解除に移行すると、LCDの状態表示部には「DSR」が表示され、パス設定されている受信周波数が表示されます。パス設定されている受信周波数がない場合には、周波数表示部に「-----」が表示されます。



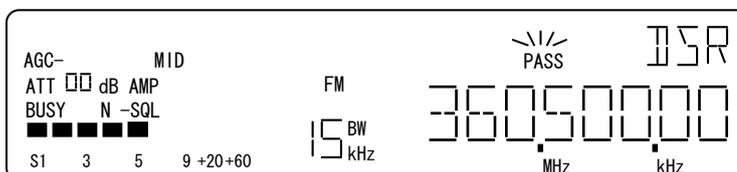
ダイヤルサーチの消去トメニュー  
パス設定の個別解除の表示例  
(パス設定された周波数ある場合)



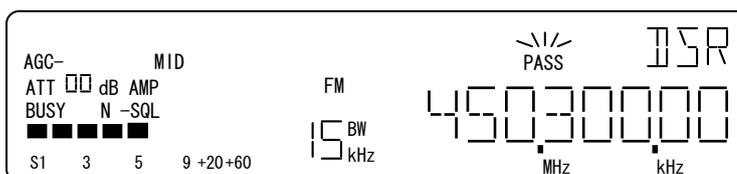
ダイヤルサーチの消去トメニュー  
パス設定の個別解除の表示例  
(パス設定された周波数のない場合)

## 操作

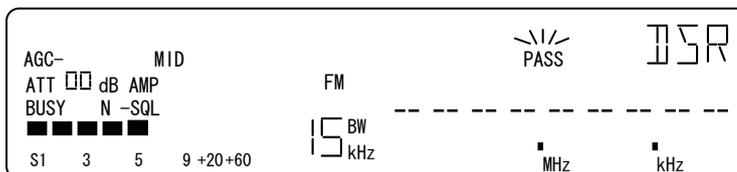
- ・ [ダイヤル]で、パス設定された受信周波数を順次選択できます。右回りで昇順、左回りで降順です。
- ・ [PASS]で、パス設定解除を仮確定して、次のパス設定された受信周波数を表示します。パス設定された受信周波数がない場合は、エラートーンを返します。
- ・ [ENT]で、仮確定したパス設定の解除を確定します。



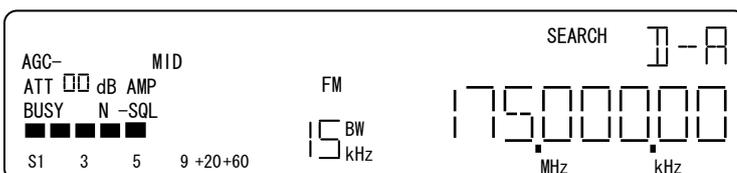
ダイヤルサーチの消去トメニュー  
パス設定の個別解除の表示例  
(パス設定された周波数ある場合)



[PASS]で、パス設定解除を仮確定して、次のパス設定された受信周波数を表示している例。



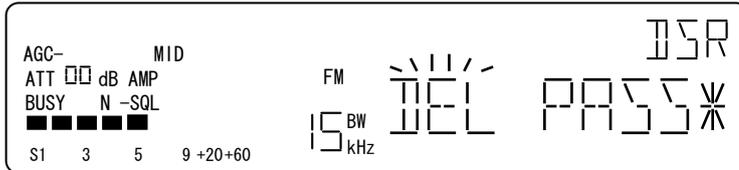
[PASS]の後、次のパス設定された受信周波数がない表示例。周波数表示部に「-----」が表示されます。



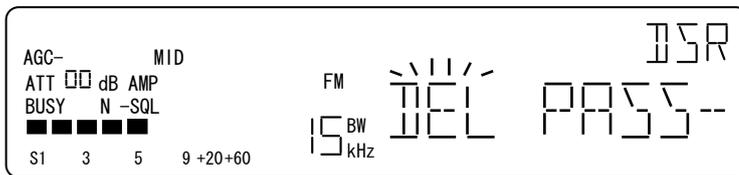
[ENT]で、パス設定解除の仮確定を確定して、消去メニューに移行する直前の受信周波数に戻ります。

## 12-3-3. パス設定の一括解除 (ダイヤルサーチ)

ダイヤルサーチから [FUNCL]+[0] で消去メニューに移行すると、[UP][DOWN]で、個別解除と一括解除の選択ができます。ここでは、一括解除の操作を示します。パス設定の一括解除に移行すると、LCDの状態表示部には「DSR」が表示され、周波数表示部に「DEL PASS」が表示されます。パス設定されている受信周波数があれば、周波数表示部の最右桁に「\*」(アスタリスク)が表示されます。パス設定されている受信周波数がない場合には、周波数表示部の最右桁に「-」が表示されます。



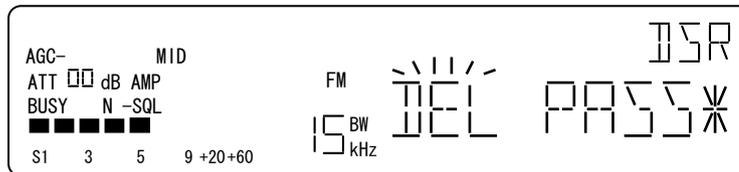
パス設定の一括解除の表示例  
(パス設定された受信周波数がある場合)



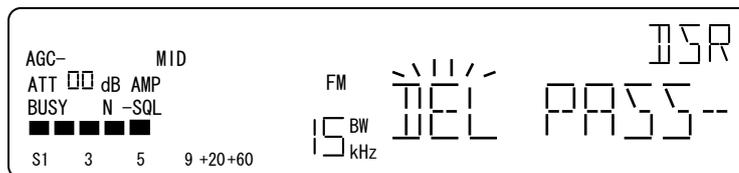
パス設定の一括解除の表示例  
(パス設定された受信周波数がない場合)

## 操作例

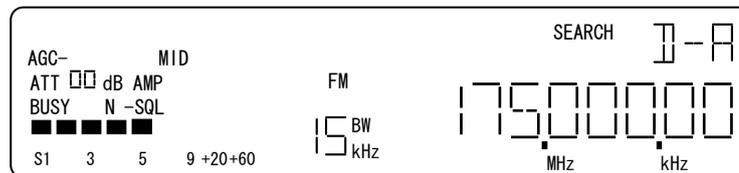
- [PASS]で、パス設定の一括解除を仮確定し、周波数表示部の最右桁が、「\*」から「-」になります。パス設定されている受信周波数がない場合には、エラートーンを返します。
- [ENT]で、仮確定したパス設定の一括解除を解除は確定して、直前の受信周波数に戻ります。



パス設定の一括解除の表示例  
(パス設定された受信周波数がある場合)



[PASS]で、パス設定の一括解除を仮確定します。周波数表示部 1 桁が「-」表示になります。



[ENT]で、仮確定を確定して、直前の受信周波数に戻ります。

## 13. ダイヤルサーチの環境設定

ここでは、ダイヤルサーチに関する環境設定を行います。

ダイヤルサーチの環境設定の設定項目は、ポーズ時間の設定のみです。

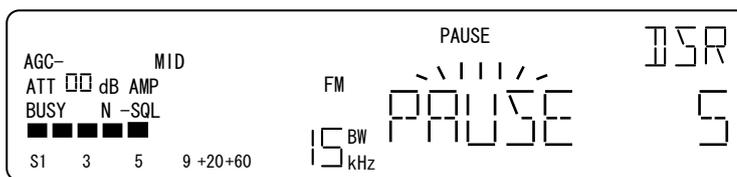
### 13-1. 操作

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNCL]+[DIAL]		ダイヤルサーチ環境設定に移行します。
2	[ダイヤル]	ポーズ時間の設定	[ダイヤル]で、ポーズ時間を 1→2→3→4→ $\curvearrowright$ →58→59→60→1 のように順次選択できます。 設定範囲は、1秒単位で1～60秒です。
3	[PASS]	ポーズ時間 オフ・設定値 の選択	[PASS]毎に、オフ / 設定値を交互に切替えて仮確定します。
4	[EXIT]	操作取消し	操作、仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
5	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

### 13-2. ポーズ(PAUSE)時間設定 (ダイヤルサーチ)

本機のダイヤルサーチでのポーズ時間とは、ダイヤルサーチで受信信号によってダイヤルサーチが停止してから、受信信号の継続性に関わらず、ダイヤルサーチを再開するまでの時間を指しています。ここでは、ダイヤルサーチが停止してから、強制的にダイヤルサーチを再開するまでのポーズ時間を設定します。

[FUNCL]+[DIAL] でダイヤルサーチの環境設定に移行すると、LCDの状態表示部には「DSR」が表示され、周波数表示部に「PAUSE」が点滅表示、設定されているポーズ時間が点灯表示されます。

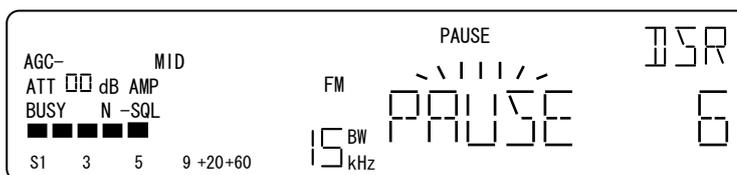


ポーズ時間設定の表示例

#### ・ポーズ時間の設定

[ダイヤル]で、ポーズ時間を設定します。1秒単位で、1～60秒の範囲で設定できます。

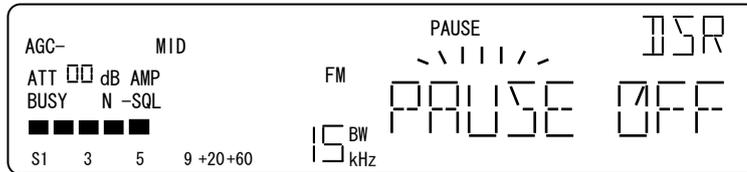
ただし、「PAUSE OFF」のときは、[ダイヤル]は無効になります。



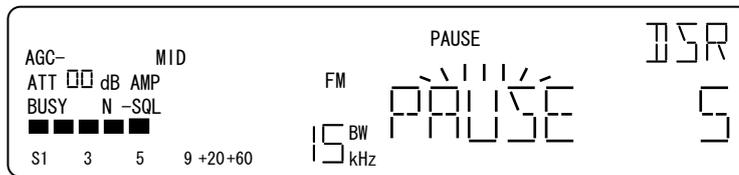
「5」の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
「6」になります。

・ポーズの オン・オフ 設定

[PASS]で、ポーズのオン/オフ を交互に切替えます。 オン(ON)は、ポーズ機能有りで、ポーズ時間が表示されます。ダイヤルサーチの停止条件が保たれていても、設定したポーズ時間が経過すると、ダイヤルサーチを再開します。 オフ(OFF) ではポーズ機能は動作しません。



「5」の時、[PASS]で、「OFF」になります。



「OFF」の時、[PASS]で、「5」になった例。

## 14. プログラムサーチでの操作と動作

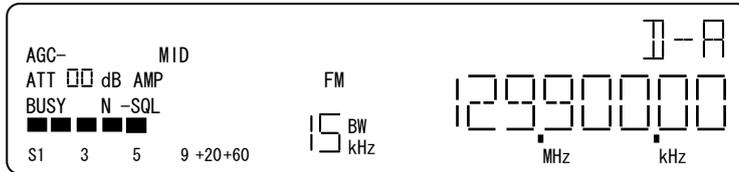
本機のプログラムサーチとは、下限周波数、上限周波数、復調モード、IFBW、ステップ周波数を予め設定して信号を探す機能です。プログラムサーチは 20 通り(サーチバンクが 20)の設定ができ、その中から選択してサーチを実行します。プログラムサーチには、[SRCH] で移行します。

### 14-1. 操作

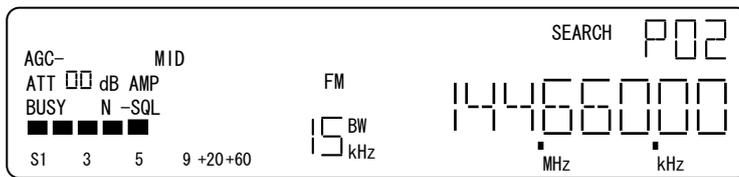
No	操作	選択設定内容	説明
1	[SRCH]	プログラムサーチ へ移行	
2	[0]～[9]	バンク設定	【サーチ継続中】【サーチ停止中】 サーチバンクは、00～19 を 2 桁で指定します。サーチバンク04を指定する場合には、[0]、[4] と指定します。00～19 以外や未登録のサーチバンク番号を入力した場合には、エラートーンを返します。
3	[UP] [DOWN]	受信周波数変更 サーチ方向変更 サーチ強制再開	【サーチ継続中】 [ダイヤル右回り]、[UP]で、サーチを昇方向に変更します。[ダイヤル左回り]、[DOWN]で、サーチを降方向に変更します。 【サーチ停止中】 [ダイヤル右回り]1 クリック、[UP]で、受信周波数をステップ周波数だけ上限側に変更し、サーチを強制再開します。 [ダイヤル左回り]1 クリック、[DOWN]で、受信周波数をステップ周波数だけ下限側に変更して、サーチを強制再開します。
4	[ダイヤル]		
5	[PASS]	パス設定	【サーチ継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【サーチ停止中】 受信周波数にパス設定をし、次の周波数に移行します。パス設定された受信周波数は、ダイヤルサーチの対象から除外されます。
6	[FUNCL]+[0]	消去メニュー	消去メニューへ移行します。
7	[EXIT]	操作取り消し	操作を取消して、直前の状態に戻る。
8	[ENT]	ダイヤルモード へ移行	【スキャン継続中】 この操作は無効で、エラートーンを返します。 【スキャン停止中】 停止していた周波数のまま DIAL#へ移行します。

## 14-2. プログラムサーチ

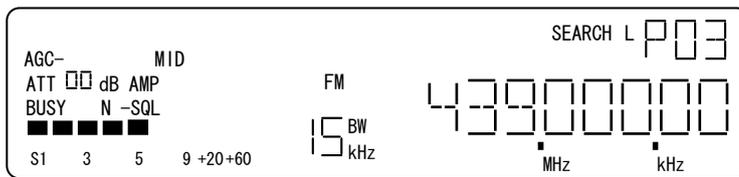
[SRCH] でプログラムサーチに移行すると、LCD の状態表示部に「P02」（下の例）のようにプログラムサーチであることと、サーチバンク番号（例では 02）を示し、LCD セグメント「SEARCH」が点灯します。サーチバンクリンクがオンのときは、LCD セグメント「L」が点灯します。



プログラムサーチに移行する前のダイヤルの表示例



プログラムサーチに移行したときの表示例  
(サーチバンク02  
バンクリンク オフ の例)

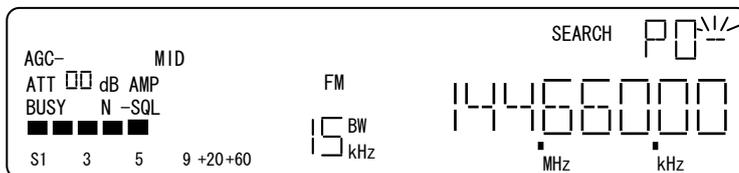


プログラムサーチに移行したときの表示例(サーチバンク03  
バンクリンク オン の例)

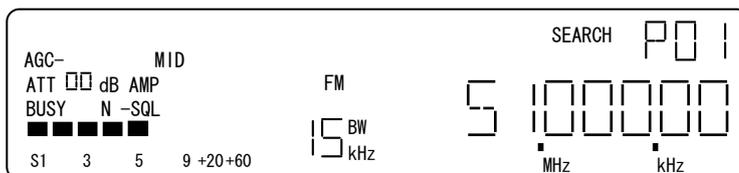
## 操作

- ・ [0]～[9] でサーチバンク番号の設定  
バンク番号を 2 桁入力すると、読み出すサーチバンクを確定します。  
登録されていないサーチ番号や、00-19 以外の番号は無効です。

[0]、[1] と入力した場合の例を示します。1 番目の[0]入力時点は、状態表示部に「0」点灯、1 桁目に「-」を点滅します。2 番目の[1]を入力して、状態表示部に 01 を点灯し、サーチバンク 01 の登録内容を読み出します。最初に表示される受信周波数はそのサーチバンクの下限周波数です。



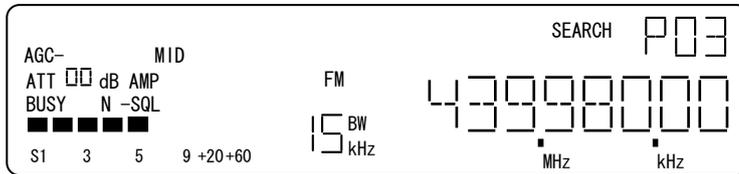
1 番目の「0」で、状態表示部に「0」が点灯、「-」が点滅します。



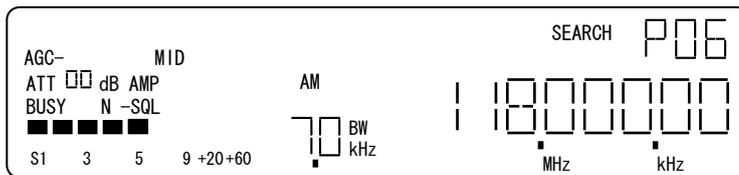
2 番目の「1」で、状態表示部に「0」、「1」が点灯し、サーチバンク 01 を確定します。

- ・ [ダイヤル][UP][DOWN] (サーチ停止中)

[ダイヤル右回り]、または[UP]で昇方向にサーチを強制再開し、[ダイヤル左回り]、または[DOWN]で、降方向にサーチを強制再開します。

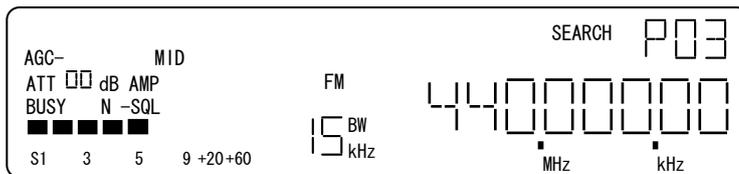


サーチバンク 03 停止中の例  
 下限周波数: 439.000000MHz  
 上限周波数: 440.000000MHz  
 ステップ周波数: 20kHz

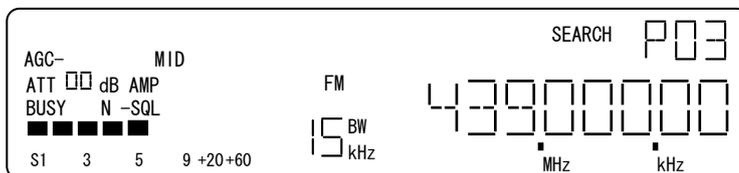


サーチバンク 06 停止中の例  
 下限周波数: 118.000000MHz  
 上限周波数: 136.000000MHz  
 ステップ周波数: 25kHz

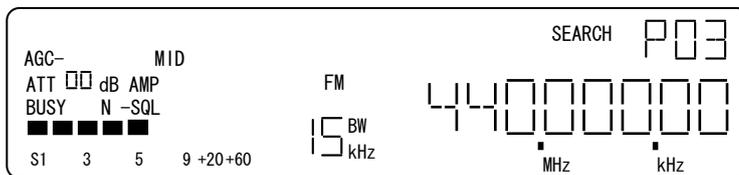
下の例は、サーチバンクリンクが オフ のときの例



サーチバンク 03 で  
 439.98000 で停止中の時、  
 [ダイヤル右回り]または[UP]で、  
 受信周波数をステップ周波数だ  
 け上限側に変更されます。



サーチバンク 03 で、  
 440.00000 で停止中の時、  
 [ダイヤル右回り]または[UP]で、  
 受信周波数をステップ周波数だ  
 け上限側に変更すると下限周波  
 数になった表示例

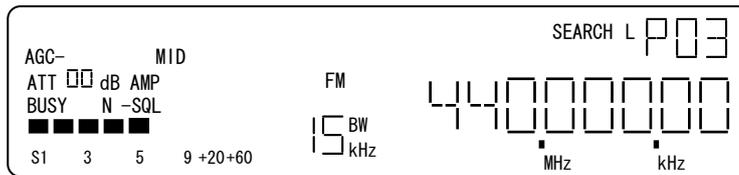


サーチバンク 03 で、  
 430.00000 で、停止中の時、  
 [ダイヤル左回り]または [DOWN]  
 で、受信周波数をステップ周波  
 数だけ下限側に変更すると、上  
 限周波数になった表示例

サーチバンクリンク オンで、バンクリンク設定されているサーチバンクを選択したときは、そのバンクリンク設定に基づいて動作します。ここでは、サーチバンク 03 とサーチバンク 06 がバンクリンク設定されている例を示します。



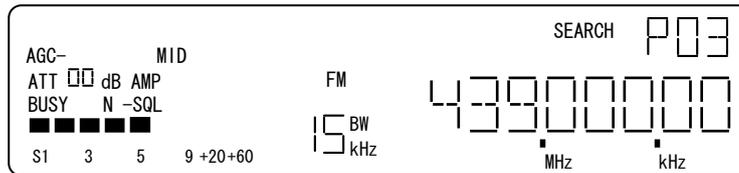
サーチバンク 03 で、440.00000 の時、[ダイヤル右回り]1 クリック、または[UP]で、受信周波数が上限側に変更され、次のリンク設定されたサーチバンク 06 の下限周波数に移行した表示例



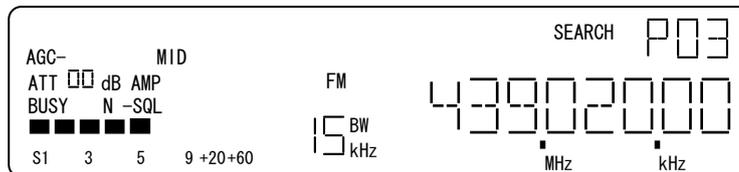
サーチバンク 06 で、118.00000 の時、[ダイヤル左回り]1 クリック、または[DOWN]で、受信周波数が下限側に変更され、次のリンク設定されたサーチバンク 06 の上限周波数に移行した表示例

・ [PASS] (サーチ停止中)

[PASS]で、停止中の受信周波数にパス設定をして、サーチ方向の次周波数に移行します。次の例は、昇方向にサーチしている状態で停止、ステップ周波数は 20kHz を示しています。



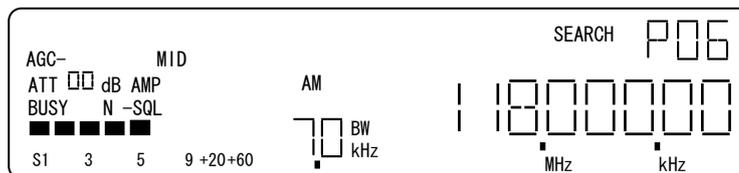
サーチバンク 03 で、サーチ停止中の表示例



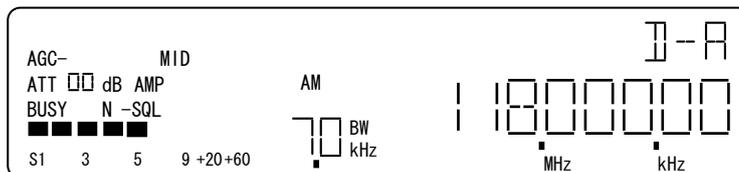
[PASS]で、パス設定すると、サーチ方向の次周波数に移行した表示例

・ [ENT] サーチ停止中

この操作はプログラムサーチが停止しているときに有効です。[ENT]で、最後に使っていた DIAL#へ移行します。このとき、DIAL#は停止していた受信周波数の設定されているサーチバンクの設定を上書きします。



プログラムサーチ停止中の表示例



[ENT]で、過去最後に読み出していた DIAL (例では DIAL-A) へ移行する表示例。

## 14-3. 消去メニュー（プログラムサーチ）

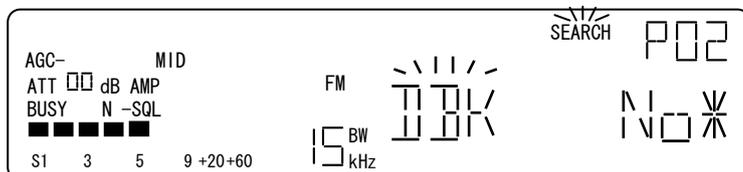
ダイヤルサーチでは、[FUNCL]+[0] で消去メニューに移行できます。消去メニューでは、使っているサーチバンクのデータ設定、パス設定の個別解除、一括解除ができます。[FUNCL]+[0] は、サーチ継続中、サーチ停止中ともに有効です。

## 14-3-1. 操作

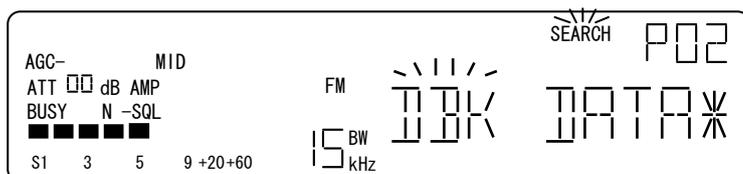
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNCL]+[0]	消去メニューへ移行	
2	[ダイヤル]	サーチバンク番号選択	[ダイヤル]で、サーチバンク番号を00→01→02→03→04→05→ $\left\{ \right\}$ →16→17→18→19→00のように順次選択します。サブメニューへ移行した後は、サーチバンク番号の選択へは戻れません。
3	[UP] [DOWN]	サブメニュー選択	[UP] [DOWN] で、サブメニューサーチデータの消去→パス設定個別解除→パス設定一括解除→サーチデータの消去を順次選択します。
4	[ダイヤル]	パス設定解除対象の受信周波数選択 (個別解除のみ)	[ダイヤル]で、パス設定されている受信周波数を順次選択します。
5	[PASS]	データ設定消去	選択されているサーチバンク番号のデータ消去を仮確定します。
		パス設定個別解除	選択されている受信周波数のパス設定の解除を仮確定します。
		パス設定一括解除	選択しているサーチバンクの全てのパス設定を解除することを仮確定します。
6	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前のプログラムサーチバンクに戻ります。
7	[ENT]	確定	仮確定を確定にして、直前のプログラムサーチバンクに戻ります。サーチバンクのデータを消去した場合は、次のプログラムサーチバンクを読み出します。全てのプログラムサーチバンクのデータ設定が消去したとき、最後に読み出していた DIAL# へ移行します。

## サブメニューの選択

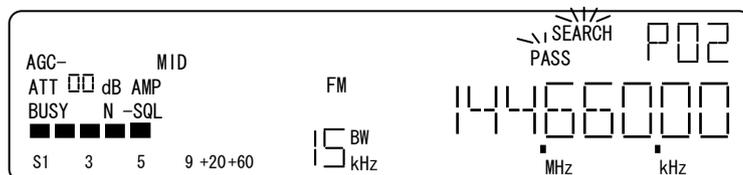
消去メニューの対象とするサーチバンク番号を選択した後は、[UP]、[DOWN] で、サブメニューを選択します。



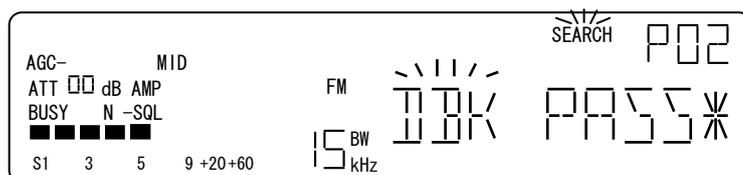
消去メニューに移行した後、サーチバンク番号の選択になります。



サーチバンク番号の選択の時、[UP]でサーチバンクデータの消去になります。



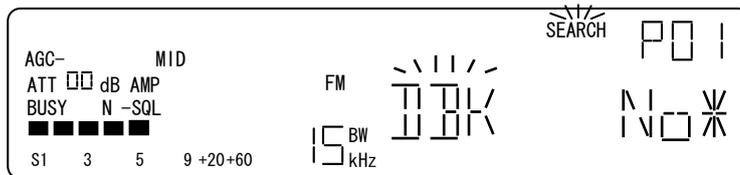
サーチバンクデータの消去の時、[UP]で、パス設定の個別解除になります。



パス設定の個別解除の時、[UP]で、パス設定の一括解除になります。さらに [UP] でサーチバンクデータの消去になります。

## 14-3-2. サーチバンク番号の選択

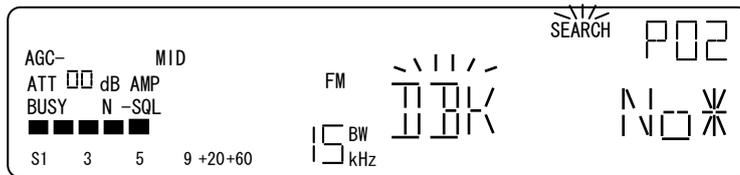
消去メニューに移行した直後は、対象とするサーチバンク番号を選択になります。  
 状態表示部に、サーチバンク番号が「Pnn」(nn=00-19)の形式で表示されます。周波数表示部には、「DBK」が点滅、さらに「No」が点灯表示します。周波数表示部の最右桁には、選択サーチバンク番号に登録があれば、「\*」(アスタリスク)が、登録がなければ、「-」が表示されます。



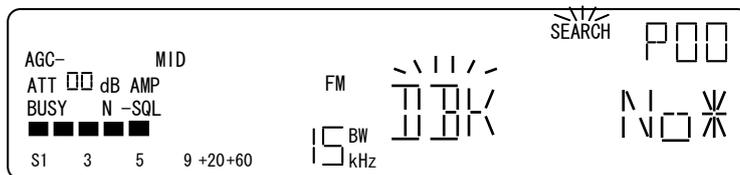
消去メニューに移行した直後の表示例

## 操作

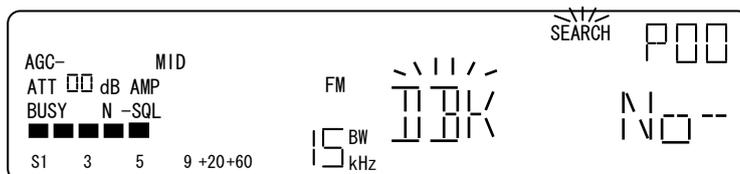
- [ダイヤル]で、サーチバンク番号を順次選択します。



サーチバンク番号 01 なので「P01」の時、[ダイヤル右回り]1 クリックで、「P02」になります。



「P01」の時、[ダイヤル左回り]1 クリックで、「P00」になります。

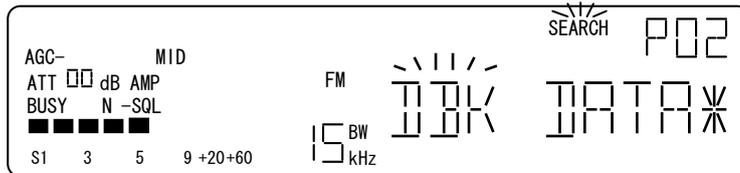


データが登録されていないサーチバンク選択しようとする時、周波数表示部の最右桁が、「-」になります。

## 14-3-3. サーチバンクデータの消去

消去メニューで対象とするサーチバンク番号を選択した後、[UP]、[DOWN]で選択したサーチバンクデータの消去を選択できます。

状態表示部に、サーチバンク番号が「Pnn」(nn=00-19)の形式で表示されます。周波数表示部には、「DBK」が点滅、さらに「DATA」が点灯表示します。周波数表示部の最右桁には、選択サーチバンク番号に登録があれば、「\*」(アスタリスク)が、登録がなければ、「-」が表示されます。

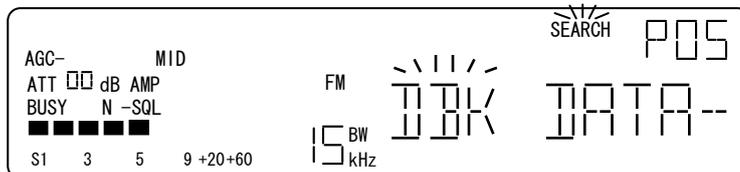


サーチバンクデータの消去の表示例  
(サーチバンク02にデータが登録されている場合)

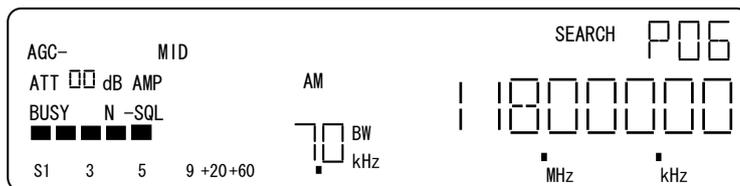
## 操作

・[PASS]で、選択しているサーチバンクデータの消去を仮確定し、周波数表示部の最右桁が、「-」になります。元々、選択したサーチバンクにデータ登録がされていない場合は、エラートーンを返します。

・[ENT]で、仮確定を確定にします。次に移行するサーチバンクは、データ登録がされている次のサーチバンクです。全てのサーチバンクのデータが消去されている場合は、最後に読み出されていたDIAL#へ移行します。



[PASS]で、サーチバンクデータの消去を仮確定し、周波数表示部の最右桁が、[-]になります。

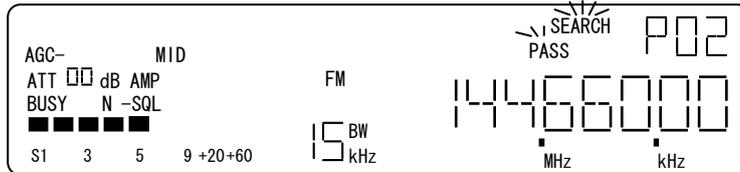


[ENT]で、仮確定していたサーチバンクデータの消去を確定します。次のデータ登録がされているサーチバンクを読み出します。

## 14-3-4. パス設定の個別解除 (サーチバンク)

消去メニューで対象とするサーチバンク番号を選択した後、[UP]、[DOWN]で選択したサーチバンク内のパス設定の個別解除を選択できます。

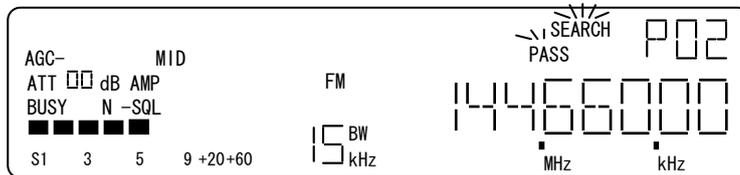
状態表示部に、サーチバンク番号が「Pnn」(nn=00-19)の形式で表示されます。周波数表示部には、パス設定されている受信周波数を表示します。選択したサーチバンク内にパス設定された受信周波数なければ、「—————」が表示されます。



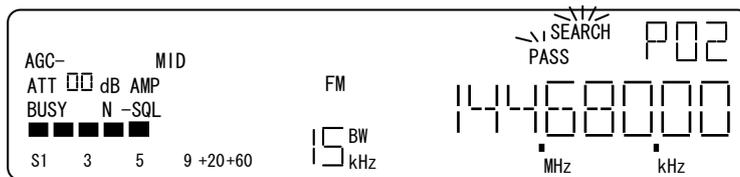
パス設定の個別解除の表示例  
(パス設定された周波数がある時)

## 操作

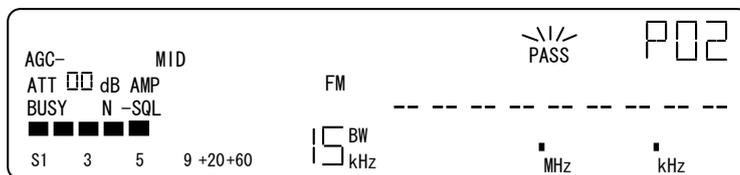
- ・ [ダイヤル]で、パス設定された受信周波数を選択します。
  - ・ [PASS]で、パス設定の解除を仮確定し、次のパス設定された受信周波数を表示します。このとき、パス設定された周波数がなければ、エラートーンを返します。
  - ・ [ENT]で、仮確定したパス設定の解除を確定します。
- なお、[PASS]での仮確定がない状態で、[ENT]を入力した場合、パス設定は解除されません。



パス設定の個別解除で、パス設定された周波数がある表示例



[PASS]で、パス設定の解除を仮確定して、次のパス設定された受信周波数を表示します。

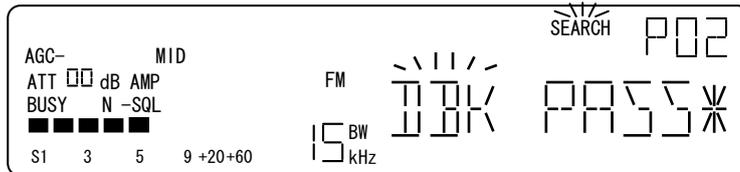


[PASS]で、パス設定の解除を仮確定した時、次にパス設定された受信周波数がない場合は、周波数表示部に「—————」を表示します。

## 14-3-5. パス設定の一括解除(サーチバンク)

消去メニューで対象とするサーチバンク番号を選択した後、[UP]、[DOWN]で選択したサーチバンク内のパス設定の一括解除を選択できます。

状態表示部に、サーチバンク番号が「Pnn」(nn=00-19)の形式で表示されます。周波数表示部には、「DBK」が点滅、さらに「PASS」が点灯表示します。周波数表示部の最右桁には、選択したサーチバンク内にパス設定があれば、「\*」(アスタリスク)が、パス設定がなければ、「-」が表示されます。



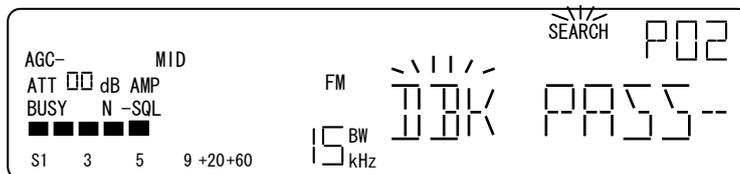
パス設定の一括解除で、パス設定された周波数がある表示例

## 操作

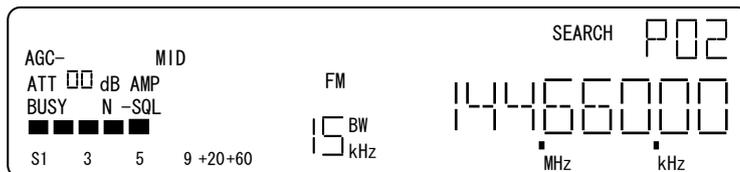
・[PASS]で、サーチバンク内のパス設定の解除を仮確定すると、周波数表示部の最右桁が、「-」になります。サーチバンク内にパス設定されていない場合は、エラートーンを返します。

・[ENT]で、仮確定したパス設定の一括解除を確定します。

なお、[PASS]での仮確定がない状態で、[ENT]を入力した場合、パス設定は解除されません。



[PASS]で、パス設定の一括解除を仮確定し、周波数表示部の最右桁が「-」になります。



仮確定した状態のとき、[ENT]で、一括解除を確定すると、直前のサーチバンクに戻ります。

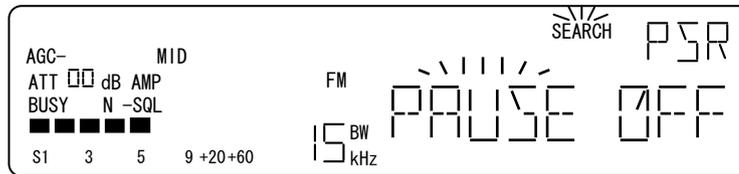
## 15. プログラムサーチの環境設定

### 15-1. 操作

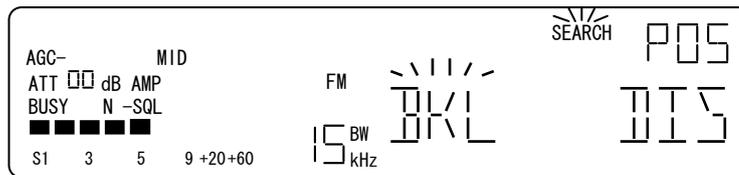
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNCL]+[SRCH]		プログラムサーチ環境設定へ移行します。 移行直後は、ポーズ時間設定になります。
2	[UP] [DOWN]	サブメニュー 選択	[UP]、[DOWN] でサブメニュー ポーズ時間設定→リンク対象/対象外設定 →リンク オン/オフ設定 → ポーズ時間設定 を順次選択します。
3	[ダイヤル]	ポーズ時間 設定	[ダイヤル]で、ポーズ時間 1→2→3→4→ $\left\langle \right\rangle$ →58→59→60→1 のように順次選択できます。この時点では仮確定です。 設定範囲は、1秒ステップで1～60秒です。
		リンク対象 バンク番号の 選択	[ダイヤル]で、サーチバンク番号 00→01→02→ $\left\langle \right\rangle$ →18→19→00 を順次選択します。
4	[PASS]	ポーズ時間 オフ/設定値 選択	[PASS]で、オフ / 設定値 を交互に切替え仮確定 します。 オフは、ポーズ機能を使用せず、サーチの停止条件に 基づいて、その周波数で停止して受信します。オン(設 定値)では、ポーズ機能が有効で、サーチの停止条件 が保たれていても、ポーズ時間が経過すると、サーチを 再開します。
		リンク対象 設定/解除	[PASS]で、選択されているサーチバンクの  リンク DIS / ENA (DIS:リンク対象外 ENA:リンク対象)  を交互に切替えて仮確定します。
		リンク オン/オフ設定	[PASS]入力毎に、サーチバンクリンクの オン・オフ を交互に切替えて仮確定します。
5	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻り ます。
6	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

## サブメニュー選択

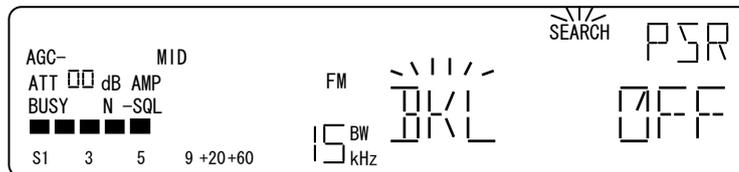
[FUNCL]+[SRCH] でプログラムサーチの環境設定に移行した後、[UP]、[DOWN] で、サブメニューを選択します。



プログラムサーチの環境設定に移行した直後、または、リンクオン・オフ設定の時に [UP] で、ポーズ時間設定になります。



ポーズ時間設定の時、[UP] で、サーチバンク番号選択、リンク 対象/対象外 設定になります。

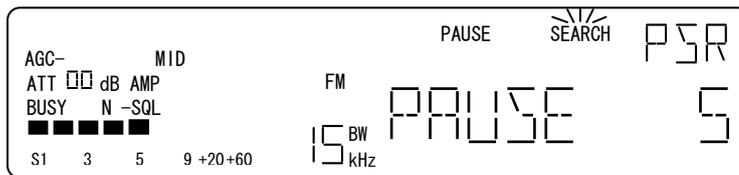


リンク 対象/対象外設定の時、[UP] で、サーチバンクリンク オン/オフ設定になります。

## 15-2. ポーズ時間設定 (プログラムサーチ)

本機のプログラムサーチでのポーズ時間とは、ポーズ機能が有効なときにプログラムサーチで受信信号によってサーチが停止してから、受信信号の継続性に関わらず、プログラムサーチを再開するまでの時間を指しています。ここでは、プログラムサーチが停止してから、強制的にプログラムサーチを再開するまでのポーズ時間を設定します。

[FUNCL]+[SRCH] でプログラムサーチの環境設定に移行すると、LCD の状態表示部には「PSR」が表示され、周波数表示部に「PAUSE」が点滅表示、設定されているポーズ時間が点灯表示されます。



ポーズ時間設定の表示例  
(ポーズ時間 5秒の例)

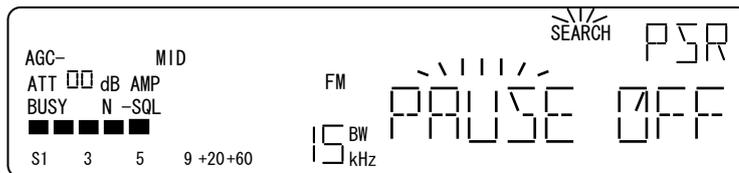
### 操作

#### ・ポーズ時間の設定

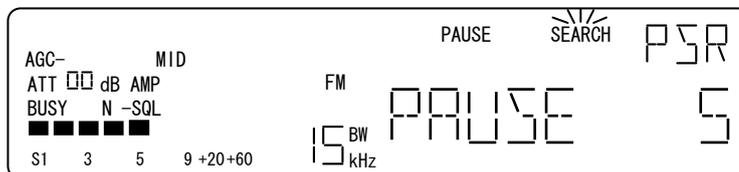
[ダイヤル]で、ポーズ時間を設定します。設定は、1秒単位で 1～60秒です。なお、ポーズオフの時は、ダイヤル操作は無効になります。

#### ・ポーズ オン/オフ 設定

[PASS]で、オン/オフを交互に切替えます。オン(設定値表示)は、ポーズ機能が有効で、受信信号によってプログラムサーチの停止条件が保たれていても、ポーズ時間経過後は、プログラムサーチを再開します。オフの時は、ポーズ機能は無効で、プログラムサーチの停止条件に基づいて、受信信号の有無によってサーチ動作をします。



ポーズ時間「5」の時、  
[PASS]で、オフ(OFF)になっ  
た表示例

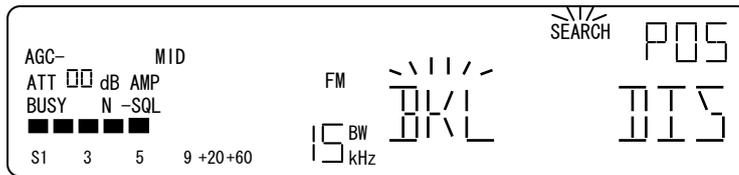


オフ(OFF)の時、  
[PASS]で、オン(5秒)になっ  
た表示例

### 15-3. サーチバンクリンク 対象 / 対象外の設定

本機のサーチバンクリンクとは、複数の選択したサーチバンクを連ねてプログラムサーチをする機能を指しています。また、複数の選択したメモリーバンクを連ねてメモリーバンクリンクと呼んでいます。

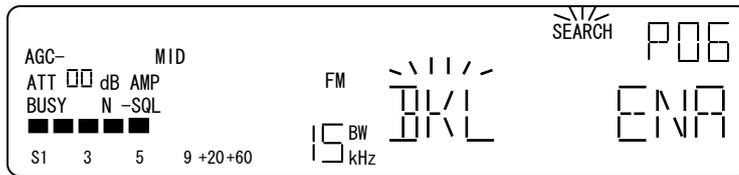
[FUNCL]+[SRCH] で、プログラムサーチの環境設定に移行したあと、[UP]または[DOWN]でサーチバンクリンク 対象・対象外設定に移行すると、LCD の状態表示部には、「Pnn」(n=00-19) のように設定するサーチバンク番号を表示し、周波数表示部には、「BKL」が点滅します。その時、例のように 設定するプログラムサーチバンクが、バンクリンクの対象なら「ENA」が、対象外なら、「DIS」が表示されます。



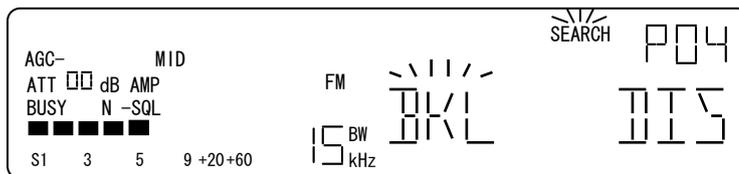
サーチバンクリンクの設定  
表示例  
(サーチバンク 5 対象外の例)

#### 操作

- サーチバンク番号の選択  
[ダイヤル]で、サーチバンク番号を選択します。

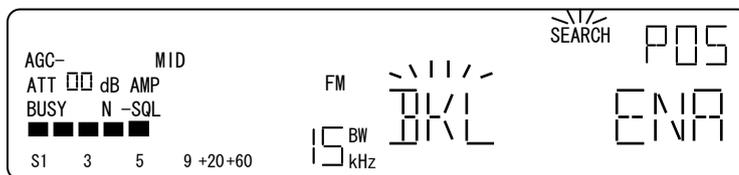


「P05」の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで  
「P06」になった例。  
サーチバンク 6 は、バンクリンク  
の対象に設定されていた例。

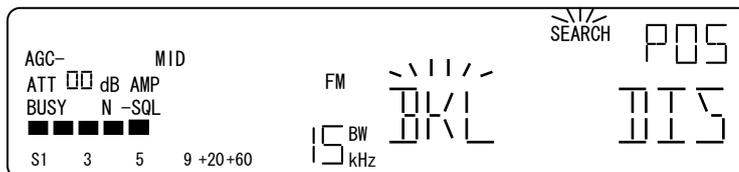


「P05」の時、  
[ダイヤル左回り]1クリックで、  
「P04」になった例。  
サーチバンク 4 は、バンクリンク  
の対象外に設定されていた例。

- サーチバンクリンク、対象・対象外の設定  
[PASS]入力毎に、リンク対象/対象外を交互に切替え、仮確定されます。



「DIS」(対象外)の時、  
[PASS]で、「ENA」になり、  
バンクリンクの対象に仮確定しま  
す。

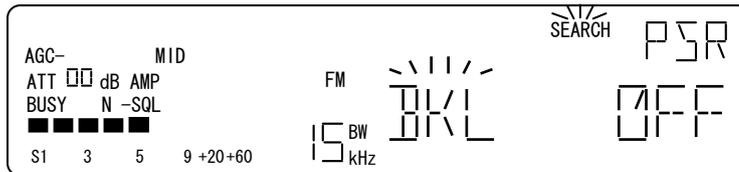


「ENA」(対象)の時、  
[PASS]で、「DIS」になり、  
バンクリンクの対象外に仮確定さ  
れます。

## 15-4. サーチバンクリンク オン・オフの設定

ここでは、15-3 項で設定した各サーチバンクのバンクリンク設定に基づいて、サーチバンクリンク機能自体を有効(オン)にするかしないかの設定を行います。

[FUNCL]+[SRCH] で、プログラムサーチの環境設定に移行したあと、[UP]または[DOWN]でサーチバンクリンク オン・オフ設定に移行すると、LCD の状態表示部には、「PSR」と表示され、周波数表示部には、「BKL」が点滅します。その時、例のようにサーチバンクリンク機能の状態を表示します。サーチバンクリンクがオン(有効)なら「ON」が、オフ(無効)なら「OFF」が点灯表示されます。

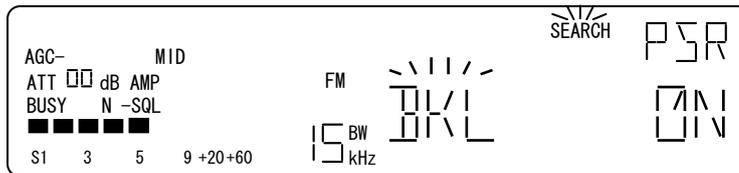


サーチバンクリンク オン・オフの設定 表示例  
(左の例は、オフです)

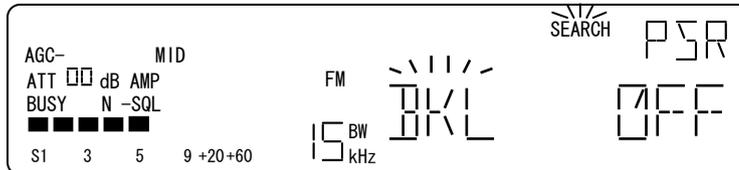
### 操作

・サーチバンクリンクのオン・オフ設定。

[PASS]入力毎に、サーチバンクリンクのオン・オフを交互に切替え、仮確定します。



「OFF」の時、  
[PASS]で、「ON」に切り替わります。



「ON」の時、  
[PASS]で、「OFF」に切り替わります。

15-1. 項の表のように、各々の仮確定は、[ENT]で確定して直前の動作モードに戻ります。

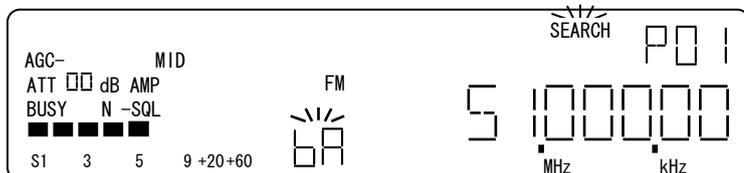
## 16. プログラムサーチのデータ設定

### 16-1. 操作

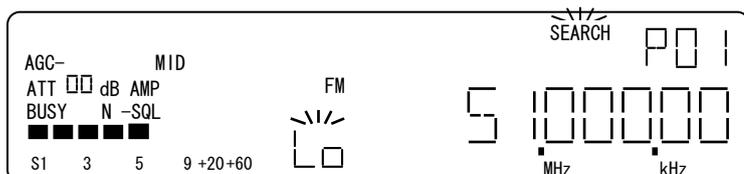
No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNC] + [SRCH]		プログラムサーチデータ設定メニューへ移行します。移行直後は、サーチバンク番号選択になります。
2	[ダイヤル]	サーチバンク番号選択	[ダイヤル]で、サーチバンク番号を 00→01→02→03→04→05→{ } →16→17→18→19→00 のように順次選択します。サブメニューへ移行した後は、サーチバンク番号の選択へは戻れません。
3	[UP] [DOWN]	サブメニュー選択	[UP]、[DOWN]で、サブメニュー 下限周波数設定→上限周波数設定→ステップ周波数設定 →復調モード設定→IFBW 設定→AGC 設定→下限周波数設定 を順次選択します。
4	[0]~[9] [.]	下限周波数 上限周波数 設定	ダイヤルモードの、受信周波数の変更と同じ方法で、選択したサーチバンクの下限周波数と上限周波数を設定します。このとき、「下限周波数<上限周波数」を満足する必要があります。この条件を満足しない入力の場合は、エラー音を返して、直前の状態に戻ります。上下限周波数は設定した時点で、仮確定となります。
		ステップ周波数 設定	ダイヤルモードのステップ周波数の入力方法と同様に、サーチバンクのステップ周波数を入力します。このとき、「ステップ周波数<上限周波数-下限周波数」満足する必要があります。この条件を満たさないときは、エラー音を返して、直前の状態に戻ります。サーチバンクのステップ周波数は入力した設定した時点で仮確定となります。
5	[ダイヤル]	ステップ周波数 設定	ダイヤルモードのステップ周波数の入力方法と同様に、サーチバンクのステップ周波数を入力します。このとき、「ステップ周波数<上限周波数-下限周波数」満足する必要があります。この条件を満たさないときは、エラー音を返して、直前の状態に戻ります。サーチバンクのステップ周波数は入力した設定した時点で仮確定となります。
		復調モード 設定	ダイヤルモードの復調モード設定と同じ方法で、サーチバンクの復調モードを設定し、仮確定します。
		IFBW 設定	ダイヤルモードの IFBW 設定と同じ方法でサーチバンクの IFBW を設定し、仮確定します。
		AGC 設定	ダイヤルモードの AGC 設定と同じ方法でサーチバンクの AGC 設定をし、仮確定とします。
6	[EXIT]	操作取消し	操作及び仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻る。
7	[ENT]	確定	仮確定を確定として、直前の動作モードに戻る。

## サブメニュー選択

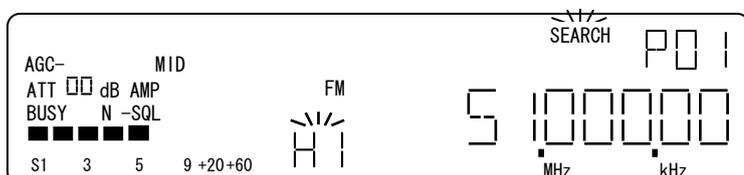
[FUNC]+[SRCH] でプログラムサーチのデータ設定に移行した後、[UP]、[DOWN] で、サブメニューを選択します。



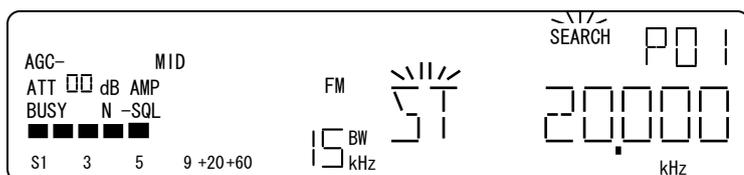
プログラムサーチのデータ設定に移行直後、あるいは AGC 設定で、[UP]でサーチバンク番号選択になります。



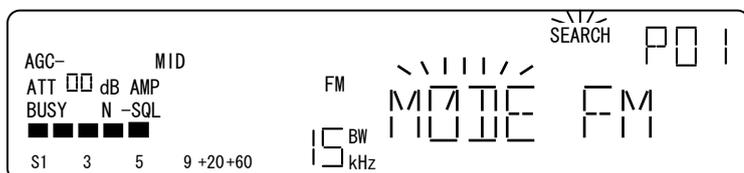
サーチバンク番号選択の時 [UP]で、下限周波数設定になります。



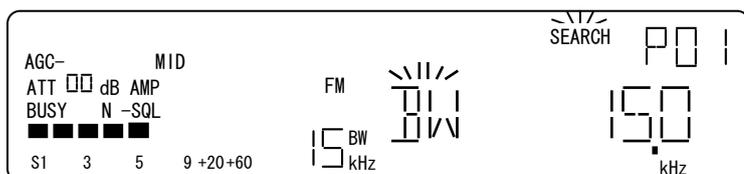
下限周波数設定の時、 [UP]で、上限周波数設定になります。



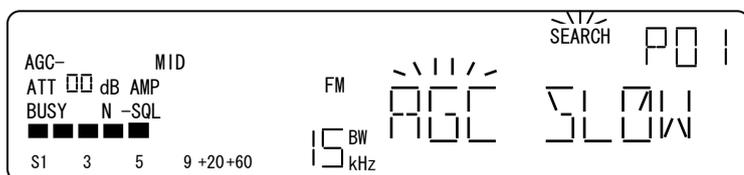
上限周波数設定の時 [UP]で、ステップ周波数設定になります。



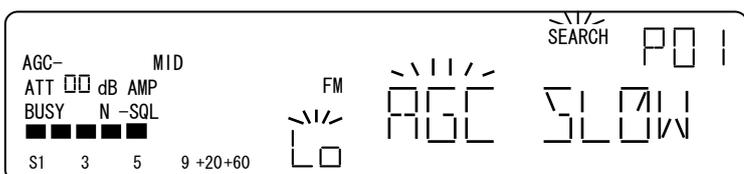
ステップ周波数設定の時 [UP]で、復調モード設定になります。



復調モード設定の時、 [UP]で、IFBW 設定になります。



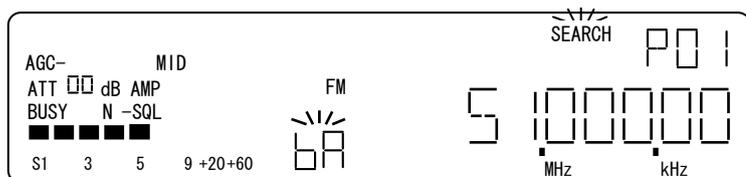
IFBW 設定の時、 [UP]で、AGC 設定になります。



下限周波数設定の時、 [DOWN]で、AGC 設定になる

## 16-2. サーチバンク番号の選択

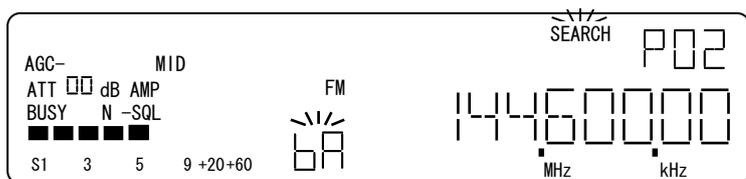
[FUNC]+[SRCH] でプログラムサーチのデータ設定に移行した直後は、対象とするサーチバンク番号を選択になります。LCD の SEARCH セグメントが点灯し、状態表示部に、最後に読み出していたサーチバンク番号が「Pnn」(nn=00-19)の形式で表示され、周波数表示部には、そのサーチバンクの下限周波数が表示されます。また、選択したサーチバンク番号が未登録のときは、「—————」が点灯します。IFBW 表示部には、「bA」が点灯します。



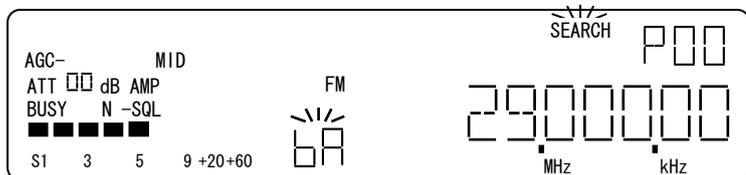
サーチバンク番号の選択の表示例 (サーチバンク 01)

## 操作

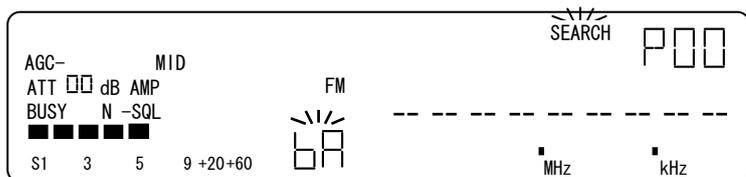
- [ダイヤル] で、サーチバンクの番号を順次選択します。



「P01」の時、  
[ダイヤル右回り]1クリックで、  
「P02」になります。



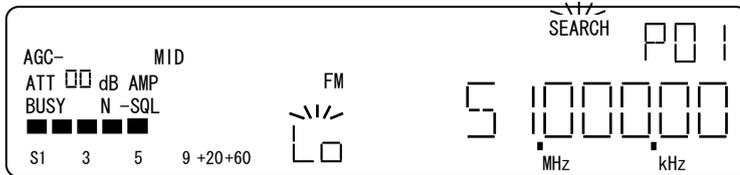
「P01」の時、  
[ダイヤル左回り]1クリックで、  
「P00」になります。



「P01」の時、  
[ダイヤル左回り]1クリックで、  
「P00」になります。(サーチバンク 00 が未登録の例)

### 16-3. 下限周波数の設定

[FUNC]+[SRCH] でプログラムサーチのデータ設定に移行、サーチバンク番号を選択した後は、[UP]、[DOWN] で下限周波数の設定にできます。状態表示部に選択したサーチバンク番号、IFBW 表示部には、「Lo」が点滅します。

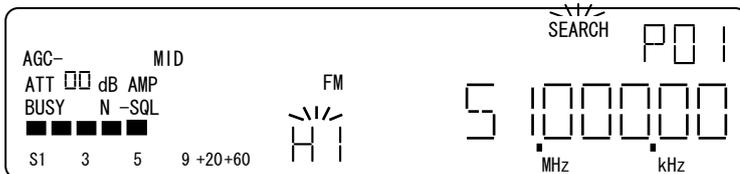


下限周波数の設定  
表示例  
(サーチバンク 01)

・[0] ~ [9] [.]で、サーチバンクの下限の受信周波数を設定します。  
設定方法は、ダイヤルモードと同じです。

### 16-4. 上限周波数の設定

[FUNC]+[SRCH] でプログラムサーチのデータ設定に移行、サーチバンク番号を選択した後は、[UP]、[DOWN] で上限周波数の設定にできます。下限周波数の設定から上限周波数の設定には、[UP]で移行できます。状態表示部に選択したサーチバンク番号、IFBW 表示部には、「HI」が点滅します。

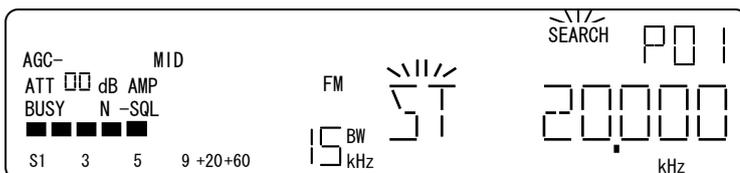


上限周波数の設定  
表示例  
(サーチバンク 01)

・[0] ~ [9] [.]で、サーチバンクの上限の受信周波数を設定します。  
設定方法は、ダイヤルモードと同じです。このとき、  
設定条件、「下限周波数 < 上限周波数」を満たす必要があります。

### 16-5. ステップ周波数の設定

ここでは、サーチバンクのステップ周波数の設定をします。[UP]、[DOWN] で、ステップ周波数の設定にすると、状態表示部に、選択したサーチバンク番号、周波数表示部には、「ST」が点滅し、ステップ周波数が表示されます。

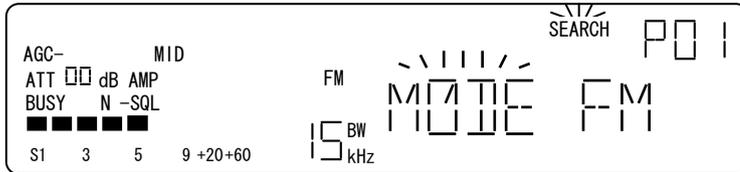


ステップ周波数の設定の表示例  
(20kHz の例)

[0] ~ [9] と [.]、または [ダイヤル] でステップ周波数を設定します。設定方法はダイヤルモードのステップ周波数の設定と同じ方法です。

## 16-6. 復調モードの設定

ここでは、サーチバンクの復調モードの設定をします。[UP]、[DOWN] で、復調モードの設定にすると、状態表示部に、選択したサーチバンク番号、周波数表示部には、「MODE」が点滅し、選択されている復調モードが表示されます。

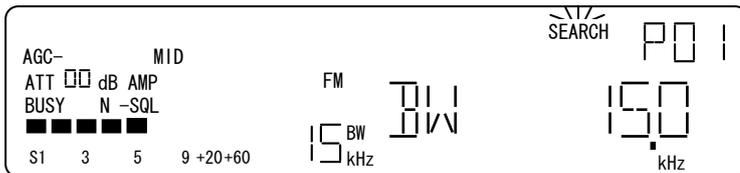


サーチバンクの復調モード設定の表示例  
(復調モード FM の例)

[ダイヤル]で復調モードを選択します。選択方法は、ダイヤルモードでの復調モードの選択と同じです。

## 16-7. IFBWの設定

ここでは、サーチバンクの復調モードの設定をします。[UP]、[DOWN] で、復調モードの設定にすると、状態表示部に、選択したサーチバンク番号、周波数表示部には、「BW」が点滅し、選択されているIFBWが表示されます。

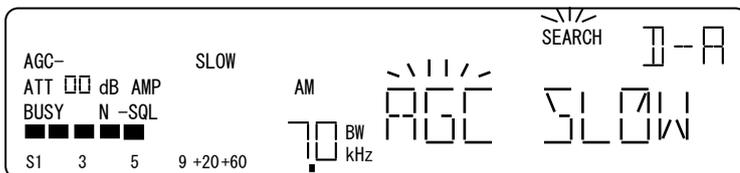


サーチバンクのIFBWの設定の表示例  
(IFBW 15kHz の例)

[ダイヤル]でIFBWを選択します。選択方法は、ダイヤルモードでのIFBWの選択と同じです。

## 16-8. AGCの設定

ここでは、サーチバンクのAGCの設定をします。[UP]、[DOWN] で、AGCの設定にすると、状態表示部に、選択したサーチバンク番号、周波数表示部には、「AGC」が点滅し、選択されているAGC設定が表示されます。



サーチバンクのAGCの設定の表示例  
(AGC SLOW の例)

[ダイヤル]でAGCを選択します。選択方法は、ダイヤルモードでのAGCの選択と同じです。

各サブメニューで仮確定している設定項目を [ENT] で確定して直前の動作モードに戻ります。

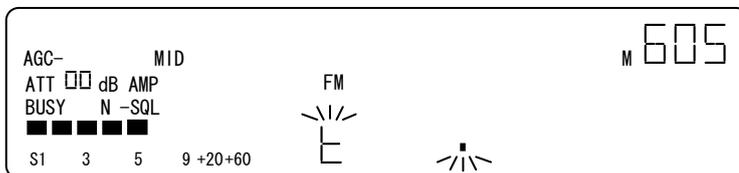
## 17. テキストの設定

本機の メモリーチャンネル、プログラムサーチバンク、ダイヤル A ~F、プライオリティチャンネルに最大8文字のテキスト文字をタグ(TAG) として、必要に応じて付与することができます。

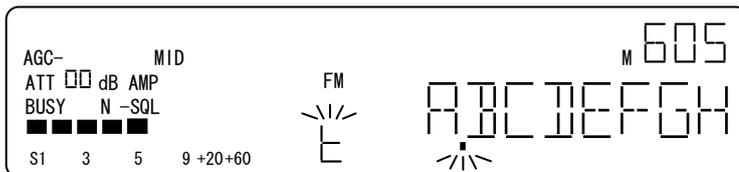
このタグの表示には、[FUNC]+[EXIT] に割り当ててあり、メモリーチャンネルなどを詠み出している状態で、[FUNC]+[EXIT] 毎に周波数表示とタグ表示を切り替えることができます。

No	操作	選択設定内容	説明
1	[FUNCL]+[EXIT]		テキストの設定へ移行します。
2	[ダイヤル]	テキスト文字の選択	[ダイヤル]で、選択されている桁のテキスト文字 0→1→2→ } →7→8→9→A→B→C→ } →X→Y →Z→記号→0 を順次選択します。テキスト文字は、選択した時点で仮確定となります。テキスト文字として表示できるのは、数字、アルファベット、記号です。
3	[6]、[4]	テキスト入力をする桁の選択	[6]、でテキスト文字の入力桁 8桁→7桁→6桁→ } →3桁→2桁→1桁→8桁 のように順次選択します。[4]で反対方向に順次選択できます。
4	[EXIT]	操作取消し	操作、仮確定をクリアして、直前の動作モードに戻ります。
5	[ENT]	確定	確定して、直前の動作モードに戻ります。

タグを付けられる、メモリーチャンネル、プログラムサーチバンク、ダイヤル A~F、プライオリティチャンネルのいずれかの状態から、[FUNCL]+[EXIT] でテキストの設定に入ると、IFBW 表示部には、「t」が点滅し、周波数表示部のテキスト入力をする桁の「。」が点滅します。もし、既に設定されているテキスト文字がある場合には、設定されていたテキスト文字が表示されます。



テキストの設定の表示例。  
メモリーチャンネル 605 に設定しようとしているところで、設定されていたテキスト文字はない表示例です。

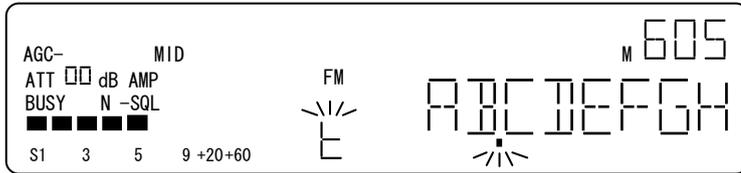


テキストの設定の表示例。メモリーチャンネル 605 に設定しようとしているところで、設定されていたテキスト文字が、「ABCDEF」の例です。

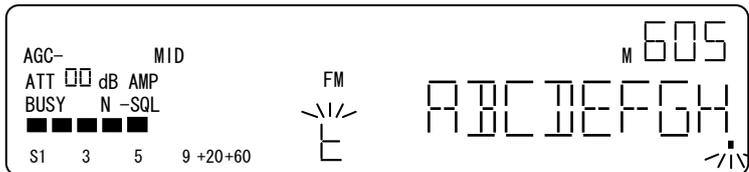
## 操作

## •テキスト入力の対象桁選択

[6]で、変更対象桁を8桁目から1桁目へ右方向に順次選択し、[4]で変更対象桁を左方向に順次選択します。



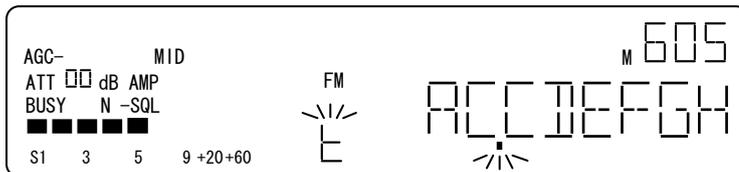
テキスト入力桁が8桁目のとき、[6]で、7桁目がテキスト入力桁になった表示例



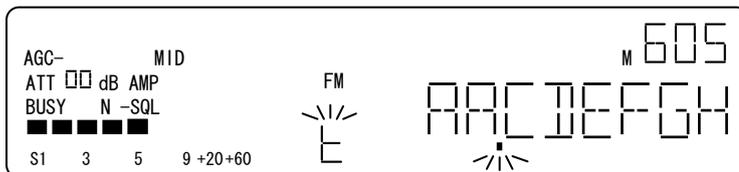
テキスト入力桁が8桁目のとき、[4]で、1桁目がテキスト入力桁になった表示例

## •テキスト文字の設定

[ダイヤル]で、数字0~9, アルファベットA~Z, 記号を順次選択します。複数のテキスト文字を入力するときは、[4]、[6]でテキスト入力の対象桁を移動しながら、入力を行います。テキスト文字は、入力した時点で仮確定となります。



7桁目に「B」が入力されているとき、[ダイヤル右回り]1クリックで、「C」になった表示例。



7桁目に「B」が入力されているとき、[ダイヤル左回り]1クリックで、「A」になった表示例。

[ENT]で、入力した仮確定のテキスト文字を確定して、直前の動作モードに戻ります。

## 18. リセットとソフトリセット

本機は、内蔵している制御用 MCU (Micro Controller Unit) を次の方法でリセットすることができます。ただし、いずれも、メモリーチャンネルやサーチバンクなどの記録データを工場出荷時の状態に戻すリセットではありません。

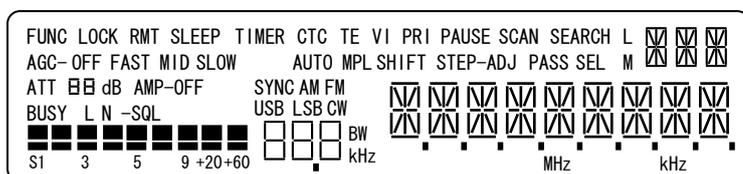
### ・ハードリセット (MCUリセット)

制御 MCU をリセットするには、35GR の背面にある電源端子に挿入しているプラグを引き抜き、約 20 秒おいた後、再度電源端子に電源プラグを挿入します。一旦、電源を遮断して十分な時間をおいた後、正常な電源電圧を印加することで、制御 MCU リセットされます。制御 MCU のリセットが完了すると、LCD に時計表示がされます。

※ 電源プラグには正常な電源(DC11V～15V / 1.1A 以上) が接続されていることが前提です。

### ・ソフトリセット (LCD 点灯確認を兼用)

[0] を押しながら[PWR] で、LCD の全セグメントと LCD バックライトが点灯します。



[0]+[PWR] で、LCD セグメントを全点灯した表示例

このとき、[PWR] で、通常起動になります。

### ・ソフトリセット (各設定を初期値化)

35GR のソフトリセットは、[EXIT] を押しながら、[PWR] で、ソフトリセットが行われ、あわせて次ページの初期値表に基づいて、初期化をします。ただし、メモリーチャンネルやサーチバンクなどのデータは変更されません。

## 35GR の初期値設定

No.	項目	項目・初期値	備考	
1	操作モード	ローカル	EX1	
2	動作モード	ダイヤル A		
3	受信周波数	80.000MHz		
4	復調モード	FM		
5	IFBW	220kHz		
6	AGC	MID		
7	RF AMP	ON		
8	ATT	0 dB		
9	オーディオ関連	HPF	0.05 kHz	
10		LPF	20.0 kHz	
11		DE-EMP	75 uS	
12	システム共通	ディレイ時間 (DELAY)	1.5 秒	
13		レベルスケルチ(LSQ)	オフ	
14		LCD バックライト (LAMP)	オン	
15		ビーブ音 (BEEP)	設定値 15、オン	
16		IF 出力 (IF OUT)	1	10MHz 幅
17		通信速度 (BPS)	115.2 kbps	
18		基準発振器 (STD)	20.INT	内部発振器 20MHz
19	Sメーター (S-M)	RSSI	信号強度直読	
20	標準装備機能	オーディオ反転 (VI)	設定値 0、オフ	
21		トーンエリミネーター (TE)	設定値 0、オフ	
22	追加オプション	AFC	オフ	
23		NB	オフ	
24		CTCSS	オフ	
25		DTMF	オフ	
26		SYNC AM	オフ	
27		SYNC USB	オフ	
28		SYNC LSB	オフ	
29	ポーズ時間	ダイヤルサーチ	設定値 5、オフ	
30		プログラムサーチ	設定値 5、オフ	
31		メモリスキャン	設定値 5、オフ	
32	リモート関連	ID 番号	1	
33		NSQ 値	32	
34		AF ゲイン	128	
35	オンタイマー	オン・オフ	オフ	
36		時刻	00-00-00	
37		オンタイマー出力音(ALM)	RADIO	
38		オンタイマー ボリューム	128	
39		オンタイマー ビープ	128	
40		オンタイマー スケルチ	32	
41	オフタイマー	オン・オフ	オフ	
42		時刻	00-00-00	
43	スリープ	オン・オフ	オフ	
44	タイマー	時間	30 分	

## 35GR の外部制御について

### シリアル通信について

35GR は、シリアル制御端子を介してコンピュータなどの外部機器から制御することができます。

通信速度は、9.6kbps / 19.2kbps / 38.4kbps / 57.6kbps / 115.2kbps から選択でき、初期設定では、115.2kbps に設定されています。

シリアル通信形式は次の通りです。

#### ・1 バイトのデータ形式

スタートビット	1
データビット	8
ストップビット	2
パリティビット	なし
同期形式	調歩同期
フロー制御	なし

以下の文中に表記される[0D0A]、[0D]、など、カギ括弧で囲まれた値は、制御コードを表しています。[0D]は16進数の 0D (1バイト)を表しています。本機との通信には一般的なターミナルソフトでも行えるように、アスキー文字コードを使用しています。なお、受信した文字コードをセルフアンサーバックしません。ターミナルソフトを使用して通信する場合は、ターミナルソフト側のセルフエコーをオンに設定すると使いやすいでしょう。改行コードは、[0D]受信時に[0D0A]動作(CR+LF)に設定します。

BS[08]は、直前の1文字を削除します。削除する文字がない場合は無視します。TAB[09]は、スペース[20]に変換されて処理していますので、コマンドとコマンドの間の区切りにも使用が可能です。また、記号や数字、英文字、コード[20] ~ [7E]までの文字列範囲外のコードや上記以外の制御コードは無視をします。

制御側は制御コマンドを本機へ送出したあと、本機からの応答を必ず待つ必要があります。なお、本機の受信バッファは、255バイトです。以下は無線機が出力する、応答例です。

[0D] コマンドを正常に処理した場合、または[0D]のみを受信した場合の応答です。コンピュータと本機を接続した場合に、[0D]を送り[0D]の応答があること確認してください。

?0[0D] 処理できないコマンドへの応答です。または本機がスタンバイ状態になっています。

?1[0D] コマンドで指定されたパラメータが誤っている場合の応答です。

?2[0D] 指定されたパラメータは正しいのですが、処理できない場合の応答です。ブランクメモリの呼び出し、特定状態でのみ有効なコマンドや未搭載のハードウェアオプションが必要な場合など相当します。

## 制御コマンドの概要

コンピュータから本機に送るコマンドは、ID番号数字2文字時、コマンド英文字2文字、パラメーター文字列、[0D]までの一行が標準です。コンピュータからの制御コマンドは、本機がリモート時でもローカル時でも有効です（一部はリモート時のみ有効）。スタンバイ時には、PWコマンドと[0D]の応答確認以外の制御はできません。

本機は、個々に00以外のID番号を01～99まで持つことが可能です。ID番号が一致していないコマンドを受信した場合は何も行いません。（受信データを破棄します）

送出するID番号が00の場合は、ブロードキャスト通信と判断され、個別設定されているすべてのIDに対して有効です。また、ID番号部の数字2文字を削除して、先頭をコマンド英文字2文字から送ることができます。この場合もブロードキャスト通信と判断され、すべてのIDに対して有効です。

以下は制御コマンドの送出例です。

00VA[0D] ID番号に関係なく、ダイヤルAに設定します。本機は処理が終わると[0D]を出力します。

VA[0D] 上記と同じです。ダイヤルAに設定します。本機は処理が終わると[0D]を出力します。

01VA[0D] ID番号01のみがダイヤルAに設定します。処理が終わると[0D]を出力します。ID番号が異なる場合には無視します。

[0D] ID番号に関係なく応答し、[0D]を出力します。

00[0D] 上記と同じです。

03[0D] ID番号03のみが応答し、[0D]を出力します。

00RF123.456[0D]

ID番号に関係なく、受信周波数を123.456MHzに設定します。本機は処理が終わると[0D]を出力します。

RF123.456[0D]

上記と同じです。受信周波数を123.456MHzに設定します。本機は処理が終わると[0D]を出力します。

99RF3.45[0D]

ID番号99番のみ、受信周波数を3.45MHzに設定します。

## 複数の制御コマンドの一括送付

本機へのコマンドを1行で複数送付することが可能です。

本機は、ひとつのコマンドと[0D]を受信するたびにコマンド解析、計算、制御するハードウェアへの出力などを行い、[0D]を応答します。

複数のコマンドを1行で指定すると、最初に受信したコマンドから順次コマンド解析、計算、メモリーへの格納、周辺回路への出力などを行い、コマンド実行毎に[0D]を返します。

コマンドとコマンドの間は、スペース、または TAB で区切って指定します。スペースや TAB は、複数あってもよく、最後に [0D] で 1 行の終わりを示します。

例) RF125.0 AT0 BW4[0D]

ただし、1行のコマンドは[0D]を含めて **80文字以内**で設定します。超えてしまった部分は無視されます。ID 番号を指定する場合には、コマンド行の先頭に数字 2 文字を指定します。続く複数コマンドに、別の ID 番号を指定することはできません。

例) 55RF MD BW[0D]

この例は、「ID55 に対して、受信周波数、復調モード、IFフィルタ幅の設定状態を要求する」コマンドです。これに対して、たとえば、

```
VA RF123.456789 AU0 SJ0 ST025.000 MD1 BW4[0D]
AU0 MD1[0D]
BW4[0D]
```

のように応答します。

次の例は、ID を省略した場合の複数コマンドの組み合わせです。

例) RF123.456 MD0 BW4 HP2 LP1[0D]

受信周波数、復調モード、IF フィルタ幅、ハイパスフィルタ、ローパスフィルタの設定を一度に送出し、これを受信した本機は、コマンド実行毎に[0D]を返します。

複数のコマンドを指定する場合、エラーの有るコマンド部分に対しては、"?0"、"?1"、"?2"、等のアンサーバックが追加されます。各データに[0D]が付加され改行されます。

複数のコマンドで要求した、設定データで返される応答内容のデータは、最大255文字です。

([0D]を含む)

この制限を超えてしまうと、最初に処理されたコマンドの応答内容に後から処理されたコマンドの応答内容が上書きされてしまうため、希望するデータが読み出せなくなる恐れがあります。

複数コマンドを一括送付する場合には、本機からの応答が255文字を超えないように留意して指定して下さい。

## オペレーションモードの切替え

本機のオペレーションモードは、リモートモードとローカルモードがあります。

### リモートモード (EX0)

シリアル通信を介して、制御するオペレーションモードです。リモートモードの時は、LCD 上の RMT セグメントが点灯します。ローカルモードからリモートモードに移行する場合には、EX コマンドを使って、

#### 例) EX0[0D]

を送出します。

リモートモードからローカルモードに移行する場合には、EX コマンドを使って、

#### 例) EX1[0D]

を送出する、あるいは、フロントパネルの [EXIT] キーを押します。

### ローカルモード (EX1)

ローカルモードでは、次の4つのコマンド動作以外はシリアル制御が可能なうえ、キー操作、ダイヤル、SQUELCH ツマミや AF GAIN ツマミの操作が行えます。

LC コマンド	RSSI 自動読み出し機能
AM コマンド	オーディオミュート
RQ コマンド	リモートノイズスケルチ
VL コマンド	オーディオゲイン設定

## 35GRシリーズ 制御コマンド一覧

AC	AGC 設定	NS	DETECTOR ステータス確認
AD	任意文字列メモリー設定	OB	オンタイマー BEEP レベル設定
AF	AFC 制御 (※1)	OC	基準発振器 選択
AI	EXT-IF IF 出力設定	OE	オンタイマー スイッチ
AM	オーディオミュート (※2)	OU	オンタイマー 起動時刻設定
AP	RF アンプ 設定	OS	オンタイマー ソース設定
AT	アッテネータ設定	OR	オンタイマー AF レベル設定
AU	復調モード AUTO 設定	PA	指定周波数 パス設定
BL	LCD バックライト(※3)	PD	周波数パス 解除
BM	メモリスキャン リンク選択	PI	プライオリティ インターバル時間
BP	シリアル通信速度設定	PL	周波数パス 確認
BQ	プログラムサーチ リンク オン/オフ	PP	プライオリティ受信 オン/オフ
BS	プログラムサーチ リンク選択	PR	プライオリティチャンネル登録
BW	IF バンド幅設定	PS	受信周波数 パス登録
CN	CTCSS 設定 (※1)	PW	電源制御
CS	RTC 時刻設定 確認	QM	DTMF デコーダー(※1)
CW	CW ピッチ設定	QS	プログラムサーチ バンク削除
DT	ディレイタイム設定	RF	受信周波数 設定/確認
DP	ダイヤルサーチ ポーズ時間設定	RQ	リモートノイズスケルチ (RNSQ) (※2)
EN	ディエンファシス設定	RX	現在の動作状態確認
ES	信号強度表示の設定(※3)	SC	S メーターソース切替
EX	オペレーションモード切替	SE	プログラムサーチ データ設定
FE	オフタイマースイッチ	SF	シフト周波数 設定・確認
FS	オフタイマー 時刻設定	SH	サーチ スタート・ホールド(※2)
FT	周波数/時刻 表示切替(※3)	SI	シフト オン/オフ
GA	メモリーチャンネルセレクト設定	SJ	ステップアジャスト
GM	メモリスキャン 環境設定確認	ST	ステップ周波数 設定
GR	メモリーチャンネルセレクト表示	SM	セレクトスキャン スタート
GS	プログラムサーチ 環境設定確認	SP	プログラムサーチ ポーズ時間設定
HP	ハイパスフィルタ設定 (HPF)	SQ	オンタイマー用 ノイズスケルチ
ID	ID 番号	SR	プログラムサーチ データ確認
KD	[DOWN] キー 機能 (※3)	SS	プログラムサーチ スタート
KU	[UP] キー 機能 (※3)	TE	トーンエリミネーター
LC	RSSI 自動読出機能 (※2)	TS	スリープタイマー 時間設定
LE	レベルスケルチ オンオフ設定	VI	オーディオ 反転機能(AFI)
LM	RSSI/AFCD/AGC 読出	VL	オーディオゲイン設定 (※2)
LP	ローパスフィルタ設定 (LPF)	VR	ファームウェア バージョン確認
LS	レベルスケルチ設定 (LSQ)	VS	ダイヤルサーチ スタート
MA	メモリーチャンネル登録内容確認	VX	ダイヤル #切替
MD	復調モード設定	XP	メモリスキャン ポーズ時間設定
ML	メモリスキャン リンク オン/オフ		
MP	メモリーチャンネル パス設定	(※1)	ハードウェアオプションが必要
MQ	メモリーチャンネル 消去	(※2)	EX0 でのみ有効
MR	メモリーチャンネル リード	(※3)	35GR-RM に、LCD、キーはありません。
MS	メモリスキャン スタート		
MX	メモリーチャンネル 登録		
NB	ノイズブランカー(※1)		

## コマンド説明

<b>AC</b>	AGC 設定・確認	ACn [0D]	設定	n= 0-3	
				n=0 FAST, n=2 SLOW	n=1 MID n=3 OFF
			◆ 復調モードが FM(MD0)の場合には、n=1,または n=3 のみ有効		
			送出例 AC2[0D] → AGC を SLOW に設定する		
		AC[0D]	AGC 設定の確認		
			応答	ACn[0D]	n=0-3
<b>AD</b>	任意文字列メモリー	ADnn...nn[0D]	設定	nn...nn=文字列 (32 文字以内、スペース不可)	
				送出例 AD123456789[0D] → 任意文字列 123456789 を設定する	
		AD[0D]	設定した任意文字列の確認		
			応答	n...n[0D]	応答は設定内容のみ
<b>AF</b>	AFC 制御	AFn[0D]	設定	n=0 AFC OFF n=1 AFC ON	
				送出例 AF0[0D] → AFC OFF に設定する	
		AF[0D]	AFC 設定の確認	応答	AFn[0D] n=0-1
			◆ 実際の動作にはハードウェアオプションが必要		
<b>AI</b>	IF 出力設定	AIn[0D]	設定	n=0 EXT-IF OFF (IF出力オフ) n=1 EXT-IF1 (10.7MHz 10MHz 帯域) n=2 EXT-IF2 (10.7MHz 第2IFフィルタ通過後) n=3 EXT-IF3 (455kHz 第3IF フィルタ通過前)	
				送出例 AI1[0D] → EXT-IF1 に設定する	
		AI[0D]	IF 出力設定の確認		
			応答	AIN[0D]	

**AM** オーディオミュート AMn[0D] 設定

n=0	MUTE/AGC-OFF	→ 無効
n=1	MUTE	→ オーディオミュート有効
n=2	AGC-OFF	→ AGC-OFF 有効
n=3	MUTE/AGC-OFF	→ 有効

送出例 AM0[0D] → MUTE/AGC-OFF を無効にする

AM[0D] オーディオミュートの確認

応答 AMn[0D]

◆このコマンドは、EX0の時に有効なオーディオゲイン設定やスケルチ設定、AGC設定よりも優先度が高いコマンドです。一時的にオーディオ出力を停止、AGC設定をOFFにすることができます。オーディオ信号を一時的に停止する場合や強力な信号を受信している状態から受信周波数を変化させる際、受信周波数の変化直後にAGCの影響を受けないようにするために使用できます。AM0によって無効に設定した場合、オーディオ出力やAGC設定は、AMコマンドが有効となった直前の状態に戻ります。

**AP** RF アンプ設定 APn[0D] 設定

n=0	RF-AMP	オフ
n=1	RF-AMP	オン

送出例 AP0[0D] → RF-AMP OFF に設定する  
AP1[0D] → RF-AMP ON に設定する

◆ 受信周波数(RF)が30MHz以上では、AP0(RFアンプオフ)は設定不可

AP[0D] RFアンプ設定の確認

応答 APn[0D]

**AT** アtteネータ設定 ATn[0D] 設定

n=0	0dB	n=1	10dB
n=2	20dB	n=3	30dB
n=4	AUTO		

送出例 AT1[0D] → ATT 10dB に設定する

AT[0D] アtteネータ設定の確認

応答 ATmn[0D] m=0 ATT AUTO 無効  
m=1 ATT AUTO 有効

応答例 AT01[0D] → ATT AUTO 無効 で 10dB  
AT11[0D] → ATT AUTO 有効 で 10dB

◆ 受信周波数(RF)が1100MHz以上では、ATは設定不可

**AU** 復調モード AUTO AUn[0D] 設定 n=0 OFF, n=1 ON  
 送出例 AU0[0D] → 復調モード AUTO オフに設定する

AU[0D] 復調モード AUTO の確認  
 応答例 AUn[0D]

**BL** LCD バックライト BLn[0D] 設定 n=0 消灯, n=1 点灯  
 送出例 BL0[0D] → LCD バックライト消灯に設定する

BL[0D] LCD バックライトの確認  
 応答例 BLn[0D]

◆ 35GR-RM には LCD バックライトは搭載されません。

**BM** メモリースキャン  
 リンク選択 BMxn xn … xn xn[0D] または BM%%[0D]

設定 n=0~9 バンク #  
 x=+/- + = リンク対象, - = リンク対象外  
 %% 全リンク対象外にリセット

送出例 BM-0 +1 +2…9[0D]

0 バンク リンク対象外に設定する  
 1 バンク リンク対象に設定する  
 2 バンク リンク対象に設定する  
 .  
 .  
 9 バンク リンク対象外に設定する

BM[0D] メモリースキャンリンク設定の確認  
 応答 BMxn xn … xn xn[0D]

◆このコマンドでは、メモリースキャンのリンク対象、または対象外バンク番号を設定、確認ができます。

- スペース[SP]で区切りながら、メモリーバンク番号を入力します。
- 設定が必要なメモリーバンク番号のみを送出します。
- メモリーバンク # は昇順降順に入力する必要はありません。
- メモリーバンクの設定は、必ず符号付 1 桁で表記します。

<b>BP</b>	シリアル通信速度	BPn[0D]	n=0	9.6kbps,	n=1	19.2kbps,
			n=2	38.4kbps,	n=3	57.6kbps,
			n=4	115.2kbps		

送出例 BP0[0D] → 9.6kbps に設定する  
BP4[0D] → 115.2kbps に設定する

BP[0D] シリアル通信速度の設定確認

応答 BPn[0D]

◆このコマンドでは制御側から BP コマンドを送出、通信速度の変更前の設定で本機からの応答を待機します。本機は変更前の通信速度で応答した後に設定された通信速度に変更します。制御側は、本機の通信速度の変更に必要な時間(約 200mS)を待機してから通信を再開してください。

<b>BQ</b>	プログラムサーチ リンク オン・オフ	BQn[0D]	n=0	リンク OFF,	n=1	リンク ON
-----------	-----------------------	---------	-----	----------	-----	--------

送出例 BQ0[0D] → バンクリンク OFF に設定する

BQ[0D] サーチバンクリンクの設定確認

応答 BQn[0D]

<b>BS</b>	プログラムサーチ リンク選択	BSxnn xnn … xnn xnn[0D]	または BS%%[0D]	
-----------	-------------------	-------------------------	--------------	--

設定 nn=00 ~ 19 サーチバンク# 必ず 2 桁  
x=+/- + = リンク対象, - = リンク対象外  
%% 全てをリンク対象外にリセット

送出例 BS-00 +01 …-19[0D]

00 バンク リンク対象外に設定する

01 バンク リンク対象に設定する

.

19 バンク リンク対象外に設定する

BS[0D] プログラムサーチリンク選択の確認

応答 BSxnn xnn … xnn xnn[0D]

◆プログラムサーチでリンク対象バンク、対象外バンク番号を設定、確認ができます。

- スペース[SP]で区切りながら、サーチバンク番号を入力します。
- 設定が必要なメモリーバンク番号のみを送出します。
- メモリーバンク#は昇順降順に入力する必要はありません。
- メモリーバンクの設定は、必ず符号付 2 桁で表記します。

**BW** IF バンド幅設定 **BWn[0D]**

n=0	0.5kHz,	n=1	2.4kHz,
n=2	5.5kHz,	n=3	7.0kHz
n=4	15kHz,	n=5	30kHz
n=6	110kHz	n=7	220kHz

送出例 **BW4[0D]** → IFBW 15kHz に設定する

**BW[0D]** IF バンド幅の確認

応答 **BWn[0D]**

◆ 0.5kHz (n=0) は、CMF05 (オプション)を搭載していないと無効

**CN** CTCSS 設定 **CNxnn[0D]**

nn=0 ~ 49	トーン周波数に対応
nn=50	SEARCH (サーチ)
x=+, -, ,	+ CTCSS ON
	- CTCSS OFF

送出例 **CN+[0D]** → CTCSS ON  
**CN-25[0D]** → CTCSS OFF, 25  
**CN+25[0D]** → CTCSS ON, 25  
**CN+50[0D]** → CTCSS ON, SEARCH  
**CN-50[0D]** → CTCSS OFF, SEARCH

**CN[0D]** CTCSS 設定の確認

応答 **CNxnn[0D]**  
**CN%xnn[0D]** トーン周波数が一致しない場合

◆ 実際の動作にはハードウェアオプションが必要  
◆ 応答は、符号付 2 桁で出力し、トーン周波数が一致していない場合は、先頭に「%」が付加されます。

◆CTCSS OFF の場合はトーン周波数の状態に関わらず、% は付加されません。

◆SEARCH (サーチ)時は、トーン周波数が一致したときにトーン周波数に対応したコード番号を出力します。

◆+/- を省略した場合は直前の設定内容を継続します。

◆トーン周波数とコード表は別掲

<b>CS</b>	RTC 時刻設定	CShhnnss[0D]	hh=00-23,      nn=00-59,      ss=00-59
			送出例 CS093005[0D] → 9時30分5秒 に設定する
		CS[0D]	RTC の確認  応答 CS09-30-05[0D]
<b>CW</b>	CW ピッチ設定	CWn[0D]	n=0    400Hz,            n=1    500Hz n=2    600Hz,            n=3    700Hz n=4    800Hz,            n=5    900Hz n=6    1000Hz,           n=7    12kHz
			送出例  CW3[0D] → CW-PITCH 700Hz に設定する
		CW[0D]	CW ピッチの確認  応答 CWn[0D]
<b>DT</b>	ディレイタイム設定	DTnn[0D]	nn=00 ~ 99      設定範囲は0~9.9秒 少数点は不要
			送出例 DD20[0D] → DELAY TIME 2.0秒 に設定する DD02[0D] → DELAY TIME 0.2秒 に設定する DD00[0D] → DELAY TIME 0.0秒 OFF にする時設定する
		DT[0D]	ディレイ時間の確認  応答 DTn.n[0D]      少数点有りて応答する。
◆ ここで設定されるディレイ時間はメモリスキャン、サーチで共通。			
<b>DP</b>	ダイヤルサーチ ポーズ時間設定	DPxnn[0D]	nn=0 ~ 60 PAUSE 時間 単位:秒 設定単位:1秒 x=+/-    + PAUSE ON, - PAUSE OFF
			DP+5[0D] → PAUSE ON, 5秒 に設定する DP10[0D] → 10秒 に設定する DP+[0D] → PAUSE ON            に設定する
		DP[0D]	ダイヤルサーチ ポーズ時間の確認 応答 DPxnn[0D]  ◆設定は、必要桁数の入力で可

<b>EN</b>	ディエンファシス 設定	ENn[0D]	n=0	THRU,	n=1	25us
			n=2	50us,	n=3	75us
			n=4	750us,		
			送出例			
			EN3[0D] → DE-EMP 75us に設定する			
		EN[0D]	ディエンファシス設定の確認			
			応答 ENn[0D]			
<b>ES</b>	信号強度表示 の設定	EXn[0D]	n=0	通常表示, LCD 上のメモリー表示部	n=1	dBm 表示
		EX[0D]	信号強度表示の設定確認			
<b>EX</b>	オペレーション モードの設定	EXn[0D]	n=0	リモート,	n=1	ローカル
		EX[0D]	オペレーションモードの確認			
			応答 EXn[0D]	n=0	リモート, n=1	ローカル
				n=2	タイマー	
			◆ タイマー(n=2) は設定/確認ができません。 n=2 は、オンタイマー起動時に自動的に設定されます。			
<b>FE</b>	オフタイマー スイッチ	FEn[0D]	n=0	無効,	n=1	有効
			送出例			
			FE0[0D] →	無効に設定する。オフタイマーの設定時刻になっても電源オフしない		
			FE1[0D] →	有効に設定するオフタイマーの設定時刻になったら電源をオフする		
		FE[0D]	オフタイマースイッチの確認			
			応答 FEn[0D]			

<b>FS</b>	オフタイマー 時刻設定	FShhmmss[0D]	hh=00-23,            mm=00-59,            ss=00-59
			送出例  FS094500[0D] → 9時45分00秒に設定する
		FS[0D]	オフタイマー時刻の確認  応答    FS 09-45-00[0D]
<b>FT</b>	周波数・時刻 LCD表示切替	FTn[0D]	n=0    周波数                    n=1    時計表示
			送出例  FT0[0D] → 周波数表示部を周波数表示にする。 FT1[0D] → 周波数表示部を時計表示にします。
		FT[0D]	周波数・時刻表示の確認  応答    FTn[0D]
			◆ 35GR-RM には、LCD表示器は搭載されません。
<b>GA</b>	メモリーチャンネル セレクト設定	GAn[0D]	n=0    セレクトオフ            n=1    セレクトオン n=%%    全てのセレクトオフ
			送出例  GA0[0D] → メモリチャンネルセレクト オフに設定する GA1[0D] → メモリチャンネルセレクト オンに設定する
		GA[0D]	メモリーチャンネルセレクトの確認  応答    GAn[0D]
			◆ このコマンドは、メモリーチャンネル登録、メモリーリード、メモリー ースキャン停止時にのみ有効です。
<b>GM</b>	メモリースキャン 環境設定確認	GM[0D]	応答    GM XPxnn MLn BMxn …xn[0D]
			◆ 各パラメーターは、それぞれ、XP, ML, BM の項を参照

<b>GR</b>	メモリーチャンネル セレクト表示	GR[0D]	応答	
				GRnn MXnmm RFnnnn. nnnnnn AU <sub>n</sub> SJ <sub>n</sub> STnnn. nnn MD <sub>n</sub> TMxxxxxxx [0D]
				nn=00~99 セレクトチャンネル番号
				◆セレクト登録されているメモリーチャンネル全部をリスト表示する。 メモリーチャンネルの登録内容については、MX の項を参照
<b>GS</b>	プログラムサーチ 環境設定確認	GS[0D]	応答	GS SPxnn BQ <sub>n</sub> BSxnn …xnn[0D]
				◆ 各パラメーターは、それぞれ、SP, BQ, BS の項を参照
<b>HP</b>	HPF 設定	HPn[0D]	n=0 0.05kHz, n=2 0.3kHz,	n=1 0.2kHz, n=3 0.4kHz,
			送出例	
				HP2[0D] → HPF 0.3kHz に設定する
		HP[0D]	応答	HPn[0D]
				◆ オーディオ信号用ハイパスフィルタ設定
<b>ID</b>	ID 番号	IDnn[0D]	n=00~99	必ず 2 桁で指定
			送出例	
			ID01[0D]	→ ID を 01 に設定する
		ID[0D]	応答	IDnn[0D]
<b>KD</b>	DOWN キー	KD[0D]	操作キーのうち、DOWN キー押下	と同じ動作
			◆ 35GR-RM には、操作キーは搭載されません。	
<b>KU</b>	UP キー	KU[0D]	操作キーのうち、UP キー押下	と同じ動作
			◆ 35GR-RM には、操作キーは搭載されません。	

<b>LC</b>	RSSI 自動読出	LCn[0D]	n=0	自動読出オフ	自動読出しはしない
			n=1	自動読出オン	ミュートがオフになったとき出力
			n=2	未使用	
			n=3	自動読出オン	dBm 単位で読出し ミュートがオフになったとき出力

自動出力されるデータ

LCxxxx RFnnn. nnnnnn[0D]

xxxx = 000-1023 RSSI 値  
RF 以下は受信周波数 (書式は RF 項を参照)

LCxn.nnnDBM RFnnn. nnnnnn[0D]

xn.nnn : dBm 表示 (整数部 3 桁、小数部 1 桁)  
RF 以下は受信周波数 (書式は RF 項を参照)

例 (受信周波数 122.9MHz, 信号強度 -50.7dBm の場合)  
LC-050.7DBM RF0122. 900000[0D]

◆このコマンドは、EX0 のときにのみ有効です。

LC1、LC3 を設定すると受信周波数が変更された後、ミュートがオフ(オーディオ出力がオン)となった時に、その時の RSSI 値(LC3 時は dBm 表示)と受信周波数を出力します。「オーディオ出力がオン」とは、受信信号などを検出してスケルチが開となり、音声信号が出力されることを指しています。

<b>LE</b>	レベルスケルチ 設定	LEn[0D]	n=0	レベルスケルチ オフ
			n=1	レベルスケルチ オン
		LE[0D]	LEn[0D]	

<b>LM</b>	RSSI, AFCD AGC 読出し	LMn[0D]	n=0	RSSI を読出す (信号強度-AGC 制御なし)
			n=1	AFCD を読出す (AFC 制御電圧値)
			n=2	AGC を読出す (信号強度-AGC 制御下)
			n=3	dBm 単位で読出す (信号強度-dBm 単位)

出力されるデータ

RSSI / AGC

LMxxxx RFnnnn. nnnnn[0D]

LM%xxxx RFnnnn. nnnnn[0D] (ミュートオン時)

xxxx = 0-1023     RSSI 値または AGC 値  
RF 以下は受信周波数 (書式は RF 項を参照)

◆LM0, LM2, LM3 はミュートがオン(オーディオ出力がオフ)の時には「%」を付加する

AFCD

LMxxxx RFnnnn. nnnnn[0D]

xxxx = 0-1023     AFC 制御電圧値

◆AFC を動作させるには、ハードウェアオプションが必要です。

dBm 単位での出力 (整数部 3 桁、小数部 1 桁)

LMxmmm.mDBM RFnnnn. nnnnn[0D]

LM%xmmm.mDBMxxx RFnnnn. nnnnn[0D] (ミュートオン)

例 (受信周波数 122.9MHz, 信号強度 -50.7dBm の場合)

LM-050.7DBM RF0122. 900000[0D]

<b>LP</b>	LPF 設定	LPn[0D]	n=0	3.0kHz,	n=1	4.0kHz
			n=2	6.0kHz,	n=3	20.0kHz

送出例

LP0[0D] → LPF 3.0kHz に設定する

LP[0D]     応答     LPn[0D]

◆ オーディオ信号用ローパスフィルタ設定

**LS** レベルスケルチ設定 LSxnnn[0D] xnnn= -120 ~ 0 (-120dBm~0.0dBm)  
 x=+/- : 信号強度の符号

送出例

LS-075.50[0D] → レベルスケルチ -75.5 dBm に設定  
 LS-101.4[0D] → レベルスケルチ -101.4 dBm に設定

符号は省略すると + が設定される。  
 小数点部は、省略すると 0 が設定される

LS[0D] レベルスケルチ設定の確認

応答 LSxnnn.nDBM[0D]

**MA** メモリーチャンネル登録内容確認 MAn[0D] n=0~9 バンク#

応答

MXnmm MPn GAn RFnnnn. nnnnnn AU<sub>n</sub> SJn STnnn. nnn MDn BWn TMxxxxxxxx[0D]

◆ 各パラメーターは、MX, MP, GA の項を参照

MXnmm --- [0D] 未登録チャンネルの場合

◆ 指定したメモリーバンクの 00~99 チャンネルを、リスト表示。

**MD** 復調モード設定 MDn[0D]

n=0	FM,	n=1	AM
n=2	SYNC AM,	n=3	SYNC USB,
n=4	SYNC LSB,	n=5	USB
n=6	LSB,	n=7	CW

送出例

MD1[0D] → AM に設定する

MD[0D] 復調モード設定の確認

応答 AU0 MD1[0D] 先頭に、AU<sub>n</sub> が付加される

◆ SYNC AM(n=2), SYNC USB(n=3), SYNC LSB(n=4) は、該当するハードウェアオプションが必要。搭載されていない場合には無効。

<b>ML</b>	メモリスキャン リンクのオン・オフ	<b>MLn[0D]</b>	n=0	リンク オフ,	n=1	リンク オン
		<b>ML[0D]</b>	メモリスキャンリンク オンオフの確認			

送出例

**ML0[0D]** → メモリスキャンリンク オフ(しない)に設定する  
**ML1[0D]** → メモリスキャンリンク オン(する)に設定する

応答 **MLn[0D]**

<b>MP</b>	メモリーチャンネル パス設定	<b>MPn[0D]</b>	n=0	パスは無効,	n=1	パスは有効
		<b>MP[0D]</b>	パスは有効, 1000 チャンネル分一括して無効			

送出例

**MP0[0D]** → メモリーチャンネル パス を無効に設定する  
**MP1[0D]** → メモリーチャンネル パス を有効に設定する

応答 **MPn[0D]**

◆ このコマンドは、メモリーチャンネル登録、メモリーリード、メモリスキャン停止時にのみ有効です。セレクトスキャン動作時には、「?2」が返ります。

<b>MQ</b>	メモリーチャンネル 消去	<b>MQ[0D]</b>	現在のメモリーチャンネルを消去 (メモリーリード、メモリスキャン停止中のみ有効)		
		<b>MQmm[0D]</b>	mm=00-99	現在のメモリーバンク内の指定メモリーチャンネル(mm)消去 (メモリーリード、メモリスキャン停止及び走行中に有効)	
		<b>MQ%%[0D]</b>	現在のメモリーバンクの全てのメモリーチャンネルを消去 (メモリーリード、メモリスキャン停止及び走行中に有効)		
		<b>MQ%%n[0D]</b>	n=0-9	指定したメモリーバンク(n)内のすべてのメモリーチャンネルを消去	

<b>MR</b>	メモリーリード	<b>MR[0D]</b>	最後に読み出されていた、メモリーチャンネルを読み出す
		<b>MRnmm[0D]</b>	メモリーチャンネルを指定して読み出す n = 0 ~ 9 メモリーバンク番号 mm = 00 ~ 99 メモリーチャンネル番号

<b>MS</b>	メモリスキャン スタート	MS[0D]	最後に読み出されていたメモリーチャンネルからスタート
		MSn[0D]	n=0-9 メモリーバンク番号 メモリーバンク#を指定してスタート

**MX** メモリーチャンネル登録

MXnmm RFnnnnnnnnnn SJn STnnnnnn MDn BWn...TMxxxxxxx[0D]

MXnmm	n=0-9 mm=00-99	メモリーバンク番号 メモリーチャンネル番号	(必須)
RFnnnnnnnnnn	または RFnnnn. nnnnnn	受信周波数	(必須)
SJn	ステップアジャスト(必要に応じて設定。未入力時は SJ0 となる)		
STnnnnnn	または STnnn. nnn	ステップ周波数(必要に応じて設定。未入力時は 1kHz となる)	
MDn	復調モード (必要に応じて設定、未入力時は MD0 となる)		
BWn	IF バンド幅設定(必要に応じて設定、未入力時は BW4 となる)		
HPn, LPn, ENn	ハイパスフィルタ、ローパスフィルタ、ディエンファシス (必要に応じて設定、未入力時は復調モードに合わせた初期値となる)		
ACn	AGC 設定 (必要に応じて設定、未入力時は復調モードに合わせた初期値となる)		
ATn	アッテネータ設定(必要に応じて設定、未入力時は AT0 となる)		
TMxxxxxxx	8文字までの任意テキスト xxxxxxxx x = アスキー文字 (必要に応じて設定、未入力時はブランクとなる)		

<b>NB</b>	ノイズブランカー	NBn[0D]	n=0 オフ,      n=1 オン
-----------	----------	---------	---------------------

送出例

NB0[0D] → ノイズブランカー オフに設定する

NB[0D]	ノイズブランカーの確認
--------	-------------

応答 NBn[0D]

◆NB を動作させるには、ハードウェアオプションが必要です。

<b>NS</b>	DETECTOR ステータス確認	NS[0D]	応答	NSxx[0D] xx=Hex 2 桁
			bit7~5	未使用 (不定値)
			bit4	1:LD =「H」 PLL ロック状態
			bit3	0:CTCSD=「L」 受信信号と CTCSS トーン周波数が一致した状態
			bit2	1:LSQD =「H」 RSSI が設定値より大きい状態
			bit1	1:TED =「H」 受信信号に TE 信号が無い状態
			bit0	1:NSQD =「H」 ノイズスケルチ開の状態
			◆NS は、PLL ロックやオーディオミュートの状態を示すフラグとして使えます。	
<b>OB</b>	オンタイマー BEEP レベル設定 (BEEP-TI)	OBnnn[0D]	nnn=0 ~ 255	
			送出例	
			OB8[0D]	→ BEEP-TI を 8 に設定する
			OB250[0D]	→ BEEP-TI を 250 に設定する
			◆数値設定(nnn)は必要桁数のみでも可	
		OB[0D]	応答	OBnnn[0D]
<b>OC</b>	基準発振器選択	OCn[0D]	n=0	内部基準発振器を選択
			n=1	外部基準発振器を選択
			送出例	
			OC0[0D]	→ 内部基準発振器を選択する
			OC1[0D]	→ 外部基準発振器を選択する
		OC[0D]	基準発振器選択の確認	
			応答	OCn[0D]
			◆通常は OC0 で使用します。	
<b>OE</b>	オンタイマー イネーブル	OEn[0D]	n=0	設定した起動時刻になっても起動しない,
			n=1	設定した起動時刻に起動する
		OE[0D]	応答	OEn[0D]

<b>OU</b>	オンタイマー 起動時刻設定	OUhhmmss[0D]	hh=00-23,      mm=00-59,      ss=00-59  送出例  OU154500[0D] → 15 時 45 分 00 秒 に設定する  OU[0D]      オンタイマー起動時刻の確認  応答    OU 15-45-00[0D]
<b>OS</b>	オンタイマー 起動ソース選択	OSn[0D]	n=0      RADIO,      n=1      BEEP  送出例  OS0[0D] → 起動ソースを RADIO に設定する OS1[0D] → 起動ソースを BEEP に設定する  ◆オンタイマーで起動するときのオーディオ出力を受信音声にするかビープ音にするか選択ができます。この時のオーディオ出力の音量は OR、ビープ音の音量は OB で設定した音量です。  OS[0D]      オンタイマー起動ソース選択の確認  応答    OSn[0D]
<b>OR</b>	オンタイマー AF レベル設定	ORnnn[0D]	nnn=0 ~ 255  送出例  OR8[0D]    → RD-TI を 8 に設定する OR250[0D] → RD-TI を 250 に設定する  ◆数値設定(nnn)は必要桁数のみでも可  OR[0D]      オンタイマーAF レベル設定の確認  応答      ORnnn[0D]
<b>PA</b>	指定周波数 パス設定	PAnnnnnnnnn[0D] PAnnnn.nnnnnn[0D]	Hz      設定 MHz    設定  ◆ダイヤル、ダイヤルサーチ、プログラムサーチで、周波数を指定して、周波数パスに登録する。プログラムサーチでは読出されている、サーチバンクに登録され、ダイヤル、ダイヤルサーチでは、ダイヤル用バンクに登録される。サーチは停止中、走行中に有効。ただし、リンクオンでプログラムサーチが走行中の場合には無効となり、?2 が返答される。

<b>PD</b>	周波数パス解除	PDnnmmm[0D]	nn=00-19 nn=50 mmm=000-499 mmm=000-099	プログラムサーチバンク番号 ダイヤル専用バンク(DIAL) プログラムサーチ周波数パス ch 番号 ダイヤルサーチ周波数パス ch 番号
		PD%%nn[0D]	指定バンク内一括解除	nn=00 ~ 19, 50
		PD%%[0D]	使用中(カレント)バンク内を一括解除	
<b>PI</b>	プライオリティ インターバル時間	PInn[0D]	nn = 1~60	1~60 秒 単位は秒 ◆数値設定(nn)は必要桁数のみでも可
		PI[0D]	プライオリティ インターバル時間の確認	応答 PInn[0D]
<b>PL</b>	周波数パス確認	PLnn[0D]	nn=00-19 nn=50	プログラムサーチバンク番号 ダイヤル専用(DIAL)
		PL[0D]	使用中(カレント)バンク	◆指定したバンク内に設定されている周波数パスをリスト表示 応答 PLnn[0D] PLnn mmm RFnnnn. nnnnnn[0D]
<b>PP</b>	プライオリティ受信 オン/オフ設定	PPn[0D]	n=0 オフ、 送出例 PP0[0D] → プライオリティ受信オフ に設定する PP1[0D] → プライオリティ受信オン に設定する	n=1 オン
		PP[0D]	プライオリティ受信オン/オフの確認	応答 PPn[0D]

**PR** プライオリティチャンネル登録と確認

PR RFnnnnnnnnnn SJn STnnnnnn MDn BWn...TMxxxxxxx[0D]

RFnnnnnnnnnn または RFnnnn. nnnnnn 受信周波数

SJn ステップアジャスト(必要に応じて設定。未入力時は SJ0 となる)

STnnnnnn または STnnn. nnn

ステップ周波数(必要に応じて設定。未入力時は 1kHz となる)

MDn 復調モード (必要に応じて設定、未入力時は MD0 となる)

BWn IF バンド幅設定(必要に応じて設定、未入力時は BW4 となる)

HPn, LPn, ENn ハイパスフィルタ、ローパスフィルタ、ディエンファンス  
(必要に応じて設定、未入力時は復調モードに合わせた初期値となる)

ACn AGC 設定 (必要に応じて設定、未入力時は復調モードに合わせた初期値となる)

ATn アッテネータ設定(必要に応じて設定、未入力時は AT0 となる)

TMxxxxxxx 8文字までの任意テキスト xxxxxxxx x = アスキー文字  
(必要に応じて設定、未入力時はブランクとなる)

◆ PR 以降のコマンドは、[SP]で区切り順次入力する。

PR[0D] プライオリティチャンネルの確認

応答 PR RFnnnn.nnnnnn SJn STnnn.nnn MDn BWn xxxxxxxx

**PS** 受信周波数  
パス登録

PS[0D] 受信している周波数をパスに登録する。

プログラムサーチの場合、カレントバンク(使用中のバンク)にパス周波数として登録する。ダイヤル、ダイヤルサーチの場合には、DIAL 専用のバンクに登録する。

プログラムサーチ、ダイヤルサーチのときは、サーチが停止中のみ有効となる。

**PW** 電源制御

PWn[0D] n=0 スタンバイ、 n=1 起動

PW[0D] 電源制御の確認

応答 PWn[0D]

<b>QM</b>	DTMF デコーダー QMn[0D]	n=0 DTMF オフ、	n=1 DTMF オン
		送出例	
		QM0[0D] → DTMF オフ に設定する	
		QM1[0D] → DTMF オン に設定する	
	QM[0D]	DTMF デコーダーの確認	
		応答 QMn xxxxxxxxxxxxxxxx[0D]	
		◆確認では、デコードした DTMF 信号 16 文字分付加される。 DTMF オンにした後、DTMF 信号を受信したら、順次デコード結果を送出する。	
		◆DTMF デコーダーを動作させるには、ハードウェアオプションが必要です。	
<b>QS</b>	プログラムサーチ QSnn[0D]	nn=00 - 49 サーチバンク番号	
		送出例	
		QS01[0D] → サーチバンク 1 のデータ消去と 周波数パス設定の一括解除	
		◆指定したサーチバンクのデータと登録してあった周波数パスが 消去される。	
<b>RF</b>	受信周波数 RFnnnnnnnnnn[0D]	または、	RFnnnn. nnnnnn[0D] 設定
		n=0~9 数字	
		送出例	
		RF100000[0D] → 0. 100000MHz に設定される	
		RF15. 5[0D] → 15. 500000MHz に設定される	
		RF15. [0D] → 15. 000000MHz に設定される	
		◆10 桁全てを入力する必要はなく、必要な桁数を入力すれば 設定される。	
	RF[0D]	受信周波数の確認	
		応答 Vx RFnnnn. nnnnnn AUn SJn STnnn. nnn MDn BWn[0D]	
		受信周波数 少数点有り、10 桁	
		ステップ周波数 少数点有り、6 桁です	
		ダイヤルモード以外では直前ダイヤル状態に戻って応答する。	

**RQ** リモート ノイズスケルチ (RNSQ) RQnnn[0D] nnn=0 ~ 255

送出例  
 RQ8[0D] → NSQ-RM 8 に設定する  
 RQ250[0D] → NSQ-RM 250 に設定する

nnn=0 ノイズスケルチ最小(開く)  
 nnn=255 ノイズスケルチ最大(閉じる)  
 nnn≒145 しきい値 (threshold)

RQ[0D] リモートノイズスケルチの確認

応答 RQnnn[0D]

◆このコマンドは、EX0 のときにのみ有効です。

**RX** 現在の動作状態確認 RX[0D]

ダイヤルモード

Vx RFnnnn. nnnnnn AUn SJn STnnn. nnn MDn BWn x = A, B, C, D, E, F (ダイヤル)

ダイヤルサーチモード

VS Vx RFnnnn. nnnnnn AUn SJn STnnn. nnn MDn BWn x = A, B, C, D, E, F

メモリーリードモード

MR MXnmm MPn GAn RFnnnn.nnnnnn SJn STnnn.nnn MDn BWn TMxxxxxxxx

メモリースキャンモード

MS MXnmm MPn GAn RFnnnn.nnnnnn SJn STnnn.nnn MDn BWn TMxxxxxxxx

セレクトスキャンモード

SM MXnmm MPn GAn RFnnnn.nnnnnn SJn STnnn.nnn MDn BWn TMxxxxxxxx

プログラムサーチモード

SSnn RFnnnn.nnnnnn SJn STnnn.nnn MDn BWn TTxxxxxxxx

プライオリティ受信

PR RFnnnn.nnnnnn SJn STnnn.nnn MDn BWn TMxxxxxxxx

**SC** Sメーターソース切替 SCn[0D] n=0 SメーターソースにRSSIを設定  
 n=1 SメーターソースにAGCを設定

SC[0D] Sメーターソースの確認

応答 SCn[0D]



<b>SH</b>	サーチ ホールド・スタート	<b>SHn[0D]</b>	n=0	サーチ強制再開 (選択方向の次周波数から再開)		
			n=1	サーチ一時停止 (MUTE 強制オフ)		
			n=2	サーチ一時停止		
		<b>SH[0D]</b>	サーチホールド・スタートの確認			
			応答	<b>SHn[0D]</b>		
			◆このコマンドは、サーチ動作中にサーチの再開、一時停止を行うコマンドで、プログラムサーチまたはダイヤルサーチ動作中以外は無効となります。			
			◆SH0			
			・スケルチ開(音声出力状態)で停止中にサーチを強制再開。			
			・スケルチ閉で走行中の場合には、そのままサーチを継続する。			
			◆SH1			
			・スケルチ開で停止中にポーズ時間経過後もサーチを一時停止。 SH0 を受けるまで停止。			
			・スケルチ閉で走行中にサーチを一時停止。 SH0 を受けるまで停止。スケルチは強制開となる。			
			◆SH2			
			・スケルチ開で停止中にポーズ時間経過後もサーチを一時停止。 SH0 を受けるまで停止。			
			・スケルチ閉で走行中にサーチを一時停止。SH0 を受けるまで停止。			
			◆このコマンドは EX0 でのみ有効です。			
<b>SI</b>	シフト オン・オフ	<b>SIn[0D]</b>	n=0	オフ、	n=1	オン
			送出例			
			<b>SI0[0D]</b>	→	シフトオフに設定する。	
			<b>SI1[0D]</b>	→	シフト オンに設定する。	
		<b>SI[0D]</b>	シフト オン・オフの確認			
			応答	<b>SIn[0D]</b>		
<b>SJ</b>	ステップアジャスト	<b>SJn[0D]</b>	n=0	オフ、	n=1	オン
		<b>SJ[0D]</b>	ステップアジャストの確認			
			応答	<b>SJn[0D]</b>		

<b>ST</b>	ステップ周波数	STnnnnnn[0D]	または	STnnn. nnn[0D]
				n=0~9 数字
				送出例
				ST5000[0D] → 5. 000kHz に設定する ST12. 5[0D] → 12. 500kHz に設定する ST25. [0D] → 25. 000kHz に設定する ST25[0D] → 25Hz に設定する
			◆n は 6 桁全部入力する必要はなく、必要な桁数で設定可能	
		ST[0D]	ステップ周波数の確認	
			応答	SJn STnnn. nnn[0D]
				先頭に、SJn が付加され、少数点有りて 6 桁応答
<b>SM</b>	セレクトスキャン	SM[0D]	過去最後に終了したセレクトスキャンのチャンネルからスタート	
			◆メモリーチャンネルセレクト(GA) されたメモリーチャンネルが存在しない場合には無効となる。	
<b>SP</b>	プログラムサーチ ポーズ時間設定	SPxnn[0D]	nn=0 ~ 60 ポーズ時間 単位:秒 設定単位:1 秒 x=+/-	
			nn 設定値 (秒)	
			+ ポーズ有効	
			- ポーズ無効	
			+nn ポーズ有効、設定値を同時に設定する	
			-nn ポーズ無効、設定値を同時に設定する	
			送出例	
			SP+5[0D] → ポーズ有効、5 秒 に設定する	
			SP-5[0D] → ポーズ無効、5 秒 に設定する	
			SP5[0D] → 5 秒 に設定する	
			SP+[0D] → ポーズ有効に設定する	
			◆ +/- 符号を省略した場合は以前の符号設定を継続する。	
		SP[0D]	プログラムサーチ ポーズ時間の確認	
			応答	SPxnn[0D]

<b>SQ</b>	オンタイマー用 ノイズスケルチ (ONSQ)	SQnnn[0D]	nnn=0 ~ 255
			送出例
		SQ8[0D]	→ ONSQ 8 に設定する
		SQ250[0D]	→ ONSQ 250 に設定する
		nnn=0	ノイズスケルチ最小(開く)
		nnn=255	ノイズスケルチ最大(閉じる)
		nnn=180	しきい値 (threshold)
		SQ[0D]	オンタイマー用ノイズスケルチの確認
		応答	SQnnn[0D]
<b>SR</b>	プログラムサーチ データ確認	SR[0D]	過去最後に読み出したサーチバンク#を讀出す
		SRnn[0D]	nn = 00-49 (サーチバンク番号) 指定サーチバンクを讀出す。
		SR%%[0D]	全てのサーチバンクを讀出す。
		応答	
		SRnn SLnnnn. nnnnnn SUnnnn. nnnnnn AU n SJn STnnn. nnn MDn BWn TTxxxxxxx[0D]	
		SRnn --- [0D] 設定されていない場合	
<b>SS</b>	プログラムサーチ スタート	SS[0D]	過去最後に、読み出されていたサーチバンクをスタート
		SSnn[0D]	サーチバンク番号を指定してスタート
			nn = 00~49 サーチバンク番号
<b>TE</b>	トーンエリミネーター (TE)	TExnnn[0D]	nnn=0-255 設定値、x=+/- +: TE 有効 -: TE 無効
			送出例
		TE+[0D]	→ TE 有効に設定する
		TE-250[0D]	→ TE 無効、250 に設定する
		◆ +/- 符号を省略した場合は以前の符号設定を継続する。	
		TE[0D]	トーンエリミネーターの確認
		応答	TExnnn[0D]

<b>TS</b>	スリープタイマー 時間設定	TSxnnn[0D]	nnn=1 ~ 120 単位:分 設定単位:1分
			x=+/- + : スリープタイマー有効 - : スリープタイマー無効
			TS+, TS-, TSnnn 有効
			送出例
			TS+8[0D] → スリープタイマー8分、有効に設定する TS-100[0D] → スリープタイマー100分、無効に設定する
			◆スリープタイマーは有効にした時点から開始され、設定定時間が経過するとスタンバイ状態に移行し、受信を停止する。 ◆スリープタイマー機能、その他機能でスタンバイ状態へ移行したとき、スリープタイマーは無効になる。
		TS[0D]	スリープタイマーの確認
			応答 TSxnnn[0D]
<b>VI</b>	オーディオ反転 (AFI)	Vlxnnn[0D]	nnn=0 ~ 255 設定値、 x=+/- +:AFI 有効、 -:AFI オフ
			+nnn AFI 有効、設定値を同時に設定 -nnn AFI 無効、設定値を同時に設定
			送出例 VI+[0D] → AFI 有効に設定する VI-250[0D] → AFI 無効、250 に設定する VI150[0D] → AFI 150 に設定する
			◆ +/- 符号を省略した場合は以前の符号設定を継続する。
		VI[0D]	オーディオ反転の確認
			Vlxnnn[0D]
<b>VL</b>	オーディオゲイン 設定(AFG)	VLnnn[0D]	nnn=0 ~ 255 0:音量最小、255: 音量最大
			送出例 VL8[0D] → AFG 8 に設定する VL120[0D] → AFG 120 に設定する
			VL[0D] オーディオゲインの確認
			応答 VLnnn[0D]

<b>VR</b>	ファームウェア バージョン確認	VR[0D]	応答 VER-nn.nn.nn[0D]  応答例 VER-06.04.22
<b>VS</b>	ダイヤルサーチ スタート	VS[0D]  VSx[0D]	過去最後に読出していたダイヤルでダイヤルサーチをスタート  ダイヤル#を指定してダイヤルサーチをスタート x = A, B, C, D, E, F, (DIAL#)
<b>VX</b>	ダイヤル#切替	Vx[0D]	x=A, B, C, D, E, F (DIAL#)  送出例  VA[0D]  応答  VA RFnnnn. nnnnnn AUn SJn STnnn. nnn MDn BWn[0D]  指定したダイヤル # に切替え、状態の表示を応答する。
<b>XP</b>	メモリスキャン ポーズ時間設定	XPnn[0D]	nn=0-60 ポーズ時間 単位:秒 設定単位:1 秒 x=+/- +: ポーズ有効、 -: ポーズ無効  +nn ポーズ有効、設定値を同時に設定 -nn ポーズ無効、設定値を同時に設定  送出例 XP+5[0D] → ポーズ有効、5 秒に設定する XP-5[0D] → ポーズ無効、5 秒に設定する XP5[0D] → 5 秒 に設定する XP+[0D] → ポーズ無効 に設定する  ◆ +/- 符号を省略した場合は以前の符号設定を継続する。  XP[0D] メモリスキャンポーズ時間の確認  応答 XPxnn[0D]

## 環境設定に関わる項目の初期値一覧

35GR シリーズの環境設定に関わるコマンド項目の初期値は次表の通りです。

項目	コマンド	初期値	備考
LCD バックライト	BL	点灯 (n=1)	35GR-RM には LCD バックライトは搭載されない
IF 出力	AI	IF OUT1	(n=1) 10.7MHz 帯域幅 10MHz
シリアル通信速度	BP	115.2kbps	(n=4)
基準発振器選択	OC	内部発振器	(n=0) 内部発振器 20MHz
S メーター	SC	RSSI	(n=0) 35GR-RM には S メーターは搭載されない

## 入出力に関する仕様一覧

項目	仕様	備考
外部基準信号 (※)	20MHz $\pm 1.5$ ppm / $-17$ dBm $\sim$ +3dBm	推奨 $-15$ dBm
	10MHz $\pm 1.5$ ppm / $-5$ dBm $\sim$ +3dBm	推奨 $-3$ dBm
アンテナ端子 最大入力レベル	+20dBm	
電源入力	DC 11V $\sim$ 15V / 最大 1.1A / 待機 25mA	
ラインアウト出力 LEFT / RIGHT	$-20$ dBm FM, DEV: 3.5kHz, IFBW: 15kHz, 0dBm: 1mW/600 $\Omega$	
IF 出力レベル	次ページ参照	

### (※) 基準発振信号

外部機器からの基準発振信号を用いる場合には、OC コマンドにて外部基準信号を選択します。基準信号の精度が受信機全体の受信精度に大きく影響するので、外部機器からの信号を用いる際には、高精度な信号を入力してください。外部基準信号の周波数は、上表の規格内であれば、20MHz / 10MHz のどちらでもご使用いただけます。

35GRシリーズ IF出力レベル (参考値)

BAND	受信周波数 MHz	EXT-IF1 10.7MHz 帯域幅 10MHz		EXT-IF2 10.7MHz 2nd IFフィルタ通過後				EXT-IF3 455kHz 3rd Mix 出力			
		ANT入力 -50dBm		ANT入力 -50dBm				ANT入力 -50dBm		ANT入力 -70dBm	
		AGC ON/OFF		AGC ON		AGC OFF		AGC ON		AGC OFF	
		Gain dB	Level dBm	Gain dB	Level dBm	Gain dB	Level dBm	Gain dB	Level dBm	Gain dB	Level dBm
1	0.010	6.6	-43.4	9.9	-40.1	18.2	-31.8	16.1	-33.9	23.2	-46.8
	0.040	9.2	-40.8	10.0	-40.0	20.8	-29.2	16.1	-33.9	25.6	-44.4
	0.150	8.7	-41.3	10.0	-40.0	20.3	-29.7	16.1	-33.9	25.0	-45.0
	0.275	8.9	-41.1	10.0	-40.0	20.5	-29.5	16.1	-33.9	25.2	-44.8
	0.490	8.5	-41.5	10.0	-40.0	20.1	-29.9	16.1	-33.9	25.0	-45.0
2	0.500	6.5	-43.5	9.9	-40.1	17.8	-32.2	16.1	-33.9	22.7	-47.3
	0.550	6.5	-43.5	9.9	-40.1	18.0	-32.0	16.1	-33.9	22.8	-47.2
	0.750	6.4	-43.6	9.9	-40.1	18.0	-32.0	16.1	-33.9	22.7	-47.3
	0.990	5.2	-44.8	9.9	-40.1	16.7	-33.3	16.1	-33.9	21.5	-48.5
3	1.000	6.2	-43.8	9.9	-40.1	17.7	-32.3	16.1	-33.9	22.5	-47.5
	1.100	6.6	-43.4	9.9	-40.1	18.0	-32.0	16.1	-33.9	22.9	-47.1
	1.750	7.2	-42.8	9.9	-40.1	18.7	-31.3	16.1	-33.9	23.5	-46.5
4	2.490	5.1	-44.9	9.8	-40.2	16.6	-33.4	16.1	-33.9	21.4	-48.6
	2.500	10.0	-40.0	10.0	-40.0	21.4	-28.6	16.2	-33.8	26.3	-43.7
	6.300	10.3	-39.7	10.0	-40.0	21.7	-28.3	16.2	-33.8	26.6	-43.4
5	9.900	10.2	-39.8	10.0	-40.0	21.7	-28.3	16.2	-33.8	26.6	-43.4
	10.100	10.2	-39.8	10.0	-40.0	21.7	-28.3	16.2	-33.8	26.5	-43.5
	14.100	10.2	-39.8	10.0	-40.0	21.6	-28.4	16.2	-33.8	26.5	-43.5
	19.900	10.0	-40.0	10.0	-40.0	21.4	-28.6	16.2	-33.8	26.3	-43.7
6	29.900	10.0	-40.0	10.0	-40.0	21.4	-28.6	16.2	-33.8	26.2	-43.8
	30.100	13.1	-36.9	10.1	-39.9	24.4	-25.6	16.3	-33.7	29.3	-40.7
	35.900	13.5	-36.5	10.1	-39.9	24.9	-25.1	16.3	-33.7	29.8	-40.2
	40.900	13.2	-36.8	10.1	-39.9	24.6	-25.4	16.3	-33.7	29.5	-40.5
7	41.100	12.6	-37.4	10.1	-39.9	24.0	-26.0	16.3	-33.7	28.9	-41.1
	48.900	13.0	-37.0	10.1	-39.9	24.3	-25.7	16.3	-33.7	29.2	-40.8
	56.900	12.6	-37.4	10.1	-39.9	24.1	-25.9	16.3	-33.7	29.0	-41.0
8	57.100	12.1	-37.9	10.1	-39.9	23.6	-26.4	16.3	-33.7	28.5	-41.5
	66.900	12.8	-37.2	10.1	-39.9	24.2	-25.8	16.3	-33.7	29.1	-40.9
	75.900	12.0	-38.0	10.1	-39.9	23.5	-26.5	16.3	-33.7	28.4	-41.6
9	76.100	12.0	-38.0	10.1	-39.9	23.6	-26.4	16.3	-33.7	28.4	-41.6
	91.900	12.9	-37.1	10.1	-39.9	24.4	-25.6	16.3	-33.7	29.2	-40.8
	107.900	12.2	-37.8	10.1	-39.9	23.7	-26.3	16.3	-33.7	28.6	-41.4
10	108.100	13.0	-37.0	10.1	-39.9	24.5	-25.5	16.3	-33.7	29.4	-40.6
	122.900	13.7	-36.3	10.1	-39.9	25.2	-24.8	16.3	-33.7	30.1	-39.9
	135.900	13.1	-36.9	10.1	-39.9	24.6	-25.4	16.3	-33.7	29.5	-40.5
11	136.100	13.2	-36.8	10.1	-39.9	24.7	-25.3	16.3	-33.7	29.6	-40.4
	154.900	13.3	-36.7	10.1	-39.9	24.8	-25.2	16.3	-33.7	29.7	-40.3
	173.900	13.4	-36.6	10.1	-39.9	24.8	-25.2	16.3	-33.7	29.7	-40.3
12	174.100	13.0	-37.0	10.1	-39.9	24.4	-25.6	16.3	-33.7	29.3	-40.7
	198.900	13.7	-36.3	10.1	-39.9	25.3	-24.7	16.3	-33.7	30.1	-39.9
	223.900	14.0	-36.0	10.1	-39.9	25.6	-24.4	16.3	-33.7	30.4	-39.6
13	224.100	14.1	-35.9	10.1	-39.9	25.7	-24.3	16.3	-33.7	30.6	-39.4
	279.900	13.9	-36.1	10.1	-39.9	25.4	-24.6	16.3	-33.7	30.3	-39.7
	334.900	14.2	-35.8	10.1	-39.9	25.8	-24.2	16.3	-33.7	30.7	-39.3
14	335.100	12.9	-37.1	10.1	-39.9	24.5	-25.5	16.3	-33.7	29.3	-40.7
	417.900	12.5	-37.5	10.1	-39.9	24.1	-25.9	16.3	-33.7	29.0	-41.0
	499.900	12.8	-37.2	10.1	-39.9	24.5	-25.5	16.3	-33.7	29.3	-40.7
15	500.100	11.9	-38.1	10.1	-39.9	23.4	-26.6	16.3	-33.7	28.3	-41.7
	599.900	11.6	-38.4	10.1	-39.9	23.1	-26.9	16.3	-33.7	28.0	-42.0
	699.900	12.9	-37.1	10.1	-39.9	24.6	-25.4	16.3	-33.7	29.5	-40.5
16	700.100	14.4	-35.6	10.2	-39.8	26.2	-23.8	16.3	-33.7	31.1	-38.9
	799.900	13.7	-36.3	10.2	-39.8	25.5	-24.5	16.3	-33.7	30.4	-39.6
	899.900	13.7	-36.3	10.2	-39.8	25.1	-24.9	16.3	-33.7	30.0	-40.0
17	900.100	12.8	-37.2	10.2	-39.8	24.4	-25.6	16.3	-33.7	29.2	-40.8
	999.900	14.7	-35.3	10.2	-39.8	26.3	-23.7	16.4	-33.6	31.2	-38.8
	1099.900	13.9	-36.1	10.2	-39.8	25.6	-24.4	16.3	-33.7	30.5	-39.5
18	1100.100	15.7	-34.3	10.3	-39.7	27.4	-22.6	16.4	-33.6	32.4	-37.6
	1359.900	13.6	-36.4	10.2	-39.8	25.3	-24.7	16.3	-33.7	30.2	-39.8
	1599.900	13.5	-36.5	10.2	-39.8	25.3	-24.7	16.3	-33.7	30.2	-39.8
19	1600.100	14.0	-36.0	10.2	-39.8	25.8	-24.2	16.4	-33.6	30.7	-39.3
	2000.900	14.5	-35.5	10.3	-39.7	26.2	-23.8	16.4	-33.6	31.1	-38.9
	2399.900	13.4	-36.6	10.1	-39.9	25.0	-25.0	16.2	-33.8	29.9	-40.1
20	2400.100	17.0	-33.0	10.2	-39.8	28.6	-21.4	16.3	-33.7	33.6	-36.4
	2699.900	18.0	-32.0	10.2	-39.8	29.6	-20.4	16.4	-33.6	34.6	-35.4
	3000.900	16.0	-34.0	10.2	-39.8	27.7	-22.3	16.3	-33.7	32.6	-37.4
	3299.900	16.4	-33.6	10.2	-39.8	28.1	-21.9	16.3	-33.7	33.1	-36.9
	3400.900	13.7	-36.3	10.1	-39.9	25.2	-24.8	16.2	-33.8	30.0	-40.0
	3500.900	10.5	-39.5	10.0	-40.0	21.1	-28.9	16.1	-33.9	25.9	-44.1
	3600.000	9.0	-41.0	10.0	-40.0	20.1	-29.9	16.0	-34.0	24.9	-45.1

ページ網掛の行が、フロントエンドを構成する各バンド(1~20)のほぼ中心となる周波数です。

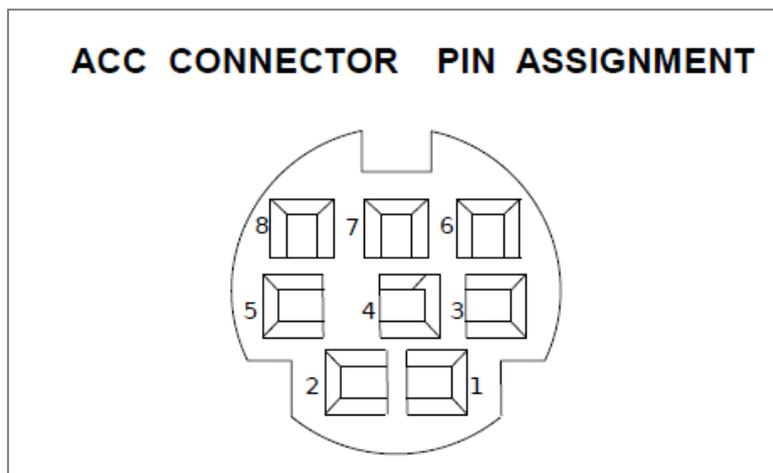
## 35GR 信号強度測定値とSメーター表示、レベルスケルチのしきい値（参考値）

アンテナ端子に入力される信号強度とSメーター表示と、レベルスケルチで設定できるしきい値の目安は、次のとおりです。

信号強度 (dBm)	Sメーター表示とレベルスケルチ
-108	セグメント1 個点灯 S1
-105	セグメント2個点灯 S2
-100	セグメント3個点灯 S3
-95	セグメント4個点灯 S4
-90	セグメント5個点灯 S5, S6
-80	セグメント6個点灯 S7, S8
-70	セグメント7個点灯 S9
-50	セグメント8個点灯 S9+20
-30	セグメント9個点灯 S9+60

## 35GRシリーズ ACC端子

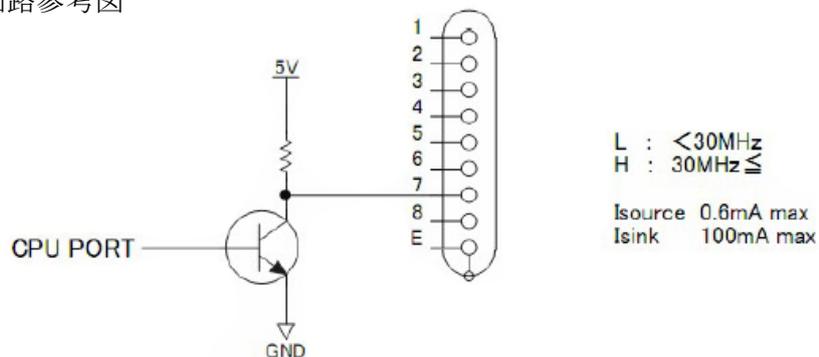
背面に配置される ACC 端子は、ミニDINジャック(8ピン)です。ピン配置は次のとおりです。



ピン番号	信号名称	規格など	
1	DC OUT	電源出力 ( $V_{DC}=V_{IN}$ )	Max. 200mA
2	DET OUT	検波出力 -20dBm	$Z_{out} = 1\text{ k}\Omega$
3	DRM	DRM 用出力 -20dBm	$Z_{out} = 1\text{ k}\Omega$
4	AF OUT1	ライン出力 1 -20dBm	$Z_{out} = 1\text{ k}\Omega$
5	AF OUT2	ライン出力 2 -52dBm	$Z_{out} = 56\Omega$
6	SIGNAL LEVEL	信号強度用 DC 電圧出力	$Z_{out} = 1\text{ k}\Omega$
7	BAND SELECT	外部切替信号( $RF \leq 30\text{MHz}$ ) 出力 (オープンコレクタ)	
8	GND	グラウンド	

MODE=FM  
BW=15kHz  
MODULATION  
=3.5kHz FM  
(0dBm=1mW/600Ω)

ACC 7 ピンの内部回路参考図



## 35GR シリーズのシリアル制御端子2 について

35GR シリーズのシリアル制御端子2は、Future Technology Devices International Limited (以下 FTDI 社)の FT232B シリーズを USB UART として採用しています。

このためシリアル制御端子2を介してコンピュータ側から制御する場合、接続されるコンピュータ側に FT232B シリーズ用のデバイスドライバーなどを予めインストールしておく必要があります。 FT232B シリーズ用のデバイスドライバーは、FTDI 社の WEB サイト(英語)からダウンロードすることができます。

<http://www.ftdichip.com/index.html>

## 35GR シリーズのRTCのバックアップについて

35GR シリーズには、タイマーや時刻管理に応用するために RTC (リアルタイムクロック)が組み込まれています。この RTC は規定の電源電圧が印加されている場合、35GR シリーズの電源状態に関わらず独立して動作します。規定の電源電圧がなくなった場合にはバックアップ容量によって、約 72 時間はバックアップされます。バックアップ以降は、再度、規定の電源電圧が印加されたときに、RTC がリセットされます。

## 35GR の更新について

製品改良のため、製品自体の仕様、搭載ファームウェア、、制御ソフト、本書をはじめとする関係資料などは、予約なく改訂することがあります。

## 35GRシリーズ仕様

受信周波数範囲	10 kHz - 3600 MHz																																																																							
復調モード	FM, AM, USB, LSB, CW																																																																							
受信方式	トリプルスーパーヘテロダイン方式																																																																							
IF 幅選択 (3rd IF)	2.4kHz, 5.5kHz, 7.0kHz, 15kHz, 30kHz, 110kHz, 220kHz																																																																							
周波数安定度	$\leq \pm 1.0$ ppm @ $-10^{\circ}\text{C}$ to $55^{\circ}\text{C}$																																																																							
周波数分解能	最小 1Hz																																																																							
中間周波出力	(次の 3 種類から選択制御が可能) 第 2IF: 10.7MHz (10MHz 幅), 10.7MHz (第 2IF フィルタ通過後) 第 3IF: 455kHz																																																																							
チューニングステップ	1Hz - 999.999 kHz 設定可能 (プリセットされているチューニングステップ) 1Hz / 10Hz / 50Hz / 100Hz / 500Hz / 1kHz / 5kHz / 6.25kHz / 8.3kHz / 9kHz / 10kHz / 12.5kHz / 20kHz / 25kHz / 30kHz / 50kHz / 100kHz / 500kHz																																																																							
アンテナ端子	BNC 型 1 系統 (50Ω)																																																																							
メモリーチャンネル数	1000																																																																							
サーチバンク数	20																																																																							
RF 最大入力レベル	+20dBm																																																																							
相互変調歪 (代表値)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>周波数</th> <th>ダイナミックレンジ</th> <th>IP2</th> <th>IP3</th> <th>1dB コンプレッション</th> <th>内蔵 プリアンプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.6MHz</td> <td>88dB</td> <td>+40dBm</td> <td>+14dBm</td> <td>+4.0dBm</td> <td>off</td> </tr> <tr> <td>2.6MHz</td> <td>88dB</td> <td>+12dBm</td> <td>+2dBm</td> <td>-10.0dBm</td> <td>on</td> </tr> <tr> <td>14.1MHz</td> <td>90dB</td> <td>+34dBm</td> <td>+30dBm</td> <td>+10.5dBm</td> <td>off</td> </tr> <tr> <td>14.1MHz</td> <td>88dB</td> <td>+10dBm</td> <td>+7dBm</td> <td>-7.5dBm</td> <td>on</td> </tr> <tr> <td>122.9MHz</td> <td>88dB</td> <td>+63dBm</td> <td>+3dBm</td> <td>-10dBm</td> <td>on</td> </tr> <tr> <td>434.9MHz</td> <td>88dB</td> <td>+81dBm</td> <td>+5dBm</td> <td>-10dBm</td> <td>on</td> </tr> <tr> <td>650.9MHz</td> <td>88dB</td> <td>+72dBm</td> <td>+4dBm</td> <td>-10.5dBm</td> <td>on</td> </tr> <tr> <td>950.9MHz</td> <td>89dB</td> <td>+76dBm</td> <td>+5dBm</td> <td>-12.0dBm</td> <td>on</td> </tr> <tr> <td>1280.9MHz</td> <td>90dB</td> <td>+43dBm</td> <td>+7dBm</td> <td>-12.5dBm</td> <td>on</td> </tr> <tr> <td>2400.9MHz</td> <td>85dB</td> <td>+36dBm</td> <td>0dBm</td> <td>-18.0dBm</td> <td>on</td> </tr> </tbody> </table>						周波数	ダイナミックレンジ	IP2	IP3	1dB コンプレッション	内蔵 プリアンプ	2.6MHz	88dB	+40dBm	+14dBm	+4.0dBm	off	2.6MHz	88dB	+12dBm	+2dBm	-10.0dBm	on	14.1MHz	90dB	+34dBm	+30dBm	+10.5dBm	off	14.1MHz	88dB	+10dBm	+7dBm	-7.5dBm	on	122.9MHz	88dB	+63dBm	+3dBm	-10dBm	on	434.9MHz	88dB	+81dBm	+5dBm	-10dBm	on	650.9MHz	88dB	+72dBm	+4dBm	-10.5dBm	on	950.9MHz	89dB	+76dBm	+5dBm	-12.0dBm	on	1280.9MHz	90dB	+43dBm	+7dBm	-12.5dBm	on	2400.9MHz	85dB	+36dBm	0dBm	-18.0dBm	on
周波数	ダイナミックレンジ	IP2	IP3	1dB コンプレッション	内蔵 プリアンプ																																																																			
2.6MHz	88dB	+40dBm	+14dBm	+4.0dBm	off																																																																			
2.6MHz	88dB	+12dBm	+2dBm	-10.0dBm	on																																																																			
14.1MHz	90dB	+34dBm	+30dBm	+10.5dBm	off																																																																			
14.1MHz	88dB	+10dBm	+7dBm	-7.5dBm	on																																																																			
122.9MHz	88dB	+63dBm	+3dBm	-10dBm	on																																																																			
434.9MHz	88dB	+81dBm	+5dBm	-10dBm	on																																																																			
650.9MHz	88dB	+72dBm	+4dBm	-10.5dBm	on																																																																			
950.9MHz	89dB	+76dBm	+5dBm	-12.0dBm	on																																																																			
1280.9MHz	90dB	+43dBm	+7dBm	-12.5dBm	on																																																																			
2400.9MHz	85dB	+36dBm	0dBm	-18.0dBm	on																																																																			
スプリアスレスポンス	70dB 以上 (80dB typ)																																																																							
イメージ妨害比	70dB 以上 (80dB typ)																																																																							
内来スプリアス	-107dBm 以下 (アンテナ端子換算)																																																																							
受信感度	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>10kHz - 40kHz</td> <td>-85dBm</td> <td>CW 12dB SINAD</td> </tr> <tr> <td>40kHz - 150kHz</td> <td>-97dBm</td> <td>CW 12dB SINAD</td> </tr> <tr> <td>150kHz - 500kHz</td> <td>-107dBm</td> <td>CW 12dB SINAD</td> </tr> <tr> <td>150kHz - 2.5MHz</td> <td>-104dBm</td> <td>AM 10dB S/N</td> </tr> <tr> <td>2.5MHz - 30MHz</td> <td>-110dBm</td> <td>AM 10dB S/N</td> </tr> <tr> <td>30MHz - 3400MHz</td> <td>-117dBm</td> <td>FM 12dB SINAD</td> </tr> <tr> <td>3400MHz - 3500MHz</td> <td>-115dBm</td> <td>FM 12dB SINAD</td> </tr> <tr> <td>3500MHz - 3600MHz</td> <td>-112dBm</td> <td>FM 12dB SINAD</td> </tr> </tbody> </table>						10kHz - 40kHz	-85dBm	CW 12dB SINAD	40kHz - 150kHz	-97dBm	CW 12dB SINAD	150kHz - 500kHz	-107dBm	CW 12dB SINAD	150kHz - 2.5MHz	-104dBm	AM 10dB S/N	2.5MHz - 30MHz	-110dBm	AM 10dB S/N	30MHz - 3400MHz	-117dBm	FM 12dB SINAD	3400MHz - 3500MHz	-115dBm	FM 12dB SINAD	3500MHz - 3600MHz	-112dBm	FM 12dB SINAD																																										
10kHz - 40kHz	-85dBm	CW 12dB SINAD																																																																						
40kHz - 150kHz	-97dBm	CW 12dB SINAD																																																																						
150kHz - 500kHz	-107dBm	CW 12dB SINAD																																																																						
150kHz - 2.5MHz	-104dBm	AM 10dB S/N																																																																						
2.5MHz - 30MHz	-110dBm	AM 10dB S/N																																																																						
30MHz - 3400MHz	-117dBm	FM 12dB SINAD																																																																						
3400MHz - 3500MHz	-115dBm	FM 12dB SINAD																																																																						
3500MHz - 3600MHz	-112dBm	FM 12dB SINAD																																																																						
NF	$\leq 14$ dB 10dB typ (AM, BW:6kHz, AGC:OFF)																																																																							
S/N	50dB 以上 (55dB typ) (FM, BW=15kHz, DEV=3.5kHz, 入力=-50dBm)																																																																							

スキャン・サーチスピード	サーチ : Max 125 ステップ/秒、Min 100 ステップ/秒 スキャン : Max 125ch/秒、Min 100ch/秒																																													
位相ノイズ	<table border="1"> <tr> <td><math>\leq -75\text{dBc/Hz @}0.1\text{kHz}</math></td> <td>(-82dBc/Hz typ)</td> </tr> <tr> <td><math>\leq -80\text{dBc/Hz @}1\text{kHz}</math></td> <td>(-90dBc/Hz typ)</td> </tr> <tr> <td><math>\leq -90\text{dBc/Hz @}10\text{kHz}</math></td> <td>(-95dBc/Hz typ)</td> </tr> <tr> <td><math>\leq -110\text{dBc/Hz @}100\text{kHz}</math></td> <td>(-115dBc/Hz typ)</td> </tr> <tr> <td><math>\leq -130\text{dBc/Hz @}1\text{MHz}</math></td> <td>(-138dBc/Hz typ)</td> </tr> </table>	$\leq -75\text{dBc/Hz @}0.1\text{kHz}$	(-82dBc/Hz typ)	$\leq -80\text{dBc/Hz @}1\text{kHz}$	(-90dBc/Hz typ)	$\leq -90\text{dBc/Hz @}10\text{kHz}$	(-95dBc/Hz typ)	$\leq -110\text{dBc/Hz @}100\text{kHz}$	(-115dBc/Hz typ)	$\leq -130\text{dBc/Hz @}1\text{MHz}$	(-138dBc/Hz typ)																																			
$\leq -75\text{dBc/Hz @}0.1\text{kHz}$	(-82dBc/Hz typ)																																													
$\leq -80\text{dBc/Hz @}1\text{kHz}$	(-90dBc/Hz typ)																																													
$\leq -90\text{dBc/Hz @}10\text{kHz}$	(-95dBc/Hz typ)																																													
$\leq -110\text{dBc/Hz @}100\text{kHz}$	(-115dBc/Hz typ)																																													
$\leq -130\text{dBc/Hz @}1\text{MHz}$	(-138dBc/Hz typ)																																													
アンテナ入力端子	BNC ジャック 50Ω																																													
シリアル制御端子	RS-232C / USB (ブリッジチップ FTDI FT232BL) (115.2kbps, 57.6kbps, 38.4kbps, 19.2kbps, 9.6kbps 設定可能)																																													
リアルタイムクロック精度	±20 秒 (月差 常温)																																													
タイマー機能	オンタイマー、オフタイマー、スリープタイマー 各 1 系統																																													
使用温度範囲	-10°C ~ +55°C																																													
電源電圧	DC 11 V~15 V																																													
消費電流	最大:1100mA, スタンバイ:25mA																																													
低周波出力	1W(8Ω) @10%歪率/外部スピーカー出力端子																																													
入出力端子	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>液晶表示器(バックライト付)</td> <td>1</td> <td>35GR のみ</td> </tr> <tr> <td>スケルチ/音量ツマミ</td> <td>1</td> <td>35GR のみ</td> </tr> <tr> <td>操作キー</td> <td>24</td> <td>35GR のみ</td> </tr> <tr> <td>ダイヤル</td> <td>1</td> <td>35GR のみ</td> </tr> <tr> <td>電源端子</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外部スピーカー端子 (3.5φミニジャック)</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>オーディオライン出力端子 (RCA-J)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>映像出力端子 (RCA-J)</td> <td>1</td> <td>(オプション要)</td> </tr> <tr> <td>アクセサリ端子 (ミニ DIN 8 ピン)</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中間周波数出力端子 (BNC-J)</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基準周波数入力端子 (BNC-J)</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリアル制御端子 1 (D-Sub 9 ピン)</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリアル制御端子 2 (USB B-Type)</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンテナ入力端子 (BNC-J)</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	数量	備考	液晶表示器(バックライト付)	1	35GR のみ	スケルチ/音量ツマミ	1	35GR のみ	操作キー	24	35GR のみ	ダイヤル	1	35GR のみ	電源端子	1		外部スピーカー端子 (3.5φミニジャック)	1		オーディオライン出力端子 (RCA-J)	2		映像出力端子 (RCA-J)	1	(オプション要)	アクセサリ端子 (ミニ DIN 8 ピン)	1		中間周波数出力端子 (BNC-J)	1		基準周波数入力端子 (BNC-J)	1		シリアル制御端子 1 (D-Sub 9 ピン)	1		シリアル制御端子 2 (USB B-Type)	1		アンテナ入力端子 (BNC-J)	1	
名称	数量	備考																																												
液晶表示器(バックライト付)	1	35GR のみ																																												
スケルチ/音量ツマミ	1	35GR のみ																																												
操作キー	24	35GR のみ																																												
ダイヤル	1	35GR のみ																																												
電源端子	1																																													
外部スピーカー端子 (3.5φミニジャック)	1																																													
オーディオライン出力端子 (RCA-J)	2																																													
映像出力端子 (RCA-J)	1	(オプション要)																																												
アクセサリ端子 (ミニ DIN 8 ピン)	1																																													
中間周波数出力端子 (BNC-J)	1																																													
基準周波数入力端子 (BNC-J)	1																																													
シリアル制御端子 1 (D-Sub 9 ピン)	1																																													
シリアル制御端子 2 (USB B-Type)	1																																													
アンテナ入力端子 (BNC-J)	1																																													
本体寸法	131 (W) × 80 (H) × 224 (D) mm : 35GR 131 (W) × 73 (H) × 202 (D) mm : 35GR-RM																																													
重量	1.7 kg : 35GR / 1.4 kg : 35GR-RM																																													